書類證書照會(明治四十一年四月二十五日第四六號ノ二)
東京府下八丈島三根島菊地勇五郎及高橋廣夫ヨリ英領加奈陀曉香坡島ナヽ
ヤモ市ニ於テ漁業從事ノ爲メ渡航致度旨ヲ以テ旅券下付出願ニ付取調候處
支障ナキ見込ニ候ヘ共各月六日付機密送第三號內訓ノ次第モ有之候條一應
御意見承知致度別紙呼寄證明書寫相添ヘ此段及照會候也
(乙號)
瀛南局長回答(明治四十一年五月五日送第七七號)
東京府民菊地勇五郎及高橋廣夫ヨリ英領加奈陀ヘ漁業從事ノ爲メ旅券下付
出願ノ件ニ關シ四月二十五日附第四六號ノ二ヲ以テ御協議ノ趣了承加奈陀
地方ニ於テ漁業經營ニ從事スル本邦人ハ加奈陀ニ歸化シタル者ナルヘキ管
ニ有之候間テ右歸化人タリ漁業經營者ノ呼寄ハ本年一月十一日附機密第一
號本省大臣內訓渡航許可標準第二項ニ該當セサルモノニ有之候間今後右等
渡航出願者ニ對シ許可及旅券下付相成ラサル樣御取計相成度尙一特別ノ
事情アルモノ有之候ハヽ本年三月十三日附機密送第一二號外務次官通牒ノ
趣旨ニ依リ御取扱相成樣致度此段及回答候也

●英領加奈陀ヘ本邦歸化人ニ關スル件

明治四十三年八月五日
規甲第五號警察部長

(警察者　(警察分署))

本邦人ニシテ英領加奈陀ニ歸化シタル者ハ其ノ歸化證ニヨリ本邦加奈陀間
ヲ自由ニ往來シ得ルヲ以テ他人ノ歸化證ヲ利用シ渡航ヲ企テ若ハ自己ノ歸
化證アルヲ奇貨トシテ家族同伴杯ノ名義ノ下ニ他人ヲ誘引渡航セシメ又ハ
醜業婦ヲ誘拐スル等不正行爲ヲナス者不尠ニヨリ自今右歸化證ヲ以テ渡航
セントスル者アル場合ニハ該渡航者及其同伴者ノ住所職業氏名年齡人相平
素ノ行狀及同伴者トノ續柄關係並ニ乘船地等取調理メ報告セラルヘシ

(警察者　(警察分署))

●名ヲ商店員等ニ藉リ北米合衆國及英領加奈陀等ニ渡航スルモノ取締方ニ關スル件

明治四十三年二月十日
保收第九八一號警察部長示達

名ヲ商店員ニ藉リ勞働ヲ目的トシテ英領加奈陀ニ渡航シタルモノニ關シ別
紙寫ノ通リ大阪府知事ヘ通牒相成候趣ニテ注意方外務省通商局長ヨリ照會
相成候條今後右樣ノ筋アル者ニ對シテハ嚴重調査ヲ遂ケ此旨顯著ノ渡航者
豐出セサル樣注意相成度此段及示達候也

(別紙寫)
通商局長ヨリ大阪府知事ヘ通牒(明治四十三年二月四日送第五五二號)
大阪市栗谷池田商會店員トシテ貴廳下付ノ英領加奈陀行旅券ヲ携帶シ同地
ニ渡航シタル滋賀縣民森野喜六ノ件ニ關シテハ客年九月七日付送第三八六
三號ヲ以テ再三及照會候處在曉香坡帝國領事ニ於テ內々取調ヘタル所
ニ依レハ同人ハ栗谷池田商店トハ殆ント關係ヲ有セス實際ハ勞働ノ目的ニ
テ渡航シタルモノニシテ目下同市ノ材木工場ニ勞働致居リ同地ニ在ル右商
會支店ヨリ種々陳辯致居ルモ畢竟前記ノ事實ヲ蔽フニ足ラサル旨同領事ヨ
リ報告有之候ニ就テハ本件ハ栗谷池田商會ニ御結問相成ルト同時ニ今後名
ヲ商店員等ニ藉リ勞働ヲ目的トシテ米國及英領加奈陀等ニ渡航セント企ツ
ルノ類アルモノニ對シテハ一層嚴重ニ取調ノ手續ヲ盡サレ候樣御配意相成
度此段申進候也

●寫眞結婚婦人ニ對シ夫ノ實狀知悉シ居ルヤ否ヤ取調方ノ件

大正二年六月二十四日
規甲第一七號警察部長

(警察者　(警察分署))

北米合衆國及其ノ諸領地並英領加奈陀在留者ト寫眞結婚ナシタル婦人ニ
シテ夫ノ呼寄ニヨリ渡航セシモノノ中ニハ夫ノ性格、年齡、職業、收入金
額ヲ顧慮精探セス漫然虛榮心ニ驅ラレテ渡航シ上陸後夫ノ生活狀態ハ本邦
ニ於ケル夢想ト相反セル點多キ爲メ直ニ夫婦間不和ヲ生シ終ニ離婚ノ止ム
ナキニ至リ困難セルモノ尠カラサル趣ニ付テハ自今外國旅券下付若クハ渡
航許可ノ出願ナス者ニシテ上述ノ如ク寫眞結婚ナシタルメル婦人ナルニ於
テハ夫ノ實狀等知悉シ居ルヤ否ヤ取調副申スヘシ

●米加渡航者ニ對スル乘船地ニ於テノ診眼標準

明治四十四年十月二日
規甲第一三號警察部長

(警察者　(警察分署))

從來米國其他ヘ渡航スルモノニ對シ神奈川、兵庫及長崎ノ三縣廳所屬技師
カ執行シ來リタル診眼ハ左記ノ標準ニ依リ各港一並ノ取扱ヲ以テ檢眼サ爲
スコトヽナリ尙北米合衆國及英領加奈陀ノ各港ニ於テ我渡航者ニ對スル診
眼モ略々同樣ナル標準ニテ檢査セラレ居ル趣ニ付之ニ該當スル患者ハ乘船
港ハ勿論到著港ニ於テ無事檢査ヲ通過スルコトヲ得サルヲ以テ右標準ハ適
當ノ方法ニ依リ渡航者及關係醫師ニ指示シ罹病者ハ自己ノ利益上其ノ居住
地ニ於テ充分ノ治療ヲ加ヘシメ本邦乘船港並ニ到著港ニ於テ治療ノ爲メ徒
ニ出費ヲ嘗メシムルコト無之樣取計ハルヘシ

診眼標準

一、「トラホーム」
(イ)　瞼粒、乳嚢狀大及炎症ヲ併有スルモノ
(ロ)　瞼緣ヲ圍メサルモ「トラホーム」經過中ニ在ル加答兒ト認ムヘキモノ
(ハ)　瘢痕ト化セルモ尙結膜組織間ニ炎症々候ヲ殘シ又ハ刺戟等ニヨリ炎
症々候ヲ起サントスルノ虞アルモノ(單ニ瘢痕ノミヲ殘セルモノハ
訪クナシ)
(ニ)　「トラホーム」ニ類ハシキモノ
二、濾胞性結膜炎
(イ)　濾胞性結膜炎ハ上下眼瞼ノ何レニ存スルヲ問ハス不可ナリ
(ロ)　下眼瞼ニノミ濾胞存在シ炎症々候ヲ伴ハサルモノ所謂結膜濾胞性ハ
可ナリ
三、急性及慢性ノ膿漏性結膜炎實布垤里性及格魯布性結膜炎「コッホ、ウイ
ークス」氏菌「モラー、アクセンフエルド」氏菌ニヨル結膜炎、膜膜性結
膜加答兒、春季加答兒、其他梅毒性及結核性眼疾等

●米加再渡航者ニ對スル「トラホーム」疾患ニ關スル件

明治四十五年四月十七日
保發第三三二二號警察部通牒

北米合衆國及其諸領地並ニ英領加奈陀ニ在留シタル者ニシテ在外帝國領事
ヨリ再渡航ニ關スル證明書ノ下付ヲ受ケ一時本邦ヘ歸來後該證明書ヲ提示
シ前在留地ヘ再渡航スル爲メ旅券下附ヲ出願スル者ニ對スル取扱方ニ關シ
テハ本年保發第一號訓達ノ通リ努メテ簡易ナル方法ニ依ラシムヘキ筈ナ
ルモ實際再渡航者ニシテ歸國中往々「トラホーム」又ハ十二指腸蟲等ニ罹リ
居ルモノ尠カラス而モ簡易ナル取扱ノ一方法トシテ自今健康診斷書ヲ徵セ
サルコト、ナリタルノ結果或ハ傳防上ノ注意ヲ忘リ該病ニ罹リ居ルモトヲ

知ラスシテ乘船地ニ於テ乘船ヲ拒絶セラルヽ如キコトアランカ爲メニ渡航者ノ非常ニ困難ナル地位ニ陷ルノ不利益ナキヲ保セサルヲ以テ歸國者ニシテ再渡航ノ希望アル者ニ對シテハ特ニ其ノ健康上ニ注意シ「トラホーム」「十二指腸蟲」故ニ「フキラリヤ」病等ノ檢査ニ努メ候樣御諒示相成度此段及通牒候也

●歐洲經由米加ヘ密航セントスル者取締方

大正元年九月十日
規甲第四號警察部長

在米各領事ヘ

近來各領者其他ノ者ニ對シ向地ニ於テ米國渡航ヲ盡直ニ取締結果歐洲等ヲ經由シ米國渡航ヲ企ツル者アリ是等ハ一旦歐洲ニ渡航ノ上其ノ地方ニ於ケル帝國官憲ニ米國行旅券ノ發給ヲ乞ヒ成功シ得ヘシト豫期シ殆ンド歐洲行旅券ノ下付ヲ出願スルモノニテ其數漸增加ノ傾向アリ右ハ何レノ地ニ駐在スル領事タルヲ問ハス本邦ヨリ直接渡米ノ資格ナキ者ニ向テ旅券ノ發給ヲナサヽルハ申迄モナキ儀ニ付歐洲行旅券ノ下付ヲ受クル目的歐米渡航本邦ニ歸來スルカ又ハ彼地ニ彷徨スルノ外到底目的ヲ達スルノ時ナク新クテハ本人ニ取リ極メテ不幸ノ結果ヲ招ク次第ニ付貴領管轄歐洲渡航ヲ願出ツル者ト雖モ其ノ身分教育職業ノ年齡等ニ徴シ渡米ノ手段トシテ出願セルノ疑アル者ニ對シテハ本人ニ就キ充分取糺ヲナスヘキハ勿論前述ノ事情ヲ熟諒シ尙必要ニ應シ原籍地官廳等ヘ照會ノ手續ヲモナシ自然前記ノ如キ誤解ノ下ニ渡航歐洲行ヲ企ツル者アルコト明ナル場合ニハ其旨副申スヘシ

●比律賓群島密航者取締方ノ件

大正元年五月廿日
警視廳警務部長

從來國籍證明ニ依リ英領北ボルネオ、サンダカン經由米領比律賓群島ミンダナオ島ザンボアンガヘ密航セル邦人多數アリシ處今般比律賓群島ニ於テ旅券規則勵行ノ結果前後右等ノ者ハ上陸ヲ拒絕セラルヽコトヽナリタル結果トテ該密航者ハ主トシテ神戸華人ニテ處兒島、門司、上海、香港、新嘉坡ト迂回シ入國ヲ企ツル者ニテ目下サンダカンニテ船待中ノ者四百三名アル由門司ニテハ手數料ヲ取リ周旋ヲ業トスル者アル聞ニ有之ニ付自今該密航者ノ取締ヲ嚴ニシ之カ防遏ニ努メラレタシ

●歐米各國ノ諸制度視察及調査ノ爲メ渡往スル本邦官民ノ取扱振ニ關スル件

大正元年十二月十八日
保收第三五六六號警察部長

從來獨國其他歐米各國ノ諸制度視察及調査ノ目的ヲ以テ渡往スル我官民ニ對シテハ各在外公館ニ於テ夫々紹介ノ勞ヲ執リ來リ居ル趣ニ有之候處近來此ノ種ノ渡往者劇增シ從テ漸次種々ノ弊害ヲ惹スノ徵アルヲ以テ今後ハ本邦官民ノ視察調査ニ對シテハ外務省ヨリ紹介又ハ斡旋ナキ限リ各其筋ニ對シ紹介ノ勞ヲ執ラサルコトヽシ嚴格ニ此ノ方針ヲ格守スルコトニ相成候ニ就テハ今後右地方ヘ旅行スル官民ニ對シテハ此ノ旨示達置相成度

追テ本文ノ次第ハ部內商業會議所及重ナル會社、銀行、其他必要ノ向ヘハ豫メ警告相成度

●母國觀光團ニ對シ簡易旅券下付方ノ件

大正二年九月十一日
通送第五四八一號通商局長通牒

北米合衆國本土布哇英領加奈陀ニ在留スル本邦人ニシテ母國觀光團ヲ組織シ歸來スルモノ頻々有之本省ニ於テハ所管領事館ヨリノ通知ヲ待チテ簡易迅速ニ旅券ヲ下付スル樣夫々取計方度尾何今後ニ於テモ前記各地ニテ母國觀光團ヲ組織シ歸朝スル者續起スヘキ模樣ニ有之候ニ付本件一般ニ渉ル取扱方ヲ左記ノ通リ定メ候條向後母國觀光團トシテ本省ヨリ通知致候モノニ對シテハ本通牒ノ趣旨ニ依リ簡易旅券下付方御取計相成度依命此段申進候也

記

一、本文ニ依リ處理スヘキハ當該帝國領事ノ發給セル再渡航ニ要スル證明書ヲ有シ當省ヨリ母國觀光團トシテ特ニ當該地方廳ヘ通知シタルモノニ限ラル

二、前項ノ通知ト共ニ團員ノ人名表並ニ歸國乘船名ヲ通知スヘシ

但シ人名表ハ場合ニ依リテハ外國旅券下付出願ニ要スル各種證明書夫付人名表中母國觀光團員ト特記シ之レカ通知ナスコトアルヘシ

三、團員ヨリ渡航許可願書及旅券下付願書ヲ差出ス手續ハ團體旅行者ノ上團長ニ於テ願書ヲ取纏メ神奈川縣廳ニ提出スヘシ

但シ非移民ニアリテハ神奈川縣知事宛ニテ願書ヲ作成スヘキモノトス（願書ニ戸籍謄本、健康證明書及寫眞ヲ添付セシムルニ及ハス）

四、神奈川縣廳ニテハ第二項通知ヲ照査シタル上直ニ前項願書ヲ夫々宛名ノ原籍地々方廳ヘ廻付スヘシ

五、前項願書ノ廻付ヲ受ケタル原籍地々方廳ニテハ願人ノ身元調査等ヲ省キ迅速渡航許可證ヲ作成シ神奈川縣廳ヘ送付スヘシ、原籍地々方廳ニテハ渡航許可證ニ身長特徴ノ記載ヲナサス神奈川縣廳ニテ便宜之レカ記入ヲナスヘシ

六、神奈川縣廳ニテハ速ヤカニ團員ノ旅券ヲ作成シ置キ乘船ノ時本人ニ交付スヘシ（從來ノ如ク旅券書ニ團光團ニ加入ヲ要スルモノナルコトヲ特記スルニ及ハス一般旅券同記入ノ例ニ依ルヘシ）

七、（大正三年五月八日付通送第三三一七號ヲ以テ削除）

八、神奈川縣廳ニ於テハ團員再渡航ニ方リ本人ニ相違ナキヲ確認スルタメ團員ノ乘船横濱着上陸ノ際撮影等ノ方法ニヨリ相當取締ヲナスヘシ

九、本文ノ取扱ニ依ルヘキハ所定期ニ乘船セサル者ハ普通ノ再渡航者トシテ取扱フヘシ又團光團員ニ伴ハレ新ニ渡航スル妻子等ハ領事證明書ニ其ノ旨ヲ明記シアリトセハ一般渡航者ノ取扱ニ依ルヘキハ勿論トス

●米領布哇ヘ上陸スル者ニ對シ十二指腸蟲病檢査ノ件

大正元年十一月二十五日
甲第一三一號警察部長

十二指腸蟲病患者ノ上陸ヲ拒絕スル米國本土ノ狀況ニ就テハ屢々訓示申候通リニ有之候處今般布哇移民局ニ於テモ華盛頓政府ノ調令ニ依リ來ル十二月一日以後「ホノルル」港ニ上陸スル外國渡航者ニ對シ該病ノ有無ヲ嚴重ニ檢査スルコトヽナリタル旨在「ホノルル」帝國領事ヨリ報告有之候ニ付テハ米國本土ニ渡航スル者ト同樣ノ取扱ニ依リ同地渡航者ハ一般ニ該病ノ有無ヲ確メルタメ必ラズ相當醫師ノ診斷ヲ受ケ罹病者ハ渡航ニ於テ渡航スヘキ旨嚴重戒告相成度今日迄ノ經過ニ徵スルニ罹病者ノ米國ヘ渡航シタル者多數ニ上リ居今後米國移民局ニ於テハ到着地ニテ從前ノ如ク檢査ヲ許可セズ送還スルコトニ決定セル趣ニ有之候送還者ニ在リテハ多大ノ損害ヲ蒙ムルハ申迄モナキ儀ニ付十分了得スル樣諭告セラルヽ

●北米合衆國本土布哇比律賓群島行渡航者ニ對シ十二指腸蟲豫備檢査執行ニ關スル件

大正二年一月二十二日
規甲第二號警察部長

警視者（警察分署）

北米合衆國本土及布哇並比律賓群島ニ渡航スル邦人ニ對シ同國當該官カ十二指腸蟲ノ檢査ヲ執行スル義ニ關シテハ屢々訓示セシ次第ノ處米國政府ニ於テハ該種病者ニ對シ從前ノ如ク上陸受療ヲ許サス直ニ本國ヘ送還スルコトニ決定セシ趣ニ有之然ルニ是迄執行シ來リタル各汽船會社所屬醫師ノ檢病並米國當該官ノ檢査成績ニ徴ミルニ該病患者ハ意想外ニ多數ニ上リ若シ之レヲ現在ノ儘ニ放任スルトキハ米國渡航者中願ル多數ノ送還者ヲ出ス虞可有之ニ依リ愛ニ乘船港ニ於ケル「トラホーム」診檢ノ例ニ倣ヒ神奈川・兵庫長崎ノ三縣廳ニ特置セル海外渡航者檢査醫ヲシテ十二指腸蟲ノ檢査ヲ執行セシムルコトトナリ本日別紙當ノ通リ告示セラレタルニ就テハ左記ノ通リ心得フヘシ

（別紙寫）

一、北米合衆國本土及布哇並比律賓群島ヘノ渡航者ニ對シテハ十二指腸蟲卵檢出ノ爲豫備檢査ト本檢査ヲ執行スヘキニ付乘船地ヲ横濱、神戸、長崎ノ三港ニ指定スル件ハ移民ノ外非移民ニモ適用スルコト但シ非移民ノ一等船客ニ對シテハ之ヲ適用セス

一、豫備檢査

(1) 渡航出願者ニシテ渡航許可證又ハ旅券ヲ下付スヘキ見込ノ者ニ對シテハ當部ヨリ其ノ旨ヲ通牒スヘキニヨリ出願者ノ費便ヲ直接乘船港ノ縣廳（警察部海外渡航者檢査掛）宛送付セシムルコト

(2) 費便輸送ノ容器ハ敢メ當廳ヨリ警察官署ニ配送シ置クヘキニ依リ前項ノ通牒ヲ受ケタルトキハ渡航出願者ヘ該容器ヲ無代價ニテ交付スルコト

(3) 渡航出願者ニシテ費便送付後ニ於テ檢査ノ結果蟲卵ナキ（豫備檢査合格者）者ニ對シテハ渡航許可ノ通知若ハ旅券ノ下付ヲ爲スヘキヲ以テ乘船出港四日前迄ニ乘船港ニ到着スヘキ旨ヲ示達スヘキコト又蟲卵及酷似ノ寄生蟲卵保有者ニ對シテハ其ノ旨ヲ通牒スヘキニ依リ驅蟲療法ヲ指示スヘキコト

(4) 豫備檢査ニテ蟲卵及酷似ノ寄生蟲保有者ト認メラレタル者ハ醫師ニ付驅除療法ヲ行ヒ顕微鏡的檢査ノ結果費便中ニ蟲卵ヲ認メサルニ至リタルトキハ速ニ當廳ニ其ノ旨ヲ屆出テシムヘキコト

(5) 十二指腸蟲卵及酷似寄生蟲ノ驅蟲療法ニ就テハ之カ療法ニ適當ノ智識及設備アル醫師ヲ選定セシムルコトニ留意スヘキコト

(6) 再渡航者ニシテ歸國後一ヶ年以内ニ出發スル者及豫備檢査ヲ受クルヲ得サル正當ノ事情アリ豫備檢査ヲ省略スヘキモノト思料スル者アルトキハ意見ヲ付シ速ニ報告スヘシ

二、本檢査

(1) 豫備檢査ニ合格シタル者及前項(6)號ニ該當スル者ニ對シテハ乘船港ノ縣廳ニテ更ニ費便ノ本檢査ヲ行フ

三、豫備檢査及本檢査ヲ省略スヘキ者

(1) 一等船客トシテ渡航スル者ニ對シテハ豫備檢査及本檢査ヲ受クシムルニ及ハス但シ移民及在米者ノ呼寄ニ係ル寫眞結婚婦人ナルニ於テハ一等船客ニテモ前記兩様ノ檢査ヲ受クシムヘシ尤モ當廳ノ見込ニ依リテハ豫備檢査ヲ省略スルコトヲ得ルモ檢病ヲ免カレン爲時更ニ一等船客トシテ渡航スル累アルモノ並要診上種病ノ徴候者シキ者ニ對シテハ乘船港ニ於テ本檢査ヲ受クシムヘキ旨ナルヲ以テ其ノ旨ヲ報告スヘシ

(2) 一等船客ニ關シテハ渡航者ノ身分及地位等ニ相當ナル十百ヤヲ調査スヘキコト

四、檢査法及合格不合格ノ決定

(1) 費便中十二指腸蟲卵ノ檢査法ハ別紙ノ方法ニ依ルコト

(2) 十二指腸蟲卵ニ酷似スル「ストロンギロイデスステルコラーリス」アメリカ十二指腸蟲卵アルトキハ不合格トシ條蟲、鉤蟲及日本住血吸蟲卵ヲ認ムルトキハ注意ヲ與フルニ止メ不合格トナサヽルコト

（別紙）

大正二年一月二十二日
福岡縣告示第三十四號

北米合衆國本土、及布哇並比律賓群島ニ渡航セントスル者ニシテ大正二年一月十一日以降出願ニ係ル者ニ對シテハ神奈川、兵庫、長崎ノ三縣廳ニ特置セル海外渡航者檢査醫ニ於テ十二指腸蟲ノ檢査執行ノ件ニ付渡航者ハ左記ノ通リ心得フヘシ

（左記）

一、十二指腸蟲檢査ヲ豫備檢査ト本檢査ニ分ツ

一、豫備檢査

(1) 豫備檢査ハ渡航許可證又ハ海外旅券下付前ニ於テ行フヘキニ依リ渡航出願者ニシテ所轄警察官署ヨリ費便ノ送付ヲ命セラレタルトキハ自己ノ費便ヲ直接乘船港ノ縣廳へ（警察部海外渡航者檢査掛）宛送付スヘシ

(2) 費便輸送ニ要スル容器ハ所轄警察官署ヨリ渡航出願者ニ無代價ヲ以テ交付スルモノトス但シ本容器ヲ配送スル迄ノ間ハ渡航出願者ニ於テ適宜ノ容器ヲ自辨シ夫ノ事項ニ注意シ送付スヘシ

(3) 檢査用費便ノ量ハ極干大ナルヘキコト

(イ) 丈夫ナル「ガラス」壜又ハ罐等ニ入レテ密封シ之ヲ再ヒ木製ノ箱等ニ軟メ破壊セサル様包裝シ宛名及自己ノ住所氏名ヲ明記シ發送スルコト

(ロ) 水又ハ消毒藥ヲ入レサルコト

(ハ) 費便送付後十二指腸蟲卵及酷似蟲卵ヲ保有スト認メタル者ニ對シテハ所轄警察官署ヨリ其ノ旨ヲ通達スヘキニ付速ニ醫師ニ就キ適當ノ驅蟲法ヲ行フヘシ尚ホ注意ヲ要スル蟲卵ヲ有スル者モ驅蟲法ヲ行フヲ要ス

(4) 豫備檢査ニテ蟲卵保有者ト認メラレタル者醫師ニ就キ驅蟲療法ヲ行ヒ顕微鏡的檢査ノ結果費便中ニ蟲卵ヲ認メサルニ至リタルトキハ該醫師ノ證明書（證明書ニハ顕微鏡的檢査ヲ行ヒタル旨ノ記載アルヲ要ス）ヲ受ケ其ノ旨ヲ當廳ニ屆出ツヘシ

(5) 再渡航者ニシテ歸國後一ヶ年以内ニ出發スルモノ及豫備檢査ヲ受クルヲ得サル正當ノ事情アル渡航者ニ對シテハ當廳ニ於テ豫備檢査ノ省略ヲ承認スルコトアルヘシ

二、本檢査

(1) 豫備檢査ニ合格（渡航許可ノ通知及旅券ノ下付ヲ受ケタル者ハ豫備檢査ニ合格シタル者ト心得フヘシ）シタル者及前項(5)號ニ該當スル者ニ對シテハ乘船港ノ縣廳ニ於テ更ニ費便ノ本檢査ヲ行フニ乘船出航日四日前（十日ヲ出航日トスレハ六日ヲ最終到着日トス）迄ニ乘船港ニ到着シ當該縣廳ヘ其旨ヲ屆出ツヘシ

(2) 本檢査ニ於テハ先ツ「トラホーム」ノ檢査ヲ行ヒ其ノ合格者ノミニ就テ費便檢査ヲ行フ

(3) 本檢査合格者ニシテ乘船期日ヲ變更シタルトキハ再檢査ヲ行フ但シ其ノ乘船期日ノ差ガ七日以内ナルトキハ再檢査ヲ省略スルコトアルヘシ

(4) 本檢査ニ於テ不合格ト決定シタル者ハ七日ヲ經タルニアラサレハ再檢査ヲ行ハサルヘシ

(5) 乘船港ヲ變更シタル場合ハ改メテ檢査ヲ行フニ付變更後ノ乘船港ニ到著シタルトキハ當該縣廳ヘ其ノ旨ヲ屆出フヘシ

●英領加奈陀ニ渡航スル者ノ教育程度ニ關スル件

大正二年八月二十五日
親甲第二〇號警察部長

（警察部）

英領加奈陀ヘ渡航スル本邦人ハ他ノ太平洋沿岸地方ヘ上陸スルモノニ比シ著シク其ノ教養程度ノ低キ者多クシテ爲濟狀態ヲ生スルヲ認メ右曉者坂帝國領事ハ新渡來者ノ人物經歷等ヲ審査スル方法ヲ採チ今後同館ニ家内使用人又ハ定雇農夫等等ノ爲證明願書ヲ提出スル場合ニハ雇主ノ記載事項ノ外被呼寄人ノ「教育程度」及「有得技術」ノ二項目ヲ證ケ被呼寄人ノ學校教育程度其他素行等中參考シタル挑術ノ種類等ヲ簡單ニ認載セシムルコト、シ右事項ヲ參酌シテ許否ヲ決スベキ筈ナルモ領事館ニテハ願書面ノ記載ニ信頼スル外何等直接ニ取調ノ途ナキニ依リ或ハ出願者中不實ノ申立ヲナスナキヤ必シ難キニ付州當局警察方面領事ヨリ等申ノ實績モ有之候趣ニ付テハ爾今右ニ該當スル者ヨリ渡航許可並ニ旅券下付願出タル場合ニハ一應被呼寄人ニ關スル證明書記載事項ヲ大體ニ於テ事實ニ一致スルヤ否ヤヲ調査シ疑問ヲ生ジタル場合ニハ其ノ記載事項ヲ大體ニ於テ事實ニ一致スルヤ

（警察部）

追テ本文中ニ記載セル所ニ英領加奈陀渡航許可ニ關スル從來ノ標準ニ何等變更ヲ及サヽル次第ニ付申添置候

●北米合衆國諸港及布哇ニ赴ク本邦人ノ寄生蟲病檢査並ニ手當等注意ノ件

大正元年九月十日
規甲第五號警察部長

（警察部）

北米合衆國諸港及布哇ニ赴ク本邦人ノ寄生蟲病檢査並手當等注意方ニ關シテハ從來屢々及訓示候處尚有之候趣諸港及「ツヤトル」移民局ニ於テハ從來本邦人ノ十二指腸蟲患者ニ同蟲驅除ノ爲五十弗ノ保證金ヲ佛詐セシメ移民局留置所附屬病院ニテ治療ヲ受クシメタルニ來ル十一月一日以後ハ之レヲ停止シ罹病者ハ悉ク上陸ヲ拒絶シ直ニ送還ノ處置ニ出ツヘキ旨右關係庁帝國總領事ヨリ電報有之候趣ニ付本邦渡航者ニ於テハ上陸拒絶ノ如キ不幸ヲ豫防スルガメ自己ノ利益上先ツ出發前倩用アル醫師ノ診斷ヲ受ケ十分該病ナキヲ確メタル上ニ非ラサレハ渡航セサル樣渡航者ニ對シ一々警告相成特ニ含血症狀ヲ呈シ該病ニ罹レル疑アルモノニ對シテハ嚴重取調ノ上相當處理スヘシ

●北米合衆國布哇加奈陀ヘ渡航中ノ船舶ニ對スル健康注意方

大正二年六月十七日
規乙第四號警察部長

門司水上警察署

海外渡航スル移民ノ檢疫條例ニ關シ後記注意ヲ要スルキハ其ノ航海中ニ於テ

テ少シ場合ニシテ從來移民運送ヲ業トスル船舶ニハ各々醫師ノ乘船セサルコトヲ原則トスル所ナリ或ハ船中ニ於テ或患者ニ對セザル「トラホーム」性眼病ノ如キハ全ク船客ヲシテ移民等カ無試驗ト不注意ニ依リ意外ノ遠ヲ傳染ノ害ニ罹ル者多シ運送船ノ掛員ハ時々之ガ注意ヲ與ヘタルモ事ゴトニ有之從來海外移民ト稱スレル布哇島若ハ北米諸港ヲ以テ最遠距離ノ移住地ト思ハセシモ今ヤ東洋汽船會社ニ於テ南米航路ヲ開始シ殊メニ最西哥・秘露及ヒ智利諸港ニモ移民ノ往來ヲ頻繁ナラシメルニ至リ渡海甲數モ著シク增加シ從テ船客ノ危害ヨリ惹テ傳染實疾病ノ流行ヲ容易ナラシムルノ虞有之候條移民運送船當港ノ場合ハ當該官員ヲ船内ニ派遣シ左記各項ノ豫防法ヲ勵行シ居ルヤ否視察ナサシメ其ノ結果ハ隨時報告スヘシ

追而本件ノ適用ハ北米合衆國本土及其ノ屬領地並英領加奈陀南米諸港ニ限ル

一、炊事夫及飲食物取扱人ハ身體及被服ノ清潔ヲ保持セシメ「トラホーム」皮膚病其ノ他傳染性疾患アル者ハ從事セシムヘカラサルコト

一、水栓手摺等手指ノ接觸シ易キ個所ハ毎日一回以上消毒シ居ルヤ

一、便所ハ毎日一回以上消毒シ常ニ清潔ニ保持シ居ルヤ

一、船醫ヲシテ毎週一回以上船客ノ健康診斷ヲ爲サシメ居ルヤ

一、上陸拒絶ノ理由トナルヘキ疾患ノ通知ヲ受ケ又ハ之レヲ發見シタルトキハ船内一定ノ場所ニ隔離シ無價ニテ治療ナシ居ルヤ

一、移住民又ハ三等客室ハ毎日一回以上吁吸ニ拭掃シ常ニ空氣ノ流通ニ注意シ居ルヤ

一、寢具ハ常ニ清潔ヲ保持シ旅客ノ所有ニ係ルモノハ蓋寫ヲ加ヘ之ヲ清潔ヲ保持スルコトニ努メ居ルヤ

一、喫煙ハ相當ノ筒數ヲ設備シ居ルヤ

一、飲食器具ハ毎日一回以上蒸汽消毒又ハ沸騰消毒ヲナシ居ルヤ

●豫備檢査ノ爲糞便送付ニ關スル注意方

大正二年七月五日
保收第六八三七號警察部長

各警察署門司分署宛

北米合衆國本土、布哇、比律賓群島、渡航出願者ニシテ十二指腸蟲豫備檢査ノタメメ其ノ乘船地ヘ糞便ノ送付ヲ命セラレタル者ニシテ之レカ送付ヲ爲ス場合ハ其ノ住所、氏名、年齢、職業、採便月日、渡航願書提出廳府縣名等ヲ漏ナク記ヲ内務省ヨリ配付セラレタル糞便輸送容器中紙片ニ記載シ之ヲ添付シテ送付スル筈ナルニ往々之カ記載ヲナサヽル儘送付スル者有之乘船地所轄縣廳ニ於テ取扱上困難不鮮候ヘニ付自今該糞便ノ送付ヲ爲ス場合ハ漏ナク記載スヘキ樣示達方取計相成度

追而内務ニ紙片ヲ貼付スル際汚染セサル樣注意スヘキ旨併テ示達相成度

●布哇入國拒絶ニ關スル件

大正七年六月二十七日
保收第八七〇三號

北米合衆國及其領土ヘ渡航スル者ニシテ上陸ニ當リ移民官ノ質問ニ對スル應答振ノ行違ヒヨリシテ契約移民ト看做サレ入國ヲ拒絶セラルヽ場合往々有之候ニ付テハ兼ニ通牒シ置タル處今回東京府ニ於テ旅券下付ヲ受ケタル者ニシテ別紙ノ通リ布哇入國ヲ拒絶セラレタル趣ニテ其筋ヨリ通牒ノ來第モアリタルニ付尙此種ノ渡航者ニ對シテハ旅券交付ノ際兼通牒ノ趣旨ニ依リ精々注意ヲ與ヘラルヘシ

（警察部）

大正七年五月二十九日

在ホノルル
領事事　齋井六郎

外務大臣男爵後藤新平殿

會社員高橋東八入國拒絶ニ關スル件

東京市牛込區市ヶ谷富久町百二十二番地
戸主日本公債株式會社員
高橋東八

右者本月十六日入港春洋丸二等船客トシテ渡來シタル處其携帶旅券面渡航目的ノ欄ニハ「商業視察ノ爲布哇」トアルモ移民官ノ詰問ニ對シ實際ハ日本公債株式會社株券募集ノ爲メ渡來シ其應募額ノ幾分カハ自分ノ收入トナルモノニシテ且ツ旅費ハ同社ヨリ支辨セラレタルモノナルコトヲ答ヘタルニ移民官ハ之ヲ以テ契約移民ト認メ入國ヲ拒絶致候尚本人ハ此移民官ノ決定ニ對シ上告セサル趣キニ候別紙移民官ノ決定書寫添付此段及報告候　敬具

高橋東八ハ契約勞働者トシテ並ニ其船賃カ一外國會社ニヨツテ支拂ハレタリシモノトシテ北米合衆國入國ヲ拒絶セラル

●布哇再渡航者ニ注意方ノ件

大正二年七月十五日
規甲第一八號警察部長

警察部長（警察分署）

從來布哇ニ在留シ歸國後相當年限内ニ再ヒ布哇ニ渡航スル者ハ其ノ移民タルト非移民タルトヲ問ハス米國移民法ニヨリ布哇ニ住所ヲ有スルモノナレハ當然入國シ得ヘキモノニ有之同地移民局ニ於テモ再渡航者ニ對シテハ新渡航者ニ對スルカ如キ煩雜ナル取調ヲナスコトナク直ニ上陸許可スヘキ次第ニ有之候處再渡航者中著船ノ際移民局吏ノ質問ニ對シ歸國ノ際ハ再渡航ノ意思ナカリシモ歸國後ノ事情ニヨリ再ヒ歸來セリト答ヘ或ハ歸國後本邦ニ於テ商業又ハ農業ニ從事シ居リタリト答フルカ如キ不注意ノ答辯ヲナス爲既ニ布哇ニ居住ノ意思ヲ放棄セル者ト認メラレ新渡航者ト同一ノ取扱ヲ受ケ當外ノ困難ヲ感スルニ至ル事例尠カラス就テハ同地到着ノ折移民局吏ノ質問ニ對シテハ本邦滯在中ハ單ニ親族慰問又ハ各地遊歷ヲナセルニ過ギスシテ全ク一時歸國ナリシ旨答辯セハ本人ノ利益不尠候條同地渡航者ニ對シ旅券下付若クハ渡航許可通知ノ際ニ於テ篤ト注意ヲ加フヘシ

●北米合衆國及其領地並ニ英領加奈陀ヘ上陸ノ際健康診斷不合格ノ爲送還セラレタル者ニ關スル取扱方

大正二年九月十八日
規甲第二二號警察部長

警察部（警察分署）

移民ニシテ出發港ニ於テ北米合衆國本土及其ノ諸領地並英領加奈陀行專用旅券ノ下附ヲ受ケテ渡航シ上陸ノ際健康診斷不合格ノ爲上陸スルコトヲ得スシテ歸遊シ治療ノ上六ヶ月以内ニ外國渡航並旅券再下付出願ノ場合ニ於テハ更ニ領事ノ證明書ヲ提出スルニ不及候條自今該出願ノ場合ハ右ニ依リ取計フヘシ

●北米合衆國本土及其ノ領土渡航出願者ニ對スル糞便送付ニ關スル件

大正十一年九月二十五日
規保調第三〇號警察部長

警察部長（警察分署長）

北米合衆國本土及其ノ領土（布哇、比律賓群島）渡航者ニ對スル十二指腸蟲卵檢査ヲ受クヘキ者ノ範圍ニ付テハ年齢ノ制限ナキ爲メ乳兒ニ對シテモ檢査ヲ執行セラルヤニ付疑義ノ點有之主務省ヘ照會シタルニ乳兒ニ對シテモ豫備檢査及本檢査ヲ執行セラル、趣ナルモ乳兒カ十二指腸蟲卵保有者ト認メラル、場合ハ延メテ稀ニシテ乘船地檢査官ニ於テモ檢査ニ手心ヲ加ヘ居ル由ニ付自今該渡航出願者ニ對シテハ年齢滿三歳以上ハ全部糞便送付セシメラルヘシ

●渡米非移民ノ一等船客ニ對スル十二指腸蟲病檢査ニ關スル件

大正三年四月十一日
通發第一七〇九號通商局長

本件ニ關シ長崎縣知事ヨリ別紙寫第一號ノ通リ内務省衛生局長ニ照會ノ次第有之右ニ對シ當省ヨリ別紙寫第二號ヲ以テ同知事ニ回答致置候條爲御參考右御通知候也

（第一號寫）

長崎縣知事照會（大正三年三月七日保第一三九七號）

非移民ニシテ一等船客トシテ渡米スル者ニ對シテハ十二指腸蟲病ノ豫備檢査及本檢査ヲ受ケシムルニ及ハス又假令檢査ヲ爲シタル時ト雖モ特ニ健康證明書ヲ交付スルニ及ハサル旨豫テ外務次官ヨリ通牒有之候ニ付從來右通牒ニ基キ取扱居候處東洋、太平洋兩汽船會社ニ於テハ非移民ノ一等船客ト雖モ本人上陸ノ際必要ナリトテ十二指腸蟲病ナキ醫師ノ證明書ヲ有スルニアラサレハ乘船切符ヲ發賣セサルコトニ致居候爲メ渡航者ハ地方開業醫ヨリ該證明書ヲ受ケ居候然ルニ其證明書ヲ受ケンニハ診査及證明手數料等約貳圓有餘ノ支出ヲ要シ候ニ付從來ノ定例ニ倣スレハ當港ヨリ一等船客トシテ出發スル者ハ少數ナルヲ以テ之ニ對シ當國ニ於テ檢査ヲ施行スルモ其費用及手數等ニ格別影響ヲ及ホサヽル見込ニ有之候ニ就テハ渡航者ノ便益上爾後該檢査ヲ施行シ證明書ヲ下付スルコトヽ致度心組ニ候處差支無之候ヤ本件ハ費用上ノ關係有之候ニ付御意見承知致度此段及照會候也

（第二號寫）

通商局長回答（大正三年四月四日通發第一五七五號）

本件ニ關シ客月七日付保第一三九七號ヲ以テ貴官ヨリ内務省衛生局長宛照會相成タルニ對シ同局長ヨリ十二指腸蟲病檢査執行ニ要スル經費ノ關係ハ同局ニ於テ異議ナキモ該病檢査ノ儀ハ當當ヨリ回答取計方移牒相成候然ルニ從來一等船客ニ對シ檢病等ヲ執行セサルコトハ米國ニ於テ從來ノ慣行モ有之候ニ付大正元年十二月二十八日附發第三〇〇一號ヲ以テ當省次官ノ通牒ニヨリ渡米者中一等船客ニ對シ十二指腸蟲病ノ豫備檢査及本檢査ヲ受クシムルニ及ハス又假令檢病ヲナシタルトキモ健康證明書ヲ交付セスト申進シタル次第ニ有之然ルニ本邦出發港ニ於テ一等船客ヲ他ノ船客ト同樣ニ檢査スルニ於テハ米國官憲ニ於テ將來慣行ニ反シ我一等船客ヲ二三等船客ト同樣ニ取扱タル場合ニ異議ヲ申入ルヽニ不都合ヲ生スヘキ懸念可有之ニ付原則トシテハ前示通牒ノ通リ一等船客トシテ渡航スル者ニ對シテハ該病ノ檢査ヲ受ケシメサル樣致度尤モ自カラ進ンテ檢査ヲ受ケタル者ニ對シテハ一般檢診證ト樣式ヲ異ニセル診斷書ヲ交付スルコトヽシ其ノ診斷書中ニハ「本人ノ希望ニヨリ之ヲ交付スル」一句ヲ特ニ記入セラルヽコトニ御取計相成度依命此段申進候也

追テ本件問答ノ趣ハ内務省ヘ通知致置候

●北米合衆國本土及布哇比律賓群

島ニ再渡航スル者ニ對スル糞便檢査ノ件

大正三年四月十七日
訓示甲第一二號警察部長

（警察分署）

近來合衆國本土及布哇並比律賓群島ニ再渡航者ニシテ歸國後壹箇年以内ニ出發スル者ハ糞便ノ豫備檢査ヲ省略セシムルコトヲ得ベキ規定ニ有之候處各場其ノ取扱ヲ異ニシ支障尠ナカラサルニ依テ自今左記方法ニ依リ取扱フベシ

一、再渡航者ニシテ歸國後六箇月ニ達セサル者ハ容貌其ノ他ニ於テ十二指腸蟲保有者ニプラスト認メラル、者ナルニ於テハ糞便ノ豫備檢査ヲ省略セシムルコトヲ得

●再渡航者ト同伴渡航ヲ許可セラレタル妻子ノ單獨渡航ニ關スル件

大正三年四月二十二日
訓示甲第一三號警察部長

（警察分署）

近來合衆國本土、布哇及英領加奈陀ヘ再渡航スル者ノ同伴セントスル妻子ガ渡航ノ許可ヲ受ケタル後病氣其ノ他ノ事故ニ因リテ殘留シ後發渡航スル場合ニ於テハ爾後左記ノ標準ニ據リ取扱フベシ

追テ大正二年一月十日附甲第壹號ハ之ヲ廢止ス

記

一、再渡航者ノ受有セル領事證明書ニ妻子ヲ同伴スル旨ヲ記載シアルトキハ領事ノ後約セル妻子ヲ寄證明書アルモノト同樣ニ看做シ後發渡航セントスル妻子ニ對シ新ニ呼寄證明書ヲ提示セシメル必要ナシ

二、領事證明書ニ妻子ヲ同行スル旨ヲ記シアラサルトキハ後發渡航セントスル妻子ハ當該領事ヨリ發給セル呼寄證明書ノ送付ヲ受ケテ之ヲ提示シ渡航許可ヲ受クサルヘカラス

三、妻ノ後發スルトキハ其ノ結婚入籍後六箇月ニ滿タサル場合ハ所謂寫眞結婚渡航婦人ニアラサルカ故ニ六箇月ノ經過ヲ待タシムルニ及ハス第一項ニ適合スル者ナラハ其ノ後渡航差支ナシ（妻子ニ對スル制限ハ從來ノ通）

四、本通牒ハ北米合衆國本土、布哇及英領加奈陀行移民ニ共通適用ス

五、非移民ニ對シテモ本通牒ヲ準用ス但シ渡航者ノ身分經歷顯著ナル者ニハ本通牒ヲ適用セサルモノトス

●外國渡航者ニ對シ糞便送付月日報告ニ關スル件

大正三年十月十四日
保發第二〇八三四號警察部長

（各警察署ノ分署ヲ含ム）

自今外國渡航者ノ糞便豫備檢査ヲ要スルモノニシテ糞便送付ヲ命シタルトキハ送付月日報告ニ明記スベシ

右通牒ス

●外國渡航者ニ對シ糞便送付月日追報方ノ件

大正三年十月二十八日
保發第一一五五號警察部長

（各警察署ノ分署）

本月十四日付保發第二〇八三四號ヲ以テ通牒シ置キタル外國渡航者ニ對シ糞便送付月日報告方ノ件ニ付糞便送付月日ヲ確メル能ハサル場合ハ二度目ノ通牒ヲ發スル處アル場合ハ二度目ノ通牒ヲ發シ其ノ送付ノ月日ハ追報セラルヘシ

右通牒ス

●定著農夫ニ關スル通知廢止ノ件

大正四年一月八日
通合送第四號外務次官通牒

義勇軍定著農夫ニ對スル旅券下付方ニ關シテハ從來貴該帝國領事ヨリ軍隊ノ駐屯地前線ヨリ貴官ヘ通知致居候處自今通知セサルコトニ致候間右御了知ノ上定著農夫トシテ渡航ノ爲領事證明書ヲ提示シ旅券下付方出願ノ際ハ從前ノ通リ必要事項ヲ調査シタル上御意見ヲ付シ家内使用人ノ場合ト同樣通商局長ヘ御進達相成候樣致度此段申進候也

●十二指腸蟲豫備檢査ニ關スル件

大正四年六月四日
訓示甲第一四號警察部長

（各警察分署）

十二指腸蟲豫備檢査結果ハ乘船地所轄縣ヨリ願書ヲ受理府縣ニ通知スルト同時ニ願人ヘ直接通知スルコトアルニ付願人ヨリ願除ノ屆出アリタル場合ハ本廳ノ通知前ト雖直接的檢査ヲ行ヒタルヤ否ヤヲ調査シ直ニ書類進達スベシ

●旅券下付報告ニ關シ注意方ノ件

大正四年十月十三日
通合送第五四八號通商局長通牒

外國旅券規則取扱手續第八條ニ依ル旅券下付報告ト其他ノ報告ト區別ヲ明ニ敢然ハル、向有之候ニ付執務者ノ參考ニ供スル爲該報告ニ關スル要項ヲ左ニ掲記致候條之レカ取扱ニツキ十分御注意相成度此段及通牒候也

記

一、外國旅券下付表（外國旅券規則取扱手續第八條）本表ハ他ノ報告トハ全ク關係ナク作成スベキモノニシテ旅券下付者全體（次項記載處決通知表ニテ報告濟ノモノヲモ含ム）ヲ一定ノ書式ニ則記載シ定期ニ報告スルヲ要ス

二、旅券下付出願處決通知表　明治四十四年六月十四日付機密送第一五號同四十五年六月二十九日付機密送第一一號同四十五年七月十一日付機密送第一二號通牒ニ依リ北米合衆國本土、布哇ニ其屬地、英領加奈陀、墨西哥、中南米諸國ヘ渡航スル者ノ者ニ對シ旅券下付協議ヲ廢止シ地方廳ニ於テ旅券下付ヲ決定セルモノノミニ限リ一ヶ月分ヲ取纏メ翌月三日迄ニ報告スベキモノニテ前項外國旅券下付表トハ別類ナレハ獨立シテ報告ヲ要ス又協議廢止ニ關係ナキ地卽チ歐洲又ハ南洋地方等行旅券下付ヲ本表中ニ記載セサル樣注意ヲ要ス

上記二表ハ外ニ地方廳ニ於テ簡易旅券下付ノ取扱ヲナシタル上報告ヲ要スルモノアリ卽チ明治四十一年五月十八日付機密送第二三號通牒ニ依ル渡航者ノ身分經歷顯著ナルニヨリ協議省略ノトキ及大正三年九月十五日付通送第五四三三號通牒ニ依ル桑港博覽會關係者ニ對シ旅券ヲ下付シタルトキニシテ右ハ旅券下付ノ都度特別ニ報告ヲナシ尙ホ旅券下付表ニモ掲記セサルヘカラス

●家内使用人ニ下付スル旅券面ニ渡航目的記載方ニ關スル件

明治四十三年九月十九日
送第五七九一號通商局長

家内使用人トシテ英領加奈陀ニ渡航スル者ニ下付スル旅券面ニ渡航目的記

入方區々ニセテ或ハ叔父又ハ從兄弟等ノ親族柄ヲ記入スル等ノ爲メ加奈陀移民官檢査ノ際反ツテ困難ヲ來ス惹在曉香坡帝國領事ヨリ報告ノ次第有之候ニ付向後家内使用人ニ對スル旅券ニハ其表面和文相當欄ニ「何某ノ呼寄」ニ依リ家内使用人トシテ加奈陀ヘ」ト記入シ裏面歐文上部右方ノ空所ニ記入ノ義ハ客年六月二十六日付(送第二八二九號)通商局長通牒(旅券並ニ移民事務取扱參考書九十六頁(八八六)各參照)ノ通リ御取計相成度依命此段申進候也

●旅券面記入方ニ關スル注意ノ件

明治四十四年七月二十一日
送第六〇〇三號通商局長

外國旅券裏面ニ記入スル歐文ハ外國ニ於テ邦文ヨリ却テ實用アルハ申迄モ無之儀ニ候處近來各地方廳ニ於テ下付ノ旅券ニ記入セル歐文ハ醜陋麁雜ヲ極メ爲メニ旅券ノ效力ヲサエ疑ハシムルモノ有之候ニ由リ今後御下付ノ旅券記入方ニ對シテハ一層綿密ニ御注意相成度尤モ本件ニ關シテハ從來屢々注意方申進有之候得共效果ノ實行上ニ顧ハレサルハ歐文ヲ見苦シカラサル程ニ書記シ得ル者ヲ常用シ同一人ニ該記入方ヲ習得セシムルノ方法ヲ缺ダカ爲メト存セラレ候ニ付右ノ點ニ充分御留意相成度尚ホ其記入方式ハ明治四十年三月十五日付訓令第四號ニ添付シタル雛形ニ準據スルコトニ御取扱相成度又大臣ノ記名ハ左記ノ通リ御記入有之度此段申進候也

左記

表面和文
裏面歐文

正三位勳一等侯爵　小村壽太郎
Marquis Jutaro Komura

●旅券面ニ在外呼寄人ト被呼寄人トノ關係記載方ニ關スル件

明治四十五年三月二十二日
送第三〇一號外務大臣訓令

旅券面ニ渡航ノ目的記入方ニ關シテハ明治四十年十二月二十四日付送第一五九八號訓示並ニ四十二年六月二十六日付送第二八二九號通牒等ヲ發シ置候處北米合衆國本土並ニ其領土ヘ渡航スル者ノ中在外者ノ呼寄ニ係ル者ノ所持スル旅券面ニ呼寄人ノ氏名及其呼寄關係ヲ記シタル爲メ米國移民官ハ之ヲ契約勞働者ニ非サルヤトノ疑ヲ懷キ種々面倒ナル取調ヲ受クル等ノ事例往々有之候ニ就キ之等ノ煩累ヲ避クル爲メ前顯渡航者ニ下付スル旅券面ニハ移民非移民ノ別ナク呼寄人ノ氏名商店名又ハ社名ヲ所持人氏名ノ上部ニ肩記又ハ渡航目的ノ項ニ記載セサルコトヽシ假ヘハ銀行員ナレハ銀行員トセスシテ「銀行用ニテ」店員等ハ商用ノ爲メト記シ單ニ其業態ヲ採ツテ渡航ノ目的ニ掲記シ人トノ關係ヲ一切記載セサルコトニ御取計相成度但シ父母又ハ子及夫ノ呼寄ニ係ルモノニ就テハ從來ノ通リ呼寄關係ヲ旅券面ニ記入相成度此段及調令候也

●旅券面併記者ニ關スル件

大正三年八月五日
通送第四七六三號通商局長通牒

本件ニ關シ別紙甲號寫ノ通リ鳥取縣知事ヨリ照會有之乙號寫ノ通リ回答致候條貴廳御下付ニ係ル併記者旅券ニ關スル類例ノ場合ニモ右ニ依リ御處理相成度此段及通牒候也

(甲號寫)

鳥取縣知事照會(大正三年七月十八日交保第四六七五號)

母ト同行スル成年未滿ノ子ニ對シ下付スル旅券ノ記載方ニ就テハ外國旅券

規則取扱手續第六條第二項ニ依リ同行者ノ氏名其他ヲ併記スルコトヲ得ル規定ニ基キ下付シタル旅券併記中ノ母カ病氣ノ爲メ同時ニ出發スル能ハスシテ各別ニ渡航セムトシ該旅券ノ書換方出願シタル者有之當廳ニ於テハ不取敢先ニ渡航セムトスル子ニ對シ書換下付シタルモ此場合ニ於テ後ニ出發スル母ニ對シテハ前下付ノ旅券(同行者併記ノモノ)ヲ其儘携帶渡航セシメ可然哉或ハ併記者タル子ノ名義ヲ削除シ下付差支無之候哉將タ亦斯ル場合ニハ母子共各別ニ旅券書換ヲ要スル義ナル哉本件取扱ニ關シ聊カ疑義相生シ候處差當リタル義モ有之候條至急何分ノ御回答相煩シ度此段及照會候也

(乙號寫)

通商局長回答(大正三年八月五日通送第四七六四號)

本件ニ關シ客月十八日付交保第四六七五號ヲ以テ御照會ノ趣了承母子併記旅券ノ下付ヲ受ケタルニ母病氣ノ爲メ各別ニ渡航スルニ至リ前出發ノ子ニ對シ新旅券下付相成リタルニ於テハ後ニ出發スル受有セル併記旅券ハ貴廳ニテ子ノ記名ヲ抹消シ其儘携帶旅行セシメラレタリ若シ本人ヨリ新旅券ノ下付ヲ願出ルニ於テハ御下付相成モ差支無之候尚ホ北米合衆國渡航者ナルニ於テハ十六歳以下ノ小兒ニテ父母又ハ其執レカニ帶同セラレサルトキハ入國ヲ拒絶セラルヘキ虞可有之ニヨリ右ニ該當スル小兒ニ對シテハ單記旅券ヲ御下付相成ル以前ニ該小兒ハ渡航ニ際シ特別ナル保護者ヲ有スル不ナ等ノ事情ヲ具シテ當省ヘ其取扱方御協議相成條樣致度此段及回答候也

●旅券記入用語ニ關スル件

大正四年十月十三日
通合送第五四七號通商局長通牒

從來各地方廳ニテ下付ノ英國行外國旅券ニハ其裏面歐文ニ England ノ原語ヲ記入セラルヽモノ往々有之候處右ハ現下同國ニ於ケル外國人取締規則勅行ノ爲メ「スコットランド」及「アイルランド」ニ對シテハ效力ヲ有セサルモノト解釋セラレ候ニ付今後英國ノ譯語ニハ United Kingdom of Great Britain & Ireland ト御記入相成度此段及通牒候也

●北米合衆國(布哇ヲ含ム)ヘ渡航スル商店員等ニ下付スル旅券面記載方ニ關スル件

大正三年六月二十二日
通送第四〇五二號通商局長

北米合衆國(布哇ヲ含ム)ヘ渡航スル商店員其他ノ者ニ對シ各地方廳ニ於テ下付スル旅券面ノ渡航目的ニハ「叔父ノ呼寄ニ依ル商業補助ノ爲メ」「日本人銀行員ノ爲メ」或ハ「商店員」ト明瞭ニ米國渡航者ト呼寄關係アルヲ表示セル記載ヲ爲セル爲メ契約者トシテ上陸ヲ拒絶セラルヽ虞アル旨在米帝國領事館ヨリ報告ノ次第有之候處右旅券面記載方ニ注意ヲ要スル儀ニ付テハ既ニ明治四十五年三月二十二日付送第二一〇一號(大正二年一月編纂旅券並ニ移民事務取扱參考書百二頁參照)ヲ以テ訓示相成居リ候ニ付右ニヨリ旅券面(日本文ト英文ヲ問ハス)記入方御勵行相成度此段申進候也

追テ英領加奈陀ニ渡航スル者ニ下付スル旅券面記載方ハ全然本文ト別樣ナルニヨリ右ハ明治四十三年九月十九日附送第五七九一號通牒(參考書百頁參照)ニヨリ御處理相成度爲念右申添候也

北米合衆國及布哇行ノ者ニ對シテハ呼寄ノ關係ヲ記載セス單ニ業態ヲ記載スルコト

英領加奈陀行ノ者ニ對シテハ何等ノ呼寄ニ寄リ家内使用人トシテ加奈陀ヘト記載スルコト

●旅券面ニ渡航目的記載方注意ヲ要スル件

大正三年八月十四日
通発第九二五號通商局長

本件ニ關シ別紙寫ノ通リ長崎縣知事ニ通牒致候ニ付右寫及御送付候也

（寫）

通商局長ヨリ長崎縣知事ヘ通牒（大正三年八月十四日通発第四九二六號）

本年四月三十九日附ニテ貴廳ヨリ福岡縣人藤田吉次ニ下付相成シ移民旅券（第六二七一二號）和文ニ「右ハ貴父ノ呼寄ニ依リ渡米手續從事ノ爲メ北米合衆國ニ赴クニ付」云々ト記載シアリ裏面英文ノ方ニハ是等該就ノ目的記載ナカリシモ桑港移民局通譯ハ日本文字ヲモ解シ得ルカ故ニ疑惑ヲ被ラ而倒ヲ惹起シタル起ニ有之候ニ付呼寄子女ノ旅券ニハ單ニ呼寄ニヨルノ事實ヲ記入スルノミニテ充分ニシテ勞働ニ從事スルカ如キ意味ニ解釋セラルヽ文字ヲ記入スルハ書ニ其必要無之ノミナラス米國ヘ渡航スル者ニ對シテハ都テ領事ヲ歳記スル恐有之候ニ付御注意相成度從テ是等該就目的記入方ニ就テハ明治四十年十二月二十四日附送第一五九八號訓示ニ依據シ御處置相成度此段申進候也

（訓令）

●外國渡航出願者離婚裁判宣告書ノ謄本提出ニ關スル件

大正五年六月二十八日
保發第六二四三號福岡縣知事照會

北米合衆國及其領土ニ於テ離婚シタル男カ新ニ妻ヲ呼寄セントスル場合ニ於テ先妻カ欲然同地ニ在留致居候ヨリハ離婚宣告書ノ謄本ヲ提出スヘキ件ニ付明治四十三年六月十八日付熊本縣知事ノ照會ニ對スル同年七月九日付發第一九七號御問答ニハ單ニ呼寄ノ場合ノミニ付御指示有之候ニ付行ノ場合

（訓令）

ニ於ケル御指示無之右ハ勿論同行ノ場合ニモ適用セラルヘキコトヽハ思料致候得共聘ヲ延期ヲ生シ候條何分ノ御問答相煩度此段及御照會候也

追而呼寄ニシテ先妻カ依然米國ニ在留致居場合其ノ先妻カ他ノ男ト正式ノ婚姻ヲナシ居ル場合ト雖モ同樣宣告書ノ謄本ヲ提示セシムヘキモノニ候哉是亦何分ノ御問答相煩度申添候

通商局長回答（大正五年七月十一日通発第四五二八號）

本件ニ關シ本月二十八日付保發第六二四三號ヲ以テ御照會相成候處北米合衆國本土及其領土ニ於テ同樣ノ妻ヲ離婚シ夫ノミ歸朝ノ上後妻ヲ同行スル場合ニハ明治四十三年七月九日付發第四一九七號通牒ニ據リ離婚宣告書謄本ヲ要スヘキハ勿論ニ有之右ハ前記通牒ニ關スル熊本縣知事ノ照會書前段ニ該當スル場合ニ有之候將又先妻カ依然米國ニ在留シ他ノ男ト正式結婚ヲナシ居ル場合ニ後妻ヲ呼寄セントスルニ際シテモ先妻トノ離婚ニ關スル米國裁判所ノ宣告書謄本ヲ提出セシムヘキ義ト御承知相成度此段及回答候也

●米國新移民法實施ニ付渡米者取締ニ關スル件

大正六年五月十八日
調示甲第一八號警察部長

收第　大正六年調示甲第三二號ヽ

警察部（警察分部）

近般北米合衆國ニ於テ移民法改正セラレ本月一日ヨリ實施セラルヽコトヽナリ同法第三條ニヨリ外國人ノ出入國者ニ對シ文字試驗ヲ行フヿトヽナリタルニ依リ今後本邦ヨリ渡米スル者ニ對シテハ移民ト非移民タルトノ區別ナク一樣ニ適用セラルヽ趣ヲ以テ受取方ニ關シ今回外務大臣ヨリ左記ノ通通牒アリタルニ付自今北米合衆國渡航者ニ對シテハ特ニ各項ニ注意シ文字試驗ヲ受クヘキ外國渡航出願者ニハ一般身元調査事項ノ外ニ教育ノ程度（等閑小學校卒業又ハ之レト同程度ノ教育アルヤ否）ヲ特ニ調査スヘシ

（訓令）

記

第一（イ）米國土地ノ際文字試驗ニヨリ入國ヲ拒絶セラルヽ者ハ左ノ如シ

十六歳以上ノ者ニシテ生理的ニ発育ナキ限リ日本語若クハ外國語ヲ讀ムコト能ハサル者

（ロ）前項ノ文字試驗ヲ免除セラルヽ者ハ左ノ如シ

（甲）在米邦人ノ呼寄ニ係ル父又ハ祖父ニシテ五十五歳以上ノ者

（乙）同上呼寄ニ係ル妻、母、祖母、未婚若クハ夫ニ死別シタル者

（丙）引續キ滞五ヶ年以上米國ニ在留シタル者カ出發後六ヶ月以内ニ歸米シタルトキ

（丁）旅行ノ途次單ニ米國ヲ通過スルモノ又ハ米國ノ一地方ヨリ他國ヲ通過シテ再ヒ米國内ニ入國スル者

（戊）帝國官吏並ニ其ノ屬僚、家族又ハ賓客

（己）合衆國法律ニ依リ公認セラレタル同盟博覽會ニ關係シ同國ニ赴ク者

第二文字試驗ハ米國勞働部長官ノ指定シタルモノニシテ三十五語乃至四十語ヲ以テ成レル印刷物ニヨリ行ハルヘキニ付米國上陸ノ際文字試驗ヲ受クヘキ者ニシテ尋常小學卒業又ハ之レト同程度ノ學力ヲ有セサル旅券下付出願者ニハ之レヲ下付セサルコトニ御取扱相成メシ而シテ無教育者ノ調査方ハ從來御執行相成リ居リシ内偵書ノ一項目トシテ一々御取調相成其ノ項目欄内ニ前示程度ノ教育アルモノナルヤ否ヤヲ明記セシメラレタシ

（備考）十六歳以下ノ者ハ文字試驗ヲ行ハサルヘキモ兩親ノ内少クトモ一人米國ニ在留シ其ノ許ニ赴ク場合ナルカ又ハ其ノ何レカニ隨伴渡米セラルトキハ上陸ヲ拒絶セラルヘシ但シ公共ノ負擔トナラサル見込アルモノハ米國勞働務長官ノ裁量ニヨリ許可セラルヽコトアルヘシ

●米國入國ノタメ旅券ニ米國外交官又ハ領事館ノ査證ヲ要スル件

大正六年六月九日
保收第六三二一號警察部長

名古屋市（警察部）

今後北米合衆國ニ入國スル者又ハ旅行ノ途次同國ヲ通過スル者ハ凡テ本邦ニ於ケル同國外交官又ハ領事館ニ就キ其ノ旅券ニ査證ヲ受クルノ必要アル旨其筋ヨリ通牒アリタルニ付米國渡航者又ハ同國通過旅行者ニ對シテハ旅券交付及渡航許可通知ノ際無洩此旨示達セラルヘシ

●渡米者ノ米國領事ニ提出スル宣言書ニ關スル件

大正七年五月六日
親保調第二號警察部長

福岡縣（警察部）

昨年十一月二十二日付調示甲第四六號ヲ以テ北米合衆國及其ノ領土渡航者ニ在リテハ其ノ旅券ニ在本邦米國領事ノ査證ヲ受クルニ方リ緊急ノ場合ヲ除クノ外本邦出帆二週間前ニ一定ノ樣式ニ依ル宣言書ヲ米國領事ニ提出セシムヘキ旨調示シ置キタル處今後渡宣言書ヲ提出スルニ及ハサルコトヽナリ宣言書提出ノ爲メニ要スル諸費ハ自然廢止セラレタルヲ以テ大正二年一月二十一日付親甲第二號ニ依リ渡米者ハ乘船出港四日以前ニ乘船地ニ來著シ出帆迄ニ米國領事ノ査證ヲ受クル樣渡米者ニ無漏示達スヘシ

●外國渡航ノ許可若ハ旅券ノ再下付出願ニ關スル件

大正二年四月二十五日
規甲第一一號警察部長

各警察署（警察分署）

外國渡航ノ許可若ハ旅券ノ下付ヲ得タル者ニシテ止ムヲ得サル事故ノ爲メ其有效期間ニ出發スル能ハサル場合ニ於テ渡航ノ許可若ハ旅券ノ再下付ヲ出願スル者アルトキハ願書ニ其事由ヲ詳記セシメ戸籍謄本健康診斷書（再渡航者ヲ除ク）ヲ添付セシムヘキハ勿論乘船地及北米合衆國本土並ニ布哇比律賓群島ニ渡航スル非移民ニ對シテハ乘船等級ヲ記載セシメ且ツ一般移民ニ對シテハ特徴ヲ調査シ寫眞一葉ヲ添付セシメ事實調査ノ上遺漏ナキヲ期スヘシ

●外國渡航健康診斷ニ關スル件

大正元年十二月二十七日
保發第六一九六號警察部長

各警察署戸分署長

北米合衆國及其諸領地並英領加奈陀ヘ渡航出願者ノ健康診斷ニ付テハ從來屢々調示セシ次第ニ有之候處尚ホ醫師ノ診斷疎漏ナル爲メ乘船地ニ至リ拒絶セラルヽ者多數アル趣ニ付テハ自今「トラホーム」「十二指腸蟲」「フヰラリヤ」ノ三種ニ對シテハ相當學識及經驗ヲ有スル醫師ヲシテ診斷セシメ乘船拒絶ノ不幸ニ陷ラシメサル樣注意セラルヘシ

●寫眞結婚ニ非サル婦人ノ渡航ニ關スル件

大正六年十月十九日
保發第二〇五一二號警察部長

各警察署戸分署長

北米合衆國本土及其ノ領土並英領加奈陀ニ渡航セントスル婦人ニシテ其ノ夫カ一旦歸國ノ上結婚入籍ノ手續ヲ了シ夫ノ渡航後ニ於テ妻呼寄ノ領事證明書ヲ添付シ渡航出願シタル場合ハ入籍後六ケ月以内ト雖願書受理ノ上遺漏セラルヘシ

●北米合衆國及其領土渡航者ノ教育程度調査方注意ノ件

大正六年十月四日
保發第一〇七六五號警察部

各警察署（分署）

北米合衆國及其領土（布哇、比律賓群島）渡航出願者ニ對スル教育程度調査方ニ付テハ本年五月十八日付甲第一八號ヲ以テ調示ノ次第モ有之候ルニ文字試驗ヲ受クヘキ再渡航者等ニ對シ教育程度調査濟ノモノ往々有之ニ付自今再渡航者ト雖モ文字試驗ヲ受クヘキ者（十六歳以上五十五歳以下ノ男子ニシテ引續滿五ケ年以上米國ニ在留シタル者カ出發後六ケ月以内ニ渡米セサル者）ニ對シテハ其ノ教育程度ヲ調査スルコトニ注意セラルヘシ

●英領加奈陀移民法改正ノ件

大正八年七月二十四日
規保調第二五號警察部長

（警察分署）

英領加奈陀ニ於テハ今回移民法改正セラレ既ニ實施セラレ居ルニ付今後同國渡航者ニ對シテハ一般渡航者身元調査事項ノ外尚左記事項精査副申スヘシ

記

一、教育程度　尋常小學卒業セサル者ニ在リテハ片假名又ハ平假名ヲ完全ニ解讀シ得ル十否ヤ

但年齢十五歳未滿ノ者又ハ五十五歳以上ノ呼寄又ハ同伴ノ父、呼寄又ハ同伴ノ母、妻、娘ハ讀書試驗ヲ適用セラレサルニ付調査スルニ及ハス

一、結核病（肺結核其他ノ結核病ヲ含ム）患者又ハ精神上、肉體上ニ缺陷ナキコトヲ明記シタル醫師診斷書ヲ添付セシメ且其ノ事實及願人カ渡航後自活シ得スト認ムヘキ者ニ非ラサルヤ否ヤヲ調査スヘシ

大正八年九月十三日
規保調第三一號警察部長

（警察分署）

本件ニ關シ本年七月二十四日付規保調第二五號ヲ以テ願人ノ教育程度其ノ他調査報告スヘキ旨調示シ置キタル處右ノ内ノ末項部ヲ結核病患者及精神上肉體上ニ缺陷ナキコトヲ明記シタル醫師ノ診斷書ハ之ヲ添付セシムルニ及ハサルコトヽナリタルニ付隨テ之ニ對スル事實ノ調査ヲ省略シ早ニ渡航者ニ對シ結核病患者ハ同國ニ入國ヲ拒絶セラルヽコトヽナリ居レル旨注意ヲ與ヘ置クヘシ

●轉航者ニ對スル調査ノ件

大正八年十一月十三日
規保調第四一號警察部長

（警察分署）

北米合衆國及英領加奈陀等ヘノ渡航皆々困難ナルニ從ヒ比較的渡航ノ容易ナル南米又ハ墨西哥等ニ渡航シ時機ヲ見テ密ニ北米或ハ加奈陀ヘ轉航スルモノ逐時增加ノ傾アリ其筋ニ於テモ之カ取締ヲ嚴ニシ其轉航ノ理由如何ニ依リテハ再渡航ヲ許可セサル方針ナルヲ以テ該轉航者ニシテ一時歸國再渡航出願シタル場合ハ其ノ轉航ノ顚末（轉航年月日、方法、經路、理由）ヲ精査副申セラルヘシ

●米國在外官憲ノ與ヘタル旅券査證ノ有效期間ニ關スル件

大正八年十一月十八日
規保調第四二號警察部長

（警察分署）

米國々務省ニ於テハ今後米國ニ入國スルモノヽ旅券ニ對シ同國外交官又ハ領事官ノ與フル査證ノ有效期間ヲ六箇月トシ同期間内ニ於テハ當該旅券ノ有效ナル限リ何回ニテモ入國シ得ルノ規則ヲ定メラレタル旨其筋ヨリ通牒アリタルニ付同國渡航者ニ對シテハ旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際ニ於テ此旨注意ヲ與ヘラルヘシ

●寄附金勸誘者ノ渡米取締方ノ件

大正八年十二月一日
規保調第四四號警察部長

（警察分署）

北米合衆國在留日本人間ニ寄附金ヲ募集スル目的ヲ以テ渡航スル者ノ取締方ニ關シ太平洋沿岸日本人會協議會ノ決議ニ依リ別紙寫ノ通リ外務大臣ヘ申請シタル趣ヲ以テ之カ取締方其筋ヨリ通牒アリタルニ付寄附金募集ノ目的ヲ以テ北米合衆國ヘ渡航出願スル者ニ對シテハ其ノ目的カ在米日本人ノ實力發展社會改善又ハ自治促進ノ事業ト直接ノ關係ヲ有スルヤ否ヤヲ調査副申スヘシ

（寫）

申請書

太平洋沿岸日本人會協議會
在米日本人會

北米聯絡日本人會
央州日本人會
加奈陀日本人會
南加中央日本人會

外務大臣子爵内田康哉閣下

謹啓

閣下益々御多詳奉慶賀候

陳者本年六月十四日より三日間オレゴン州ポートランド市に開催せる太平洋沿岸日本人會協議會に於て在米日本人の實力發展社會改善又は自治促進の事業と直接關係なき故國の寄附勧誘は在米日本人の發展を阻害するものと認め此を拒絶する事但し特殊の場合は各日本人會に於て調査し正當なるものに限り紹介する事あるべしと決議仕り其決議を閣下に御報導申上ぐると同時に前述の事故に該當する寄附金勧誘者渡米に關し可然御取締り有之度申請仕る事と相成申候其理由の重なるものは

一、從來故國より寄附金勧誘者渡米し在留民間に寄附金を募集し其の決算の報告を爲さゞる者往々有之申候

二、並留守宅人の現狀より推考仕り候時は永住の基礎自治發達及び社會改善に全力を注ぐ必要有之移民地より零碎なる資金を集めて故國社會の發展を計るが如きは正當を缺くのみならず在留民の發展を阻害するものに御座候依て右の通り御報導申上候間可然御取締り有之度申請候也

●加奈陀入國者ニ對スル讀書試驗ニ關スル件

大正九年一月十六日
規保調第一號警察部長

警察官（警察分署）

加奈陀移民法改正ノ結果入國者ニ讀書試驗ヲ課スル事トナリタル次第ハ昨年七月二十四日付規保調第二五號ヲ以テ通牒シ置キタル處右讀書試驗ハ左記ノ者ニ對シテハ免除セラレタルニ付キ此種ノ渡航者ニ對シテハ右ノ趣旨ニ依リ取扱フベシ

左記

一、再渡航者
二、拾五歳以下ノ者
三、呼寄又ハ同伴ニ係ル父若クハ祖父（但シ五拾五歳以上ノ者ニ限ル）妻、母、祖母又ハ未婚若クハ夫ニ死別シタル婦
四、單ニ加奈陀ヲ通過スル者

●再渡航者ニシテ領事證明書ヲ有セサル者又ハ領事ノ證明書ニ父母妻子同伴ノ旨記載ナキモノヽ取扱方ニ關スル件

大正九年三月三日
規保調第五號警察部長

警察官（警察分署）

從來北米合衆國本土及其領土並英領加奈陀再渡航移民ニシテ歸國後一ヶ年半ヲ經過シタル者ハ特別ノ事情アル者ノ外再渡航ヲ許可セサリシ處今後領事證明書ノ有效期間ヲ三ヶ年トシ移民、非移民ノ調ナク歸朝後三ヶ年ヲ經過シタルモノ及再渡航者ニシテ領事證明書ヲ所持セサル者又ハ所持ノ證明書ニ父母、妻子同伴ノ旨記載ナキモノニシテ之ヲ同伴セントスルモノニアリテハ其事由如何ニ依リ主務官ニ於テ許否決定セラルヘキモノニ付向後該出外者ニ對シテハ執レモ其事由ヲ詳査調申スヘシ

●英領加奈陀渡航者ハ上陸ノ際携帶金ヲ要スル件

大正九年三月十七日
規保調第八號警察部長

警察官（警察分署）

本邦人ニシテ英領加奈陀ヘ渡航スル者ハ上陸ノ際同地移民官ニ於テ其所持金ヲ調査シ所持金皆無ノ者ハ上陸ニ困倒ヲ生スルコトアル趣キニ付向後同國渡航者ニ對シテハ各自若干額ヲ携帶スヘキ旨篤示遺セラルヘシ

●外國渡航者十二指腸蟲檢査ニ關スル件

大正九年六月三十日
規保調第二六號警察部長

警察官（警察分署）

北米合衆國本土及其領土渡航出願者ニ對スル十二指腸蟲卵檢査方法ニ付テハ内務省衛生簡閲ノ通牒ニ基キ大正二年一月二十二日付規甲第二號ヲ以テ調示ノ次第モ有之然ルニ近來該出願者ニシテ醫師ノ治療ヲ受ケ十二指腸蟲卵ヲ認メサル者ノ證明書ヲ提出スルニ不拘乘船地ニ於テ檢査不合格トナル者多々有之ニ付通過行程警察署ニ於テ試ニ部内各醫師ニ就キ檢査ノ方法ヲ調査シ別紙ニ規定ノ集卵方法ニヨル驗鏡及遠心器ヲ有スル者ハ四十名中僅カニ二名ニシテ他ハ悉ク詐欺的證明書ヲ願人ニ交付シ居レルモノヽ如ク出願者ノ迷惑甚大ナリト思料セラルヽヲ以テ此際渡航出願者ヲ檢診スル醫師ニ對シテハ醫師會長等ト圖リ可成該器ノ設備ヲ爲サシメ之ヲ設備セサル醫師ノ診斷書又ハ證明書ハ無效ト看做シ相當器械ノ設備アル醫師ノ診斷書又ハ證明書ヲ提出セシムル樣取計フヘシ

●米加在留者ヨリ旅券下付事實證明出願ニ對スル調査方ノ件

大正九年七月十三日
規保調第二九號警察部長

警察官（警察分署）

北米合衆國本土布哇、比律賓群島及英領加奈陀ニ在留スルモノニシテ旅券紛失又ハ燒失等ノ場合ニ於テ其正當入國者タルコトヲ立證スル爲メ渡航ノ際旅券ノ下付ヲ受ケタル官廳ニ對シ旅券下付事實ノ證明ヲ出願シタルトキハ該證明書ハ直接出願人ニ交付スルコトナク旅券下付官廳ヨリ外務省ニ送付シ外務省ニ於テハ之ヲ在留者ノ所轄領事ニ回付シ領事ヨリ各願人ニ交付スルコトトナリ之ニ對スル證明書ノ書式等モ亦一定セラレタルニ付自今該願書ヲ受理シタルトキハ左記事項詳細調査報告スヘシ

記

一、旅券下付ヲ受ケタル者ノ原籍
一、氏名
一、年齢（生年月日）
一、旅券番號
一、旅券下付年月日
一、渡航地
一、渡航目的
一、移民非移民ノ別
一、本證明書下付出願人氏名並ニ外國ニ於ケル住所、
一、旅券ニ併記者アルトキハ又ハ併記セラレタル者ニ對スル證明出願ノ場合ハ其旨

備考

一、右調査事項中本證明書下付出願人トハ旅券ノ下付ヲ受ケタル者ノ意味ニシテ在留者ノ依頼ニ依リ本邦ニ在ル家族親類者ヨリ出願スル場合ヲ意味スルモノニアラス但此場合ニ於ケル出願者ハ代理者ト看做シ出願人ノ氏名及外國ニ於ケル住所ノ欄ニハ外國在留者ノ住所氏名ヲ記載スヘキモノトス

二、他府縣下付ノ證明願ニ對シテハ調査ノ上當廳ヨリ下付官廳ヘ回送スヘキモノニ付本縣下付ト同様調査遺漏スヘキモノトス

●十六歳未滿ノ子女渡米ノ保護同伴者ニ關スル件

大正九年九月二十五日
規保調第三五號警察部長

警察署長【警察分署長】

在米父母ノ呼寄ニ依リ渡米スル十六歳未滿ノ女子ニ對シテハ其ノ渡航ニ際シ特別ノ保護同伴者ヲ要スル旨大正六年三月七日外務省通商局長ヨリ通牒ノ次第モ有之處右ハ絶對ニ保護同伴者ヲ必要トスル儀ニ無之從テ保護同伴者ナキ爲メ米國ニ於テ上陸ヲ拒絶セラレタル事例ナキモ各呼寄人ノ身上關係ヨリ特ニ當該領事ニ於テ保護同伴者アルヲ必要ト認メ呼寄證明書ニ其ノ旨ヲ記載スル場合アリ又幼者ノ渡航ニシテ船中ニ於テ保護者ナキ爲メ保護行屬カス其他上陸地ニ於テ引受人ノ待受ケ居ラサル爲メ面倒ヲ惹起スル等ノコトアルニヨリ保護同伴ヲ必要トスルニ付今後該渡航者ニ對シテハ領事證明書中ニ保護同伴ノ旨記載アル場合及幼者ノ渡航ニシテ船中及上陸等ニ於テ保護者ノ必要ヲ認ムル者ニ限リ之ヲ適用シ保護同伴者ナキ故ヲ以テ願書受理セサル等ノコト無之樣注意セラルヘシ

●海外密航者取締方ニ關スル件

大正九年十二月二十日
規保調第五〇號警察部長

警察署長【警察分署長】

近來北米合衆國及英領加奈陀ヘ密航ヲ企ツル者多ク本邦ヨリ出發ノ際發覺檢擧セラレ又ハ目的地ニ上陸セムトシテ取押ヘラレ送還セラルヽ者續出シ其ノ多クハ神戸、横濱等ノ乘船港ニ居住シ船員周旋業等ニ關係シ居ル者カ容易ニ密航ヲ遂ケ得ル方法アルコトヲ吹聽シ各地ヲ立廻リテ密航ヲ勸誘シ一方米國ヘ渡航ヲ熱望スル者ニ在リテハ自カラ進ンテ是等ノ者ニ密航周旋ヲ依頼シ何レモ多額ノ成功金ヲ出シ或ハ船員トナリテ乘船シ又ハ船中ニ潛伏シテ密航ヲ企ツルヲ常トシツヽアリ如此密航者ノ續出ハ米國ニ偖々惡印象ヲ與ヘ延テ排日ノ氣勢ヲ煽ルコト多大ナルニ付此種密航者ヲ事前ニ防止スルハ最モ肝要ナルヲ以テ自今一層密航者ノ取締ヲ嚴ニシ若シ密航周旋者ト認メラルヽ者カ所轄内ニ入込ミタルトキハ之カ行動ヲ内偵其ノ住所、氏名年齢及密航ヲ企テントスル者ノ住所氏名等ヲ速カニ報告セラルヘシ

●密航者ノ取締ニ關スル件

大正十二年一月二十日
保調第四號警察部長

警察署長【警察分署長】

米國及英領加奈陀方面密航者ノ取締方ニ關シテハ客年四月五日付規保調第一二號ヲ以テ調示シタル次第ニシテ嚴重取締ヲ勵行セラレツツアルコトハ信スルモ密航誘拐者等ハ下級船員等ト共謀シテ密航者ヲ船底ニ潛伏セシメ巧ニ臨檢ノ警察官吏ヲ偽瞞シテ其ノ目的ヲ遂行シ米國上陸ノ際同國官憲ノ爲ニ發見逮捕セラレタル事例不尠殊ニ今回米國「ポートランド」ニ於テ檢擧セラレタル密航幫助者梶野壽太郎ノ如キハ客年九月本縣若松水上署ニ於テ檢擧セラレタルニモ不拘又々密航ヲ企テタル者ニシテ斯ク密航者ノ續出スルニ於テハ國際關係ニ至大ノ惡影響ヲ及ホス次第ニ付自今一層之カ取締ヲ嚴ニシ密航者ノ根絶ニ努メラルヘシ

●米、加轉航者ニ對スル調査ノ件

大正十年二月八日
保調第六號警察部長

警察署長【警察分署長】

北米合衆國及英領加奈陀再渡航者ニシテ前回渡航ニ際シ米領布哇又ハ墨西哥國等ヨリ轉航シタル者ニ對シテハ大正八年十一月十三日付規保調第四一號ニ依リ調査副申スヘキ規定ナルニモ不拘從來此等再渡航者ニシテ轉航者ナルヤ否ヤ判明セサルモノ往々有之然ルニ今後北米合衆國再渡航者ニシテ前渡米ニ際シ米領布哇、墨國、英領加奈陀等ヨリ轉航シタル者ナルニ於テハ當廳ヨリ一々外務省通商局長ヘ協議シタル上ニ非ラサレハ許可スヘカラサルコトヽナリタルニ付今後ハ必ス轉航者ナルヤ否ヤ調査シ大正八年十一月十三日付規保調第四一號ニ依リ報告セラルヘシ

●日米二重國籍者ニ對スル渡米旅券下付ニ關スル件

大正十年九月十六日
規保調第三五號警察部長

警察署長【警察分署長】

客年七月五日付規保調第二七號ヲ以テ二重國籍者ト雖旅券ヲ必要トスヘキ旨調示致置キタル處本年三月米國出入規則改正ノ結果米國人ノ出入ニ付テハ旅券ヲ要セサルコトヽナリ從テ二重國籍者ニ在リテハ米國人タルコトヲ立證シ得ヘキ出生證明書又ハ米國政府ノ發給シタル旅券ヲ所持スルトキハ我カ旅券ヲ携帶スルニ及ハサルコトヽナリタルモ右ハ二重國籍者ニ旅券携帶ヲ强ヒサルノ主旨ニ過キサルニ付旅券下付出願者アリタル場合ハ再渡航者ノ例ニ依リ願書遺遺セラルヘシ

●加奈陀入國者ノ旅券査證ニ關スル件

大正十年十月十八日
規保調第五六號警察部長

警察署長【警察分署長】

英領加奈陀ニ於テハ英本國、北米合衆國、英自治領又ハ「ニューフアンドランド」ヨリ來ル英國臣民又ハ北米合衆國ヨリ入國スル同國市民若クハ入國直前少クトモ一年以上北米合衆國ニ在留セシ者ノ外凡テ一年以内ニ其ノ本國政府ノ發給ニ係リ且ツ英國外交官又ハ領事官ノ査證ヲ經タル旅券ヲ有スル者ニアラサレハ加奈陀領域ニ上陸又ハ入國スルコトヲ得サルコトヽナリタルニ付自今加奈陀渡航者ニ對シ此旨指示セラルヘシ

●再渡米者ニ對スル十二指腸蟲病檢査ニ關スル件

大正十一年四月二十二日
規保調第一〇號警察部長

警察署長【警察分署長】

北米合衆國本土及布哇、比律賓群島再渡航者ニシテ一等船客タル非移民ニ對シテハ十二指腸蟲病ノ豫備檢査及本檢査ヲ省略シ其他ノ再渡航者ニシテ歸國後六ヶ月以内ノ者ノ豫備檢査ヲ省略スヘキハ大正二年一月二十二日付規甲第二號及大正三年四月十七日付調示甲第一二號ノ通ナルカ今回右十二指腸蟲病檢査規定ノ一部ヲ改正セラレタル結果二等船客ニシテ歸國後一ヶ年以内ニ再渡航スル者ニハ移民非移民ノ別ナク豫備檢査ヲ省略シ本檢査ヲ早ニ望診ニ「止」ムルコトヽナリタルニ付自今北米合衆國本土及布哇、比律賓群島ニ渡航スル者ノ願書ニハ移民非移民共ニ乘船等級ヲ記載セシメ其ノ

事實ヲ調査シ一等船客ノ乘移民ニ對シテハ勿論移民ニ在リテモ或等以上ノ船客ニシテ歸國後一ケ年以内ニ再渡航スル者ニ對シテハ其便宜供ヲ省略シ其詳報告セフルヘシ

●北米合衆國本土及布哇渡航三等船客ハ爾後種痘ヲ要スル件

大正十一年七月五日
規保調第一九號警察部長
警察署長　（警察分署長）

北米合衆國本土及布哇渡航三等船客ハ最近種痘ヲナシ其ノ結果善感ナリシコトヲ未ダ治癒セサル以前ノ最近痘皮脱落セル痘痕ヲ以テ立證スルニアラサル限リ出發前船醫監督ノ下ニ新ニ種痘ヲ施スヲ要スル旨其ノ筋ヨリ通牒アリタルニ付自今同地方一般渡航者ニ對シ周知方取計フルヘシ

●米國新移民法中學生入學ノ出願手續ニ關スル件

大正十三年八月十四日
通移普通合第一四七八號通商局長通牒

北米合衆國新移民法中外國學生ニ關スル規定ノ施行細則ニツキ本月一日米國移民長官ノ發令アリ其ノ要領左記ノ通リニ付北米合衆國ヘ修學ノ目的ヲ以テ渡航セントスル者ニ對シ右手續ヲ履行スヘキ旨御示指相成度此段及通牒候也

記

一、北米合衆國移民法第四條(ホ)項中ニ「學校ハ本人自ラ之ヲ指定シ勞働長官ノ認可ヲ經タルモノナルコト」ヲ要スルトアルハ米國ニ赴カントスル學生ハ本邦出發ニ先立チ其ノ入學セントスル學校ヨリ入學許可ノ證明書ヲ取附ケタル上ニテ之ヲ在本邦米國領事ニ提示シ移民主證ヲ受クルコトヲ意味ス

二、前項學生ヲ入學セシムル學校ハ勞働長官ノ認定シタル學校ナラサル可カラス（學生ハ其ノ入學セントスル學校ハ認定學校ナリヤ否ヤヲ知ルヲ得ス）

三、學生ニシテ規則正シク通學セス又善意ノ學生タル地位ヲ維持セス退校ヲ命セラレ又ハ營利事業者ハ雇傭、勞働ニ從事スル者ハ強放セラルヘシ（善意ノ學生カ休暇若ハ修學ノ餘暇ヲ利用シテ學費補助ノ爲メ多少ノ收入ヲ圖ル程度ノモノハ此中ニ入ラサル可シ）

四、學生ハ第一項ノ手續ヲ履ムノ要アルモ自身勞働長官ニ對シ申請書ヲ提出スルノ要ナシ

●北米本土及布哇行旅券下付取扱方ノ件

大正十四年三月三十日
外務次官通牒通商局長通牒第四七〇號

米國新移民法實施ニツキ旅券下付取扱方ニ關シ客年六月十九日別紙通牒ノ通リ電報致置候處今般北米本土及布哇行旅券下付取扱方ヲ別記ノ通相定メ候條爾今右ニ依リ御取扱相成度依命此ノ段及通牒候也

記

第一、再渡航者（米國新移民法第四條(ロ)ニ該當）

再渡航者ハ商問適法ニ入來シタルコト及再渡航ノ意思ヲ以テ一時米國ヲ立去リタルコトヲ米國移民官ニ立證スルヲ要スルニ付本人ニ於テ前記二點ヲ立證シ得ル場合ハ身元調査及協議ヲ省略シ渡航許可又ハ旅券下付差支ナシ

（甲）商問適法ニ入來ヲ許可セラレタルコトハ本人ニ於テ米國官憲ニ對シ立證スヘキモノニシテ其ノ立證材料ニ付テハ何等制限ナキモ旅券下付官廳トシテハ左記ニ當ル者ハ適法ニ入來シタル者トシテ取扱差支ナシ

イ、米國官憲發給ノ再入國許可證ヲ有スル者

ロ、當該帝國領事發給ノ再渡航又ハ一時歸國證明書ヲ有スル者但シ該證明書ニ各種備考事項ヲ記入シタルモノハ其ノ事項ニ付調査ヲ要ス

（乙）

ハ、前回渡米ニ際シ下付ヲ受クタル正當旅券ヲ有スル者

ニ、前記正當旅券下付ノ事實證明書ヲ有スル者

ホ、前記(ハ)ノ正當旅券又ハ(ニ)ノ事實證明書ヲ有セサルモ調査ノ結果正當旅券ノ下付ヲ受ケ渡米シタル事實アル者

再渡航ノ意思ヲ以テ一時離米シタルコトモ亦本人ニ於テ立證スヘキモノニシテ其ノ立證材料ニ付テハ何等制限ナキモ左記ニ當ル者ハ一時離米シタル者トシテ取扱差支ナシ

イ、米國官憲發給ノ再入國許可證ヲ有スル者

ロ、當該帝國領事發給ノ再渡航又ハ一時歸國證明書ヲ有スル者

ハ、米國ニ家族ヲ殘シ居ル者

ニ、米國ニ財產又ハ事業ヲ殘シ居ル者

ホ、米國公證人作成ノ一時離米ニ關スル書類ヲ有スル者

（丙）以上ニ該當セサルモノ又ハ疑アルモノニ付テハ從前ノ通リ身元等調査ノ上許否ニ關スル貴見ヲ付シテ總テ通商局長ニ協議スルコト

（丁）米國官憲發給ノ再入國許可書ヲ有セサルモノハ在本邦米國領事ニ付キ移民許可證ヲ受クルヲ要スルニ付其ノ旨本人ニ注意スルコト

第二、商人及新聞通信員（米國新移民法第三條(六)ニ該當）商人及新聞通信員ニ付テハ身元判明セルトキハ調査ヲ省略シ不明ナルトキハ調査ノ上疑ナキ者ニ對シテハ協議ヲ省略シ旅券下付差支ナシ

（一）本項ノ商人トハ現行日米通商航海條約ノ規定ニ準拠シ單ニ商業ヲ從事スル目的ヲ以テ渡米スル者ヲ謂フ而シテ日米通商航海條約上ノ商業トハ米國政府目下ノ取扱振上日米兩國間ノ通商ヲ指スモノトセラレ商事會社、商店、銀行、汽船會社等ノ米國勤務支店長、店員及本邦生產品ノ販賣又ハ買入等ノ爲渡米スル者ハ本項商人ノ部類ニ入ル

（二）新聞通信員又ハ特派員モ前記米國新移民法第三條(六)ノ所謂關係商業ノ範圍ニ屬スル者ト解釋セラル

（三）米國勤務ノ支店長、店員及新聞通信員ハ場合ニ依リテハ契約勞働者ト認メラレ其ノ入來ニハ強メ米國勞働務省ノ許可ヲ要スルコトアルニ付右ノ趣旨ヲ注意スルコト

（四）商人及新聞通信員ノ妻子ハ一時的旅行者トシテ入來ヲ許可セラレ居ルニ付之等妻子ニ付テハ第五ノ一時的旅行者ノ項ニ依リ取扱フコト

第三、布教師及其ノ妻子並學校教授及其ノ妻子（米國新移民法第四條(二)ニ該當）

布教師及其ノ同伴者ハ呼寄セムトスル妻及十八歲未滿ノ未婚ノ子並學校教授及其ノ同伴者ハ呼寄セムトスル妻及十八歲未滿ノ未婚ノ子ニ付テハ身元判明セルトキハ調査ヲ省略シ不明ナトキハ調査ノ上疑ナキ者ニ對シテハ協議ヲ省略シ旅券下付差支ナシ

（一）布教師トハ渡米直前少クトモ二年間引續キ執レノ宗派タルヲ問ハス布教師ノ職ニ在リシ者ニシテ且渡米後其ノ職ニ從事スル者ヲ謂フ

(二)　學校教授トハ渡米直前少クトモ二年間引續キ大學校、專門學校等ノ教授ノ職ニ在リシ者ニシテ且渡米後其ノ職ニ從事スル者ヲ謂フ

(三)　前記布教師及學校教授ノ同伴者ハ呼寄セムトスル妻ハ代理結婚又ハ所謂寫眞結婚ニ依ル夫婦關係ヲ包含セス（米國新移民法第二十八條(カ)參照）又十八歳未滿ノ未婚ノ子ハ大正十三年一月一日以前ニ生シタル嫡子關係ヲ除キ嫡子ヲ包含セス（米國新移民法第二十八條(ソ)參照）而シテ未婚ナル語ハ其ノ何レノ時タルヲ問ハス以前婚姻シタルコトノ有無ニ係ラス入米當時婚姻關係ナキ者ヲ謂フ（米國新移民法第二十八條(ナ)參照）

(四)　在本邦米國領事ニ就キ移民許可證ヲ受クルヲ要スルニ付其ノ旨本人ニ注意スルコト

第四、學生（米國新移民法第四條(ホ)ニ該當）

學生ハ滿十五歳以上ニシテ米國勞働長官ノ認定シタル大學校專門學校等ノ入學許可證又ハ許可ノ證明書ヲ有スル者ニ對シテハ身元調査及協議ヲ省略シ旅券下付差支ナシ

(一)　上記入學許可ニ關スル書類ハ本人ニ於テ便宜ノ方法ニ依リ取付クルコト

(二)　本人ヨリ提示セル前記入學許可ニ關スル書類ハ必ス返付シ携行セシムルコト

(三)　學生ニ對シテハ米國移民法第十五條ニ依リ米國移民官ニ於テ一人ニ付米貨五百弗ノ保證金ヲ積マシムルコトアルヘキニヨリ豫メ其ノ旨本人ニ指示スルコト

(四)　在本邦米國領事ニ就キ移民許可證ヲ受クルヲ要スルニ付其ノ旨本人ニ注意スルコト

第五、一時的旅行者（米國新移民法第三條(二)ニ該當）

觀光、記錄、研究及商用ノ一時的用務ニテ渡米セムトスル者ニ付テハ身元判明セルトキハ調査ヲ省略シ不明ノトキハ調査ノ上疑ナキ者ニ對シテハ協議ヲ省略シ旅券下付差支ナシ

(一)　一時的旅行者ニ對シテハ米國新移民法第十五條ニ依リ米國移民官ニ於テ一人ニ付米貨五百弗ノ保證金ヲ取立ツルコトアルヘキニヨリ豫メ其ノ旨本人ニ指示スルコト

(二)　滯米期間ハ普通一年以內トシ一年以上滯在セムトスル者ニ付テハ米國移民官ハ勞働務省ニ經伺シタル上決定スル規定ナルニ付其ノ旨本人ニ注意スルコト

第六、通過者（米國新移民法第三條(三)ニ該當）

通過者ハ第三國ニ渡航スル低廉ニ米國本土又ハ布哇ヲ通過セムトスル者ニシテ目的國ニ渡航シ得ル資格アル者ニ對シテハ協議ヲ省略シ渡航許可又ハ旅券下付差支ナシ

(一)　通過者ニ對シテハ米國新移民法第十五條ニ依リ米國移民官ニ於テ一人ニ付米貨五百弗ノ保證金ヲ取立ツルコトアルヘキニヨリ豫メ其ノ旨本人ニ指示スルコト

(二)　通過者ノ滯米期間ハ三十日ニ限定セラレ居ルニ付其ノ旨本人ニ注意スルコト

第七、一般取扱事項

(イ)　北米合衆國本土及布哇渡航ニ關シ從前發シタル調令及通牒ハ米國新移民法實施ニ伴ヒ新ニ發シタル調令及通牒ニ抵觸セサル限リ有效ノモノトス

(ロ)　前記第一乃至第六ニ該當セサル者ハ渡米シ得サルニ付其ノ該當セサルコト明カナル者ニ對シテハ旅券ヲ下附セス又其ノ疑アル者ニ付テハ通商局長ヘ協議スルコト

(八)　前記第一乃至第六ニ依リ協議省略渡航ヲ許可シ又ハ旅券ヲ下付シタルトキハ從前ノ例ニ依リ翌月三日迄ニ通商局長ニ通知スルコト

(二)　旅券面ノ渡航目的記載方ニ付テハ和文ノ部ニハ各自目的ノ要領ヲ明記シ歐文ノ部ニハ記載セサルコト從前ノ通リトス

●米國移民法第三條(六)ニ該當スル商人又ハ新聞通信員ノ妻子ノ入米ニ關スル件

大正十四年八月二十四日
通三普通合第一四六七號外務省通商局長通牒

本件ニ關シテハ本年三月三十日附通三普通合第四七〇號通牒第二第四項ヲ以テ條約上ノ商人ノ妻子ハ之ヲ一時的旅行者トシテ取扱フヘキ旨申通置タル處新規則ニ依リ條約上ノ商人ノ妻及未成年ノ子ハ其ノ身分ヲ保持スル限リ期間ニ制限ナク滯米シ得ルコトヽナレリ仍テ之ニ關シ在東京米國總領事館ニ問合セタル處同總領事館ハ新規則ニツキ正式ニハ未タ本國政府ヨリ何等通知ニ接セサルモ當該身分ヲ有スト認メラルヽ者ヨリ申請アリタルトキハ本人ノ希望ニ應シ商人査證ヲ與ヘ居レリトノコトナルニ付今後此種渡航者ニ對スル旅券下付ニ當リテハ願人ノ希望次第ニテ旅券面渡航目的ハ「夫又ハ父ニ同伴」又ハ「夫又ハ父ノ許ヘ」ト記載セラレタシ

追テ未成年ノ子トアルハ二十一歳未滿ヲ意味スル趣ナリ

●會社又ハ商店使用人ノ支店勤務ノ爲メ渡米スル場合ノ取扱方ニ關スル件

大正十四年五月十九日
通三普通合第八五九號

本年三月三十日付通三普通合第四七〇號當省通牒第二ニ該當スル商人及新聞通信員等ノ入米ニ付テハ米國勞働務省ノ入國許可ヲ要セサルコト、相成候間右樣御了知ノ上可然御取扱相成度此段申進候也

第三節　墨西哥、中米南米諸國

●墨西哥國渡航ノ本邦醫師ニ對シ注意方ノ件

大正十年三月八日
規保調第七號警察部長

墨國警術協定ニヨリ墨國ニ於テ開業セム爲メ渡航スル本邦醫師中同協定規定ノ手續ヲ履マスシテ渡墨シ開業上非常ニ困難スル者往々有之趣ニ付今後ハ出發前必ス其開業免許狀ニ我外務省及在本邦墨國公使ノ證明ヲ得テ出發スル樣注意ヲ與ヘラルヘシ

●墨國渡航者ノ入國提示金ニ關スル件

大正十一年十月二十日
規保調第三六號警察部長

警察署長
（領事分署長）

墨西哥國政府ハ近時多數ノ無資力外國人勞働者ノ同國ニ渡來スル狀態ニ鑑ミ自今同國ニ入國セムトスル外國人ハ旅費ノ外墨貨五十ペソ（邦貨）約五十圓又ハ之ニ相當スル外國貨幣ヲ現金ニテ所持スルニ非ラサレハ上陸ヲ許ササル事トナリタルニ付同國渡航者ニ對シテ此ノ旨無漏指示セラルヘシ

●米國經由ノ文字ナキ墨國行旅券携帶者ハ米國領事ノ通過證明書

ヲ要スル件

大正十一年十二月十三日
規保調第四五號警察部長
警察部長（警察分署長）

本邦ヨリ墨西哥國北部地方ヘ渡航スル者ハ交通ノ困難ト費用ノ多額ヲ要スル關係上墨國港ヨリ上陸セスシテ米國ヲ經由セサルヘカラサル處米國移民法上入國者ト通過者トノ間ニ上陸ノ際取扱ニ大差ナキニ鑑ミ從來米國ニ入國ノ資格アル者ニアラサレハ米國經由ノ旅券ヲ下附セサル方針ヲ採リ又米國移民間ニ於テハ(一)米國經由ノ文字記載アリ且米國在外領事ノ査證ヲ有スル者ニ對シテハ無條件ニテ上陸ヲ許可シ(二)之ニ反シ米國經由ノ文字ナキ者ニ對シテハ五百弗ノ保證金ヲ積マシメ上陸ヲ許可スル取扱ノ如キナリシカ今般米國政府ハ後者ニ對シテハ移民局ニ對スル上記保證金ノ提供ハ之ヲ要セサルコトトスルモ在外米國領事ノ發給スル通過證明書ヲ有スルニアラサレハ絶對ニ上陸許可セサルコトトナリタルニ付今後墨國渡航者ニシテ米國經由ノ文字ナキ旅券ヲ有シ米國ヲ通過シテ墨國ニ至ラントスル者ハ尚發會本邦駐在米國領事ニ就キ米國ニ滞在スル等ノコトナク全ク通過者ニ相違ナキ旨ヲ申立テ通過證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ携帶スル樣旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際無漏指示セラルヘシ

●墨國渡航者ニ米國領事ヨリ交付セラルヘキ米國通過證明書樣式ニ關スル件

大正十二年一月二十四日
規保調第二號警察部長
警察署長（警察分署長）

各年十二月十三日付規保調第四五號ヲ以テ墨國渡航者ニシテ米國ヲ經由スル者ハ在本邦米國領事ノ通過證明書ヲ要スヘキ旨調示致置キタル處該證明書ノ樣式ハ別紙寫ノ通リニシテ手數料（印紙）一弗ヲ要スルニ付此旨ヲ併テ指示セラルヘシ

寫

通過證明書

（千九百二十一年九月二十九日ノ行政命令ニ依リ下附）

何々駐在米國領事第何號　何　某

予ハ本旅券ノ所持人ハ予ニ提出シタル滿足ナル證據ニ依リ何年何月何日何港ニ入國及ヒ經由墨國何地ニ赴ク中途滯ニ米領ヲ通行スル事ヲ證明ス

領事署名

日附

（印章及手數料郵稅〈手數料一弗〉）

●墨國渡航者ニ對スル品行證明書發給ニ關スル件

大正十五年九月十五日
規保調第一六號

墨國新移民法實施ノ結果同國渡航者ハ各自品行證明書ノ携帶ヲ必要トスル趣ニテ今回證明書樣式ヲ左記ノ通リ規定セラレタルニ付爾今同國行願者追達ノ際ハ無洩該證明書ヲ添付セラルヘシ

記

證明書

本籍地　何　某

生年月日

右者犯罪ニ依リ處刑セラレタルコトナク品行善良ナル者ナルコトヲ證明ス

午第　號

何府縣何警察署長　何　某

●南米祕露及墨西哥國等在留邦民中妻子呼寄ニ關スル許可標準

明治四十年三月二十七日
送第四七三號通商局長

南米ペルー及メキシコ國等在留邦民中其妻子ヲ在留地ニ呼寄セントスルモノアルニ方リ右渡航許可ノ標準ニ關シ靜岡縣知事ヨリ照會候次第有之候ニ付別紙寫ノ通リ回答致置候條貴縣ニ於テモ爾今右ニ依リ御取計相成度此段依命申進候也

追而貴縣ヨリ靜岡縣知事ヘ回答（明治四十年三月二十七日送第四七二號）

南米ペルー及メキシコ國等ノ在留邦民中其妻子ヲ在留地ニ呼寄ントスル者アルニ方リ右渡航許可之標準ニ關シ本月七日附未回第一三〇六號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ノ場合ニ方リ在留地所轄帝國官廳ノ發給セル在留證明書ヲ有スル者ニ對シテハ該在留者ノ父子兄弟姉妹及配偶者中非常ニ老衰若ハ病氣ニ罹レル者ヲ除キ凡テ渡航許可相成リ差支無之候條左樣御了承相成度此段依命及回答候也

●南米在留移民カ其兄弟妻子呼寄ニ關スル件

明治四十三年八月二十二日
送第五一一三號通商局長

南米ニ在留スル移民ヨリ其兄弟妻子等呼寄ノタメニ領事ヨリ發給シタル證明書ヲ添付シ渡航ヲ出願セル者ニ對スル取扱方ニ付テハ別紙甲號寫ノ通リ貴縣知事ヨリ照會有之右ニ對シ乙號寫ノ通リ回答致置候條此段ハ此節旨ニ依リ御取扱相成度依命此段申進候也

（甲號）

佐賀縣知事照會（明治四十三年八月十五日）

南米諸國行勞働者トシテ渡航許可出願候者取扱方ニ付テハ明治三十六年十一月二十一日送第一三九〇號ヲ以テ外務省總務長官ヨリ契約移民ノ外一切許可セサル方針ナル旨御通牒ノ次第有之又同國行移民以外ノ者ニ對スル取扱方ニ關シテハ本年四月十九日送第二二四〇號ヲ以テ北米ニ赴ク者ト同樣一々協議致スヘキ旨貴官御通牒ノ次第モ有之候處現ニ同國ニ在留スル移民ヨリ兄弟妻子等呼寄ニ關スル領事ノ證明書ヲ添付シ渡航出願候者取扱方ニ關シテハ別段ノ規定無之ニ付經歷身元性行等差支ノ廉無之者ニ對シテハ當廳ニ於テ許可可然�(«)又ハ北米ニ赴ク例ニ依リ可致哉疑議相生シ候ニ付御意見承知致度此段及照會候也

（乙號）

通商局長回答（明治四十三年八月二十二日送第五一一二號）

南米ニ在留スル移民ヨリ其兄弟妻子等呼寄ノ爲メニ領事ヨリ發給シタル證明書ヲ添付シ渡航ヲ出願セル者ニ對スル取扱方ニ付キ本月十五日付發書第二〇九號ヲ以テ御照會之趣了承本件ニ關スル本年四月十九日付送第二二四〇號當省通牒ハ契約ノ移民ヲ除キ其他ノ渡航者ニ就テハ悉ク當省ヘ協議ヲ要スル義ト御承知相成度從テ前顯移民カ其兄弟妻子ヲ呼寄スル場合ノ如キモ北米ヘ赴ク者ト同樣ノ手續ニ依リ旅券下付方ニ關シテハ當省ヘ御協議相成度此段回答申進候也

●中央及南米諸國渡航者取締方ノ件

大正八年六月二十七日
規保調第二二號警察部長

近來亞細亞丁、智利、其他南米諸國行旅券ノ下付ヲ受ケタルモノニシテ旅券面記載ノ國ニ赴カス墨國等ニ上陸スル者頻出シ此等ノ多數ハ初メリ旅券面記載ノ國ニ赴ク意思ナク北米合衆國等ニ潛入スル目的ヲ有シ墨國ニ上陸スル爲メ其ノ旅券ニ僞メ在本邦墨國官憲ノ查證ヲ受ケテ之ヲ携帶スル者ノ如ク其ノ行爲ハ旅券規則違反ナルヲ以テ中央亞米利加(墨國ヲ含マス)及南米諸國渡航願書ニハ移民會社ノ取扱ヲ除ク外其ノ經由國名ヲ記載セシメ尙旅券面記載以外ノ國ニ上陸ノ目的ヲ以テ僞メ在本邦外國官憲ノ查證ヲ受ケシムルコトナキ樣嚴重取締ルヘシ

●祕露國渡航者ニ對シ查證ニ關スル件

大正三年十月二十四日
保收第一〇八八八號警察部通牒
各警察署(分署)長

自今祕露國渡航者ハ其旅券ニ本邦駐在同國領事ノ查證ヲ受クルヲ要ス
進テ查證ヲ受クル際ハ領事ヲ證明スル手數料貳圓ヲ要ス
右通牒ス

●祕露國行旅券ニ查證ヲ要スル件

大正八年六月十七日
規保調第二〇號警察部長
警察署(警察分署)

祕露國政府ハ各月末里馬地方ニ於テ勞働者ノ同盟罷工起リ遂ニ暴動ヲ惹起シタルニ鑑ミ今回無政府主義外國人ノ入國ヲ防止スルノ必要ヲ認ムトシ大統領令ヲ以テ祕露公使又ハ領事ノ查證セル旅券ヲ有スルモノヽ外其ノ入國ヲ禁止スルコトヽナリ又旅券面ニ併記シ得ルモノハ單ニ十二歲以下ノ兒女ニ限ルニ付同國渡航願書ニ添付スル寫眞ハ十二歲以下ノ者ヲ除ケノ外各別ニ撮影セシメ尙旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際ニ於テ所持ノ旅券ニハ必ス在本邦祕露國公使又ハ領事ノ查證ヲ受ケヘキ旨指示スヘシ

●祕露國渡航者ノ携帶スヘキ品行證明書發給ニ關スル件

大正十四年九月三日
規保調第二五號

祕露國政府ニ於テハ今後同國ヘ渡航スル者ハ移民非移民ノ別ナク各自其旅券ニ在本邦同國領事ノ查證ヲ得ルニ當リ居住地警察官憲ノ發給ニ係ル品行善良ナル旨ノ證明書ノ携帶ヲ必要トスル旨發令シタル趣外務省通商局長ヨリ通牒アリタルニ付爾今同國渡航出願者ニ對シテハ移民非移民ニ係ハラス左記樣式ニヨリ證明書ヲ作成シ願書ト共ニ進達セラルヘシ

記

證明書

本籍
職業　何　某　生年月日

右者本證明書交付ノ日附前二年間禮刑ニ相當スル犯罪ニ依リ處刑セラレタルコト無ク品行善良ナル者ナルコトヲ證明ス

年　月　日　何府縣何警察署長　何　某印

●伯剌西爾國外國人入國取締法發布ノ件

大正十年四月九日
規保調第一三號警察部長

伯剌西爾國政府ニ於テハ本年一月六日付ヲ以テ左記ノ通リ外國人入國取締法ヲ制定公布セラレタルニ付今後同國渡航出願者ニ對シテハ從來規定セラレタル身元調査事項ノ外ニ尙該入國取締法ニ該當ノ有無ヲ精査報告セラルヘシ

記

外國人入國取締法(千九百二十一年一月六日付同會令第四二四七號)

第一條　政府ハ左記各項ニ該當スル外國人ノ入國ヲ拒否スルコトヲ得

一、本法第二條ノ規定ニ該當スル者
二、不具者、盲目者、瘋癲者、乞食、不治ノ疾患者又ハ傳染性重患者
三、職業ノ目的ヲ以テ渡來スル婦人
四、六十歲以上ノ者

補　款

本條第二項及第四項ニ該當スル外國人中傳染性重患者ヲ除キ左記ノ者入國ヲ許可ス

(イ)　自己ノ生計ヲ支持スルニ足ルヘキ收入アルコトヲ立證シ得ル者
(ロ)　警察官憲ノ面前ニ於テ署名シタル保證書ニヨリ其全責任ヲ負フヘキ親戚又ハ其他ノ引受者ヲ有スル者

第二條　左ノ各項ニ該當スルコトノ立證セラレタル外國人ハ入國後五ヶ年以內ニ伯國領土外ニ追放セラルヘシ

一、他國ヨリ追放セラレタル者
二、他國警察官憲カ社會ノ秩序ニ危險アリト認メタル者
三、上記ノ期間內ニ犯罪行爲ニヨリ宗教並ニ政治結社ヲ設立スル目的ヲ以テ暴行ノ煽動ヲ爲シタル者
四、其ノ行爲ニ依リ社會ノ秩序又ハ公安ニ害アリト認メラレタル者
五、殺人、劫盜强盜、破產詐欺密輸入賍物故買貨幣僞造又ハ醫業媒介罪ノ宣告ヲ受ケタル他國ヨリ追放ノ宣告ヲ受ケタル他國ヨリ逃亡シ來レル者
六、伯剌西爾國裁判官ヨリ前項記載ノ罪ヲ宣告セラレタル者

第三條　引續キ五ヶ年以上伯國內ニ居住スル外國人ハ追放セラルヽコトナシ

第四條　前條規定ノ居住者トハ左記ノ各號ヲ立證シ得ル外國人ヲ云フ
但シ憲法第六十九條第四項ニ該當スル者ヲ除ク(註憲法第六十九條第四項トハ外國人ニシテ千八百八十九年十一月十五日伯剌西爾國ニ在留シ憲法實施後六ヶ月以內ニ原國籍ヲ保有スルノ意志ヲ表示セサリシ者)

一、前記ノ期間內ニ伯國內ノ一定ノ場所又ハ或特定ノ數ヶ所ニ在留セル者
二、前記期間中居住シタル土地又ハ轄住地ノ警察官憲又ハ行政區域ニ對シ伯國ニ在留スル意志ヲ文書ヲ以テ表示シタル者
三、前記期間中伯國內ノ一ヶ所又ハ數ヶ所ニ於テ適法ノ業務ニ從事スル生活ノ本據ヲ有シ來レル者

第五條　警察官憲ハ追放ニ關スル行政上ノ手續ヲ終了シタル後之カ適法ノ解決ヲ得ル爲メ其一件書類ヲ司法內務長官ニ送致スルモノトス

補　款

一、追放命令ヲ受ケタル外國人ハ十日間以內ニ於テ追放命令ヲ發シタル官憲ニ對シ該命令カ本令第二條ノ第一項第二項第三項及第四項ノ執シニ基ケルモノナルカニ關シ何問スルコトヲ得
又三十日以內ニ司法官憲ニ對シ追放命令カ同條第五項及第六項ニ基キ決定セラレタルモノナルカニ關シ何問スル事ヲ得
二、追放命令ヲ受ケタル時ハ前記補款ニ規定セル期間內ニ伯國ヨリ退去スヘキモノトス

他ノ犯罪ニ付テハ其ノ犯罪ノ為メ前記ノ期間中普通裁判人留置所以外ノ場所ニ之ヲ留置スルコトヲ得

第五條　司法官憲ニ對スル上訴ハ追放命令ニ關係ノ上訴ニ限リ其辯護ヲ許可ス

第六條　追放セラレタル外國人カ追放命令ノ消滅前ニ再ヒ渡來セントスルトキハ事ニ其再渡航ノ事實ノ實證ノミニヨリ二ケ年ノ懲役ニ處シ其服役ノ後丁度再ヒ追放セラルヘキモノトス

補則

（本條ノ場合ニ於ケル訴訟手續及刑決ハ場所裁判所之ヲ管掌ス

第七條　政府ハ追放命令ノ効力ヲ停止スルトキハ該命令ヲ取消スコトヲ得

第八條　本令ニ抵觸スル法令ハ之ヲ廢止ス

●伯剌西爾勞働家族移民渡航ニ關スル取扱方

明治四十五年二月十五日
調閣秘調令第九號

（移民局分掌）

伯剌西爾國ニ在リテ勞働地ニ就職中ノ自己ノ家族ト同居シ勞働ニ從事スル者ヲ以テ渡航許可ヲ出願スル者ニ對シテハ左記事項ノ通リ取扱フヘシ

一、移民ハ伯剌西爾國ニ於テ勞働地ニ就職中ノ自己ノ家族ト同居シ勞働ニ從事スル目的ニテ渡航スルモノニシテ帝國公使又ハ領事ノ發給セル證明書ヲ有スル者ナルコト

二、本移民ハ移民取扱人ノ周旋ニ依ルモ又ハ之ニ依ラサルモ自己ノ任意ナルコト

三、移民取扱人ノ周旋ニ依ル場合モ自由移民トシテ取扱フヘシ

四、本移民ノ取扱手數料ハ左ノ標準ニ依リ認可セラルヘキコト

（イ）船賃全額自辯スル者ハ　壹人ニ付金五圓

但シ十二歳以上十五歳未滿ハ半額十二歳未滿ハ無手數料

（ロ）船賃半額ヲ取扱人ヨリ立替ヘラルヘキ者ハ　一人ニ付貳拾圓

但書前同斷

五、本移民ノ義ニ取扱人カ取扱ヲ許可セラレタル同國行農事及熟練職工トハ全ク別物ニシテ隨テ此定員以外トシテ取扱フヘキモノトス

六、本移民ハ本省ヘノ協議ヲ省略シ渡航ヲ許可セラレ旅費ナシ但シ許可ノ上ハ其旨報告アリタシ

●伯剌西爾行移民取扱ニ關スル件

大正三年二月十日
調示甲第四號警察部長

（各警察部長宛）

伯剌西爾行農業移民及同國在留者ノ呼寄ニ係ル自由移民ニ對シテハ左ノ件注意セラルヘシ

一、在留者ノ呼寄ニシテ領事ノ發給セル呼寄證明書ニ被呼寄者ノ氏名ノ相違又ハ呼寄人ト被呼寄人ノ間ニ於テ何等親族關係ナキモノヲ關係アルカ如ク虚稱シタル事實アル被呼寄者ニ對シテハ詮議ノ都合有之ニ付キ願書受理ノ上ハ領事證明書ニ記載ノ親族關係ヲ詳細調査意見書中ニ記スル事

二、右證明書中ニ記載ナル被呼寄人ハ費ヘ父母實子女兄弟姉妹ト雖トモ被呼寄者トシテ取扱フヲ得サルモノトス但シ携帶兒ハ此限リニアラス

三、家族構成農業移民ニシテ必要構成員數ニ依リ完成セル家族ニ家長ノ同行セル父母ハ年齢四十歳以上ト雖トモ勞働ニ堪ヘ得可者ナルトキハ渡航セシメ差支ナシ又家長ノ妻ノ同伴セル父母ニ對シテモ同樣渡航差支ナシ

渡航ノ周旋及取扱人ト伯剌西爾サンパウロ州政府間ニ締結シタル移民契約第十三條ノ補助金（旅費）ノ支拂ニ關シ責任ヲ負フヘキコト

（參照）

伯剌西爾國「サンパウロ」州移民契約第十三條　政府ハ旅費下付ニ關スル現行條令ノ規定ニ基キ既ニ當州ニ於テ勞働地ニ就職中ノ自己ノ家族ト同居セシ爲メ自費ヲ以テ渡來シ同シク勞働ニ從事スル凡テノ日本移民ニ對シ八磅ヲ限度トシソノ三磅ハ船賃ヲ下付スヘキ義務ヲ負フ右證明ノ爲メ本官即農商工務省土地移殖民局往復課課長「エドムンド、ロブリゲス」「ヴオルデン」ハ本契約書ヲ例證シ之ヲ前記各當事者ニ被ミ聞カセタルニ付當事者ハ其相違ナキヲ認メ各自之ニ署名シ且ツ證人「ルゾエン、アンブレ」及「ピエウセニオ、レフエアレ」之ニ副書ス

一「ミル」五百「レース」ニ値スル二個ノ當州教入印紙上ニ左ノ署名得出セリ

アントニオ、デ、バグアサーレス
竹村樂右衛門代理人
上　原　用　平
證人　レザエンアンブル
カーロスタイガ

●伯剌西爾契約移民ニ關スル件

（甲號）

鹿島祿知事報告（明治四十五年一月二十六日）

今般在伯帝國官憲ノ發給ニ係ル證明書ヲ有シ在伯移民ノ呼寄ニ依リ同國ヘ渡航セントスルモノ有之候處早速渡航セントスルニハ多額ノ旅費ヲ要スル

●伯國行移民ノ服裝及手荷物ニ關スル件

大正二年八月十九日
保收第八五九八號保安課長
各警察署（分署）長

伯國「サンパウロ」州ニ渡航スル本邦移民ハ專ラ洋服ヲ着用シ不體裁ナラサルハ需要スヘキ義ナルモ其服裝ノ程度ハ遙カニ歐洲諸國ヨリ渡來スル移民ニ優ル一般ニ華美贅澤ニシテ勞働者ノ身分ニ不釣合ナル爲メ物笑ノ種子トナルヘキヲヨリ寧ロ質素ヲ旨トシ無益ノ出費ヲ避ケシムル樣注意ヲ與フル趣意ヲ以テ又移民ノ携帶手荷物ハ渡航同數ヲ積ムル度毎ニ個數及分量共ニ增加スル傾向アリ殊ニ其荷物中ニハ關稅害輸入ヲ企ツルモノト認メラレ上陸後ノ通關上ニ種々ノ面倒ヲ惹起スヘキ虞アルニヨリ之カ取締ヲ講スル必要アルヲ以テ今般在伯藤田臨時代理公使ヨリ其申ノ次第有之候趣ニ付今回渡航ノ伯國移民ニ旅行ノ孝ヲ取纏メサル以前ニ注意ヲ加ヘ尙右事項ノ實行方ニ深ク注意致可旨至急示達相成度

記

條一　服裝ヲ質素ニスヘキ件

（イ）衣服ハ男女共ニ洋服ヲ用ヒ和服殊ニ綿著物ノ類ハ携帶スヘカラス而シテ男子ノ洋服ハ小倉「カーキ色」木綿地等ノ詰襟勞働服ニ限ルヘク羅紗其他毛織品ハ贅澤ニ過クルノミナラス洗濯ニ適セス不經濟ナルヲ以テ鼠地ニ於テハ支配人ト雖モ之ヲ著用スルコトナシ又白襟白襦衣襟飾等ハ上陸ノ際ト雖トモ全ク其必要ナシ

婦人ノ洋服ハ前數同ノ渡航者カ著用セル程度ノモノニテ可ナリ又從來例アリシ如ク和服ヲ洋風ニ仕立直シタルモノニテモ十分ナリ

（ロ）肌衣、ワキシタ下、靴下類ハ一人一打位ヲ程度トスヘシ

（ハ）帽子ハ從來ノ移民中紳士向麥稈帽代價數圓ノ中折若クハ金釋「パナマ」ノ類ヲ被レル者アリ贅澤ニ過ク代價五十錢內外ノ勞働者用組製麥稈帽又ハ一圓前後ノ羅紗帽ニテ十分ナリ

婦人帽子ハ從來ノ例ニヨレハ一二圓乃至數圓ヲ費シテ裝飾アル品ヲ意々求メ甚シキハ年增女ニシテ女兒用ノ品ヲ被リ飾襟者ニ冷笑セラレタル例アリ今後婦人ハ一切帽子ヲ求ムルノ必要ナシ

（ニ）靴ハ從來五六圓乃至十圓位ノ紳士向深靴ヲ穿チ來レル移民少ナカラス右ハ贅澤ニ過實用ニ適セサルニヨリ男子ハ兵隊靴又ハ之ニ類スル堅牢一點ノ廉價ナル半靴又ハ底足袋ヲ購求シ來ルヘク勞働中ハ多ク麻靴草靴革底足袋等ヲ用フルニ依リ休日等ニ外出ノ際要スル前記革靴丁二足アレハ當分不自由ヲ感セス

（ホ）傘、洋傘ハ耕地ニテハ殆ント其必要ナシ寒口雨合羽ヲ携帶スルヲ便トス但シ洋傘ハ婦子兒等ノ丈夫向ノモノハ可ナルモ絹製傘ヲ携帶スヘカラス

第二　手荷物制限ニ關スル件

（イ）個數及重量ハ十二歲以上ノ者一人御行李壹個十二貫目十二歲未滿ノ者一人三貫目ヲ限度トス

但シ一家族ノ荷物ヲ可成取纏メ行李ノ個數ヲ少クスルヲ可トス其重量ハ一家族ノ荷物ヲ一纏ニシテ算出スルモ差支ナシ

（ロ）農具及家事用具（食器トモ）ハ此等ノ諸品ハ伯國稅關規則カ移民ニ許與スル特權ナレハ各自必要ト思考スル分量ヲ携帶スヘク且ツ之ハ別個ニ包裝ヲ施スヘシ然ルトキハ移民取扱人ニ於テ前項制限外ノ物品トシテ徵稅ノ便宜ヲ計ルヘシ

（ハ）商品寄輸入ハ銅製品鉄寸（鉄寸ハ船中危險ナレハ汽船會社及船長モ取締ヲナス）其他何品ニ限ラス自用品ト認メ難キ品ヲ多量ニ所持スルトハ嚴禁トス又在伯本邦人ノ依賴ヲ受ケテ此種ノ物品ヲ携帶スルコトモ同樣ナリ若シ商用品ヲ藏スルモノト認メラルヽトキハ上陸港ニ於テ嚴重ナル檢査ヲ受ケ物品ニ重稅ヲ課セラレ又ハ沒收セラルヽコトアルニヨリ先ツ神戸港ニテ乘船前ニ各移民ノ手荷物ヲ嚴重ニ檢査スヘキコトヲ心得ヘシ

●伯刺西爾國行農業契約移民及同國在留者ノ呼寄ニシテ移民取扱人ノ手ヲ經ル自由移民ニ關スル件

大正三年一月二十六日
福岡縣知事照會保發第九九二號

伯刺西爾國行農業契約移民及同國在留者ノ呼寄ニシテ移民取扱人ノ手ニヨリ渡航スル自由移民ニ關シ取扱上左記ノ點疑義相生シ候條一應御意見拜承致度候

一契約農業移民ニシテ必要構成員數ニ依リ完成セル家族ニシテ家長ノ同行スル父母ハ年齡四十五歲以上ノ者ト雖トモ渡航セシメ差支ナキヤ若シ差支ナシトセハ家長ノ妻ノ父母ニ對シテモ同樣差支ナキヤ

二在留者ノ呼寄ニシテ其呼寄證明書中氏名記入ナキモノハ被呼寄者ノ父母實子女兄弟姉妹等ノ近親ト雖モ渡航許可不能ナルヤ

三右證明書中被呼寄人ノ氏名ノ相違又ハ全ク親族關係ナキモノヲ關係アルカ如ク偽事ヲ詐リ證明ヲ受ケタル證明書ニ對スル被呼寄者ハ如何ニ措置シ可然哉

通商局長回答（大正三年一月三十日通合送第四六五號）

本件ニ關シ本月二十六日付保發第九九二號ヲ以テ御照會ノ次第有之候處右ハ左記ノ通リ御處理相成度此段及御回答候也

一家族農業移民ニシテ必要構成員數ニ依リ完成セル家族ニ家長ノ同行スル父母ハ年齡四十五歲以上ノ者ト雖トモ勞働ニ堪ユル者ナルトキハ差支ナシ又家長ノ妻ノ同伴スル父母ニ付テモ前同斷トス

二領事ノ發給セル呼寄證明書ニ記サレタル被呼寄者ノ父母實子女兄弟姉妹ト雖トモ證明書ニ記名シアラサルニ於テハ被呼寄者トシテ取扱ヲ得サルモノトス但シ携帶兒ハ此限リニアラス

三證明書中被呼寄者ノ氏名ノ相違又ハ親族關係ヲ虛構シタル事實アル被呼寄者ニ對シテハ一般協議ノ例ニ依リ當省ヘ御協議相成タシ

●伯國行農業移民ニ關スル件

大正三年一月二十七日
保發第一〇八〇號警察部長
各警察署（分署）長

當今伯國行農業移民ニ對シテハ契約ナルト自由移民ナルトヲ不問移民保護法施行規程及外國旅券規則施行規程取扱心得第四條ニ依ルノ外左記各項制限通達セラルヘシ

一逃亡、暴行、脅迫及其ノ教唆ヲナスノ虞ナキヤ

一同盟罷業ニ加入スルノ虞ナキヤ

一賭博又ハ之ニ類似ノ行爲ヲナスノ虞ナキヤ

一純農ナルヤ否ヤ

●伯國行呼寄移民旅費補給資格ニ關スル件

大正三年二月二十三日
保收第一四七七號警察部通牒
各警察署（分署）長

移民取扱人竹村與右衛門並ニ東洋移民合資會社カ伯刺西爾國「サンパウロ」州政府ト締結セル現行移民供給契約書第十三條ニ依レハ既ニ「サンパウロ」

州内ノ勞働地ニ就職中ノ自己ノ家族ト同居センカ爲メ自費ヲ以テ渡航シ共ニ勞働ニ從事スル趣テノ本邦移民ニ對シ州政府ハ旅費還付ニ關スル現行條令ノ規定ニ基キ奚貨八磅以内ニ於テ移民カ支拂タル三等旅費ヲ還付スルコトヲ約ストアリ然ルニ該契約文中ノ在伯呼寄人ト被呼寄人トノ家族關係ノ限度明瞭ナラサルニヨリ其筋ノ意向ヲ確メタル處既ニ州内農場ニ就地セル父母ト同居センカ爲メ呼寄ニヨリ渡航スル年齢二十一歳以下ノ獨身移民ニ在リテハ奚貨八磅ノ旅費補給ヲ受クルハ疑ナキモ其以外ノ者例ヘハ被呼寄人カ年齢二十一歳以上ノ子女ナルトキ又ハ其父母兄弟姉妹從兄弟甥姪等ナルトキ該補給ヲ受クル資格ナキモノト決セラルヽヤモ料リ難ク目下之カ取調中ニ有之候此ノ如キ次第ニ付後者ニ該當スル被呼寄人ハ渡航費全額ヲ自辯スル覺悟ニテ準備スルニ於テハ安全ナルヘキモ若シ州政府ノ補給ヲ引當トナスニ於テハ失望ノ場合可有之ト存候尤モ無資格被呼寄人ニテモ「サントス」港ヨリ呼寄農場迄ノ輸送並ニ其間ニ於ケル宿泊飲食等ハ總テ普通契約移民ト同樣州政府ノ費用ヲ以テ之ヲ支辨スル義ニ有之候右ノ趣可然方法ヲ以テ各被呼寄人ニ御通達相成度此段申進候也

●伯國行旅券ニ査證ヲ要スル件

大正四年三月二十九日
規甲第一二號警察部長

警察署（警察分署）長

歳ニ東洋汽船株式會社ノ南米定期船ニ搭乘シテ智利國「バルパライソ」港ニ到著セル本邦移民數名ハ伯國ニ向ツテ同港ヲ出發スヘキ英國太平洋汽船會社汽船ニ轉乘渡航セムトシタルニ同會社ハ彼等ノ携帯セル旅券面ニ伯國領事ノ證明アラサルノ理由ニ依リ切符ノ發賣ヲ拒ミタル爲メ遂ニ乘船ノ目的ヲ達スルヲ得サリシ趣ニ有之右乘船切符ヲ發賣セサリシ理由ハ伯國行ノ三等船客ハ其ノ乘船地ニ於ケル伯國領事ノ査證ナキトキハ上陸ヲ許サヽル規定ニ有之然ルニバルパライソ港ニ於テ伯國領事ノ旅券査證ナキハ國籍ノ事情アルニヨリ率ロ本邦出發港ニ於テ相當手續ヲ盡シ出發スル方可然旨在智利日置公使ヨリ申報ノ次第有之向後パ港ヲ經テ伯國ニ向フ三等船客及一般ニ移民ト認メラルヘキ者ハ本邦出發港ニ於テ其所持ノ旅券ニ通過國及到著國ノ在本邦領事ノ査證ヲ受ケ置クコト必要ナル旨注意ヲ加フヘシ

●伯國呼寄移民ニ對スル證明書ノ有效期限ニ關スル件

大正五年三月二十二日
通合送第一三九號外務次官

伯剌西爾國サンパウロ州内ノ農場ニ定住セル移民カ本邦ヨリ其家族若クハ親戚等ヲ呼寄スル爲メ在サンパウロ帝國總領事ヨリ呼寄證明ヲ受ケ在本邦關係者ヘ送付セルモノ多數有之候處該呼寄證明書ハ客年五月發給ノ分ヨリ一ケ年半ヲ經過スルトキハ效力ヲ失フヘク其以前發給ニ係ル分ハ右事效期限ニ據ラス個々ノ渡航出願ニ對シ呼寄ノ關係現在繼續シ居ルヤ否ヤ事情ヲ審案シ許否ヲ決スルコトニ取扱相成度尚此以外ノ呼寄證明ニ關シテハ移民非移民ノ別ナク前示有效期限ノ制限ヲ準用セラルヘキモ呼寄ニ非サル證明部ヲ再渡航證明書ニ對シテハ有效期限ヲ付セサルコトニ御處理相成度依命此段申進候也

●僞造家族移民渡航禁止ノ件

大正五年六月十五日
調示甲第一九號警察部長

警察署（警察分署）

從來伯剌西爾國行家族移民ノ募集ニ際シ家族ヲ僞造シテ渡航シタル者多ク之カ爲ニ渡航後ノ弊害不尠鑑ヲ以テ在サンパウロ總領事ヨリ別紙寫ノ通リ

外務大臣ヘ稟請ノ由取締方其筋ヨリ通牒アリタルニ付自今同國行家族移民ノ渡航出願ニ對シテハ家族構成上ニ付キ特ニ注意ヲ拂ヒ夫婦及ヒ妻子ニシテ二ケ年以上實際家族關係ヲ繼續シ居ル哉否ヤ又ハ二ケ年以上繼續シ居ラサル者ト雖モ眞正ノ者ト認ムヘキモノナリヤ否ヤ詳細身元調査ヲ遂ケ願書進達スヘシ

（電）

公第一五號

大正五年三月十六日

在サンパウロ
總領事　松村貞雄

外務大臣男爵石井菊次郎殿

從來當國ニ渡來セル家族移民中單ニ法律上ノ形式ノミヲ備ヘ實際ニ於テ家族的關係ナキ夫婦及親子顧ル多ク甚タシキハ族券面ト異リタル他人ノ本人ノ氏名ヲ冒稱シテ夫婦親子ヲ裝ヒ假ニ一團ヲナセルモノアリ移民會社及移民自身ニ於テモ公然「造リ家族」ナル名稱ヲ唱ヘテ憚ラサル有樣ニテ是等ハ本邦出發ノ際ヨリ既ニ家族的連絡ナク陸ヲ渡航船中ニ於ケル秩序ノ紊亂言語ニ絶シ候ハ勿論到著後强テ之ヲ一家族トシテ耕地ニ配布スル結果就働後直チニ多數ノ逃亡者ヲ出シ夫婦ノ解體又ハ野合ヲ生シ幼者ノ遺棄虐待トナリ又ハ家族解散ノ爲メ多數ノ早稲勞働者ヲ出ス等ノ醜狀續出シタル爲メ一般當國人ヲシテ本邦人間ニ於ケル夫婦親子ノ關係ノ亂暴ナルニ驚カシメ施テ一般本邦人ヲ未開人トシテ侮蔑嫌忌セシムルノ傾向ヲ生セシムルニ至レリ近來耕主間ニ於テハ漸ク本邦移民ニ僞造家族多キ爲此ノ如キ醜態續出スル所以ヲ覺リタル者ノ如ク當館ニ移民ノ周旋ヲ依頼シ來リタルモノ何レモ眞正ノ家族ヲナセル日本農民ニ限ル旨申出ツル有樣ナルモ尚一般ニ惡感ヲ懷キ特ニ政府側ニアリテハ僞造家族ヲ提供シテ渡航補助金ヲ騙取セラレメル惡ナキ能ハス方々人種及習俗ノ相違ニ起因セル反感ト相俟テ歐洲移民ノ入國激減シ著シク勞力ノ補充ヲ感スル今日尚本我移民誘入上多大ノ障碍ヲナシツヽアルハ誠ニ遺憾ニ堪サル次第ナリ尚幾子ヲ以テ家族ヲ偽造セルモノハ解體後最モ弊害多ク實際ニ於テ保護者ナク思慮ナキ未丁年者ヲ携ヘ來リテ當國ニ遺棄セシムル結果トナリ此等ノ多クハ家庭率公ヲ以テ漸ク糊口ヲ凌ケル有樣ナルモ結局男女共ニ放縱生活ヲ喜ヒ遂ニ無賴ノ徒ニ終ルヲ免レサルヘク其他僞造家族ヨリ生スル弊害枚擧ニ暇アラサル次第ニ有之候處彼等家長ト稱スル者ハ單ニ本邦ニ於テ容易ニ應募資格ヲ作ル爲メ寄ンテ此種ノ家族ヲ造リ移民會社及其募集人モ亦毫モ當國ニ於ケル影響ノ如何ヲ顧慮セス唯募集ヲ容易ニシテ目前ノ利益ヲ得ルヲ以テ其目的トモ無智農民ニ對シ家族僞造ヲ勸誘周旋スル事實アルヲ以テ將來我政府ニ於テモ深ク此等ノ諸點ニ鑑ミテ移民募集ヲ嚴重ニ取締リテ僞造家族ヲ根絶シ健全ナル農業家族ノミヲ撰拔シテ移住セシムルノ方法ヲ講セラルヽニアラサレハ我移民事業ハ徒ラニ當國人間ニ排日氣風ヲ釀成セシムルニ過サルヘシト信シ候ニ付將來渡伯移民募集ノ際ハ夫婦及妻子ハ二年以上實際ノ家族關係ヲ繼續シタル者ニ限ル等嚴重ナル制限ヲ設ケテ之ヲ勵行セラレンコト不堪希望候右及稟請候敬具

●伯國行移民渡航ノ際携帶荷物ニ付注意方ノ件

大正六年二月十四日
保敬第一七六〇號警察部長

各警察（分署）長

本件ニ關シ在サンパウロ松村總領事ヨリ別紙寫ノ通リ申報アリタル趣ニテ注意方其筋ヨリ通牒アリタルニ付各移民會社出張所業務代理人及事務員並ニ同國行移民ニ對シ漏ナク示達ノ上誤解ヲ招カサル樣取計フヘシ

（松村總領事報告書寫）

通公信第八四號
大正五年十一月二十五日

外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

在サンパウロ總領事　松村貞雄

●視察其他ノ名目ヲ以テ南米特ニ伯剌西爾ニ渡航スル者ニ關スル件

（別紙寫）

通公第九二號
大正五年十二月十六日

外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

在サンパウロ總領事　松村貞雄

我移民船來航ノ都度調査或ハ研究等種々ノ目的ノ下ニ便乘渡來スル者不少候處之ヲ從來ノ事實ニ徴スルニ此等ノ大部ハ其目的ニ相當スル素養及用意ヲ具備セサルハ勿論一ノ定業スラ有セサル者ニ有之畢竟社會ノ落伍者カ名ヲ藉リテ漫然渡來スルニ過キス從テ其目的ニ副ハサルハ現モ角克ク國苦ニ耐ヘテ他日ノ大成ヲ期スルカ如キ覺悟モ無之東西ニ流浪ノ果テハ都市ニ集マリテ徒食シ遂ニ詐欺賭博其他不良行爲ヲ以テ定業同樣トスルニ至ルハ此ノ其執テ一ニスルノ有樣ニ有之洵リ彼等ノ將來不可已直接間接一般在留邦人ニ及ホス惡影響不少義ニ有之候彼等ハ又多ク三等船客トシテ渡來スルヲ當ト致候處當國ニ於テハ三等船客ハ悉ク移民ト見做サレ而シテ移民ニ對シテハ取容所ノ宿泊無賃乘車等諸種ノ便宜ヲ與フル規定アルニ乘シテ彼等モ一般移民ト等シク此特典ニ浴シ結果調査研究ヲ目的トスル者國政府下付非移民旅券携帶者カ取容所ニ無料宿泊ノ奇觀ヲ呈シ當局者ノ擊肘ヲ招クニ至ルカ如キハ畢ニ邦人ニ對シテ偉眞ノ念ヲ生セシムルノミニ止マラサルヘシト被察候就テハ向後此種渡航出願者ニ對シテハ嚴重御取調ノ上苟クモ疑アル者ニハ旅券御下付不成併セテ又成ルヘク二等船客トシテ渡來致候事ニ御指置相成度樣致度明春臨時移民船ノ來航並ニ定期直通航路開通セントスルニ當リ右急メ具申候敬具

●伯國行契約移民身元調査ノ件

大正六年四月五日
調示甲第一四號警察部長

（警察部分署）

南米伯剌西爾國珈琲耕地行契約移民ノ身元調査ニ付テハ外國渡航者一般身元調査事項ノ外大正三年一月二十七日付保發第一〇八〇號ヲ調査スヘキ旨定ナルモ該移民ニシテ何等親族ノ關係ナキ者ヲシテ從兄弟姉妹ナリト稱シ家族ヲ構成シテ渡航出願セントスル者アルヤノ問有之ニ付向後伯國行契約移民ニ對シテハ親族關係ヲ精査シ其家族カ眞正ノモノナルヤ否ニ付嚴重調査副申スヘシ

●伯剌西爾國行契約移民家族構成ニ關スル件

大正六年十月二日
保發第一〇〇七〇號警察部長

（各警察分署）宛

伯剌西爾國サンパウロ州珈琲國行家族移民家族構成方ニ關シテハ本年三月三日付保收第二四七九號ヲ以テ注意シ置キタル處移民募集困難ノ爲メ家長妻ノ生家ニ娶子女ヲ入籍シ妻ノ弟妹トシテ家族ヲ構成シ渡航出願スル者有之右ハ家族構成條件ニ抵觸シ許可相成フサルニ付向後該契約移民ノ家族構成ニ付テハ特ニ注意セフルヘシ

●伯剌西爾國行家族移民ニ對スル注意方ノ件

大正六年十一月八日
保收第二一〇三二號警察部長

（各警察分署）宛

伯剌西爾國行家族移民ニ對シ注意方其筋ヨリ左記在伯多羅問書記生復命書寫ノ通リ通牒アリタルニ付今後該移民ニ對シテハ身元調査ノ際ニ於テ出願者カ純農ニシテ果シテ耕地勞働ニ堪ヘ得ヘキヤ否ヤ渡航許可通知ノ際左記事項精々注意ヲ與ヘラルヘシ

記

一、移民フランカフサル者多カリシコト

移民船若狭丸ニ乘船シテ第一ニ感シタルコトハ新來ノ移民カ其衣服調度ニ於テ將タ骨格筋度ニ於テ敏シテ移民フランカフス農事ニ從事シ居リタル者ト認メ難カリシコト、ス換言スレハ果シテ激烈ナル耕地勞働ニ耐ヘ得ヘキヤ徒ラニ今日既ニ千ヲ以テ數フル市內浮浪者ノ群ヲ增加スルノ結果ヲ來サスヤトノ懸念ナリシカ取容所ニ入リテ更ニ仔細ヲ觀察スルニ及シテ益ミ此感ヲ深フシタリ而シテ之レ畢ニ小官ノ事見ノミニアラス約六十日間彼等ノ觀察スルノ機會ヲ有シタル船員移民受取リノ爲メ出浮シタル耕地監督或ハ多年移民ニ經驗ヲ有スル取容所員等何レモ感ヲ同フシタル所ナリ彼等ノ或數ニ就テハ逆睹スル能ハスト雖モ之ヲ既往ノ事例ニ徴シテ如此ハ良好ノ移民ト認メ難シ既ニ一定人員募集ノ義務アリ更ラニ又少カラサル旅費ヲ要スルアリ眞正ノ意味ニ於ケル勞働者ノミヲ精選募集スルハ事困難ナル可キモ今少シク都市附近牛商牛農ノ所謂口利ク遊ケテ山間遊邑ノ屈竟素朴ナル純勞働者ヲ選ルニ努ムルノ要アルヘシト認ム金眼銀角刈ノ移民ハ清濁ニ過キ、女學校出等ニ至リテハ率ロ悲慘ニ堪ヘス

二、庶兒島縣及神奈川縣移民

既ニ記シタル如ク今頃ノ移民中從來最モ多數ニシテ且ツ第一ノ好成績ヲ擧ケ居レル熊本、福岡、廣島縣等著シク減少シテ既往ノ成績劣等ニシテ現ニ耕地勞働又ハ獨立農業ニ從事スルモノ殆ント皆無ニ近キ鹿兒島及今日ニ於テハ自營農業ニ幾分成績ヲ示スト雖モ曾テ契約移民トシテ不良ヲ稱メタル沖繩ノ兩縣カ突如トシテ復活シ兩カモ總數ノ約三分ノ一ヲ占ムルノ一事ハ特ニ注意ヲ要スル點ナラン

三、服裝ノ事所持金ノ事

移民ノ服裝ハ區々ナリシモ華美ニ失スルモノ尠カラス婦人中「セル」地流行型ノ洋服(二十圓ヲ要シタト云フ)或ハ之ニ類スルモノ又ハ絹著物ヲ用ヒ居リシ者ヲ不尠見受ケ男子中ニハ新調ノ山高帽子ニ金縁眼鏡ヲ用ユルモアリ上等織羅紗地三ツ揃ニ金鎖ヲ絡マセル者アリ此等ハ當國中流人士ノ仕度ニシテ畢ニ經費上ノ點ノミニ止マラス外觀上ニリモ不似合ノ矢張ナリ此等ノ中ニ在リテ佐賀縣岡神繩移民ハ縣別男女各揃ノ木綿勞働服(六七圓位ト云フ)ヲ著用シタリシハ機宜ノ所置ト謂フ可ク一般ノ範トス可シ「セル」地一著分ニテ三著ノ勞働服ヲ調ヘ綿布ニ代フルニ洗濯自由ノ木綿著ヲ選ハシメ山高帽ノ如キハ絶對ニ用サラシムル樣更ラニ嚴重ノ注意ヲ要ス

契約勞働移民ノ身分トシテ餘分ノ金ヲ携帶スルカ如キハ慣メテ矛盾ノ事ナルカ今回ノ移民中「ミナス」州行一家族ノ如キハ實ニ八百圓ヲ携帶セルモアリ此レ偶ミ例外トスルモ猶百圓二百圓ヲ携帶セシモノ尠シトセス其意果シテ那邊ニ在ルヤ推量ニ苦ム所ナルカ察スルニ所謂用心金ト云フモノナラン現ニ或一人ノ如キハ收容所ニ於テ邦貨五十圓ヲ小官ニ差出シテ日本ヘ送付ヲ乞ヒタル者アリタリ此果寛船中或ハ耕地事情ノ不明ニ基クモノナレハ無論我商業家ノ信用上ニモ甚タ面白カラサル者アルヘシ既ニ内々當局者ノ知ル處トナリ更ラニ如上ノ事實モ生シタルコトナレハ今後ノ移民故ニ便乘者ニ對シ不心得或ハ不注意ナカランコトヲ更ニ嚴達スル要アル可シ

五、移民家族構成ニ關スル件

外國貨幣ヲ英貨換ラサレハ佛米貨トシテ携帶セシム可キコトナリ之レ當地ニ於テハ邦貨ト伯貨ト換算相場ヲ算出スル能ハス多額ノ正貨ヲ兩換スルモ之カ始末容易ナラサルヨリ自然換算相場法外ニ低廉トナル結果ヲ來セハナリ現ニ今回ノ如キモ收容所内公設兩換所ハ當時一磅二十ミルノ相場ナリシニ拘ラス十圓ヲ値ニ十三ミル餘ニテ兩替セル如キ有樣ニテ携帶金ノ多キ丈ケ多大ノ損害ヲ蒙ルコトヽナリタリ故ニ第一ニ餘分ノ携帶金ヲ禁シ第二ニ已ヲ得サル者ハ外國貨トシテ携帶セシム可シ或ハ組合ヲシテ聯メ相場ヲ定メテ一手ニ引受クシメハ偶ミ過分ノ携帶金ヲ有スル場合之ヲ制シ得ルト同時ニ無謀ニ兩替セシムルヲ得ヘキカ

四、移民故ニ便乘事者ノ携帶荷物ノ事

當州在留ノ我不良ノ徒ニシテ殊メ新移民ニ内通シテ竊カニ商品ヲ手荷物トシテ密輸入セシムルモノ尠カラス

移民船便乘者ノ中ニハ特ニ甚シキモノアリ當國當該官意モ内々心付キ居ルヤニ聞キシカ今次ノ移民船ニ於テモ中等便乘者ノ一婦人ヨリ其携帶ノ商品ヲ密輸入方ニ就キ小官ニ相談ヲ持チ掛ケタル事實アリ更ニ又移民手荷物ト共ニ收容所ニ搬入セル移民會社員ノ荷物中東洋移民會社ノ分身日本貿易會社送出ノモノヨリ多數ノ羽二重、絹ハンケチノ類顯ハレ此等ハ著港ニ際シ規定ノ申告ヲナサヽリシモノトヲ關金處分ト決セラレタルカ内密交渉ノ結果約四コントス(二千餘圓)丈ケノ科料ニテ落著シタル事實アリタリ其故意ニ出タルヤ否ヤハ暫ク措キ荷モ移民會社ノ當事者カ知此失態ヲ演スル如キハ實ニ遺憾トイフ可ク斯カル事實カ我今後ノ移民ニ及ホス惡影響ハ勿論我商業家ノ信用上ニモ甚タ面白カラサル者アルヘシ既ニ内々當局者ノ知ル處トナリ更ラニ如上ノ事實モ生シタルコトナレハ今後ノ移民故ニ便乘者ニ對シ不心得或ハ不注意ナカランコトヲ更ニ嚴達スル要アル可シ

【讀賣新聞】

當州契約移民ハ家族ヲ構成スルモノナラサルヘカラサルハ言フ迄モナシ移民ニトリテモ實際家族ノ良否カ直ニ其成績ニ至大ノ影響ヲ及ホスハ既往ニ徵シテ顯著ナル事實ナリ彼ノ耕地ヲ轉々シ市中ニ流入シテ放浪ノ身トナリ他方日本移民反對論者ニ其口實ヲ與フルニ至ルノ原因ハ主トシテ不良家族部ヲ偽造家族ニアリ此等ハ假リニ最初ノ契約年限丈ハツトムルモ契約一度終レハ忽チ東西ニ分離スルカ常態ニシテ其結果モ知ル可キナリ從ツテ我移民ノ發展ヲ期セントセハ家族構成ニ最モ留意スルヲ要ス勿タトモ一家族ノ主腦ナル夫婦丈ケトリトモ眞正ノモノナラシメサル可カラス然ルニ從來ノ事實ハ實ニ甚シキモノアリ移民募集人等ノ奏計ニ從ヒテ他人ノ妻ヲ我妻ト詐リ或ハ他人ヲ實子ト欺キテ渡來シタルカ如キハ特例トスルモ戸籍面上眞正ノ夫婦トナリ更ラニ養子ヲ迎ヘテ表面上正規ノ一家ヲ構成シ而カモ其實ハ全タノ形式タルニ過キス旅費ノ如キモ各自ノ負擔トシテ渡來シ伯國ニ入ルヤ俟チテ直ニ國許ニ於テ離婚ノ手續ヲ成シテ四方ニ分散スルカ如キ普通人士ノ想像ニ及ハサル事ニシテ而カモ其例甚タ尠カラス今回ノ移民中ニモ現ニ既ニ船中ヨリ所謂契約夫婦ノ事實ヲ曝露シテ監督者ヲナヤマシタル一再ナラサリシト確聞ス如斯ハ獨リ移民ノ聲價ニ累ヲ及ホシ將來ノ發展ヲ害スルノミナラス當事者等ニトリテモ一生ヲ誤ルアルノ因タルモノナリ

●伯剌西爾行移民中癩病患者渡航防止ニ關スル注意方ノ件

大正六年十一月二十二日
訓示甲第四七號警察部長

警察署　(警察分署)

伯剌西爾在留本邦人中ニ癩病患者有之過般大阪商船株式會社汽船「タコマ」丸伯國ヨリ歸航ノ際同病患者熊本縣人山名清吉ナル者同船ニ乘船歸國方ヲ申出タルモ病氣傳染ノ危險ヲ恐レテ其乘船ヲ拒絶セラレ其後又「シアトル」丸ニテモ病室不足ノ理由ノ下ニ同樣乘船ヲ拒絶サレタル趣ニテ同病患者ハ同國ニ滯在スルノ止ムナキニ立至リ現ニ右患者ノ外ニ三名ノ同病患者有之由ナルモ歸國困難ト成リテハ結局彼地癩病院ニ收容セラルヽコトヽモ成ルヘク如斯ハ同國人ニ對シテ公然日本移民中ニ斯ル患者在ル事實ヲ顯ハスコトヽナリ延テハ日本移民ノ聲價ニ關スルコト甚大ナルハ勿論患者自身ニ於テモ路頭ニ迷フノ悲境ニ遭遇スル次第ニ付將來該移民ニ對シテハ身元調査ノ際ニ於テ同病患者ノ兼疑ナキヤ否ヤニ付嚴密調査副申スヘシ

●智利國渡航者旅券査證其他ニ關スル件

大正十三年十月三日
提保調第二二號

警察署長　(警察分署長)

智利國政府ハ千九百十八年十二月實施ノ外國人居住法ヲ勵行スルタメ同國ニ渡航スル外國人ニ對シ在外智利國領事ニ旅券ノ査證ヲ出願スル際別記書類ノ提出ヲ要求スル趣ニ付今後同國ヘノ渡航出願者ニ對シテハ漏レ無ク示達セラルヘシ

追テ右證明書類ノ樣式ニ關シテハ大正九年二月十六日付提保調第四號參照ノ上亞國渡航者ノ携帶スル證明書ニ準シ作成スヘシ

記

一、鑑識證
渡航者自身領事館ニ出願ノ上備付ノ鑑識證用紙ニ指紋ヲ刻シ所定欄ニ必要事項ヲ記入スルヲ要ス

二、品行證明書
原籍地若ハ現住地ノ府縣知事所轄警察署長又ハ市町村長ノ執レカニ於テ渡航者ノ品行ノ正シキコトヲ證明シ別ニ其ノ歐文譯文ヲ附スルヲ要ス

三、前科皆無ノ證明書
原籍若ハ現住地ノ府縣知事所轄警察署長又ハ市町村長ノ發給シタルモノタルヲ要シ別ニ其獨譯文ヲ附スルヲ要ス本證明書又前項品行證明ト併記スルモ差支ナシ

四、健康證明書
傳染性、慢性又ハ不治患者ニ非サル智利國領事館囑託醫（神戸ニ於テハ神戸市京町八十三「ドクター、パーカー」横濱ニ於テハ池田醫師）ノ證明ヲ提出シテ領事ノ裏書ヲ受クルヲ要ス

五、職業證明書
原籍若ハ現住地ノ府縣知事所轄警察署長又ハ市町村長ノ執レカニ依リ發給セラレタルモノタルヲ要シ別ニ其ノ獨譯文ヲ附スルヲ要ス

參考

一、手數料及譯料	
旅券查證料	四弗
健康證明ノ裏書	四弗
其ノ他ノ書類ノ查證料	四弗
合計	十二弗

外證明書ニ譯文ナキ場合ハ領事館ニ於テ譯者ニ依囑スル爲メ譯料ヲ要ス右ハ個人收入トナルモノナレハ仕事ノ能易ニ依リ一定セサルモ二弗ヲ下ラス

●智利國ニテ傳染病患者入國制限ニ關スル法律發布ノ件

大正三年九月五日
保收第九〇四八號警察部長

今般智利國ニ於テ左記譯文ノ通リ同國入國者ニ對シ傳染病患者入國制限ニ關スル法律ヲ制定シ既ニ實施セラレ候處本邦ヨリ同國ニ渡航スル自由入國者ハ乘船地駐在智利國領事官ノ指定スル醫師ニヨリ發給セラレタル健康證明書ニ該領事官ノ查證ヲ受ケ之レヲ携帶スルニ非サレハ入國ヲ拒絶セラルル眞可有之ニヨリ右ニ該當スル渡航者ニ對シ旅券交付又ハ渡航許可通達ノ際ニ前示健康證明書ヲ帶有スル必要アル旨一々示達相成度

譯文（法律第五九七號）

第一條　自由入國者トシテ智利ニ渡來スル一切ノ人ハ乘船地駐在智利國領事若シ又領事アラサル時總領事ノ指定セル醫師ニヨリ發給サレ領事若クハ總領事ニヨリ查證サレタル健康證明書ヲ携フルヲ要ス

第二條　前條ノ證明書ニハ當該入國者ハ急性若クハ慢性的、全身若クハ局部的ニモ傳染性ノ疾病ヲ有セサルコトヲ記載スルヲ要ス
右證明ノ手數料ハ入國者ニ於テ支拂フヘキモノトス

第三條　左記ノ疾病ニ就テハ健康證明書發給ノ醫師ニ於テ特ニ嚴密ニ檢査スルヲ要ス
亞細亞コレラ、ペスト、黃熱病、チフス、マラリヤ、腸寄蟲疾患、結核病、眼病、腳氣、癩病、痲、トラホーム、傳染性皮膚病

第四條　智利各港ノ港檢疫官ハ第一條ニ規定スル健康證明書ヲ有スル入國者ノ實際健康狀態證明ト符合スル場合ニ於テ上陸ヲ許ス

第五條　入國者ノ健康狀態實際ニ證明書ト符合セサル場合ニ於テハ若クハ該證明書ヲ携ヘサル場合ニ於テハ港檢疫官ハ衛生會ニ檢査ノ結果ヲ報告シ衛生會ヲ經テ船長ヲシテ當該入國者ニ對シ其智利領土ニ上陸ヲ禁セラレタルコトヲ宣告セシム

以上

●智利國ニ於ケル傳染病患者入國制限規則改正ノ件

大正五年十二月二十一日
訓示甲第三九號警察部長

警察署（警察分署）

智利國ニ於ケル傳染病患者入國制限規則ヲ左記ノ通リ改正セラレタルニ付自今同國渡航出願者ニ對シテハ同則第二條ニ依ル普感ノ種痘ヲナシタルカ若クハ天然痘ニ罹リタルコト並ニ全身亦ハ局部ノ急性又ハ慢性ノ傳染病ニ罹サレ居ラサルコト及同則第三條ニ該當スル疾患者ニアラサル旨ヲ明記シタル醫師ノ診斷書ヲ添付セシメ尙旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際無漏左記各條ヲ示達スヘシ

外國移民傳染病患者入國制限規則

第一條　自由移民トシテ智利國ニ渡來セント欲スル者ハ乘船地駐在智利國領事、若シ領事在ラサルトキハ總領事ノ指定セル醫師ノ發給シ且ツ領事若クハ總領事ノ查證シタル健康證明書ヲ携帶スルコトヲ要ス

第二條　前條ニ規定セル證明書ニハ移民カ普感ノ種痘ヲナシタルカ若クハ天然痘ニ罹リタルコト並ニ全身亦ハ局部ノ急性又ハ慢性ノ傳染病ニ罹ラサルコトヲ記載スルコトヲ要ス
前項ノ證明手數料ハ勉メ當該領事ノ規定セル所ニ從ヒ出願者之ヲ負擔スルモノトス
乘船地又ハ其附近ニ領事ノ駐在セサルカ若クハ其他ノ原因ニヨリ證明書ヲ得ル能ハサリシ者ニシテ北方ヨリ來航スル者ニ對シテハ檢疫所長其證明書ヲ發給スルコトヲ得

第三條　左記ノ疾病ハ健康證明書發給ノ任ニ當ル醫師ニ於テ特ニ嚴密ニ檢査スルコトヲ要ス
亞細亞コレラ、ペスト、黃熱病、痘狀斯、マラリヤ、腸寄蟲疾患、結核病、眼病、腳氣、癩病、トラホーム、傳染性皮膚病

第四條　北方ヨリ來ル移民ノ健康證明書ハ檢疫所長之ヲ檢閲シ問歟スヘシ而シテ右證明書ニ第二條第三條ニ掲記セル事項ヲ明記セサル場合ニハ該所長ハ其事實ヲ書面ニ認メ當該地方ノ郡長及港務官ニ之ヲ報告シ其手ヲ經テ船長ニ對シ右移民ノ智利國領域ニ上陸ヲ禁示スル旨ヲ通知セシムヘシ
「ヴアルパライソ」以南ノ諸港ニ於テハ檢疫所長ノ職務ハ水上衛生部署ニ之ニ當リ前項規定ノ事項ハ之ヲ衛生會議ニ報告スルモノトス

●玖瑪行旅券下付ニ關スル件

明治四十四年二月二十二日
送第一一九一號通商局長

玖瑪行旅券下付方ニ關シ別紙甲號寫ノ通リ神奈川縣知事ヨリ申越有之右ニ對シ別紙乙號寫ノ通リ回答致置候條今後同國渡航者ニ對シテハ右ノ主旨ニ依リ當省ヘ御協議相成度此段申進候也

（甲號寫）

神奈川縣知事照會（明治四十四年二月十八日）

長崎縣民大平慶太郎ト稱スル者數年前玖瑪國ニ店舗ヲ開キ當ニ同國ニ居住シ從來商用等ノ爲メ再三往復シ今回モ亦商用ヲ了リ同地方ヘ歸航致度旨ヲ以テ旅券下付願出差支無之ニ付下付ノ見込ニ候處同地方ハ貴省ヘ協議スヘキ國ニハ無之候ヘ共米國ト條約上特別ノ關係ヲ有シ居候間旅券下付出願ノ際ハ一應御協議可致候哉否ヤ御省議承知致度右ハ差掛リ居候ニ付キ至急御回報相成度候

（乙第百）

通商局長回答（明治四十四年二月二十二日送第一一九二號）

玖瑪ニ商用ノ爲メ再渡航セムトスル長崎縣民大平慶太郎並ニ一般同國ニ渡航セムトスル者ニ旅券下付相成差支無之又一般同國渡航者ニ關シテハ北米合衆國ニ對スル標準ヲ以テ其進律スヘキ義ニハ無之候ヘ共一應身元ヲ御調査ノ上旅券下付方ニ關シ當省ヘ御協議相成候樣致度此段回答旁々申進候也

●亞爾然丁國行移民携帶スル證書ニハ寫眞ノ貼付ヲ要スル件

大正八年四月二十一日
規保調第一三號警察部長

警察署（警察分署）

本年二月十二日付規保調第六號ヲ以テ亞爾然丁國行移民ハ其ノ居住地警察署長ノ證明書ヲ携帶セシムヘキ旨訓示致置タル處該證明書ニハ本人ノ寫眞ヲ貼付スルヲ要スルニ付證明書適當ノ箇所ニ寫眞一葉（但シ旅券ニ貼付スルモノト同樣ノモノ）ヲ貼付セシメ之ニ署長印ヲ以テ契印ヲ施シ願書ト共ニ進達スヘシ

●亞爾然丁國渡航者ハ一般ニ證明書ノ携帶ヲ要スル件

大正八年七月二十八日
規保調第二六號警察部長

警察署（警察分署）

亞爾然丁國行移民カ證明書ノ携帶ヲ要スル件ニ付テハ本年二月十二日規保調第六號及同四月二十一日規保調第一二號ヲ以テ訓示シ置キタル處今後同國渡航者ハ一般ニ該證明書ノ携帶ヲ必要トスルコトトナリタルニ付非移民ノ願書ニモ移民ト同樣寫眞ヲ貼付シタル警察署長ノ證明書ヲ添付セシムヘシ

●亞爾然丁國渡航者ノ携帶スル證明書ニ關スル件

大正一三年警保調第一九號

大正九年二月十六日
規保調第四號警察部長

警察署（警察分署）

本件ニ關シテハ昨年十月二十五日付規保調第三九號ヲ以テ訓示シ置キタル處今回左記甲、乙、丙號ノ各證明書ヲ携帶スルヲ要スルコト、ナリタルニ付今後同國渡航願書ニハ移民、非移民ノ區別ナク甲、乙號證明書（丙號ハ當廳ニ於テ證明スヘキニ付其ノ願書）ヲ添付セシムヘシ

記

證明書（甲號）

原籍（或ハ現住所）
大日本帝國何府縣何郡何市町村字何番地
何　某　生年月日

右者本證明書交付ノ日付前五年間禮刑ニ相當スル一般犯罪ニ依リ處刑セラレタルコト無ク又社會ノ秩序紊亂ノ罪ニ依リ訴追セラレタルコト無キヲ證明ス

年　月　日

大日本帝國何府縣警察署長　何　某

（乙號）

證明書

原籍　大日本帝國何府縣何郡何市町村大字何番地
何樂　何　某　何年何月何日生

右者精神ニ異狀ヲ呈シ又ハ乞食ヲナシタルコト無キ者ナルコトヲ證明ス

大正何年何月何日

大日本帝國何府縣何警察署長（又ハ何市町村長）何某印

（丙號）

證明書

原籍　大日本帝國何府縣何郡何市町村大字何番地
何樂　何　某　何年何月何日生

右者從來何樂ニ從事シ居リタル者ニシテ十分ノ生計能力ヲ有スル者ナルコトヲ證明ス

大正何年何月何日

本人カ住所ヲ有スル土地ノ官廳印

●亞爾然丁國渡航者ハ鑑識證ノ携帶ヲ要スル件

大正一〇年八月十七日
規保調第三一號警察部長

客年二月十六日付規保調第三九號ヲ以テ亞爾然丁國ヘ渡航者ハ移民、非移民ノ區別ナク海外旅券ノ外ニ甲、乙、丙三樣ノ證明書ヲ携帶スヘキ旨指示方訓示致置キタル處本年八月二日大統領令ヲ以テ同國ニ渡航スル者ハ該證明書ノ外ニ尙同國領事カ渡航者ノ提示書類ヲ檢閲シ之ニ對シテ發給スル鑑識證ノ携帶ヲ要スルコト、ナリ而シテ外國人カ亞國港ニ到着セル際一々該當鑑識證ヲ移民官ニ納付スヘキ旨並ニ本令ハ發布ノ日ヨリ九十日後ニ於テ效力ヲ生スヘキ旨命令ヲ發シタル趣其筋ヨリ通牒アリタルニ付自今同國渡航者ニ對シテハ旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際ニ於テ無漏此旨指示セラルヘシ

●亞爾然丁國及伯剌西爾國渡航移民ノ取締方ニ關スル件

大正九年四月一日
規保調第一〇號警察部長

警察署（警察分署）

近來亞爾然丁國及伯剌西爾國ヘ渡航スル移民ニシテ故ラニ太平洋航路船ニ便乘シ米國又ハ墨西哥國等ヘ潛入スル者アリ之カ取締ノ爲メ特別ノ場合ノ外印度洋及南阿經由ノ直通航路船ニ依ラサルモノハ渡航ヲ許可セサルコトヽナリタルニ付キ向後同國渡航移民ノ願書ニハ移民取扱人ノ取扱ニ依ルモノヲ除キ乘船地名ノ下ニ其航路（南阿經由）ヲ記載セシメ若シ特ニ太平洋航路船ニ依ルノ事情アルモノニ在リテハ其理由ヲ願書ニ記載セシメ且ツ其ノ事實ヲ詳細調査副申スヘシ

●ボリヴィア國渡航者ノ旅券査證ニ關スル件

大正九年四月二十九日
規保調第一五號警察部長

警察署（警察分署）

今般南米ボリヴィア國ニ於テハ不逞外國人ノ入國ヲ防止スル爲外國人ノ入國ヲ一層嚴重ニ取締ル事トナリ之カ爲同國ニ赴カントスル者ハ旅券ニ其ノ出發地ニ駐在スル同國官憲ノ査證アルモノヲ携帶シ更ニ上陸地ニ在ル同國

領事ノ査證ヲ必要トスルコトヽナリタルニ付同國渡航者ニ對シテハ旅券或ハ渡航許可通知ノ際無漏此旨指示セラルヘシ

●伯國サンパウロ州行農業移民（家族）募集ニ關スル注意方ノ件

大正九年五月二十一日
規保調第一八號警察部長

警察署（警察分署）

伯國移民組合取扱伯國サンパウロ州行農業家族移民ノ募集ニ付特ニ注意スヘキ點ハ從來屢調示シタル處ナルモ近年我國內ノ勞働易騰ノ爲メ前記移民ノ應募者稀キニ依リ自然純農者ナラサル者ヲ募集渡航セシムルモノ近來稀ニ甚シ然ルニ勞働能力ナキ伯國移民ノ渡航ハ悲慘ナル狀態ニ陷ル實例モ有之殖キテハ一般移民ノ發展ヲ阻害スルコト甚シキ趣キヲ以テ特ニ注意方其筋ヨリ通牒アリタルニ付今後同國家族移民ノ渡航ニ付テハ現ニ勞働ニ從事シ且ツ農業ニ充分ノ經驗ヲ有スルモノヽ外ハ一切願書ヲ受理セサル樣注意セラルヘシ

●伯國サンパウロ州行無補助夫婦契約移民取扱ノ件

大正十年六月八日
規保調第二一號警察部長

各年六月九日付規保調第二二號ヲ以テ調示シタル伯國行夫婦自由移民ハ其ノ成績不良ナル爲今後ハ之ヲ無補助（伯國政府ヨリ渡航費ヲ補助セサルモノ）契約移民トシテ海外興業株式會社ニ於テ取扱フコトトナリタルニ付該移民ノ渡航出願ニ對シテハ一般渡航出願者ノ場合ニ準シ別紙ノ通リ調査ヲ遂ケ其ノ結果ヲ報告セラルヘシ

記

一出願當時ニ婚期ヲ經シ時日ヲ經過セサルモノニアリテハ渡航後能力勞働ニ從事スル見込アリヤ否

二大正三年一月二十七日付保發第一〇八〇號調査事項

●伯國行移住民ノ種痘ニ關スル件

大正九年七月七日
規保調第二八號警察部長

警察署（警察分署）

伯剌西爾國行三等船客ハ移民取扱人ノ取扱ニ依ルト否トヲ問ハス凡テ各本人ノ種痘證明書ニ在本邦伯國領事ノ査證ヲ受ケタル上之ヲ伯國上陸ノ際同國衛生官廳ニ提出スルヲ要スルニ付該渡航者ニ對シテハ渡航許可通知ノ際無漏此旨示達セラルヘシ

●伯國渡航者ノ品行證明書其他ノ手續方ニ關スル件

大正十五年一月十二日
規保調第一號

伯剌西爾新移民入國取締令ノ實施以後同國行移民（二三等船客ハ總テ移民ト看做サル）ハ旅券査證ヲ受クル際經歷書、種痘證明書、身元證明書及品行證明書ヲ共ニ在本邦伯國領事ニ提出シテ其ノ認證ヲ受クルヲ要スル儀ニ有之處右ノ內經歷書、種痘及身元證明書ハ本人直接出發港兵庫縣廳ニ到リ其ノ指示ヲ受クル樣示指シ品行證明書ハ左記樣式ニ依リ其官ニ於テ作成シ願書ト共ニ進達セラルヘシ

記

證明書

本籍
氏名
生年月日

右者品行善良ナル者ナルコトヲ證明ス

何府縣何警察署長　何　某印

年　月　日

●移民、非移民ノ區別ニ關スル件

大正九年十月十三日
規保調第四三號警察部長

警察署長（警察分署長）

南米諸國及墨西哥國其他南洋方面等ノ渡航者ニシテ領事ノ發給シタル證明書ニ移民非移民ノ區別記載ナキ場合ニ於ケル取扱方ニ關シテハ大正七年四月二日付調示甲第一九號ヲ以テ調示ノ次第モ有之然ルニ該調示移民非移民區別標準第　號末段ニ「又ハ自己ノ資力ヲ以テ自ラ其業務ニ從事スルモノハ非移民トシ取扱フコト」トアルハ通商局長通牒ノ趣旨ニ悖ルヲ以テ自己ノ資力ニ依リ移民保護法施行細則第一條ニ定メラレタル勞務ニ從事スル者其他自身ニ携帶シテ實業又ハ雜貨類等ヲ行商スルモノハ勞働者ト看做シ移民トシテ取扱ハルヘシ

●巴奈馬運河地帶渡航者ノ携帶スル旅券及船員表ニ關スル件

大正十年六月二十三日
規保調第二三號警察部長

警察署長

本件ニ關シテハ本年五月三日付規保調第一六號ヲ以テ調示シ置キタル處在米大使ノ電報中誤謬アリタル趣ニテ左記ノ通訂正ノ旨其筋ヨリ通牒アリタルニ付同地渡航者ニ對シ周知方取計ハルヘシ

記

今後巴奈馬運河地帶ニ入國スル外國人ハ米國領事査證濟ノ旅券ヲ提出スルヲ要セス又同運河ヲ通過スル船舶ノ船長ハ米國領事ノ査證セシ船員表ヲ提出スルヲ要セス但同運河地帶ヨリ北米合衆國或ハ同所屬島嶼ニ向フ外國人ハ出發前同地帶ニ繼續シテ一箇年以上居住シタル者及在外米國官憲ノ査證セル旅券ヲ所持セル者ヲ除キ巴奈馬市或ハ「コロン」ニ於ケル米國領事ノ査證セル旅券ヲ携帶スルヲ要ス又右ノ場合船長ニアリテハ出發前同地帶ニ繼續シテ一箇年以上居住シタルモノ或ハ「コロン」ニ於ケル米國領事ノ査證シタル船員表ニ記名セラレタルモノナルコトヲ要ス

●巴奈馬渡航者ハ豫メ同國外務大臣ノ入國許可ヲ要スル件

大正十一年六月十三日
規保調第一七號警察部長

警察署長（警察分署長）

巴奈馬共和國大統領ハ本年一月七日付ヲ以テ當分ノ內同國內ニ於テ就勞ロノ契約ヲ有シ且ツ巴奈馬國外務省ノ許可ヲ受ケタル者ノ外無資力ニシテ專ニ勞働ノ爲メ渡來スル一般三等船客ノ入國ヲ禁止スルノ法令ヲ發布シ二月六日ヨリ實施セル由從テ父母兄弟姉妹家內使用人トシテ在留者ノ呼寄ニ係ル者ト雖前記ノ階級ニ屬スル者ハ豫メ同國外務大臣ノ許可ヲ要スルニ付自今該渡航願書ニハ同國外務大臣ノ入國許可證又ハ其ノ寫ヲ添付セシメ其ノ事實ヲ調査報告セラルヘシ

追テ既ニ渡航ノ許可ヲ受ケ未タ出發セサル者ニ對シテハ其ノ呼寄人等ヨリ同國外務大臣ノ入國許可證ノ送附ヲ受ケテ出發スル樣無漏指示セラルヘシ

第四節　濠洲

●濠洲「クキーンスランド」行移民ニ下付スル外國旅券ノ件

明治三十四年二月十二日
送第七四號外務大臣內訓

濠洲「クキーンスランド」州ヘ渡航移民ニ付テハ去明治三十二年六月二十三日付送第六三二號ヲ以テ調令ノ次第有之候處自今左ノ者ニ限リ渡航差許シ苦シカラス

一　自由勞働者ニシテ一旦「クキーンスランド」州ヘ渡航シタルコトアリテ該州稅關ヨリ交附シタル歸來免狀ヲ有スル者

二　在「タウンスヴキール」帝國領事ノ發給シタル在留證明書ヲ有スル者

右「クキーンスランド」州行勞働者ノ渡航ハ每船二十五名以內ニ限リ乘船差許スヘキ見込ニ付人員制限上便宜ノ爲メ同州行勞働者ニ下付スル旅券ニ限リ當省ニ於テ特ニ(「クキーンスランド」州行移民「第何號」)ナル印章ヲ押捺シ各地方廳ノ請求ニ應シ當省ノ見計セヲ以テ回付可致ニ付前顯第一號若ハ第二號ニ該當スル者ニシテ渡航許可願出タル時ハ其都度願人等ノ氏名、族籍、職業及年齡ヲ詳記シ之ニ相當スル旅券ヲ請求スヘシ

右內訓ス

(注意、濠洲「クキーンスランド」行移民數ハ從來二十五名ヲ限リ渡航セシメ居リシモ本年八月二十二日付送第六五號ヲ以テ每船五十名マテ渡航許可ノ調令由ナリ)

●濠洲行移民制限ニ關スルノ件

明治三十五年二月十二日
外務大臣訓令第六號

客年十二月以降濠洲聯邦ニ於テ移民制限法施行相成候ニ付從前同洲「クキンスランド」州行移民ノ取締制限及ヒ之ニ下附スヘキ旅券ニ關シ發シタル訓令、內訓、及通牒ハ總テ之ヲ廢止ス

但今後同洲行移民ハ右移民制限法施行前「クキンスランド」州政廳ヨリ既ニ入國ノ許可ヲ受ケタルモノヲ除ケノ外總テ同制限法ノ制裁ヲ受クヘキ儀ニ付同州渡航者ニ對シテ精々注意ヲ與フヘシ

右訓令ス

●濠洲ヘ渡航セントスル本邦商人學生及旅行者ノ件

明治三十七年九月二十七日
送第一三一二號外務大臣通牒

濠洲ニ渡航セントスル本邦商人學生及旅行者ニシテ帝國政府發給ノ旅券ヲ有シ左記各項ニ準依スルモノハ一時其入國ヲ許可セラルヘキ事ニ同洲聯邦政府ト協定シ本年十月一日ヨリ之ヲ實施スヘキ事ニ相成候間右樣御了承ノ上公示方可然御取計相成度候尤モ本邦渡航者ニシテ名ヲ商人學生若ハ旅行者ニ藉リ其實勞働ノ目的ヲ以テ渡航スルカ如キモノアル場合ニハ被ヨリ右協定ヲ改訂スルモ異存ナキ儀ニ相成居候間右等ノ如キ濫用無之樣充分御注意相成度依命此段申進候也

一、旅券面記載ノ氏名ハ必ス所持人ト同一ニシテ之ニ渡航ノ目的及滯在スヘキ大略ノ期間ヲ特ニ記載スヘキ事

一、旅券ニハ出發港ニ於ケル英國領事若ハ其他英國官吏ノ裏書ヲ受クヘキ事

一、若十二ヶ月以上滯在セント欲スルトキハ爾來ノ期間ニ對シ其許可ヲ出願スヘキ事

明治三十七年九月二十七日
送第一四四號外務次官ヨリ內務次官ニ通知

濠洲ヘ渡航セントスル本邦商人學生及旅行者ノ件ニ關シ今般別紙寫ノ通リ各地方長官ヘ及通牒候間委細別紙ニテ御了承ノ上右ノ趣臺灣在住內地人ヘ公示相成候樣同總督府ヘ通牒方可然御取計相成度此段申進候也

(別紙寫ハ前掲通牒)

●濠洲渡航者ニ下付スル旅券面記入方其他ニ關スル件

明治三十七年十月十日
送第一四〇三號外務次官通牒

濠洲ヘ渡航セントスル本邦商人學生及旅行者ニ對シ一時其入國ヲ許可セラルヘキ事ニ同洲聯邦政府ト協定ヲ了シタル旨客月二十七日付送第一三一二號ヲ以テ申進置候處右ニ關シテハ尙ホ左記ノ通リ御取計相成度依命此段重テ申進候也

一、旅券面ニハ邦文並ニ英文ヲ以テ渡航ノ目的及大略ノ期間ヲ記載スル事但其期間ハ十二ヶ月以下トナス事

一、若シ十二ヶ月以上滯在セント欲スルトキハ渡航後期間滿了前濠洲官憲ニ對シ其許可ヲ出願スヘキ旨渡航者ニ指示スル事

一、渡航者携帶ノ旅券ハ最初ノ到著港ニ於テ檢査セラルヘキモノナル旨並ニ渡航者歸國ノ節ハ出發港ニ於ケル稅關吏ニ其趣ヲ告知スヘキ旨渡航者ニ指示スル事

(同日送第一五二號ヲ以テ右寫臺灣總督ヘ送付)

●濠洲再渡航者取扱方ニ關スル件

明治三十八年三月十七日
往官第一三〇號神奈川縣知事照會

英領濠洲ヘ渡航セント欲スル本邦商人學生及旅行者ニ對シ入國許可ノ件ニ付客年九月二十七日及同十月十日付送第一三一二號並ニ送第一四〇三號ヲ以テ御通牒相成候處新渡航者ニシテ同洲移民制限法第三條イ號ノ豪洲語ヲ解シ得ル者又ハ從來同洲ニ居住シ一時歸國ノ上再渡航セントスル者ニシテ同條カ號並ニ同法施行細則第六條ニ該當シ住所證明書ヲ有スル者ニ對シテハ前記御通牒ニ準依セシテ取扱可然哉疑義相生シ候ニ付御省議及御問合候條何分ノ御回報相成度此段及御照會候也

外務次官回答(明治三十八年四月五日送第三八八號)

濠洲渡航者取扱方ノ件ニ關シ去月十七日付往發第一三〇號ヲ以テ御照會ノ趣ハ御申越ノ通御取扱相成可然ト存候條右樣御了承相成度此段及御回答候也

●濠洲渡航者家族同行ニ關スル件

明治三十八年六月五日
公第七五號在新嘉坡領事ヨリ外務大臣ニ稟申

濠洲ヘ渡航セントスル本邦商人學生及旅行者ニ對シ限時入國ヲ許可スルノ協定成立ノ趣ニ御申越相成了承致候然ル處本邦ヨリ當地ヲ經テ西濠洲地方ヘ赴クモノニシテ家族ヲ携帶スルモノニ對シテハ當地汽船會社ハ其家族ニ對シ乘船切符ハ發賣ヲ拒絕シ强テ之ヲ得ンニハ相當ノ保證金提供ヲ求メ居其理由トスル所ハ該協定ノ主意ハ商人學生等視察研究等ノ爲一時ノ用向ヲ以テ旅行スル者ノ便宜ヲ計ルニアリテ濠洲ニ居住セシムル爲ニ非ルヲ

以テ右協定文中家族モ亦入國ヲ許可スルノ明文アナキ以上ハ之ヲ許可セサルモノナリト解釋セサルヲ得スト云フニ有之候如斯解釋モ亦一理アルカ如ク被考候ニ付實際上旅行者ノ携帶セル家族ニ對シ該協定ノ適用ハ如何相成居候歟若シ其效力ヲ及ホサヽルモノナルニ於テハ今後本邦地方官廳ニ於テ此等家族ニ對シ旅券ヲ發給セサル樣御訓達相成度將タ又同等ノ效力アルモノニ候ハヽ濠洲ニ於ケル相當ノ筋ヨリ當地關係汽船會社ヘ其旨通知スルノ手段ヲ採ラシメ前記ノ如キ解釋ヲ拋棄セシムルヲ要スト被考候右執レ共何分ノ御回答相煩度此段申進候也敬具

シドニー總領事代理照會（明治三十八年九月七日）

以書柬致啓上候陣者日本國商人學生及遊歷者ノ濠洲聯邦ニ自由入國ノ件ニ付昨年日本國ト同聯邦トノ間ニ成リタル協定ニ關シ我政府ハ右日本人ハ其妻及家族ヲ同伴スルコトヲ得ルモノト相解シ居候處在新嘉坡帝國領事ノ報道ニ接レハ同港ノ同漕會社ニ於テ前記協定ニ由リ濠洲ヘ來遊スルコトヲ得ル日本人ノ家族ニ對シ歸航船賃ヲ提供スルニアラサレハ乘船切符ノ發賣ヲ拒絶シタルコト往々有之趣仍テ右ノ特權ハ閣下ニ於テ前記商人學生及旅客ニ同伴スル家族ニ及フヘキモノト認メラレ候ヤ否ヤ確メ果シテ認メラルヽニ於テハ其ノ旨在新嘉坡當該官憲及同漕會社ニ御通知方御依頼可致樣我政府ヨリ被命候間此段得貴意度候敬具

濠洲聯邦總理大臣同答

以書翰致啓上候陣者旅券ヲ所持スル日本人ノ妻及家族ニ對スル濠洲聯邦入國許可ノ義ニ付九月七日付貴翰ヲ以テ御申越ノ趣了承致候斯ル人々ハ若シ其ノ夫タリ父タル者ノ旅券中ニ記入相成居候ハヽ制限ナク入國ヲ差許サルヘク候又當政府ヨリ右ノ趣在新嘉坡同漕會社ニ通知方御依頼ノ義ニ至テハ貴意ニ應シ難ク候ヘ共本件ニ關スル貴我往復文ノ謄本ハ該會社ニ御回附相成候テモ聊カ異議無之此段御回答迄ニ申進候敬具

〔諸問答〕

（右照會問答共英語原文ヲ譯ス）

●濠洲ニ渡航セル本邦人ニシテ一年以上同地ニ滞在セント欲スル者ニ對スル注意ノ件

明治三十九年九月二十五日
送第一〇一二號外務次官通牒

本邦商人學生及旅行者等ノ濠洲入國ニ對シ同洲移民制限法除外條設定ニ關スル本邦濠洲聯邦間政府間ノ協商ニ基キ一旦同聯邦洲ニ渡航ノ後十二ヶ月已上滞在セント欲スモノハ同期間滿了前濠洲官憲ニ對シ其許可ヲ出願スヘキ旨渡航者ヘ指示方去ル三十七生十月十日付送第一四〇三號ヲ以テ御通牒ニ及ヒ置キ候處此程同聯邦洲首相ヨリ「シドニー」駐在本邦領事宛該協商ノ下ニ我本邦人ニシテ同聯邦ニ入國シ十二ヶ月以上滞在ノモノ鮮カラスト雖同政府ヨリ注意ヲ受クルニ先タチ實際延期許可ヲ願出ルモノ皆無ナルヲ以テ見ルトキハ同洲ニ入國スルニハ單ニ旅券携帶ノ必要アルノミニシテ一旦入國ノ上ハ更ニ何等ノ條件ナキモノト心得居ルモノヽ如キヲ以テ該協商ノ規スル所ヲ斟ニシ向後該條件ヲ遵守シ之ニ違背スルモノナカラシムル樣相當處辨有之度旨照會ノ次第有之候ニ就テハ自今同聯邦洲行旅券交付方出願ノモノ有之候節ハ既記通牒ノ趣旨篤ト出願者ニ御諭示ノ上右手續ヲ怠ラサル樣併セテ渡航地著次第其趣直チニ本邦領事館ニ可屆出旨嚴重御示達相成候樣致度此段申進候也

●在濠日本人滞在延期申請ニ關スル件

明治三十九年九月二十五日
送第五二號外務大臣ヨリ在シドニー總領事ニ示達

在留日本人滞在延期申請ニ對スル聯邦政府ノ處置ニ關シ客月七日付公信第八一號並ニ同月十四日付公信第八三號ヲ以テ御稟申ノ趣了承其中旅券發給ノ際地方長官ニ於テ各渡航者ニ加フヘキ注意ノ件ニ關シテハ今般各地方長官宛別紙寫ノ通リ通牒ヲ發シ洽ネク訓示致置候條御心得迄ニ右及御送付候

又前記貴信付屬書中ノ一ナル八月十日付首相ヨリ貴官宛回答第二項ニ記載ノ事項即チ聯邦内ニ住所ヲ有セル日本人ニシテ一時聯邦ヲ去ルニ當リ出發港稅關長ノ住所證明ヲ享クルコトナク一旦歸國ノ上再ヒ同聯邦ニ渡航スル際シ本邦政府發給ニ係ル旅券ノミヲ提供シ入國ヲ許容セラレタルモノハ單ニ旅行者トシテ取扱ハレ從ツテ同國ニ於ケル其後ノ滞在ハ一時限定的性質ヲ有スルモノナリト雖モ濠洲官衙發給ノ住所證明ヲ提供シ入國ヲ許サレタル者ハ聯邦國住民トシテ永ク無定限ニ同邦内ニ居住スルノ權利ヲ有スル趣ノ件ニ關シテハ貴地方在留邦人中之ヲ知得セサルモノ可有之ト被存候條可成無洩貴館管内邦民ニ周知セシムル樣適宜相當ノ方法ヲ被講度尚右ノ趣ハ「タウンスヴキール」駐在帝國領事ヘモ訓達致置候條左樣御了承相成度此段申進候也

（別紙省略）

●在濠日本人滞在延期申請竝ニ在留日本人中一旦同聯邦ヲ離レ再入國ヲ欲スル者ニ對スル注意ノ件

明治三十九年九月二十五日
送第四五號外務大臣ヨリ在タウンスヴキール領事ニ示達

在濠日本人滞在延期申請ニ對スル聯邦政府ノ處置ニ關シ在シドニー帝國總領事代理ヨリ稟申ノ次第有之今般各地方長官宛別紙ノ通リ通牒致置候條御心得迄ニ右寫干枝添付及御送付候

又聯邦首相ヨリ前記總領事代理宛來東中濠洲在留本邦人ニシテ一旦同聯邦ヲ離レ再ヒ入國ヲ出願スルニ際シ濠洲官憲發給ノ居住證明書ヲ有スルモノト單ニ本邦政府ノ旅券ヲ所有スルモノトノ間ニ於ケル入國後ノ權利ノ範圍ニ關シ同政府ノ所見ヲ明カニセル一節アリ其意ニ據ルトキハ濠洲官衙ノ發給セル居住民タル證明書ヲ提出シ入國ヲ許容セラレタルモノハ聯邦國住民トシテ永ク無定限ニ同邦内ニ居住スルノ權利ヲ敢得スト雖只本邦政府ノ旅券ニヨリ入國ノ許可ヲ得タルモノハ旅行者トシテ一定ノ年月ヲ限リ其期間内滞留ヲ許サレタルモノニシテ兩者間入國後ノ權利ニ至大ノ相違有之候ニ付右ノ趣可成洩レナク在留邦民ニ周知セシムル樣適宜相當ノ方法ヲ講セラレ度此段申進候也

追テ濠洲政府ヨリ岩崎總領事代理宛書簡寫愛ニ添付致置候條委曲是ニテ御承知相成度候也

（別紙竝ニ書簡寫省略）

●濠洲行旅券面ニ其ノ目的竝ニ滞在期間記入方ノ件

明治三十八年十一月二十八日
送第一六八一號通商局長通牒

英領濠洲行本邦商人學生及旅行者ノ議ニ關シ本年十月十日付送第一四〇三號ヲ以テ外務次官ヨリ通牒相成候次第モ有之候ニ就テハ其第一項ノ趣旨ハ去ル三十三年六月十六日付送第五二五號外務大臣訓令外國旅券規則取扱手

讀第二條第二項ハ但書ヲ追加セラレタルモノト同樣ニシテ旅券面ニハ邦文竝ニ英文ヲ以テ渡航ノ目的及ヒ大略ノ在留期限記入ヲ要スル義ト御承知相成度爲念此段及通牒候也

●商人又ハ學生等ニ名ヲ藉リ濠洲渡航ヲ企ツル者ニ關スル注意方

明治三十八年十二月一日
送第一五五一號通商局長通牒

濠洲政府ニ於テハ曩ニ商人旅行者竝ニ學生等ニ對シテハ移民制限法ノ除外例トシテ特別規定ノ下ニ入國ヲ許可致居候處近來之ヲ濫用シ名ヲ商人ニ假リ上陸シ職業ヲ營ミ居候モノ有之今般之ニ過去ヲ命シ不日國外ニ放逐スヘク將來ハ右樣身元不確實ナル者ノ特別規定ノ下ニ渡航セサル樣致度旨濠洲聯邦政府主相ヨリ在シドニー帝國總領事館ヘ照會有之候間以來同洲渡航者ニ對シテハ嚴重ニ其身元ヲ調査シ旅券御下附相成候樣致度依命此段申進候也

●濠洲行入國者取締ニ關スル件

明治四十年八月二十六日
送第一一三四號通商局長心得通牒

時年以降名ヲ學術若クハ牧畜研究ニ藉リ濠洲行旅券ノ下付ヲ受ケ其實渡航後直ニホテル若クハ個人廚夫又ハ給仕トシテ住込ム者不鮮同地稅關ニテハ寓ケ其實情ヲ知悉スルヲ以テ過般右ノ如キ勞働者中滯濠期間終了セシニヨリ其延期ヲ申請セル者アリシモ直ニ却下セラレ近ク歸國セサル可カラサルノ運命ニ遭遇シ目下旅費ノ調辨ニ一方ナラス困難致居リ候樣樣ニ有之尙ホ其筋ニモ不遠期間完了スル者有之候ニ付是等モ右ト同一ノ窮境ニ陷ルヘク其際ニハ在シドニー帝國總領事館ニ於テ可成許可セラルヘキ方法ヲ案出シ及フ限リ盡力ヲ試ムヘシト雖モ抑モ右ハ本邦學生商人旅行者等ニ對シ入國試驗免除ニ關スル濠洲聯邦政府ト我帝國政府トノ間ニ於ケル約束ノ趣旨ニ背キ帝國政府ノ威信ニ關スルハ勿論眞正ノ學生又商人ニ渋カラサル迷惑ヲ及ホシ且ツ同館ニ於テ右樣身分詐稱者ノ爲メニ滯在延期ヲ申請シ拒絶セラルヽノ惡例頻出スルトキハ萬一眞正ノ學生又ハ商人ニシテ拒絶セラルヽコトアリタル場合ニ方リ强硬ノ抗議ヲ申込ムニ由ナキコトヽ相成ルヘク尙又本人等ノ身上ヨリ致察スルモ如何ニ貯蓄ニ熱心ナルモ一年內ニ往復旅費ヲ蓄積スルハ最モ至難トスル所ノ業ニシテ多數在留同胞勞働者中ニアリテモ實際恁ル貯蓄ヲ有スルモノ甚稀ナルヲ以テ滯在延期拒絶ノ場合ニハ前文記載セル者ト同シク非常ノ困厄ヲ感スルニ至ル可キニヨリ自今旅券發給ノ際渡航者ニ關シテハ特ニ其身分目的等充分探査ヲ遂ケ兩ル後下付ノ手續キ相成候樣當該官廳ニ訓達相成度旨在シドニー帝國總領事代理ヨリ今般上申ノ次第有之候條去ル三十七年九月二十七日付送第一三一二號通牒ノ趣旨ニ依リ可成旅券濫用者無之樣充分御取締方御取計相成度此段依命申進候也

●學術研究等ニ名ヲ藉リ渡航スル者ニ關スル件

明治四十年八月二十二日
送第一一三四號通商局長通牒

昨年以降名ヲ學術若クハ牧畜研究ニ藉リ濠洲行旅券ノ下付ヲ受ケ其實渡航後直ニ「ホテル」若ハ個人廚夫又ハ給仕トシテ住込ム者不鮮同地稅關ニテハ寓ケ其實情ヲ知悉スルヲ以テ過般右ノ如キ勞働者中滯濠期間終了セシニヨリ其延期ヲ申請セル者アリシモ直ニ却下セラレ近ク歸國セサルヘカラサルノ運命ニ遭遇シ目下旅費ノ調辨ニ一方ナラス困難致居リ候樣樣ニ有之尙ホ其他ニモ不遠期間完了スル者有之候ニ付是等モ右ト同一ノ窮境ニ陷ルヘク其際ニハ在シドニー帝國領事館ニ於テ可成許可セラルヘキ方法ヲ案出シ及フ限リ盡力ヲ試ムヘシト雖モ抑モ右ハ本邦學生商人旅行者等ニ對シ入國試驗免除ニ關スル濠洲聯邦政府ト我帝國政府トノ間ニ於ケル約束ノ主旨ニ背キ帝國政府ノ威信ニ關スルハ勿論眞正ノ商人又ハ學生ニ渋カラサル迷惑ヲ及ホシ且ツ同館ニ於テ右樣身分詐稱者ノ爲メニ滯在延期ヲ申請シ拒絶セラルヽノ惡例頻出スルトキハ萬一眞正ノ學生又ハ商人ニシテ拒絶セラルヽコトアリタル場合ニ方リ强硬ノ抗議ヲ申込ムニ由ナキコトヽ相成ルヘク尙又本人等ノ身上ヨリ致察スルモ如何ニ貯蓄ニ熱心ナルモ一年內ニ往復旅費ヲ蓄積スルハ最モ至難トスル所ノ業ニシテ多數在留同胞勞働者中ニアリテモ實際恁ル貯蓄ヲ有スルモノ甚稀ナルヲ以テ滯在延期拒絶ノ場合ニハ前文記載セル者ト同シク非常ノ困厄ヲ感スルニ至ル可キニヨリ自今旅券發給ノ際渡航者ニ關シテハ特ニ其身分目的等充分探査ヲ遂ケ兩ル後下付ノ手續キ相成候樣當該官廳ニ訓達相成度旨在シドニー帝國總領事代理ヨリ今般上申ノ次第有之候條去ル三十七年九月二十七日付送第一三一二號通牒ノ趣旨ニ依リ可成旅券濫用者無之樣充分御取締方御取計相成度此段依命申進候也

際ニハ在シドニー帝國領事館ニ於テ可成許可セラルヘキ方法ヲ案出シ及フ限リ盡力ヲ試ムヘシト雖モ抑モ右ハ本邦學生商人旅行者等ニ入國試驗免除ニ關スル濠洲聯邦政府ト我帝國政府トノ間ニ於ケル約束ノ趣旨ニ背キ帝國政府ノ威信ニ關スルハ勿論眞正ノ學生又商人ニ渋カラサル迷惑ヲ及ホシ且ツ同館ニ於テ右樣身分詐稱者ノ爲メニ滯在延期ヲ申請シ拒絶セラルヽノ惡例頻出スルトキハ萬一眞正ノ學生又商人ニシテ拒絶セラルヽコトアリタル場合ニ方リ强硬ノ抗議ヲ申込ムニ由ナキコトヽ相成ルヘク尙又本人等ノ身上ヨリ致察スルモ如何ニ貯蓄ニ熱心ナルモ一年內ニ往復旅費ヲ蓄積スルハ最モ至難トスル所ノ業ニシテ多數在留同胞勞働者中ニアリテモ實際恁ル貯蓄ヲ有スルモノ甚稀ナルヲ以テ滯在延期拒絶ノ場合ニハ前文記載セル者ト同シク非常ノ困厄ヲ感スルニ至ル可キニヨリ自今旅券發給ノ際渡航者ニ關シテハ特ニ其身分目的等充分探査ヲ遂ケ兩ル後下付ノ手續キ相成候樣當該官廳ニ訓達相成度旨在シドニー帝國總領事代理ヨリ今般上申ノ次第有之候條去ル三十七年九月二十七日付送第一三一二號及同十月十日付送第一四〇三號ヲ以テ申進候通リ同年八月中一定ノ期間ヲ限リ同洲ニ渡航セントスル本邦商人學生及旅行者ニ對シテハ一時入國ヲ許可セラルヘキ者ノ妻子モ其同行ノ夫又ハ父母ノ携帶スル旅券ニ併記セラルヽ場合ニハ亦入國ヲ許サルヽコトニ變定致候得共其反對ニ前記一時的渡航者及ヒ右制限法第三條「チ」項ニ揭ケタル政府ノ命ヲ帶ヒテ派遣セラルヽ者ニ非サル一般渡航者ノ呼寄又ハ再渡航ノ節携帶スル妻子ハ入國ヲ許サレサルコトヽ相成候趣ニ有之候然ルニ近來同洲在留ノ本邦人ニシテ自分一個同國政府ノ居住證明書ヲ請ヒ受ケタルカ爲メニ一旦歸國ノ上ニ新ニ其妻ヲモ伴ヒ再ヒ同洲ニ渡航シ結局同制限法違反ノ故ヲ以テ其妻丈ケハ入國拒絶ニ遭フ者往々有之候趣在「シドニー」帝國總領事ヨリ報告有之候條前記ノ趣旨篤ト御了悉之上右等除外例以外一般渡航者妻子渡航ノ件ニ付テハ假令其夫タル者カ既ニ濠洲ニ在住シタル同國政府ノ居住證明書ヲ有スルトモ旅券下付相成ラサルコトニ致度此段申進候也

●濠洲ニ渡航スル者ノ妻子ニ對シ旅券發給方ニ關シ注意ノ件

明治四十二年四月九日
送第三九九號外務次官

去ル明治三十四年制定ノ濠洲移民制限法（曩ニ配付セシ各國移民法第三十三頁揭載）第二條（ヲ）項ニ於テ禁止移住民ニ非サル夫ニ隨伴スル妻又ハ禁止移住民ニ非ラサル父若ハ母ニ隨伴スル小兒ニシテ現ニ十八歲未滿ノ者ニ對シテハ制限法ヲ適用セサル規定ヲ設ケタリシカ其後三十六年三月二十七日付ヲ以テ濠洲聯邦總督ハ右除外例停止ヲ布告（同年四月三十日官報揭載）シタル結果禁止移民以外ノ者ト雖トモ妻子ヲ携帶スルコトヲ得サルコトヽ相成越テ同三十七年九月二十七日付送第一三一二號及同十月十日付送第一四〇三號ヲ以テ申進候通リ同年八月中一定ノ期間ヲ限リ同洲ニ渡航セントスル本邦商人學生及旅行者ニ對シテハ一時入國ヲ許可セラルヘキ者ノ妻子モ其同行ノ夫又ハ父母ノ携帶スル旅券ニ併記セラルヽ場合ニハ亦入國ヲ許サルヽコトニ變定致候得共其反對ニ前記一時的渡航者及ヒ右制限法第三條「チ」項ニ揭ケタル政府ノ命ヲ帶ヒテ派遣セラルヽ者ニ非サル一般渡航者ノ呼寄又ハ再渡航ノ節携帶スル妻子ハ入國ヲ許サレサルコトヽ相成候趣ニ有之候然ルニ近來同洲在留ノ本邦人ニシテ自分一個同國政府ノ居住證明書ヲ請ヒ受ケタルカ爲メニ一旦歸國ノ上ニ新ニ其妻ヲモ伴ヒ再ヒ同洲ニ渡航シ結局同制限法違反ノ故ヲ以テ其妻丈ケハ入國拒絶ニ遭フ者往々有之候趣在「シドニー」帝國總領事ヨリ報告有之候條前記ノ趣旨篤ト御了悉之上右等除外例以外一般渡航者妻子渡航ノ件ニ付テハ假令其夫タル者カ既ニ濠洲ニ在住シタル同國政府ノ居住證明書ヲ有スルトモ旅券下付相成ラサルコトニ致度此段申進候也

●「ニユージーランド」行旅券ニ關スル件

明治四十四年一月二十七日
送第五九二號通商局長

從來「ニユージーランド」ニ赴カントスル者ニシテ濠洲行ノ旅券ヲ携帶スル者往々有之候處「ニユージーランド」ハ濠洲聯邦內ニ包括サレ居ラサルカ爲メ目的地ニ上陸スルコト能ハサル場合相生シ候趣ニ付今後ハ單ニ「ニユージーランド」ノミニ渡航セムトスル者ニハ旅券面ニ「ニユージーランド」又濠洲及「ニユージーランド」兩地ニ赴カムトスル者ニハ右兩地名ヲ明白ニ記載スルコトニ御取扱相成度尙ホ去ル三十七年十月十日附送第一四〇三號ヲ以テ當省次官ヨリ通牒セラレタル商人學生及旅行者ニ限リ十二ケ月以內ノ

期間ヲ附シタル特別旅券發給ノ義モ國ヲ濠洲行ノ者ニ限ル義ニシテ「ニユージーランド」ニ赴カムトスル此等本邦人ハ同地移住制限法ノ規定（曾テ御配布ニ及ヒタル各國移民法規所載）ヲ適用セラレ所定ノ資格檢定試驗ヲ受クサル可カラサル筈ニ有之候此段爲念申進候也

●眞珠貝採收ニ從事スル在濠日本勞働者雇止メニ關スル件

明治四十四年四月十八日
送第三一七八號通商局長通牒

濠洲ニ於テ眞珠貝採收ニ使用セラルヽ本邦勞働者ハ多クハ香港又ハ新嘉坡ヨリ在濠眞珠貝採收業者（白人）ノ雇傭ニ應シテ同地ニ渡航シ斯業ニ從事セル者ナル處該雇傭契約ハ來ル四十五年限リ繼續スルコトヲ許サス只採貝船一艘ニ付有色人五名迄ハ其船員トシテ雇用スルコトヲ許可スヘキ旨先般濠洲聯邦政府ヨリ各當業者ニ通達シタルニヨリ目下本件ノ成行ニ就テハ調査中ニ有之然ルニ其但書ノ如キモ全ク空文ニ屬シ本邦人ノ雇傭ハ不用ニ歸スヘキ虞有之候ニヨリ向後關地方ヘ渡航ノ爲メ新契約ヲナスコトヲ得サルハ勿論既成ノ契約ニシテ同年以後ニ契約期限繼續スルモノアルトモ其效力消滅スヘキ趣ニ有之候ニ依リ或ハ採貝船一艘ニ付有色人五名迄ハ其船員トシテ雇用スルコトヲ許可スヘシト云フ例外ヲ利用シ四十五年以後ト雖トモ現在ノ通リ業務ニ從事シ得ラルヘシト誤解シ依然トシテ從來通リ雇傭契約期限ノ經過スル度毎ニ新採貝者ノ渡來ヲ慫慂スルモノアリテ其結果多數ノ無職者ヲ生スルニ至ルモ料リ難キニヨリ右ノ目的ヲ以テ同地ヘ渡航スル勞働者ニ對シテハ旅券及濠洲稅關ヨリ交付シタル歸來免狀ヲ有スル者ノ外ハ其渡航ヲ御差止メ相成度命ニ依リ此段及通牒候也

●濠洲行旅券ヲ下付スル際注意ヲ

明治四十四年七月十五日
送第五八九七號通商局長

濠洲ヘ渡航セントスル本邦商人學生及旅行者ニ對シ旅券下付ノ義ニ關シ明治三十七年九月二十七日付送第一三一二號及同年十月十日付送第一四〇三號ヲ以テ當省次官ヨリ通牒相成居候處這回在「シドニー」帝國總領事ヨリ別紙寫ノ通リ具申ノ次第有之候ニ付嗣地渡航者ニ對シ旅券御下付候際ハ本邦出發港ニ於ケル英國領事又ハ英國官吏ニ就キ旅券ノ裏書ヲ請フヘキ旨ヲ一々御指示相成且又渡航目的ヲ和歐兩文ニテ旅券面ニ明記スルコトモ特ニ御注意御執行相成度尚ホ濠洲ヘ渡航ノ序ヲ以テ「ニユーヂーランド」ニ赴ク者ニ下付スル旅券ニハ右兩地名ヲ記載スルヲ要スル趣ハ本年一月二十八日付送第五九二號ヲ以テ申進タル通リニ有之候ニ依リ右通牒ノ旨趣御勵行相成度此段申進候也

（別紙寫）

シドニー總領事ヨリ外務大臣ヘ依頼ノ件（明治四十四年五月二十六日）

濠洲ニ渡來スル本邦商人學生及漫遊者ノ携帶スル帝國政府發給ノ外國旅券ニハ特ニ渡航ノ目的ヲ明記シ並ニ出發港ニ於ケル英國領事又ハ英國官吏ノ裏書ヲ要スルハ當國移民法ノ除外例中必要條件ニ有之候處近時當國ニ來航スル商者ノ中ニハ其携帶スル旅券面ニ右目的記載洩又ハ英領事ノ裏書キナキモノアルカ爲メ當國稅關ニ於テハ其入國條件ニ恰當セサルノ故ヲ以テ上陸ヲ阻止シ又ハ本人身分ニ關スル當館ノ證言ヲ得ル迄來航者ヲ船內ニ引止メ置ク等渡來者ノ迷惑少カラサルモノ有之即チ左記二名中礦業巡査三ノ如キハ英領事ノ裏書ヲ缺キタル理由ヲ以テ特ニ當館ノ證言ニ由リ上陸並ニ三ケ月間滯在ノ許可ヲ得タルモ同人ハ綿商高島屋ノ出張員ニシテ少クトモ三四ケ年間當市ニ滯在ノ見込ナルカ故ニ如此短期ノ許可ハ其堪ユル所ニ非ラストナシ右旅券ヲ在橫濱同店ニ送置シ事情ヲ陳ヘテ同地英領事ノ裏書ヲ受ケ更ニ之ヲ當地稅關ニ提示シタルカ爲メ去ル四十三年以來今日迄滯在ヲ許可セラレ居候又田中知四郎ノ分モ亦英領事ノ裏書缺キ居リシモ右ハ一時ノ商業視察ニテ逗留長クモ二ケ月ヲ超過セサルヘキ豫定ナリシヲ以テ單ニ本人身分ニ關スル當館ノ證言ニテ上陸並ニ滯在ヲ許可セラレ候次第ニ有之候元來英領事ノ裏書ヲ要スルカ如キ必要ナル手續ノ存在ハ旅券出願者ノ豫知セサルヘキ所ナルヲ以テ之カ下付官廳ニ於テ右出願者ニ對シ一應注意ヲ促スヲ至當ト上存候猶又旅券面記載ノ事ノ如キモ邦文ニハ巨細ニ之ヲ認メアルモ當國稅關吏ハ裏面ノ譯文ノミニテ判斷スルカ故ニ翻譯記載洩其他不審ノ事項ニ就キ當港來航者ニ關シテハ館員ヲ出張セシメ或ハ本人ノ參館ヲ求ムル等諸種ノ便アルモ遠隔ナル地方ニ在リテハ渡來者カ上陸拒絕ヲ蒙リタルヨリシテ餘儀ナク他地ニ轉航又ハ歸國等ノ事アリタル後ニ至リテ初メテ是レカ報告ニ接スルカ如キ事情有之爲メニ來航者ノ迷惑不少候條右ノ手續勵行方左記二名旅券下付官廳ハ勿論此際一般ニ御通知相煩度此段及御依頼候敬具

追テ右通達ノ節濠洲ニ來航ノ序ヲ以テ「ニユーヂーランド」ニ赴ク者ノ旅券ニハ濠洲以外別ニ「ニユーヂーランド」ノ文字ヲ挿入スルノ要アルコトモ併テ御通達ノ手續ヲ煩度候

旅券番號第一四八〇一一號　廣島縣賀茂郡東野村貳百參番屋敷　戸主雄平長男　礒　愛　退　三　貳拾六年　四十二年九月十七日

旅券番號第一五二二〇三號　神奈川縣下付　大阪府三島郡吹田町三百九十七番屋敷　平民戸主助太郎養子　田　中　知　四　郎　四十四年三月八日

大阪府下付

●濠洲在留者ヨリ妻呼寄ニ關スル件

明治四十五年三月十二日
規甲第三號警察部長

參拾七年

警保局分局

濠洲ニ渡航シタル本邦商人學生及旅行者ニシテ同地ニ在リテハ其妻ヲ本邦ヨリ呼寄セントスルトキハ其夫タル者先歸國ノ上妻ト連名セル旅券ノ下付ヲ受ケ之ニ在本邦英國官吏ノ裏書ヲ請ヒ同伴渡航スルコト必要ニシテ妻單獨ノ場合ハ入國ヲ許可セラレサル趣ニ付渡航許可又ハ旅券下付出願ノ際ハ右ニ依リ取扱ハル可シ

大正二年一月二十八日
規甲第參號警察部長

警保局

英領濠洲ニ渡航セントスル本邦商人學生及旅行者ノ同伴スル妻子ハ其同行ノ夫又ハ父母ノ旅券ニ併記スル場合ニハ入國ヲ許サルヽモ濠洲在留者カ其妻子ヲ呼寄スルコトハ絕對ニ不可能ニ之有候處今般濠洲政府ト交渉ノ結果在濠本邦人ノ業態人格ノ如何ニ依リテハ濠洲政府ニ於テ其ノ妻子呼寄ヲ承認スルコトアルヘキ旨右「シドニー」帝國總領事ヨリ報告有之候趣ニ付テハ今後濠洲聯邦內ニ在住スル本邦人ノ呼寄ニ依リ其妻子ヨリ旅券下付ヲ出願シタルトキハ在濠洲帝國總領事若クハ濠洲官廳ノ發給セル妻子呼寄ノ旨ヲ記シタル證明書ノ執レカヲ提示シタル者ニ限リ願書受理進達スヘシ

●濠洲出入國者ニ對スル旅券規則改正ノ件

大正五年九月一日
訓示甲第二八號警察部長

濠洲聯邦政府ニ於テ今回旅券規則ヲ左記ノ通リ改正セラレタルニ付向後同國渡航者ニ對シテハ該規則ニヨリ取扱フヘシ

（警保局第一課）

記

一、入國本年九月一日以後十五歳以上ノ者ハ旅行免狀ヲ所持スルニ非サレハ入國スルコトヲ得ス

該旅行免狀ノ外國ヨリ來ル者ニ付テハ其地方ニ在ル英國大使又ハ領事ニ依リテ發給又ハ査證セラルヽコトヲ要シ又英領域ヨリ來ル者ニ付テハ其地方ニ於ケル當該官憲ニヨリテ發給又ハ裏書セラルヽコトヲ要ス

二、出國本年八月一日以後十五歳以上ノ者ハ旅行免狀ヲ所持スルニ非サレハ聯邦内ノ何レノ地ヨリモ聯邦以外ノ地ニ向ケ出ルコトヲ得ス

三、例外　イ　船舶乘組員　ロ　移民法ニ依ル書取試驗免除證書ヲ所持スル者等ハ右（一）（二）ノ規定ヲ適用セス

四、免除　國務大臣ハ其命令ニ依リ特ニ（一）（二）ノ適用ヲ免除スルコトヲ得

五、「旅行免除」並ニ所謂「旅行免除」トハ當該官憲ヨリ二ケ年以内ニ發給又ハ更新セラレタル旅行免除又ハ本人ノ國籍及人違ナキコトヲ證明スル文書ニシテ何レモ本人ノ寫眞ヲ貼付セルモノヲ謂フ

●濠洲出入國者ニ對スル改正旅券規則ヲ英領「ニュージランド」ニ適用ノ件

大正五年九月十四日
調示甲第三二號警察部長

（警保局）

本月一日付調示甲第二八號濠洲出入國者ニ對スル旅券規則改正ノ件ハ之ヲ英領「ニュージランド」ニモ適用スルコトヽ心得ヘシ

●旅券ニ旅行地名記入方ニツキ注意ヲ要スル件

大正五年九月十九日
通合送第五五二號通商局長通牒

近來濠洲地方渡航者ノ數增加致候處其内濠洲行旅券ヲ以テ「ニュージーランド」「ニューカレドニア」其他濠洲附近ニ散在セル諸島ヘモ渡航シ得ルモノト心得居ル者モ有之現ニ「ソロモン」島渡航者ニシテ群馬縣廳ヨリ濠洲行旅券ノ下付ヲ受ケ渡航上差支ヲ生シタル爲メ在シドニー帝國總領事ヨリ更ニ「ソロモン」島行旅券ノ發給ヲ受ケタル由同總領事ヨリ報告ノ次第有之候ニ付今後濠洲聯邦以外ノ諸島ヘ渡航セントスル者ノ旅券ニハ其島名ヲモ明記スルコトニ御取扱相成度此段及通牒候也

第五節　露西亞

●露國及其領地旅行者ニ旅券必要ノ件

明治四十年五月六日
送第六七六號外務次官

北米合衆國南米各邦及英領殖民地等以外ノ地ニ渡航スル者ノ旅券ヲ携帶スルト否トハ本人ノ隨意ナル旨客年十二月二十八日附送第一四七一號ヲ以テ大臣ヨリ内訓ノ次第有之候處露國ノ如キハ同國ノ法令ニ依リ旅券ヲ所持セサル外國人ニ對シ絶對ニ其入國ヲ拒絶致居リ候條同國ニ其屬領地ニ渡航セント欲スル者ハ必ス旅券ヲ携帶スヘキモノト御承知相成度此段依命爲念申進候也

●沿海洲行漁者ニ對シ旅券下付方ニ關スル件

明治四十二年二月六日
送第三八一號外務次官

本年漁期ニ當リ露領沿海洲ニ出漁ノ目的ヲ以テ同地ニ渡航スル漁夫ニ對シ旅券下付方ノ義ハ可成時期ヲ失セサル樣便宜ヲ與ヘ度候ニ付テハ其雇主保證人トナリテ旅券下付願差出候場合ニハ市町村役場等ヲ經由セス直接貴廳等ニ提出スルトモ便宜之ヲ處理シ簡易敏速ノ方法ヲ以テ旅券下付方御取計相成度此段申進候也

●沿海洲行漁夫ニ對シ旅券下附方ニ關スル件

明治四十三年二月四日
送第五六六號外務次官

露國沿海洲行漁夫ニ對シ簡易ノ方法ヲ以テ旅券下付方ニ關シテハ客年二月六日付送第三八一號ヲ以テ申進置候處右ハ本年及本年以後ニ於テモ迫テ之カ變改方申進候迄ハ前申ノ趣旨ニ依リ同樣ノ手續ヲ以テ旅券下付方御取計相成度此段申進候也

●露領行旅券下付出願ニ對シ注意方ノ件

明治四十三年二月九日
保收第八二二號警察部示達

露領浦鹽及其附近ニ渡航セムト欲スル者ニシテ旅券ヲ受クルニ困難ナル事情アルカ爲メ無旅券ノ儘或ハ他人名義ノ旅券ヲ携帶シテ韓國及滿洲地方ヲ經テ浦鹽方面ヘ入込ム向近來增加ノ傾アリ在外本邦居民保護上種々ノ不便ヲ生スルヲ以テ此等惡弊矯正ノ途トシテハ他人名義ノ旅券ヲ以テ出發セムトスルカ如キ不法者ヲ嚴重ニ取締ヲナスト同時ニ旅券下付出願ノ場合ハ其關係上出來得ル限リ簡捷ノ手續ヲ施シ迅速願書ノ進達相成度此段及示達候也

●露國行旅券下付方注意ノ件

明治四十四年十一月九日
送第七八八八號通商局長

露西亞行現行旅券規則ニ依リ其領土ニ入ラントスル外國人ハ自己ノ帶有スル旅券ニハ露國領事ノ査證ヲ受クルヲ要スヘキ儀ニ關シテハ客年二月六日付送第一〇〇四號ヲ以テ申進置候次第有之候處近來露領行本邦人中往々査證ノ儀ニ就キ全ク不用意ニテ入國セントスル者有之爲メニ旅行上種々ノ困難ヲ惹キ起シ候趣ニテ右ニ關シ今般別紙寫ノ通リ在浦鹽斯德帝國總領事ヨリ申越ノ次第有之候ニ付キ將來露國又ハ露領行旅券ノ下付ヲ願フ者アル場合ハ右御下付ノ際必ス露國領事ノ査證ヲ受クヘキ旨其理由ヲ加ヘテ一々本人ヘ御注意方爲後ハ一層御勵行相成候樣致度此段重テ申進候也

（別紙）

明治四十四年十月二十三日

在浦鹽斯德
總領事男爵　大鳥富士太郎

露國行旅券査證ニ關スル件

本月二十日敦賀出帆ノ鳳山丸ニテ岡山縣民賀本小梅福岡縣民篠原市三郎ノ兩名ハ各無査證旅券ヲ以テ當港水上警察署ヨリ上陸ヲ拒絶サレ又富山縣民綱谷太三郎ハ本月七日關東都督府ニ於テ西比利亞行旅券ノ下付ヲ受ケ長春哈爾賓ヲ經テ昨二十二日當地ニ著明日出帆ノ鳳山丸ニテ歸國セントシタルモ同シク査證ナキノ故ヲ以テ旅宿ノ屆出並ニ去國ニ際シ多大ノ不便ヲ來シ候前者ハ止ムヲ得ス再ヒ鳳山丸ニテ歸敦セシムルコトヽシ後者ハ滿洲ヨリ當地方ヲ通過シテ日本ヘ歸國スル者ナル旨證明書ヲ與ヘ置候處右賀本外一名ハ在敦賀露國名譽領事カ恰モ旅行不在中ニテ査證ヲ受クルコト能ハス間

領事留守居ハ此儘渡航差支ナキ旨ヲ語リタル由ニ有之候處何等ノ職權ナキ留守居(義勇團隊支店員)ノ言ヲ信シテ無査證ノ儘渡來セル本人等ノ手落ハ去ルコトナカラ後者關東都督府ニ於テ旅券ノ下付ヲ受ケ來レル綱谷ノ如キハ査證ノ儀ニ就テハ毫モ存知セサリシ旨ヲ申立候多クノ露領渡來者カ査證ノ儀ニ付殆ント何等關知セル所ナキト昨今當地官憲カ旅券規則ヲ勵行セル等ヨリ前記ノ如キ不便ヲ惹起致候ニ就テハ此等不便不始末ヲ防止センカ爲メ此際旅券ヲ下付スル官廳ニ於テモ必ス露國領事ノ査證ヲ受ダヘキ旨ヲ口達致度此段上申候敬具

●露領沿海洲行漁夫ニ對シ簡易旅券下付方ニ關スル件

明治四十五年五月二十八日
送第四四二六號通商局長通牒

本件ニ關シテハ明治四十三年二月四日付送第五六六號ヲ以テ申進置候處右通牒ハ露領薩哈嗹州並ニ堪察加州行漁夫ニ對シテモ適施致スヘキ義ト御承知相成度此段及通牒候也

●函館敦賀ノ兩港ヲ移民出發港トナス件

明治四十五年七月三十日
送第六〇二〇號外務次官通牒

明治四十二年四月十日付送第一四四五號ヲ以テ移民專用旅券下付ニ關スル取扱方ヲ定メ其後露領西比利亞地方行移民ノ便宜ヲ計リ同年六月三十日付送第二八六五號ヲ以テ函館敦賀兩港ヲ「實際出發港」トシ旅券ハ神奈川兵庫若ハ長崎ノ三縣廳ノ中ニテ作製ノ上之ヲ「實際出發港」管轄スル縣廳ヘ送付シ渡航者ニ旅券ヲ交付スヘキ手續ヲ取運フヘキ旨ヲ通牒致置候處實施後ノ經驗上右ノ取扱方ニテハ尚ホ不便ヲ免レサル廉有之候ニ由リ今般調令第四號ヲ以テ外國旅券規則取扱手續第二條ヲ改正シ露領西比利亞行移民ニ限リ函館敦賀ノ兩港ヲ出發港トシテ前者ハ函館支廳後者ハ敦賀警察署ニ於テ移民專用旅券ヲ作製交付致スコトヽ相成候ニ依リ向後右ニ該當スル者ヨリ旅券下付出願致シ候際ハ其願書ニ出發港ヲ指定セシメラレ前顯送第一四四五號通牒ノ取扱ニ依遞シ所要ノ書類出願人ノ寫眞等ハ直接函館支廳又ハ敦賀警察署ヘ夫々御送付相成度渡航者ハ各當該官廳ヘ出願シテ旅券ノ交付ヲ受クヘキ義ニ有之候間來ル九月一日以降右手續ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

●露領西比利亞渡航者ノ携帶スル旅券ニ關スル件

大正四年二月十二日
通合送第七〇號通商局長

露領地方ニ渡航スル本邦人ハ常ニ旅券ヲ携帶スル必要有之從ツテ外國旅券規則取扱手續第六條ニ依リ併記旅券ノ下付ヲ受クタル者ハ併記者ノ一人カ彼地ニ於テ一時的單獨旅行ヲ爲ス場合ニ於テモ一々書換ヲナサヽル可カラサル實際上ノ不便アル趣ニ付向後露領西比利亞ニ渡航スル者ノ携帶スル旅券ハ五歳以下ノ幼兒ノ外ハ可成併記セス各別ニ下付スルコトニ御取扱相成度依命此段申進候也

●露領渡航婦女子ニ對スル取締方ノ件

大正五年七月三十一日
調示甲第二五號警察部長

警察署（警察分署）

露領渡航婦女子ニ對スル取締リ方ニ關シ在浦鹽斯德總領事代理ヨリ別紙寫ノ通リ稟請アリタル趣ヲ以テ取締方其筋ヨリ通牒アリタルニ付自今露領渡

方行妙齡婦女ノ渡航出願ニ對シテハ醜業ノ目的ニアラサル能否ヤニ付特ニ嚴密調査ヲ遂ケ尚願人ノ素行經歷等詳細調査副申スヘシ

（別紙）

公第一五〇號

在浦鹽斯德
總領事代理　野村基信

外務大臣男爵石井菊次郎殿

當館管内ニ渡航スル婦女子中ニハ家事手助下女奉公等ヲ口實トシテ初メリ醜業ヲ目的トシ渡航スル者有之又最初ハ正業ヲ目的トシ渡航セシ者ト雖モ一度當地方ニ入ルトキハ收入ノ多キト周圍ノ誘惑ノ甚敷ニ依リ不良ナルコト、知リナカラ不知不識ノ間ニ墮落ノ淵ニ陷ルモノ多數有之當館ニ於テハ極力之カ防止ニ努メ居リ候モ一方渡航前ニ於テ豫防ノ策ヲ講スルノ必要有之候ニ付テハ地方廳ニ於テ當地在留者ノ呼寄ニ係ルモノニ對シ旅券下付ノ場合妙齡婦女ニ關シテハ特ニ渡航ノ目的ヲ嚴重ニ取調ヘ可成當館發給ノ呼寄者ニ對スル在留證明書ニ基キ下付方詮議セシメラル、樣致度尚左記地方廳下付ノモノニ醜業若ハ之ニ類似スルモノ多キニ付特ニ御調達方可然御取計相成度此段及稟請候也

記

福井、長崎、熊本、福岡、佐賀、京都、朝鮮

●旅行ノ途次單ニ露國ヲ通過スル者ノ旅券査證ニ關スル件

大正六年四月二十四日
保收第四五〇五號警察部長

外國人ニシテ露國内ノ或地點ニ二十四時間以上滯在スルコトナク單ニ露國ヲ通過セレトスル者ハ豫メ露國公使館又ハ領事館ニ依頼シ旅券ニ露國通過トランジット(transit)ノ査證ヲ受ケ來ルトキハ簡易手續ヲ以テ露國ヲ通過スルコトヲ得尤モ本人露都到著ノ上其筋ニ必要ノ手續ヲナスヘキ旨露國外務省ヨリ通知アリタル趣ニ候條露國ヲ經由シ外國ニ赴ク旅行者ニ對シテハ右無洩指示セラルヘシ

●露國行旅券査證ノ件

大正八年七月二十四日
保調第二九號警察部長

警察署（警察分署）

本件ニ關シテハ大正四年七月三日調示甲第二三號ヲ以テ調示ノ次第モ有之然ルニ近來露國ニ入國スル者ニシテ在外露國領事ノ査證ナキ旅券ヲ携帶スル者往々有之趣其ノ筋ヨリ通牒アリタルニ付今後露國及露領渡航者ニ對シテハ所持ノ旅券ニハ必ス露國領事ノ査證ヲ受クヘキ旨無漏示達スヘシ

●露領薩哈嗹、沿海州、黑龍州及堪察加州行漁夫ハ當分外國旅券ノ携帶ヲ要セサル件

大正十年四月二十二日
規保調第一四號警察部長

露領薩哈嗹沿海州、黑龍州及堪察加州ニ漁業ノ目的ヲ以テ渡航スル漁業家及其ノ雇傭ニ係ル漁夫ハ他ノ一般海外渡航者トハ全ク其趣ヲ異ニシ單ニ漁業期間中一定ノ漁場ニ至リ從業スル者ニ過キサルモノニシテ且ツ目下事實上是等ノ者ニ對シ旅券ノ提示ヲ要求スル露國官憲ナク又旅券ヲ提示シテ保護ヲ露國官憲ニ依頼スルノ必要モ發生スルコト無之趣ヲ以テ右漁業家及漁

夫ニ對シテハ當分ノ内旅券ノ携帶ハ本人ニ於テ希望セサル限リ强要セサルコトニ取計方今回外務次官ヨリ通牒アリタルニ付該渡航者ニ對シテハ今後右ニ依リ取扱ハルヘシ

●浦鹽又ハ朝鮮國境經由露領薩哈嗹、沿海州、黑龍州、堪察加州行漁業家及漁夫ハ旅券携帶ヲ要スル件

大正十年六月二十三日
規保調第二五號警察部長

曾題ノ各地ニ渡航スル漁業家及漁夫カ當分ノ内旅券ノ携帶ヲ要セサルハ本年四月二十二日付規保調第一四號ノ通ナルカ同渡航者ニシテ普通汽船ニ依リ浦鹽經由又ハ朝鮮國境ヲ經テ陸路同地ニ到ル者等旅券ヲ必要トスル地ヲ經由スル者ハ總テ旅券（目下露哈嗹州派遣軍ノ占領セル北樺太其他ノ地ヲ經由スルモノハ戶籍謄本又ハ警察官吏ノ證明書）ノ携帶ヲ要スルニ付右經由渡航者ニシテ無旅券又ハ證明書等ヲ携帶セスシテ渡航スル者ナキ樣注意セラルヘシ

●露領在留邦人ノ身上關係事項調査ニ關スル件

大正十一年一月九日
規保調第二號警察部長

露領浦海州地方ニ在留スル本邦人ノ身分、性質、品行、經歷、資産關係等各種警察的事項ノ調査方ニ關シ近來各府縣警察署等ヨリ直接所轄領事館ニ個々照會スルモノアル趣ノ處在露領帝國領事館ハ支那地方ト異リ我警察機關ヲ有セサル爲メ一々是等ノ調査ニ難應事情アル由其筋ヨリ通牒ノ次第モアリタルニ付今後必要已ムヲ得サル事項ニシテ當該領事館ニ調査ヲ依賴スル場合ハ直接領事館ニ照會スルコトナク其ノ事情ヲ詳細調査ノ上本官ニ報告セラルヘシ

●西比利亞渡航者ニ對スル注意ノ件

大正十一年五月十一日
保調第一二號警察部長

近時商業警察等ノ目的ヲ以テ西比利亞（殊ニ知多方面）ヘ旅行スル者多々有之趣ノ處西比利亞ノ政情未タ不安定ニシテ現ニ客年六月商用ノ爲知多ニ赴キタル在滿洲里朝日洋行員近藤某ナル者途中行衛不明トナリ今尙其ノ所在判明セサル事件アリ然ルニ客年中哈爾賓滿洲里方面ヨリ知多ニ赴キ滯在中ノ邦人ヨリ最近同地方面ニ於ケル商取引ハ相當ニ好望ニシテ途中ノ危險モ少ナク且ツ交通モ近々復舊シタリトノ情報ヲ傳ヘ聞リニ知多行ヲ勸誘スル者アル趣ニ付同地渡航出願者ニ對シテハ一應西比利亞ノ政情未タ安定ニ至ラサルヲ以テ危險ナル旨ヲ申聞ケ强テ出願スル者ニハ旅券下付差支ナキ旨今航其筋ヨリ通牒ノ次第モアリタルニ付同地渡航出願者ニ對シテハ自今右ノ趣旨ニ依リ取扱ハルヘシ

第六節　英吉利、佛蘭西、伊太利、支那其他諸國

●英領南阿弗利加行移民ハ當分差止ムヘキ件

明治三十六年十一月十七日
通商局長通牒

英領南阿弗利加行移民ノ義ニ關シテハ目下當省ニ於テ詮議中ニ付追テ何分

ノ義申進候迄ハ移民取扱人ニ依ルト否トニ拘ハラス同地行移民ニ對シテハ一切渡航許可相成ラサル樣致度依命此段及通牒候也

●蘭領印度行旅券ニ査證ヲ要スル件

明治四十二年四月十日
蘭領調令第二十一號

近來蘭領印度ニ渡航スル者增加ノ傾アリ此等旅行者中上陸ノ際又ハ內地旅行ヲナサントスル場合ニ同地方官憲ヨリ認許ヲ得ル能ハスシテ困難ノ事情ニ遭遇スル者往々有之趣ニ付キ爾今蘭領印度行旅券交付ノ場合ハ在本邦蘭國領事若ハ新嘉坡經由ノモノハ其新嘉坡和蘭總領事ニ就キ所持旅券ヲ示シ其査證ヲ受クル方便宜ナリトノ注意ヲ加ヘ其旨海外渡航人名表帳ヘ記入シ置クヘシ

●新嘉坡地方行婦女子ニ關スル取締方

大正元年八月二十六日
規甲第三號警察部長

新嘉坡地方ヘ渡航スル婦女ニシテ領事發給ノ證明書ヲ提示スルコトナクシテ渡航許可並ニ旅券ノ下付ヲ乞フ者ニ對シテハ醜業ノ目的ヲ以テ渡航スル者ニアラサルヤ否ヲ探究シ尙右新嘉坡帝國領事ノ發給ノ在留證明書ニ明記シアル目的ニ符合スルヤ否ヲ精査シ願書申進スヘシ

●埃及渡航者ニ下付スル旅券ニ關スル件

大正四年三月九日
通訓第二號外務大臣

爾今埃及ニ入國スル者ハ總テ自己ノ寫眞ヲ貼付スル旅券ヲ携帶スヘク且ツ其寫眞ノ眞正ナルコトヲ證明スル爲メ之ニ官廳ノ契印ヲ押捺シアルコトヲ要スル旨本邦駐劄英國大使ヨリ本邦政府ノ調合ニ基キ通告有之候ニ付キ埃及渡航者ニ對シテハ向後左記ノ手續ニヨリ旅券下付方御取計相成度右及調合候也

記

一埃及ヘ渡航ノ爲メ又ハ同地經由他ノ諸國ニ赴ク爲旅券下付方ヲ出願スル者アルトキハ願書ニ本人ノ寫眞一葉ヲ添付セシムヘシ
但シ乘船ノ蘇士及ポートセット碇泊中上陸スルコトナク單ニ船ニテ運河ヲ通過スル者ニ對シテハ此限リニアラス
二前項ノ寫眞ハ旅券裏面（和蘭文印刷ナキ內側ヲ指ス）ニ貼付シ之ニ官ノ契印ヲ捺スヘシ

●埃及渡航者ニ下付スル旅券ニ關スル件

大正四年三月十五日
調示甲第四號警察部長

爾今埃及ニ入國スル者ハ總テ自己ノ寫眞ヲ貼付セル旅券ヲ携帶スヘク且ツ其寫眞ハ眞正ナルコトヲ證明スル爲メ之ニ官廳ノ契印ヲ押捺スルコトヽナリタルニ付キ同國渡航者ニ對シテハ向後左記手續ニ依リ願書進達スヘシ

記

一埃及ヘ渡航ノ爲メ又ハ同地經由他ノ諸國ニ赴ク爲メ旅券下付方ヲ願出ツル者アルトキハ願書ニ寫眞一葉ヲ添付セシムヘシ（移民ニアリテハ從前ノ通リ）
但シ乘船ノ蘇士及ポートセット碇泊中上陸スルコトナク單ニ船ニテ運河ヲ通過スル者ニ對シテハ此限リニアラス

●新嘉坡地方再渡航ニ關スル件

大正四年三月十九日
訓示甲第五號警察部長

警察署〔警察分署〕

爾今新嘉坡地方ニ在留セル本邦商人護謨園支配人護謨園從業者等ニシテ業用又ハ休暇ヲ得テ內地ニ往復スル再渡航出願者ニシテ領事發給ノ在留證明書ヲ有スル者又ハ身分經歷明白ナル者ニ對シテハ移民保護法施行規程第五條ノ各號竝ニ移民保護法施行規程及外國旅券規則施行規程取扱心得第四條各號ノ調査ヲ省キ大正三年六月訓示甲第十八號ノ調査ヲ遂ケ速カニ願書進達スヘシ

●英國渡航者ニ下付スル旅券取扱方ニ關スル件

大正四年四月二十九日
訓示甲第九號警察部長

司水上警察署

本月二十五日以後英國ニ上陸セントスル外國人（船長船員ヲ除ク）ハ上陸前二ケ月內ニ本國官憲ノ發給シタル旅券又ハ其國籍及本人タルコトヲ確證スヘキ書類ヲ携帶スヘク尙其旅券又ハ書類ニハ本人ノ寫眞ヲ貼付シアルコトヲ要スル旨本月十四日英國樞密院令ヲ以テ發表アリタル趣ニ付向後英國ヘ渡航スル移民ニ對シテハ渡航許可ニ添付ノ寫眞ハ之ヲ旅券裏面（和歌文印刷ナキ內側ヲ指ス）ニ貼付契印ヲ捺シタル上交付スヘシ

●香港行旅客ニ關スル件

大正四年七月二十四日
訓示甲第二四號警察部長

警察署〔警察分署〕

自今香港ニ渡航スル者又ハ同港ヲ通過シテ他國ニ至ル者ハ左項書類ノ一ヲ携帶スルノ儀ニ付關係者ニ指示方取計ハルヘシ

記

一旅券（歐洲行旅客ハ絕對ニ必要トス）
二領事又ハ相當官憲ノ發給スル國籍證書（氏名行先地乘船々名及出帆期日）
此場合ニハ英文ニテ記載スルカ又ハ官憲ノ證明セル譯文ヲ添付スルヲ要ス

大正四年八月四日
訓示甲第二五號警察部長

警察署〔警察分署〕

本年七月二十四日訓示甲第二四號ハ之ヲ新嘉坡行旅客ニモ適施ス

●英國行日本船舶ノ船員ニ對スル旅券下付ノ件

大正四年九月二十日
訓示甲第三二號

警察署〔警察分署〕

本月十五日以後英國政府ニ於テハ左記主ナル港ニ上陸セムトスル外國船舶ノ船員ニ對シテハ旅券又ハ國籍證明書ヲ要スルコトヽナリタル趣ニ付日本人タル船員ヨリ同國行旅券出願アリタルトキハ船員手帳履主ノ證明書ニヨリ其身元明瞭ナル者ハ戶籍謄本ノ提出其他一般ノ調査ヲ省略シ本人ノ最近撮影ノ寫眞二葉ヲ添付セシメ至急願書進達スヘシ

記

ブリストル　カーディフ　ファルマウス　グラスゴーハル
リヴアウプール　マンチエスター　ミツドルスバラニウーカツスル
ポーツマス但シ倫敦ハ含マレス

●埃及渡航者ニ下付スル旅券査證ニ關スル件

大正四年十一月十一日
訓示甲第四〇號警察部

埃及ニ入國スル者ハ自己ノ寫眞ヲ貼付セル旅券ヲ携帶スルヲ要スル義ニ付テハ本年三月十五日付訓示甲第四號ヲ以テ訓示致置キタル處英國人以外ノ埃及上陸者ハ其旅券ニ英國領事ノ查證ヲ要スルニ付向後埃及行旅券下付ノ際ハ其旨漏ナク指示スヘシ

警察署〔警察分署〕

●佛領印度支那行旅券ニ關スル件

大正五年一月二十七日
訓示甲第二號警察部長

警察署〔警察分署〕

爾今佛領印度支那ヘ旅行スル者ハ必ス其ノ自署セル旅券ヲ携帶スルヲ要シ且ツ旅券ニハ官廳ノ契印ヲ押捺シタル最近撮影ノ本人寫眞ヲ貼付スルコトヽナリタルニ付同國渡航者ハ最近ニ撮影シタル本人ノ寫眞二葉ヲ添付出願旅券ノ下付ヲ受クシムヘシ尙該旅券ニハ在本邦佛國外交官或ハ旅券交付セル地ヲ管轄スル佛國領事ノ查證ヲ受クルヲ要スル旨示達スヘシ

●暹羅國渡航者ニ下付スル旅券ニ關スル件

大正五年二月十六日
保收第一六九〇號警察部

各警察署〔分署〕長

目下時局ニ顧ミ暹羅國渡航者ハ旅券ヲ帶有スルコトヽナリタルニ付同國渡航者ニ對シテハ向後旅券ヲ携帶スヘキ樣取計ラハルヘシ
追テ本文ノ趣旨ハ本店支店又ハ取扱店ヲ有スル船舶業者ニ對シ示達ノ上船舶業者ニ於テモ渡航者ニ注意ヲ與フル樣說示セラルヘシ

●英領各地渡航者ノ埃及上陸ニ關スル件

大正十一年十月十三日
規保訓第三四號警察部長

警察署長〔警察分署長〕

從來英領各地渡航者ニシテ埃及ニ上陸セムトスル者ノ旅券面ニ埃及ト記載ナキ爲其ノ上陸ヲ拒絕セラルル者有之趣ヲ以テ注意方其筋ヨリ通牒アリタルニ付自今同方面英領各地渡航者ニシテ埃及ニ上陸スル者ノ願書ニハ其旨ヲ明記セシメ尙旅券ニハ在本邦英國領事官ノ查證ヲ受クヘキ旨指示セラルヘシ

●葡國出入國規則ニ關スル件

大正五年六月二十一日
訓示甲第二〇號警察部長

警察署〔警察分署〕

自今葡萄牙國ニ出入スル外國人ハ別紙同國大統領令第二三一三號ニ基キ取締リヲ受クルコトヽナリタルニ付同國行旅券下付出願ニ對シテハ最近撮影シタル寫眞二葉ヲ添付セシメ尙旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際別紙規則ノ趣旨漏ナク示達スヘシ

大統領令第二三一三號（譯文寫）

內務大臣陸軍大臣及植民大臣ノ提議ニ基キ一九一五年九月二日附法律三七三號竝ニ一九一六年三月十二日附法律四九一號規定ノ權能ニ據リ閣議ヲ經テ左ノ通布告ス

第一條　戰爭狀態繼續中獨逸國臣民及獨逸國ト同盟セル諸國ノ臣民ハ共和國領域ニ入ルコトヲ禁ス

本條ノ規定ニ違反シタル者ハ軍事裁判所ニ於テ之ヲ審問シタル上男子ハ一年以上三年以下ノ重禁獄ニ處シ女子ハ同期間ノ禁錮及罰金ニ處ス但シ禁錮ニ付テハ金錢ヲ以テ刑ニ換フルコトヲ許サス何レノ場合ニ於テモ本

人ハ共和國領域ヨリ追放セラルヽモノトス

第二條　外國臣民ハ自國ノ官憲又ハ其外交官若ハ領事官ノ發給シタル旅券ヲ提出スルトキハ葡萄牙ニ入國スルヲ許可ス但シ旅券ハ本人出發地ニ在國外交官又ハ領事官ノ駐在スルモノアルトキハ其査證ヲ經タルモノナルコトヲ要ス

右旅券ニハ旅行者ノ署名アル寫眞ヲ貼付シ其寫眞ノ上ニ査證ヲ爲ス官憲ノ割印ヲ要ス

第三條　旅券ヲ携帶セス又ハ上記條件ヲ具備セサル旅券ヲ携帶スル旅行者ニシテ葡國駐在所屬國外交官又ハ領事官ノ證明書ヲ以テ人違無キコトヲ證明セムトスルモノハ政府ハ許可スルコトヲ得

此場合ニハ入國ノ地ヨリ證明書發給ノ地迄警察官ノ同行ヲ要ス

之カ爲警察官カ其所轄地外ニ出張シタルトキハ警務官ノ往復旅費及給料ハ旅行者ノ負擔トス

第四條　略之

第五條　旅券ハ各港各鐵道ノ起點及國境ニ於テ移民警察官ニ又移民警察官ナキトキハ行政官吏稅關官吏又ハ稅務官吏若クハ右官吏ノ代理者其他政府ノ指定スル官憲ニ之ヲ呈示スヘシ旅券ノ呈示ヲ受クタル官憲ハ日付ヲ記シ自署シテ査證ヲ爲シ且旅行者ノ申立ニ基キ其ノ滯在セムトスル地方ヲ記入スヘシ

第六條　外國人カ單ニ國內ヲ通過スル旅行者ナル場合ニハ旅券ノ査證ヲ爲ス官吏ハ其國內滯在期間ヲ聲明セシメテ之ヲ旅券ニ記載スヘシ

第七條　旅行者ノ葡國版圖內滯在四十八時間以內ト雖モ査證ヲナス官吏ハ本人ノ滯在セントスル地方ノ行政官憲ニ之ヲ通知スヘシ

第八條　旅行者カ葡國版圖內ニ四十八時間以上滯在セントスルトキハ其入國後二十四時間以內ニ縣廳所在地ニ於テハ縣知事ノ許ニ其他ノ地方ニ於テハ市町村長ノ許ニ出頭シ滯在ノ許可ヲ求メ且滯在許可證ヲ受クヘシ

第九條　略之

第十條　滯在許可ハ三十日ヲ超ユヘカラス但シ此期間ハ連續更新スルコトヲ得

右許可ハ何時ニテモ適宜ニ之ヲ取消スコトヲ得

第十一條　本令公布前ヨリ葡國版圖內ニ居住シタル外國人ハ八日間內ニ滯在許可證ノ下付ヲ出願スルトキハ六ケ月間以內ノ滯在許可證ヲ交付セラル右滯在期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得政府ハ何時ニテモ許可ヲ取消スコトヲ得

第十二條　外國人カ制規ノ旅券ヲ携帶スルモ何等嫌疑アル場合ハ其入國ヲ禁止スルコトヲ得

第十三條　本令ノ規定ニ違反スル外國人ハ直ニ追放セラルヘシ但シ本人カ他ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑期滿了ノ後之ヲ追放ス

第十四條　第十五條　略之

第十六條　第一條ニ該當セル外國人ハ縣廳ヨリ發給シタル旅券又ハ其所屬國外交官若ハ領事官ノ發給シ縣廳ノ査證シタル旅券ヲ携帶スルトキハ葡國版圖外ニ退去スルコトヲ得

以下省略

●錫蘭島渡航許可及旅券下付ニ關スル件

大正五年十月十二日
調示甲第三五號警察部長

警察署（警察分署）

近來英領印度ト記載セル旅券ヲ以テ錫蘭島ヘ渡航セントスル者多數有之趣ノ處同島ハ英領印度トハ全ク其行政ヲ異ニシ專ニ英領印度ト稱スルトキハ同島ヲ包含セス從テ英領印度ト記載セル旅券ヲ以テ同島ヘ上陸シ又ハ通過

スル邦人ハ更ニ最寄帝國領事館ヘ旅券又ハ國籍證明書ノ發給ヲ求メサルヘカラサルニヨリ本邦ヨリ直接同島ヘ渡航スル者ニアリテハ甚シキ不便ヲ生スル場合アルニ付向後單ニ錫蘭島ノミニ渡航セントスル者又ハ同島ヲ通過スル者ノ渡航許可又ハ旅券下付願書ニハ其旨明記セシムヘシ

●南阿聯合國渡航者ニ關スル件

大正五年十一月二十二日
調示甲第三七號警察部長

警察署（警察分署）

邦人ニシテ南阿聯合國ニ上陸滯在セントスル者ハ同國移民條例ノ規定上特ニ同國當該官憲ノ許可ヲ要スルコトヽナリタル處右許可手續ヲ取運フ爲メ同國移民官ニ於テ本人同國到著十四日前ニ其ノ姓名、身分、入國ノ目的、滯在ノ期間、上陸地及到著ノ日取ヲ記載シタル通告ヲ得ルコトヲ希望シ而シテ右通告ハ在ケープタウン帝國名譽領事宛差出スコトヲ要スル趣（但シ汽船寄港中一時上陸ヲナス者ハ該通告ヲナスヲ要セス）ニ付右ニ該當スル渡航者ニ對シテハ旅券交付ノ際前顯期日前ニ書面若クハ電報ヲ以テ右通告ノ手續ヲナスヘキ旨一々指示スヘシ

●英國行旅券査證ニ關スル件

大正五年十二月九日
保收第一一〇五一號警察部

各警察（分）署長

英國行旅券査證ノ件ニ付外務省通商局長ヨリ別紙ノ通リ通牒アリタルニ付向後同國行旅券下付又ハ渡航許可通知ノ際漏ナク別紙ノ趣旨ヲ示達セラルヘシ

（別紙）

通商局長通牒（大正五年十二月四日通合送第七〇〇號）

英國渡航者ニ下付スル旅券ノ義ニ關シテハ客年四月二十日付通調第三號ヲ以テ訓令相成居候處今般在瑞典帝國公使官ヨリノ報告ニ據ルニ近來英國ノ外國人入國取締リ益嚴重トナリ同館ヨリ在同地英國領事ニ就キ問合セタル處ニ據レハ目下英國ノ外國旅券取扱規則上「(一)英國ニ入國スルニハ其ノ英國ノ目的地トスルト單ニ通過ノ爲ナルトノ別ナク旅行者ノ出發地ニ於ケル英國領事ノ旅券査證ヲ受クルヲ要ス(二)英國ニ滯在シタル者カ他國ニ旅行シ英國ニ歸還スル場合ニモ其旅行先ニ於ケル英國領事ノ旅券査證ヲ要ス(三)露國ヲ經由シ英國ニ赴ク旅行者ハ露國國境（トルヲオ）通過ノ際同地駐在英國官憲ニ對シ英國ニ赴ク旨旅行ノ目的竝英國滯在ノ日數ヲ陳述シ旅券ニ日付印ヲ受クルコトヲ要ス(四)念ノ爲旅券ニ貼付シタル寫眞數葉ヲ用意携帶スル便トス(五)途中數日間滯在シタルトキハ旅券ニ其ノ地ノ英國領事ノ日附印ヲ受クルヲ便トス(六)「ベルゲン」ニ於テ乘船ノ際旅券ヲ英國領事ニ提示スルコトヲ要ス」トノ趣ニ有之候右ニ關シ未タ英國側ヨリハ公然ノ通知ニ接セサルニヨリ不取敢在本邦英國大使ヘ右問合セ中ニ有之候得共英國旅行者ハ出發ノ際在本邦英國領事ヨリ旅券ニ査證ヲ受ケ置ク方旅行上便宜ナラント存セラレ候ニ付其旨注意ヲ與ヘラレ度尙露國通過者ニ對シテハ前顯各事項ヲ御說示相成度此段及通牒候也

●英國入國ノ爲メ旅券ニ英國ノ領事査證ヲ要スル件

大正六年一月十二日
調示甲第一號警察部長

警察署（警察分署）

英國行旅券査證ノ件ニ付テハ客年十二月九日付保收第一一〇五一號ヲ以テ

通牒シ置タル處聯合國又ハ中立國ヨリ英國ニ入國スルモノハ出發國並ニ乘船國ニ於テ英國領事ノ査證ヲ受クルコトヽナリタルニ付自今英國渡航者又ハ同國通過旅行スル者ニ對シテハ旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際在本邦英國領事ヨリ其旅券ニ査證ヲ受クルヲ要スヘキ旨無滯指示スヘシ

追テ時局柄英國ニ於ケル入國者取締リ規則ハ時々改正アル模様ニ付改正ノ都度通牒スヘキハ勿論ナルモ猶爲念渡航者カ英國領事官ノ査證ヲ受クル際ハ入國手續ニ關シ一々之ヲ確ムル様注意ヲ與フヘシ

●佛國同植民地渡航ニ關スル件

大正六年二月十六日
訓示甲第四號警察部長

警察者（警察分署）

佛蘭西「アルセリー」佛國植民地及佛國保護國ニ渡航セントスル者ニ對シテハ本月八日外務省告示第三號ニ基キ左記手續ニ依リ取扱フヘシ

記

一、佛國渡航者ニ下付スル旅券ニハ本人ノ國籍ヲ明記スル必要アルニ付旅券下付願書ニ國籍ハ生來ノモノナルヤ或ハ歸化又ハ法律ノ結果ニ依リ取得シタルモノナルヤ尚後者ノ場合ニ於テハ舊國籍並ニ如何ニシテ現國籍ヲ取得シタルヤヲ記載セシメ門司水上署ニアリテハ之ヲ旅券面本人氏名ノ上部ニ又其譯文ハ本人氏名年齢ノ下ニ適宜記入スヘシ

（例）（イ）生來ノ日本人ナル場合ニハ「生來ノ日本臣民」
（ロ）元米國人ニシテ日本ニ歸化シタル場合ニハ「元米國人ニシテ歸化シタル日本臣民」
（ハ）元韓國人ニシテ日本人タル場合ニハ「生來ノ韓國人ニシテ日本臣民」

（警察者）

右佛譯文
（イ）「Sujet japonais de naissance」
（ロ）「Sujet japonais naturalisé d' origine américaine」
（ハ）「Sujet japonais d' origine coréenne」

右英譯文
（イ）「Japanese subject by birth」
（ロ）「Naturalized Japanese subject of American origin」
（ハ）「Japanese subject of Korean origin」

等ト記入スルカ如シ

二、佛國渡航旅券ニハ本人ノ赴クヘキ佛國市町名ヲ明記スル必要アルニ付願書ニ記載セシメ門司水上署ニアリテハ之ヲ旅券面行先國名ノ次ニ又其譯文ハ行先國名ノ前ニ記入ナスヘシ

（例）「令巴里ニ赴クモノニ就テハ「右ハ佛國巴里ヘ（以下餘白）赴クニ付……」

右佛譯文
「allant à Paris France.....et de lui.....」

右英譯文
「Proceeding to Paris France.....to pass freely.....」

等ト記入スルカ如シ

三、佛國渡航旅券下付願書ニハ本人最近ノ寫眞ヲ添付セシメ門司水上署ニアリテハ之ヲ旅券裏面（和蘭文印刷ナキ内側ヲ指ス）ニ貼付シ官ノ契印ヲ押捺スヘシ

四、旅券下付ノ際左記ノ諸點ニ付本人ヘ注意ヲ與フヘシ

（警察者）

（イ）旅券ニハ本人ヲ以テ直ニ自署スヘキコト
（ロ）旅券ノ下付ヲ受クタルトキハ本人自身最寄佛國領事館ニ就キ査證ヲ受クヘキコト
（ハ）公用旅券ニ就テハ在本邦佛國大使館ノ査證ヲ受クヘキコト　以上

（官報寫）

大正六年二月八日外務省告示第三號

佛國外務省ハ千九百拾六年十一月二十三日ヲ以テ旅券制度ニ關スル同年一月三十日ノ訓令ニ追加ヲナシタル趣ニテ今般在本邦佛國大使ヨリ該訓令寫送付アリタルニ付キ右訓令中注意ヲ要スヘキ諸點ヲ左ニ摘錄ス

一、外國人ハ何人ト雖モ佛國當該官憲ノ査證セル旅券ヲ携帶スルニ非ラサレハ佛蘭西「アルセリー」佛國植民地及佛國保護國ニ入國シ又ハ佛蘭西「アルセリー」佛國植民地及佛國保護國ヨリ出國スルコトヲ得ス

二、旅券ニハ旅券所持者最近ノ寫眞ヲ貼付シ之ニ官ノ契印アルヲ要ス

三、旅券ニハ旅券所持者ノ國籍ヲ記載シ且ツ右ハ生來ノモノナルヤ或ハ又歸化若クハ法律ノ結果ニヨリ取得シタルモノナルヤヲ區別シ後者ノ場合ニ於テハ舊國籍ヲモ併テ記載スルヲ要ス

四、佛國ヘ入國ノ査證ニハ旅券所持者ノ赴クヘキ市町名ヲ記載スルヲ要ス
本項ハ客年十一月二十三日新ニ追加セラレタル條項ナルカ右ハ佛國官憲ニ於テ査證ヲ與フル際記入スヘキモノナルヤニ察セラル、モ適用ヲ容易ナラシメンカ爲メ査證申請書ニ記入シアル方便宜ナルヘキ旨本邦佛國大使ヨリ通知アリタリ

五、旅券ニハ旅券所持者本人ノ自署アルヲ要ス

六、同行セラル、十五歳未滿ノ小兒ハ其氏名身分等ヲ同行スル者ノ旅券ニ併記スルトキハ特ニ旅券携帶ヲ要セス

七、佛國ニ渡來セントスル者ハ本人自ラ旅券ヲ交付セラレタル地方ニ於ケル佛國官憲ニ就キ旅券ニ査證ヲ受クヘシ但シ出發前ニ之ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニハ佛國入國ニ先チ最寄佛國官憲ニ就キ査證ヲ受クルヲ要ス

八、英國ヨリ佛國ヘ渡航セントスル總テノ外國人ハ在佛國總領事館又ハ「リブマーブール」「サウサムプトン」若ハ「オークストン」ニ於ケル佛國領事館ニ就テ旅券ニ査證ヲ受クルヲ要ス

九、英國瑞西伊太利西班牙ヨリ佛國ヘ渡來スル場合ニ受クヘキ査證ハ三日間ヲ限リ有效トス但シ是等諸國ニ駐在スル佛國領事館ハ特別ノ事情アル場合ニハ八日ヲ越サル期間内ニ於テ右有效期間ヲ適宜延長スルコトヲ得

十、佛國ヨリ退去セントスルモノハ旅券ニ査證ヲ受クルヲ要ス

十一、聯合國領域ニ向テ出發セントスルモノハ何人タルヲ問ハス特ニ指定セラレタル當該外交官又ハ領事官ヨリ旅券ニ査證ヲ受クルニ非ラサレハ佛國ヲ退去スルコトヲ得ス

十二、公用旅券ハ當該國外務大臣特命全權大使全權公使代理大使代理公使ニ於テ發給セラル、ヲ要ス

十三、公用旅券ノ携帶者ハ交戰地帶ニ立入ラントスル場合ハ特別訓令ノ規定ニ從フヲ要スル外本訓令ノ規定ニ準據スルヲ要セス

●英領印度行旅客ハ旅券携帶ヲ要スル件

大正六年三月十三日
訓示甲第八號警察部長

警察者（警察分署）

印度政府ニ於テ今回左記要領ノ旅券規則ヲ發布シタル趣ニ付今後同地ニ旅就スル者又ハ同地ヲ通過シテ他國ニ至ル者ニ對シテハ大正四年七月訓示甲

第二四號ト同樣ノ取扱ニヨリ旅券ヲ携帶セシムルコトニ取計フヘシ

記

一　十五歲以上ノモノニシテ旅券ヲ所持セサル者ハ同國ニ出入スルコトヲ許サス

二　右旅券ハ當該官憲ニ於テ二ヶ年以內ニ發給又ハ更新セラレタルモノニシテ寫眞ノ添付アルヲ要ス

三　外國ヨリ來ル者ハ其國ニ於ケル英國大使又領事ニヨリ發給又ハ査證セラルヽコトヲ要ス

四　船舶乘組員ニ對シテハ之ヲ適用セス

●西班牙國行旅券ニ關スル件

大正六年三月二十二日
調示甲第九號警察部長

警察署（警察分署）長

西班牙國政府ハ本月十三日付ヲ以テ外國人入國條例ヲ發布シ本年四月一日以後外交官及領事官ヲ除キ一般外國人ニシテ同國ニ入國セントスル者ハ本國官廳又ハ在外國代表者若クハ領事官ノ發給セル旅券ヲ携帶スルヲ要シ且ツ右旅券ニハ當該國駐在ノ同國正式領事官ノ査證ヲ受クルヲ必要トシ右ニ違反スル者ハ一切入國ヲ許サス尙入國ヲ許可セラレタル者ハ四十八時間以內ニ警察署市役所又ハ縣廳ニ出頭シ成規ノ登錄ヲ爲スヲ要シ右ニ違反スル者ハ相當ノ處分ヲ受クヘキ趣ニ付向後同國行旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際無洩右ノ次第ヲ示指スヘシ

●英國入國ノ爲メ旅券ニ英國領事ノ査證ヲ要スル件

大正六年四月二十三日
保收第四五〇六號警察部長

各警察署長

本件ニ關シ客年十二月九日付保收第一一〇五一號及本年一月十二日付調示甲第一號ヲ以テ及通牒置タル處今般在本邦英國大使ヨリ右ニ關シ更ラニ左記要領ノ通リ通報アリタル趣ニ付英國行旅行者ニ對シ無洩指示セラルヘシ

記

一、露國ヲ經由シ日本ヨリ英國ニ赴ク旅行者ニシテ其途次旅行ニ必要ナル許可又ハ旅券査證ヲ得ルニ要スル期間以上何レノ地ニモ逗留セスシテ英國ニ直行スル者ニアリテハ(一)旅券ニ査證ヲナス權限ヲ有スル在本邦英國領事ノ査證ヲ得且ツ(二)露都「ペトログラード」ニ於ル英國旅券取締事務局（British passport Control Office）ノ旅券査證ヲ得タル者ニ限リ英國上陸ヲ許可セラルヘシ

二、同上旅行者ニシテ其途次「スカンヂナヴイヤ」諸國ニ逗留シタル者ニアリテハ上記ノ手續ヲナスノ外更ニ Stockholm、瑞典國、Christiania、威諾國又ハ Bergen 威諾國ニ在留スル英國領事ノ旅券査證ヲ得ルコトヲ必要トシ該査證ハ所要ノ取調ヲナシタル上差支ナキモノニ限リ與ヘラルヘシ

右ハ露國ヲ經由シ日本ヨリ英國ニ赴ク旅行者カ其旅行ノ途次通過ノ必要アリ又ハ通過セント希望スル諸國ニ於テ必要トセラル、手續以外ノモノニシテ更ニ是ヲ詳說スレハ左ノ如シ

(イ)　同盟國又ハ中立國ヨリ英國ニ赴ク旅行者ニアリテハ其目的地カ英國ナル場合ハ勿論本人カ單ニ他國ニ赴ク途中英國ヲ通過スル場合ニアリテモ英國ニ上陸ヲ得ントスルニハ其出發國ニ於ケル英國領事ノ査證ヲ得ルコト必要ナリ

(ロ)　英國ニ滯在シタル者カ他國ニ旅行シ再ヒ英國ニ歸還スル場合ニモ上記ノ規則ヲ適用スルモノトス

(ハ)　露國ヲ經由シ英國ニ赴ク旅行者ハ露國出發ニ當リ露都「ペトログラード」ニ於ケル英國旅券取締事務局若クハ Petrograd（ペトログラード）又ハ Bjelostrov（ビエロブストロフ）ニ於ケル同事務局出張所ニ到リ英國ニ直行セントスル豫定タルカ又ハ旅行ノ途次「スカンヂナヴイヤ」諸國ニ逗留ノ上英國ニ赴ク者ニアリテハ英國ニ向ツテ出發スル以前在「スカンヂナヴイヤ」英國領事ノ旅券査證ヲ受クルコトヲ要ス

Bergen（ベルゲン）ニ於ケル旅券査證ハ旅行者カ英國ニ向ツテ乘船セントスル際汽船會社ニ於テ之ヲ必要トナシ旅券ニ査證ナキモノハ乘船スルヲ許サス

露國ヨリ直ニ英國ニ赴ク旅行者ハ「スカンヂナヴイヤ」諸國ニ駐在スル英國領事ヨリ已ニ旅券査證ヲ受ケタル旅行者ニアリテハ Bergen（ベルゲン）ニ於ケル旅券査證ハ調査省略ノ上簡易ニ與ヘラルヘシ然ルニ前記英國領事ノ旅券査證ヲ受ケサリシ旅行者ニアリテハ所要ノ取調ヲナシタル上差支ナキ者ニ限リ旅券査證ヲ與ヘラルヘシ

在浦潮斯德英國領事ノ旅券査證ハ日本ヨリ同地ヲ經テ英國ニ赴ク旅行者ニアリテハ之ヲ必要トセス唯タ露國ヨリ英國英領殖民地又ハ英領屬地ニ向テ出發スル旅行者ニシテ露國亞細亞ヲ經由スル場合ニ於テ之ヲ必要トス

●英國汽船ニ便乘セントスル者ニ對シ旅券發給方ニ關スル件

大正六年五月二日
保收第四五八八號警察部長

各警察署（分署）長

本件ニ關シ在本邦英國大使ヨリ別紙寫ノ通リ通知アリタル趣ヲ以テ其筋ヨリ通牒アリタルニ付該旅行者ニ對シ相當注意セラルヘシ

（譯文）

在東京英國大使館

一九一七年四月五日

拜啓危險地帶旅行者ニ對シ旅券ヲ發給スルニ當リ本國政府ハ左記規則ニ據ル旨本國政府外務次官ヨリ通牒有之候條御通牒申上候追而本規則ハ英國臣民ニ對シ適用スルノミナラス英國船ニヨリテ旅行セントスル聯合國及中立國民ニモ適要セラル、モノニ候

一、旅券ハ婦人及小兒ニ對シテ至急已ムヲ得サル場合ニ限リ發給ス例セハ健康上旅行カ必要ナリトカ家政上又ハ事業上特ニ已ムヲ得サル理由アリトカ或ハ戰爭ニ關スル仕事ニ從事スルトカノ場合之ナリ本規則ハ嚴密ニ解釋スヘキモノトス

二、婦人及小兒ニシテ右ニ特記セル如キ目的ニテ英國ノ一港ニ途中寄航シタルトキ遭遇スルコトアルヘキ危險ニ關シ警告ヲ與フルニ止メ別段旅行ノ繼續ヲ阻止スルコトナシ

三、夫又ハ父カ公職ヲ有スル事實ノミニテハ妻又ハ家族ノ乘船ヲ許可スヘキ充分ナル理由ト認メス

四、前記第一項ニヨリ旅券ヲ下付スヘキヤ否ヤハ英國領事之ヲ決定ス但シ領事ハ當分ノ內緊急ノ場合ヲ除キ地中海通行ノ旅行ニハ許可ヲ與フヘカラス且航行シ得ヘキ航路中ニテ最モ安全ナルモノヲ選擇シ採用スル樣注告ヲ與フヘシ

日本人ニテモ英國船ヲ利用スル場合ニハ上記ノ規則ヲ適用サルヘキ旨

各港所在ノ日本官憲ニ對シテ貴政府ヨリ御通知置被下度候
此機會ヲ以テ閣下ニ最高ノ敬意ヲ表シ申候

英國大使
代理　エッチ、ノーマン

日本帝國外務大臣子爵　本野一郎殿

●西班牙行旅券ニ關スル件

大正六年六月二十日
調示甲第二四號警察部長
各警察署（警察分署）長

本件ニ關シ本年三月二十二日付甲第九號ヲ以テ調示シ置キタル處右ノ外西班牙國行旅券面ニハ本人カ生來ノ日本人ナルヤ否ヲ明記スルヲ要シ若シ歸化人ナル場合ニ於テハ歸化ノ年月日及前國籍名ヲモ附記スルコト必要トス義ナルニ付本年二月十六日付調示甲第四號佛國殖民地渡航者ニ關スル件左記第一所載ノ文例ニ準シ出願セシムヘシ

（左記）

大正六年二月八日調令第二號抄錄（同年二月十六日調示甲第四號左記第一ニ同シ）

一、佛國渡航者ニ下付スル旅券ニハ本人ノ國籍ヲ明記スル必要アルニ付旅券下付願書ニ國籍ハ生來ノモノナルヤ或ハ歸化又ハ法律ノ結果ニヨリ取得シタルモノナルヤ尚後者ノ場合ニ於テハ舊國籍並ニ如何ニシテ現國籍ヲ取得シタルヤヲ記載シテ申出シメ之ヲ旅券面本人氏名ノ上部ニ又其譯文ハ本人氏名年齢ノ下ニ適宜記入スヘシ

（例文）（イ）生來ノ日本人ナル場合ニハ「生來ノ日本臣民」
（ロ）元米國人ニシテ日本ニ歸化シタルモノナル場合ニハ「元米國人ニシテ歸化シタル日本臣民」

（ロ）元韓國人ニシテ日本人タル場合ニハ「生來ノ韓國人ニシテ日本臣民」

右佛譯文
（イ）Sujet Japonais de naissnce naturalisé
（ロ）Sujet Japonais natur alizé, d' origine americaine
（ハ）Sujet Japonais d' origing coréenne

右英譯文
（イ）Japanese subject by birth
（ロ）Natur alized Japanese subject of American origin
（ハ）Japsnese subject of Korean origin

等ト記入スルカ如シ

●佛國旅券規則改正ニ關スル件

大正六年六月十九日
保收第六七三四號警察部長
各警察署（分署）長

佛國アルセリー佛國殖民地及佛國保護國ヘ渡航出願者ニ對スル件ニ付テハ本年二月十六日甲第四號ヲ以テ調示シ置キタル處本月十三日官報掲載外務省告示第二十四號ノ通リ改正セラレタルニ付今後同國渡航出願者ニ對シテハ右告示ノ要領一々指示セラルヘシ

外務省告示第二十四號（大正六年六月十三日）

佛國外務省ハ本年一月三十一日付訓令ヲ以テ旅券規則ニ關スル千九百十六年一月三十日付訓令ヲ一部加除改正シタル趣ニテ今般在本邦佛國大使ヨリ通知アリタルニ付該改正事點ヲ左ニ摘錄ス但シ右ハ本年二月八日官報ニ掲載セル當省告示第三號告示第七項ニ記入セル旅券査證ノ手續ヲ改正セルコトハ殊ニ注意ヲ要ス

（一）佛蘭西「アルセリー」佛國殖民地及佛國保護國ニ入國セントスル外國人ニシテ其帶有スル旅券ニ査證ヲ受ケントスルトキハ旅券ヲ交付セラレタル地方ニ於ケル當該佛國官憲ニ出願スヘシ該願書ハ郵便ニテ送付スルモ差支ナシ

旅券査證ニ關スル願書ヲ受理セル佛國官憲ハ所要ノ事項ヲ記入セシメン爲メ各二葉ノ質問書ヲ願人ニ交付又ハ送付スヘシ

質問書ニ記スル所要事項ハ左ノ如シ

（一）第一　旅行ノ期間
第二　引續キ旅行スヘキ佛國內各地名
第三　旅行ノ目的
第四　佛國ニ在ル二名ノ身元同合セ人各一地方ニ對シ少クトモ一名ノ身元同合セ人

第五　茲ニ佛國內ニ滯在セシコトアラハ其地方名居所及滯在セル時期

質問書各葉ニハ旅券ニ貼付シタルト同樣ノ寫眞ヲ貼付スヘシ

質問書ハ郵便ニテ返送スルコトヲ得

査證ヲナス佛國官憲ハ調査ノ上願ヲ拒絕スルカ又ハ査證ヲ受クル爲メ自身出頭スルヲ要スヘキ日時ヲ願人ニ通知スヘシ

（二）査證ヲナシタル佛國官憲ハ旅券所持人ニ對シ記入ヲ了シタル質問書中一通ヲ交付スヘシ

（三）右質問書ハ佛國入國ノ際旅行者ヨリ特別委員ニ納付スルヲ要ス

旅行者ハ國境ヲ通過セル後直ニ査證ヲ指示セル最初ノ目的地ニ至リ二十四時間內ニ警察署ヘ警察署ナキ地方ニ於テハ町村長又ハ憲兵屯署ニ出頭シ其旅券ニ査證ヲ受クルヲ要ス

（四）期間ヲ定メタル有效ノ査證ニヨリ佛國ニ入國セル外國人ハ該期間ノ終了八日前ニ於テ歸還ノ爲メ査證ヲ受ケサルヘカラス但シ八日以內ノ期限ニテ佛國入國ノ許可ヲ受ケタル者ハ旅券ニ指示セル最終ノ町ニ到着セルト歸キ還ノ査證ヲ請求スルヲ要スヘシ

（五）佛國滯在ヲ延期スル必要ヲ生スル者ハ其ノ所在地ノ縣知事ニ許可ヲ願出ツヘシ知事ハ八日內ノ期限ニテ許可スルコトヲ得尙其以上期限ヲ延期スルヲ要スルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得タル上ニ非サレハ之ヲ與フルヲ得ス

（六）査證ニ關スル願出ハ特ニ反對ノ規定アルモノヽ外總テ關係者自身ニテ行ハサルヘカラス

●海峽殖民地旅券規則改正ノ件

大正六年八月十四日
保收第八三九九號警察部長
各警察署（分署）長

本件ニ關シテハ大正四年八月十日甲第二五號調示ノ次第モ有之然ルニ今回新嘉坡政廳ニ於テ該規則ヲ左記ノ通改正シ今後同地ヘ渡航スル本邦人旅客ハ其携帶スル旅券ニ在本邦英國官憲ノ査證ヲ要スルコトヽナリタルニ付向後同地ヘ渡航シ又ハ同地ヲ通過シテ他地方ニ至ル者ニ對シテハ旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際無漏此旨示達セラルヘシ

記

海峽殖民地旅券規則摘要　（大正六年七月四日公布）

一　十五歲以上ノ歐洲人ニシテ馬來半島以外ノ地ヨリ渡來スルモノハ其海峽殖民地到著ノ日ヨリ遡リ二年以內ニ所屬國當該官憲ノ發給シ又ハ更新シタル旅券ヲ所持スルニ非サレハ海峽殖民地ニ上陸スルコトヲ得

二　前項ノ者外國ヨリ渡航スル場合ニハ其國ニ駐在スル英國大使又ハ英國領事館ニ於テ又英國領土各地ヨリ渡航スル場合ニハ其地官憲ニ於テ發給シ又ハ在留證旅券ヲ所持スルコトヲ要ス

三　歐洲人以外ノ者ニシテ馬來半島以外ノ地ヨリ渡來スル十五歲以上ノモノハ第一項所載ノ旅券ヲ所持シ又ハ其港航來民航測書ノ日ヨリ遡リ二年以內ニ所屬國當該官廳ノ發給シタル國籍證明書ヲ所持スルニ非サレハ港航來民地ニ上陸スルコトヲ得ス

四　前項ノ者外國又ハ英國領土各地ヨリ渡來スル場合ハ第三項ノ規定ニ準ス

五　第三項ノ國籍證明書ニハ渡航者ノ姓名國籍及本人ニ關スル特徵ヲ記シ又國籍證明書ノ裏面ニハ渡航者ノ目的地乘組々名及出發時日ヲ記載スベシ

六　旅券及國籍證明書ニハ港ヲ本人ノ寫眞ヲ貼付スベシ尙古寶ハ別種特別用スルヲ得サル樣貼付スルヲ要ス

七　本規則ハ馬來半島各地ヨリ渡來スル者又ハ支那人及關領東印度人ハ勞働者ニ適用ナキモノトス

●南阿聯合國渡航者ノ姓名等通告方注意ニ關スル件

保大
大正六年
五九月十一
八號奉祭部長

本件ニ關シテハ年十一月二十二日甲第三七號ヲ以テ別示ノ通キメルモ同地方渡航者ニシテ本年十一月二十二日以後ハ該規定ヲ適用セサル者往々有之入國ノ際面倒ヲ惹起スル

（別表）

Japanese Consul,
Capetown
Arrive June thirtieth Capetown stay three months business purpose kindly arrange permit Taro Yoshida general merchant.

備考
(1) 渡航者日取　(2) 上陸港
(3) 滯在期間　(4) 用務
(5) 姓名
(6) 職業

右ハ各渡航者ヨリ通告ニ接シタルモノトス

J. Jeppe, Esq.
Japanese Honorary Consul.
Cape Town.

Sir:

I am an employee of Mitsui & Co., General Importers and Exporters of Tokio, and am going to the Union of South Africa where I intend to stay for three months business purpose on behalf of my firm. I expect to arrive at Cape Town by the S. S. "Kaga-maru" on or about June 5th of this year.

Will you kindly arrange for the necessary permit for me?

Thanking you in advance for your kindness, I am

Yours obediently

(Sgd)

My full name is……,

備考
(1) 渡航者日取　(2) 上陸港
(3) 滯在期間　(4) 用務
(5) 姓名
(6) 職業

右ハ各渡航者ヨリ通告ニ接シタルモノトス

●旅券取扱上特ニ注意ヲ要スル件

保大
大正七年二
二五月十四六
八號奉祭部長

歐洲間貿後交貿國及其屬領地等ニ於テ入國外國人ニ對シ其ノ所持スベキ旅券ノ種類ヲ動行シ貿ハ旅券規定ヲ改正シタルモノ有之右等關係ハ其筋ニテ通達ヲ每ニ通達シ居レルモ別紙旅券項特ニ注意セラルベシ

（大正七年一月二十六日付）

同大正四年四月二十六日官報通牒送第三八五號

同大正四年十九月十一日官報通合送第四六三號

大正五年十月二十一日官報掲載

大同同大正五年十年十二月月二十四日官報掲載送第七七五〇六號
正六年年年十二月十二月十七日官報通牒合掲載送第二七六號

大正六年一月十八日官報掲載

同大正四年七月十六日官報通合送第三八五號

二　前項ノ者外國ヨリ渡航スル場合ニハ其國ニ駐在スル英國大使又ハ英國領事館ニ於テ又英國領土各地ヨリ渡航スル場合ニハ其地官憲ニ於テ發給シ又ハ在留證旅券ヲ所持スルコトヲ要ス

三　歐洲人以外ノ者ニシテ馬來半島以外ノ地ヨリ渡來スル十五歲以上ノモノハ第一項所載ノ旅券ヲ所持シ又ハ其港航來民航測書ノ日ヨリ遡リ二年以內ニ所屬國當該官廳ノ發給シタル國籍證明書ヲ所持スルニ非サレハ港航來民地ニ上陸スルコトヲ得ス

四　前項ノ者外國又ハ英國領土各地ヨリ渡來スル場合ハ第三項ノ規定ニ準ス

五　第三項ノ國籍證明書ニハ渡航者ノ姓名國籍及本人ニ關スル特徵ヲ記シ又國籍證明書ノ裏面ニハ渡航者ノ目的地乘組々名及出發時日ヲ記載スベシ

六　旅券及國籍證明書ニハ港ヲ本人ノ寫眞ヲ貼付スベシ尙古寶ハ別種特別用スルヲ得サル樣貼付スルヲ要ス

七　本規則ハ馬來半島各地ヨリ渡來スル者又ハ支那人及關領東印度人ハ勞働者ニ適用ナキモノトス

●南阿聯合國渡航者ノ姓名等通告方注意ニ關スル件

保大
大正六年
五九月十一
八號奉祭部長

本件ニ關シテハ年十一月二十二日甲第三七號ヲ以テ別示ノ通キメルモ同地方渡航者ニシテ本年十一月二十二日以後ハ該規定ヲ適用セサル者往々有之入國ノ際面倒ヲ惹起スル

（別表）

Japanese Consul,
Capetown
Arrive June thirtieth Capetown stay three months business purpose kindly arrange permit Taro Yoshida general merchant.

備考
(1) 渡航者日取　(2) 上陸港
(3) 滯在期間　(4) 用務
(5) 姓名
(6) 職業

右ハ各渡航者ヨリ通告ニ接シタルモノトス

J. Jeppe, Esq.
Japanese Honorary Consul.
Cape Town.

Sir:

I am an employee of Mitsui & Co., General Importers and Exporters of Tokio, and am going to the Union of South Africa where I intend to stay for three months business purpose on behalf of my firm. I expect to arrive at Cape Town by the S. S. "Kaga-maru" on or about June 5th of this year.

Will you kindly arrange for the necessary permit for me?

Thanking you in advance for your kindness, I am

Yours obediently

(Sgd)

My full name is……,

備考
(1) 渡航者日取　(2) 上陸港
(3) 滯在期間　(4) 用務
(5) 姓名
(6) 職業

右ハ各渡航者ヨリ通告ニ接シタルモノトス

●旅券取扱上特ニ注意ヲ要スル件

保大
大正七年二
二五月十四六
八號奉祭部長

歐洲間貿後交貿國及其屬領地等ニ於テ入國外國人ニ對シ其ノ所持スベキ旅券ノ種類ヲ動行シ貿ハ旅券規定ヲ改正シタルモノ有之右等關係ハ其筋ニテ通達ヲ每ニ通達シ居レルモ別紙旅券項特ニ注意セラルベシ

（大正七年一月二十六日付）

同大正四年四月二十六日官報通牒送第三八五號

同大正四年十九月十一日官報通合送第四六三號

大正五年十月二十一日官報掲載

大同同大正五年十年十二月月二十四日官報掲載送第七七五〇六號
正六年年年十二月十二月十七日官報通牒合掲載送第二七六號

大正六年一月十八日官報掲載

同大正四年七月十六日官報通合送第三八五號

〔編輯者〕

Exporters of Tokio, and am going to the Union of South Africa where I intend to stay for three months business purpose on behalf of my firm. I expect to arrive at Cape Town by the S. S. "Kaga-maru" on or about June 5th of this year.

Will you kindly arrange for the necessary permit for me?

Thanking you in advance for your kindness, I am

Yours obediently

(Sgd)

My full name is……,

備考

旅券取扱ニ關スル特別注意事項摘要

英吉利　旅券、寫眞、在證ヲ要ス

上記制限ハ英國領ニ及ビ屬領地ニ適用セラル

旅券ニ英國領事ノ在證ヲ要スル件其他注意事項

露西亞　英國ヨリ許可ヲ受ケル樣ヲ要ス、獨逸、佛蘭西及伊米ニ渡カントスル者ハ英國公使官

香港　旅券ヲ要スルノミ

危險區域ヲ通航スル英國船舶ニ婦人及小兒ノ乘船ヲ禁止ス

英領印度	旅券、寫眞、査證ヲ要ス（十五歳以上ノ者ニ適用ス）	大正六年五月十二日官報掲載
同　南島	旅券ヲ要ス（船員ハ寫眞ヲ貼付セル旅券携帶ヲ要ス但シ高級船員ノ外上陸ハ許サレサルモノヽ如シ）	同　大正六年三月十日通合送第一五五號　大正六年三月十三日官報掲載告示第九號
英領海峽殖民地	旅券、査證ヲ要ス（但シ十五歳以上ノ者ニ限リ適用ス）	大正六年二月二十一日官報掲載告示第七號
英領北ボルネオ	旅券、寫眞、査證又ハ國籍證書ヲ要ス	同　大正六年八月三日附通送第六一七號　大正六年八月七日官報掲載
蘇門答臘	旅券、寫眞、査證及人相特徴ノ記載ヲ要ス（但シ十五歳以上ノ者ニ限リ適用ス）	大正五年九月十三日官報掲載
「タウンスビル」港上陸ニハ特別許可ヲ要ス（注意）商人、學生及旅行者ニ下付スル一年限リ旅券ハ上記以外ニ仍ホ明治三十七年九月二十七日附送第一三一二號通牒ニ依據スルヲ要ス		同　大正五年一月十日官報掲載告示第一號　同　大正六年八月二十二日附通合送第四九五號　同　大正六年四月十二日附通合送第一七號　大正六年四月十二日附通合送第二六三號
同　ニューシーランド	旅券、寫眞、査證ヲ要ス（但シ十五歳以上ノ者ニ限リ適用ス）	同　大正五年九月九日附通合送第五二九號　同　大正五年九月十三日官報掲載告示第二〇號
埃及	旅券、寫眞、査證ヲ要ス	同　大正四年十一月三日附通合送第六一〇號　同　大正四年十一月十日官報掲載告示第五號　同　大正四年十一月三日官報掲載告示第四二號

〔補問答〕

右ノ外最寄英國領事官ニ特ニ入國出願ヲナスヲ要ス

ナイセリア	旅券、寫眞ヲ要ス	同　大正五年四月二十日附通合送第二一四號　同　大正五年四月十七日官報掲載告示第八號
ザンザバル	旅券、寫眞、査證ヲ要ス	同　大正五年四月二十日附通合送第二一三號　同　大正五年四月十八日官報掲載
東阿保護領	旅券ヲ要ス	大正五年一月十三日官報掲載
南阿聯邦	旅券、査證ヲ要ス（在「ケープタウン」帝國名譽領事ニ電報又ハ書面ヲ以テ同國到著十四日前ニ通告シ置クヲヲ要ス）	在孟買相原領事代理報告　大正五年十一月十日附通合送第六五二號　大正七年一月七日官報掲載告示第一號
西部阿弗利加「ガムビヤ」殖民地及同保護領	旅券、寫眞、査證ヲ要ス	大正六年十二月二十七日官報掲載
モーリシアス	旅券ヲ要スルノミ	大正六年二月八日官報掲載告示第二號
佛蘭西	旅券、寫眞、査證ヲ要ス（旅券ニ國籍及渡航地市町村名ノ記載等ヲ要ス）「アルセリー」佛國殖民地及佛國保護國ニ付テモ前記同斷　佛國旅券規則一部分改正（在本邦佛國官憲ニ對シ旅券ニ査證ヲ求ムル特別手續）	大正六年二月八日附通訓第二號　同　大正六年二月八日官報掲載告示第三號　同　大正六年六月十三日附通合送第四六二號　同　大正六年六月十三日官報掲載告示第二四號　同　大正五年一月二十日附通合送第一九號訓令　同　大正五年一月二十日官報掲載告示第二號
佛領印度支那	旅券、寫眞、査證ヲ要ス	同　大正三年九月十一日附通合送第五三四九號　同　大正三年九月十五日官報掲載
伊太利	旅券、査證ヲ要ス	

西班牙	旅券、寫眞、査證ヲ要ス（生來ノ日本人ナルヤ否ヲ明記ス）	同大正六年三月十七日附通合送第一八七號 同年三月二十日官報掲載告示第一一四號	
葡萄牙	旅券、寫眞、査證ヲ要ス	同年六月十三日附通合送第四六三號 同年八月九日官報掲載告示第二七號	
瑞典	入國目的ヲ記載セル旅券ヲ要ス	同大正五年六月十三日附通合送第三五三號 同年六月十五日官報掲載告示第一〇號	
諸國	旅券、査證ヲ要ス（成年者ノ同伴スル十二歳未滿ノ者ヲ除ク）	同大正六年八月二十八日附通合送第六九六號 同年九月十九日附通合送第七七八號 同年九月二十日官報掲載告示第三三號	
丁抹	旅券、査證ヲ要ス	大正七年一月九日官報掲載告示第二號	
露西亞	旅券、寫眞、査證ヲ要ス（但シ九歳以下ノ者ニ適用ナシ） 旅券ニ下附官憲ノ證明記入ヲ要ス 漁業者（自己ノ船ニテ自己ノ漁區ニ到ル）ニハ新旅券規則ヲ適用セス 旅行ノ途次露國ヲ通過スル者ノ旅券査證ノ件 露國諸港ニ上陸セントスル外國船員ニ對スル證明書ノ件 芬蘭經由露國ニ赴ク外國人ハ特ニ在「ストックホルム」露國總領事ノ査證ヲ受クルヲ要ス	同大正四年六月二十四日附通合送第三四八號 同年六月二十五日官報掲載 大正四年九月十五日附通合送第四七二號 大正四年十月十六日在露本野大使ヨリ電報 同大正六年四月十七日附通合送第二六九號 同年四月十七日官報掲載 大正六年八月十八日官報掲載 大正六年八月九日官報掲載告示第二八號 大正五年二月八日附通合送第五三號	【編輯者】
墨西哥	旅券ヲ要スルノミ		

蘭領東印度	旅券ヲ携帶スルヲ便トスルモ査證ヲ要セス		【編輯者】
北米合衆國	旅券、査證ヲ要ス（米國通過者ヲ含ム）	大正五年九月二日官報掲載 同大正六年六月五日通合送第四三八號 年六月七日官報掲載	
布哇、比律賓群島（等ノ屬領地ヲ含ム）	米國諸港ニ赴ク船舶ノ船員ハ旅券又ハ國籍證書ヲ携帶スルヲ要ス 寫眞貼付ノ宣言書三通ヲ出發港ノ米國領事館ヘ二週間前ニ提出スルヲ要ス	大正六年十月五日官報掲載告示第三四號 同大正六年十一月十六日通合送第九七五號 年十一月十七日官報掲載告示第四〇號	
墨西哥	旅券、査證ヲ要ス	大正六年四月十七日官報掲載	

●商業使用人ノ英國渡航ニ關スル件

大正七年七月六日
規保調第一〇號警察部長
警察署　【警察分署】

英國ニ於テ發布セル外國人制限ニ關スル樞密院令ニ依レハ會社又ハ個人カ雇傭ノ爲外國人ヲ英國ニ入國セシメントスルトキハ豫メ同國勞働省ノ許可ヲ要スル旨ノ規定アリ該規定ハ本邦商店使用人ノ在英支店轉勤ノ如キ場合ニモ適用セラル、趣ニ付其旨會社又ハ個人ニ周知セシメ尙ホ此種商業使用人ヨリ英國行旅券下付出願ノ場合ハ英國勞働省ノ入國許可ノ有無ヲ調査副申スヘシ

●英國行旅券査證ニ關スル件

大正七年九月六日
規保調第二〇號警察部長
警察署　【警察分署】

英國政府ハ今回軍事監査官ナシテ旅券ノ事務ヲ取扱ハシムル制度ヲ設ケ本邦ニ於テモ本月二日官報記載外務省告示第十五號ノ通リ本月一日ヨリ之ヲ實施スルコト、ナリタルニ付今後英國及英領各地ニ渡航スル者ニ對シテハ旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際右告示ノ外尙左記事項ヲ無漏示達スヘシ

記

一、旅券ノ査證ヲ受クルニハ其ノ出發豫定日ヨリ少クトモ十四日前ニ自ラ最寄英國領事館ニ出頭シ一定ノ樣式ニ依ル査證願書（願書ノ用紙ハ領事館ニ備ヘアリ）正副二通ニ署名スヘシ

一、正副二通ノ査證願書ニハ最近ニ撮影シタル寫眞（旅券ニ貼付ノモノト同樣ノモノ）各一葉ヲ貼付スヘキモノニ付領事館ニ出頭ノ際ハ寫眞二葉ヲ用意スヘシ

一、査證願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘキモノニ付豫メ承知シ置クヘシ

（イ）姓名ヲ完全ニ（頭文字ニテ）

（ロ）妻ノ旅行ハ其ノ姓名及婚姻前ノ姓名並ニ出生地

（ハ）國籍出生地、出生年月日（若シ歸化セシモノナレハ元ノ國籍ト共ニ日付ト場所トヲ示セ）

（ニ）旅券ノ番號　下付　月　日

(ホ)職業
(ヘ)現旅行ノ目的
(ト)行先(宛ヲ書ク)
(チ)出發月日及船名
(リ)參考人　(ア)日本ニ於テ　(イ)行先ノ國ニ於テ
(ヌ)一九一四年八月以來如何ナル旅行ヲナセシヤ其ノ年月ヲ擧ケテ簡短ニ示スヘシ

寫眞

予ハ玆ニ上ノ記述カ眞ナルコト及予ハ英國查證ヲ請フ予ノ願ヲ多分容スル如キ何等ノ事實ヲ控ヘサリシコトヲ宣言ス

署名（旅券面ノ如シ）

年　月　日

（參照）

外務省告示第十五號（大正七年九月二日）

英國政府ハ軍事監查官ヲシテ旅券事務ヲ取扱ハシムル制度ヲ九月一日ヨリ本邦ニ於テモ實施スルコトト爲リタル趣ヲ以テ今般在本邦同國大使ヨリ該取扱規則ヲ送付越タルニ付左ニ其ノ要點ヲ摘錄ス

一、九月一日以後本邦ヲ去リテ他所ニ向ハムトスル英國臣民及英國領土ニ旅行シ又ハ英國領土內ヲ通過セムト欲スル他國民ハ其ノ旅券ニ付英國領事ノ通常ノ查證ノ外英國大使館附武官補佐官ノ職ヲ有シ在橫濱英國總領事館內ニ事務所ヲ有スル軍事監查官ノ查證ヲ受クヘキモノトス

二、英國臣民ニ非サル者カ英國領土ニ旅行シ又ハ英國領土內ヲ通過セムトスル場合ニハ必要ナル手續トシテ先ツ最寄ノ英國領事官ニ其ノ旅券ヲ提出スヘシ右領事官ニシテ出願者カ旅券ノ發給ヲ受クタル本人ニ相違ナキコトヲ認ムルニ於テハ一切ノ必要書類及關係報告ヲ具シ自ラ之ヲ軍事監查官ニ轉送スヘシ

三、前項旅券ノ提出ハ出發豫定期日ヨリ少クトモ十四日以前ナルコトヲ要ス

四、軍事監查官ハ旅券ニシテ查證差支ナキモノト認ムル時ハ自ラ之ニ裏書シテ之ヲ其ノ發送者タル領事官ニ返送スヘク該領事官ハ更ニ自ラ之ニ裏書シテ其ノ所有者ニ返付スルモノトス

五、軍事監查官カ右ノ如ク認ムル能ハサル場合ニハ其ノ裏書ヲ拒絕スル理由ヲ關係領事官ニ通知シ右領事官ハ之ヲ出願者ニ通牒スルモノトス

右規則ニハ左ノ例外ヲ認ム

一、船員ノ旅券又ハ緊急證明書ハ軍事監查官ニ照會スルコトヲ要ス

二、外交官又ハ他ノ高官ノ旅券ハ從來ト同一ノ條件ニテ英國大使館ニ於テ引續キ裏書スヘキモノトス

旅行者ハ出來得ヘクンハ橫濱ニ於テ其ノ查證ヲ受クヘシ

●英領海峽殖民地無旅券渡航者取締方ノ件

大正七年保調第四〇號

警察部（警察分部）

英領海峽殖民地政廳ハ外國人ノ取締ヲ嚴密ニセン爲メ外國人登錄條例ヲ改正シ本年六月ヨリ之ヲ實施シツヽアリ同改正條例ノ要點ハ(一)登錄者ノ移動ヲ常ニ明確ニスル爲メ登錄證明書ヲ交付シ(二)外國人ニシテ同殖民地外ニ出發セントスルトキハ其出發前七日以內ニ旅券又ハ右登錄濟證明書ニ警察官廳ノ裏書ヲ受シ(三)船舶ノ所有者代理人傭船主又ハ船長ハ前記裏書ヲ經タル旅券又ハ登錄證明書ヲ所持セサル者ヲ乘船セシムルコトヲ得ス等ニシテ右登錄證明書ハ素ヨリ登錄事項ノ異動並ニ外國人ノ出入ヲ審ニセントスルノ趣旨ニ過キスシテ現行ノ同地旅券規則トハ何等ノ關係ナキハ勿論登錄證明書ヲ所持スルニ依リ自由ニ同殖民地ノ上陸ヲ許サルヘキモノニアラス然ルニ右裏書ヲ經タル登錄證明書ヲ携帶スルニ於テハ同地ハ再渡航ノ際旅券又ハ國籍證明書ヲ有セサルモ自由ニ上陸ヲ許サルヽモノト誤解ヲ懷キ醜業婦其他不良ノ輩ニシテ在新嘉坡帝國領事館ノ在留證明ヲ得ルコト困難ナル者ニ在リテハ或ハ再渡航ノ目的ニテ該登錄證明書ヲ以テ露國スル者ナキヤヲ保セス且ツ實際船舶入港ニ當リ同地官廳ニ於テ寧ロ一二等船客ノ取調ヲ嚴ニシ三等船客ハ其數多キ爲メ或ハ旅券等ヲ檢閱スルコトナキ場合モ有之ニ乘シ醜業ヲ目的トスル婦女等カ三等船客トシテ本邦ヨリ渡航スルノ機會トナルノ憂アル趣ヲ以テ取締方其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之ニ付同地渡航者ニシテ單ニ右登錄證明書ヲ所持スルノ故ヲ以テ同地渡航ヲ保證セラレタルモノト思惟シ無旅券ニテ渡航スル者ナキ樣嚴重注意スヘシ

●英領香港旅券ニ關スル件

大正八年二月四日外務省告示第二號

英領香港政廳ハ本年一月十日附ヲ以テ新ニ旅券規則ヲ發表シ同日ヨリ實施セラルヽコト、ナリタル旨在同地鈴木總領事ヨリ報告アリタリ右旅券規則譯文左ノ通リ

旅券規則

第一條　十五歲以上若ハ十五歲以上ト認メラルヽ者ハ其ノ本國政府ニ依リ若ハ其ノ本國政府ニ代リ發給セラレタル旅券ヲ提示スルニ非サレハ香港ニ入國スルコトヲ得ス

第二條　前記旅券ノ發給若ハ書替ノ日附ハ旅券所持者ノ香港ニ到著ノ日ヨリ二箇年以內ナルヲ要ス

第三條　旅券所持者ノ英國臣民ニ非サル場合ニハ其ノ旅券ニ英國外交官領事官若ハ其ノ他ノ官憲ノ查證アルコトヲ要ス

第四條　旅券所持者ノ露國臣民ナル場合ニハ前條ノ查證ハ其所持者ノ香港渡航ノ目的ヲ以テ最初ニ出發スル國ニ於テ之ヲ受ケ且香港ニ向ケ乘船スル港又ハ土地ニ於テ更ニ之ヲ受ケサルヘカラス右查證ニハ旅券所持者ノ香港ニ入國スルコト又ハ查證ノ文面中ニ記載セラレタル目的地ニ赴ク爲香港ヲ通過スルコトニ對シ便宜ヲ與ヘラレタキ旨ノ明カニ推應狀ト見ラルヘキ文句アルコトヲ要ス

第五條　船長ハ本規則ニ違據セル旅券ヲ携帶セサル者ヲ香港領海內ニ搭乘スル事ヲ得ス

第六條　船長ハ若シ本規則ニ違據セル旅券ヲ携帶セサル者ヲ香港領海內ニ搭乘シタリト信スヘキ理由アルトキハ其ノ者ヲ船內ニ抑留セシメ直ニ其ノ旨ヲ警察長官ニ通告スヘシ

第七條　本規則ニ違反シテ何人カヲ香港ニ搭乘シタル船舶ノ船長又ハ船長不在ノ場合ニハ船主若ハ船舶代理人ハ香港民政長官ヨリ書面ヲ以テ通牒ヲ受クタル時ハ其ノ搭乘セル者ヲ其ノ船舶又ハ通牒ニ指定セル他ノ船舶ニ依リ同長官ノ指定スル場所ヘ搭去シ又ハ搭去セシムヘシ右ニ要スル費用ハ之ヲ香港政廳ニ請求スル事ヲ得ス

第八條　本規則違反ノ行爲ヲ援助シ若ハ援助セントスルコトヲ得ス

第九條　本規則ニ違反シタル者ハ速決裁判ニ依リ五百弗以下ノ罰金又ハ六箇月以下ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレ或ハ右罰金及體刑ヲ併科セラルルコトアルヘシ

第十條　本規則ハ之ヲ左記ノ者ニ適用セス

(一)官命ヲ帶ヒテ旅行スル英國陸海軍軍人

(二)支那人種ニ屬スル者

千九百十九年一月十日
香港政廳長官　エー、ジー、エム、フレッチャー

●同一旅券ヲ以テ數次往復シ得ヘキ地ヘ英領香港追加ノ件

大正八年三月十八日
規保調第九號警察部長

警察署（警察分署）

本月十二日外務省告示第三號ヲ以テ外國旅券規則第十三條ニ依リ同一旅券ヲ以テ數次往復シ得ヘキ地ヘ英領香港ヲ追加セラレタルニ付本月十二日以降ニ於テ下付セラレタル旅券ハ其ノ發給ノ日ヨリ滿三ケ年間數次往復シ得ヘキ義ト心得フルヘシ

●英領諸港ニ寄港スル船舶ニテ旅行スル者ノ旅券ニハ英國官憲ノ査證ヲ要セサル件

大正八年九月三十日
規保調第三三號警察部長

警察署（警察分署）

從來英領諸港ニ寄港スル船舶ニテ旅行スル者（英國船ニテ旅行スル者ヲモ含ム）ハ右諸港ニ上陸セサル場合ト雖モ其ノ旅券ニ英國官憲ノ査證ヲ要シタル處今般英國旅券規則緩和セラレタル結果今後其等諸港ニ上陸セサル場合ハ査證ヲ受クル必要ナキコトヽナリタルニ付該渡航者ニ對シ此旨注意ヲ與フヘシ

●英領香港再渡航者ニ關スル件

〔編冊者〕

大正八年十月七日
規保調第三四號警察部長

警察署（警察分署）

從來英領香港ニ渡航スル者ハ英國領事ノ査證ヲ受ケタル旅券ノ携帶ヲ要シタルモ同地在留者ノ本邦人カ商用其他ノ爲メ一時歸國シ短期間滞在ノ後再ヒ同地ニ渡航ヲ要シ正當旅券下付出願ノ手續ヲ爲ス暇ナキ場合ニ於テハ本人ノ願ニ依リ在香港帝國總領事ノ發給シタル本人ノ氏名、年齢、國籍、住所、職業及到着地等ヲ記載シ且ツ本人ノ寫眞ヲ貼付セル證明書ニ在本邦英國領事ノ査證ヲ受ケタルモノヲ携帶スルニ於テハ同地ニ上陸シ得ルコトトナリタルニ付該渡航者ニ對シテハ右趣旨ニ依リ取扱フヘシ

●英國新旅券査證規則ニ關スル件

大正八年十二月二十五日
規保調第四八號警察部長

警察署（警察分署）

英國政府ニ於テハ今回新ニ旅券査證規則ヲ左記ノ通リ制定セラレタルニ付英領諸港ニ寄港スル船舶ニテ旅行スル者ヲ除キ旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際左記事項無漏注意ヲ與フヘシ

記

英國新旅券査證規則ニ依レハ旅券ノ査證ハ(一)英國領土ヘノ特定旅行ニ對スルモノ(二)有效期間ヲ一年トシ該期間中隨意ニ英國領土内ヲ旅行シ若ハ英國領土ニ立寄ルコトヲ得ルモノノ二種トシ前者(一)ニ對シテハ手數料五シリング後者(二)ニ對シテハ一磅ヲ徵收ス

前者(一)ノ場合ニハ旅行ノ途中何レカノ國ニ滯在スルコトアルモ右滯在期間ニシテ二ケ月ヲ超ヘサルトキハ當該旅行ニ付更ニ査證ヲ受クルヲ要セス又前者(一)ノ場合ニモ後者(二)ノ場合ニモ當該旅券自體カ有效期間ヲ經過シテ無效トナリタルトキハ査證モ亦其ノ效力ヲ失フモノトス（了）

〔編冊者〕

●英領新嘉坡行（再渡航又ハ呼寄ハ）領事ノ在留證明書ヲ要スル件

大正八年四月二十二日
規保調第一四號警察部長

警察署（警察分署）

從來英領新嘉坡再渡航者等ニ在リテハ在新嘉坡領事ノ國籍證明書ノミヲ添付シ渡航出願ノ向モアリタル處職業婦取締ノ必要上今回在新嘉坡領事ヨリ別紙寫ノ通リ報告アリタル趣ヲ以テ取締方其筋ヨリ通牒ノ次第モアリタルニ付自今同地再渡航者又ハ在留者ノ呼寄ニ依リ渡航スル者ニ對シテハ其ノ願書ニ在新嘉坡領事ニ於テ在留又ハ呼寄ノ旨ヲ明記シタル證明書ヲ添付セシメ該渡航カ醜業ノ目的ニアラサルヤ否ヤニ付特ニ嚴重調査スヘシ

公第三〇號（寫）
大正八年三月十日

外務大臣子爵　内田康哉殿　　在新嘉坡領事　山崎平吉

歸朝者ヘ國籍證明發給ニ關スル件

海峽殖民地外國人登錄條例ヲ勵行シ登錄事項ノ異動並ニ外國人ノ出入ヲ明カニスル趣旨ニテ當該官憲ニ於テ登錄證明書ヲ發給スルコトトシ且登錄濟ノ外國人カ當殖民地外ニ出發セントスルトキハ其ノ登錄證明書ヲ警察官憲ノ裏書ヲ經タル後ニ非ラサレハ汽船會社ヲシテ乘船切符ヲ發賣セシメサルコトニ取扱居候次第ハ客年八月二十四日附公第一二二號ヲ以テ及報告置候處歸ヲ登錄ヲ爲ササル邦人ノ歸朝セントスル者（馬來半島内地又ハ濠洲ヨリ來リタル者等）昨今稍多ク而シテ當地官憲ハ此等ニ對シ登錄證明書ニ代ヘ當館國籍證明書ヲ提出セシムルコトニ致居尚又本年一月香港英國官憲ハ旅券規則ヲ發布シ同地ニ入港スル船客ハ其ノ上陸スルト早ニ通過スルトヲ不問出發地英國官憲ノ査證ヲ經タル旅券又ハ國籍證明書ヲ携帶スルヲ要スルコトニ規定シタル趣ニ有之候ニ付當地方ヨリ歸朝スル邦人ニシテ當館ニ國籍證明ヲ出願スル者漸次增加スヘシト被存而シテ此等歸朝者ニシテ再渡航ノ爲メ旅券願ヲナスニ當テハ其ノ所持スル國籍證明書ヲ呈示スルモノ可有之カト被察候

然ルニ管内在留民中醜業婦女甚多數ナル上ニ今尚種々ノ手段ヲ講シ醜業目的ニテ渡航又ハ呼寄セントスル徒輩モ不尠候ニ付取締ノ必要上凡テ再渡航又ハ呼寄ニ關スル在留證明願ニ付テハ嚴ニ取調ノ上確實ニシテ疑支ナキモノニ限リ之ヲ許可スルコトニ致シ前記國籍證明書發給ノ場合トハ取扱振ヲ異ニ致居候然レハ本邦地方官憲ニ於テ當方面再渡航（單獨又ハ他人同伴ニテ）又ハ呼寄ニ依ル旅券願ヲ處理スルニ當リ當館發給ノ再渡航又ハ呼寄事由ヲ明記シタル在留證明書ヲ提出スル者ニ對シテハ相當便宜ノ考量ヲ加フルト同時ニ早ニ前記ノ國籍證明書ヲ所持スル故ヲ以テ何等ノ特別ノ取計ヲ爲ササル樣致度候右爲念其向ヘ通牒方可然御取計相成度此段申進候　敬具

〔編冊者〕

●英領海峽殖民地行再渡航、呼寄同伴者ハ領事證明書ヲ要スル件

大正八年八月十六日
規保調第一四號ノ一警察部長

〔警察署（警察分署）〕

本年四月二十二日付規保調第一四號ヲ以テ英領新嘉坡渡航者ハ領事證明書ノ提示ヲ要スヘキ旨訓示シ置キタル處右ハ英領海峽殖民地（一名馬來半島）ヲ含ム義ト心得フヘシ

●醜業從事ノ虞アル者ニ對スル渡航取締方ノ件

大正九年一月二十八日
規保調第三號警察部長

警察署（警察分署）

英領馬來半島方面ヘ渡航スル醜業婦ノ取締方ノ件ニ付テハ客年四月二十二日付規保調第一四號ヲ以テ調示シ置キタル處今回又ヒ在新嘉坡領事代理ヨリ別紙寫ノ通リ外務大臣宛電請ノ次第モ有之趣ヲ以テ取締方其筋ヨリ通牒アリタルニ付今後英領香港、馬來半島、南洋諸島、英領印度方面ヘ渡航出願スル婦女ニ對シテハ渡航後醜業ニ從事スル虞ナキヤ否ヤニ付尚一層嚴重調査副申スヘシ

（寫）　東京著　大正八年十二月二十三日　山崎總領事代理

内田外務大臣

當内醜業婦取締ニ關シテ從來當地官憲ト打合ノ上海峽殖民地ニ於テハ新ニ醜業婦タルニ許サヽルコトニ實行シ來リタル處ヘナン官憲ハ邦人娼妓ニ對シ本月二十三日迄ニ廢業ヲ命シタルヲ以テ同地日本人會ニ命シ之等全部三十五名廢業後ノ處分法モ既ニ片付キタリ當地ニ於テハ當該官憲ト打合セノ上本官限リニ可然處置スルコトトシ本月二十日當地娼妓百七十五名全部ヲ集メ明年六月末限リ廢業スヘキコトヲ言渡シ且各人ニ就キ取調ヘタルニ大部分ハ期日迄ニ廢業引揚ノ準備アリ先滯無ク右實行出來ル見込アリ尚半島各地醜業婦問題ニ就テハ明年一月早々各地日本人會聯合會ヲ當地ニ開キ夫々考究スル筈然ルニ如何ハシキ婦女ノ本邦上海及香港ヨリ渡航又ハ密航スルモノ今尚絶エス此ノ際一層嚴ニ取締ヲ爲ス筈ニ付本邦地方廳ニテモ之等婦女ノ當方面渡航並ニ所謂自由渡航地タル上海渡航ヲモ充分取締相成樣可然御取計ヲ請フ尚ホ上海及香港ヘモ右取締方ニ就キ電報濟ミ

委細郵報ス

●英國行旅券査證ニ關スル件

大正九年三月十日
規保調第七號警察部長

警察署（警察分署）

從來英本國ニ渡航セントスル者ハ其ノ旅券ニ英國領事ノ査證ノ外在横濱英國軍事監査官ノ査證ヲ受クルコトヲ要シタル處今後ハ左記英國軍事占領地ニ赴ク者ヲ除キ英本國又ハ其ノ領土ニ渡航セントスル者ハ其ノ旅券ニ單ニ在本邦英國領事ノ査證ヲ受クルヲ以テ足リ同國旅券監督官（元軍事監査官）ノ査證ハ之ヲ要セサルコトヽナリタルニ付同國渡航者ニ對シテハ旅券交付又ハ渡航許可通知ノ際ニ於テ無漏此旨示達セラルヘシ

記

一　獨逸領土ニシテ英國軍事占領中ノ部分
二　パレスタイン
三　埃及
四　メソポタミア
五　土耳其
右

●英領馬來半島渡航者ニシテ領事證明書ヲ有セサル者ノ取扱方ニ關スル件

大正九年四月二十日
規保調第一三號警察部長

警察署（警察分署）

英領馬來半島渡航者ニシテ領事ノ發給シタル證明書ヲ要スル件ニ付テハ客年四月二十二日付規保調第一四號及ヒ同年八月十六日付規保調第一四號ノ一ヲ以テ調示致置キタル處右ハ絶對ニ領事證明書ノ提示ヲ必要トスル義ニ無之領事證明書ヲ有セサル者ト雖モ其身元、目的、確實ニシテ渡航後正業ニ從事シ生活ニ困難スルカ如キ處ナキ者ニアリテハ渡航許可差支無之ニ付向後同島渡航出願者ニシテ領事證明書ヲ有セサル者ニ對シテハ特ニ其ノ目的確否並ニ素行經歷等詳細調査副申セラルヘシ

●支店勤務ノ爲英國ヘ渡航スル店員ハ勞働省ノ入國許可ヲ要スル件

大正九年七月二十七日
規保調第三〇號警察部長

警察署（警察分署）

本邦商店ノ使用人カ在英支店ニ赴任ノ場合ハ英國勞働省ノ入國許可ヲ要セサル旨本年五月三十一日付規保調第一九號ヲ以テ調示シ置キタル處英國政府ニ於テハ其後間モナク之ヲ取消シタルニ依リ我政府ニ於テ本邦商店員ニ對シテハ右許可ヲ要セサル樣取計ハレ度旨交渉中ナル趣ナルモ之カ決定ヲ見ル迄ハ從前ノ通リ勞働省ノ入國許可ヲ要スヘキニ付右關係商社並ニ該渡航者ニ對シ此旨注意ヲ與フヘシ

●西貢經由旅券ニ佛國領事ノ査證ヲ要スル件

大正九年八月十九日
規保調第三一號警察部長

警察署（警察分署）

佛國及其ノ領土行旅券ニ佛國領事ノ査證ヲ要スル件ニ關シテハ大正六年二月十六日付調示甲第四號ヲ以テ調示シ尚同年六月二十日付保敬第六七三四號ヲ以テ通牒シタル處從來佛領西貢經由旅行者ニシテ其ノ旅券ニ佛國領事ノ査證ヲ受ケサル儘渡航スルモノ往々有之其都度同地名譽領事ノ斡旋ニ依リ例外的ニ上陸ヲ許可セラレ居タルモ今後ハ規則ヲ勵行スル旨佛國官憲ヨリ同名譽領事ヘ通牒アリタル趣キニ付テハ同地暑熱ニ慣ミ上陸ヲ控編セラルヽニ於テハ旅行者ノ苦痛少ナカラス、ニ付爾今西貢經由旅行者ニ對シテハ必ス其旅券ニ乘船地最寄ノ佛國領事ノ査證ヲ受クヘキ旨渡航許可又ハ旅券交付ノ際無漏指示セラルヘシ

●佛領印度支那渡航者ノ旅券ニ査證ヲ要スル件

大正九年十一月二十四日
規保調第四六號警察部長

警察署長（警察分署長）

佛領印度支那政府ハ向後乘船港駐在佛國官憲ノ査證アル旅券ヲ帶有スル者ニ非ラサレハ同地旅行者ノ上陸ヲ許可セサル旨主務省ヨリ通牒アリタル付同地渡航者ニ對シテハ此旨無漏指示セラルヘシ

●蘭領印度ヘ渡航スル船員ノ種痘及虎疫豫防注射證明ニ關スル件

大正九年十二月七日
規保調第四七號警察部長

警察署長（警察分署長）

蘭領印度ニ渡航スル船舶ノ船員ニシテ天然痘豫防ノ種痘ヲ五ヶ年毎ニ行ヒ又虎列刺豫防注射ヲ八ヶ月毎ニ行ヒタル港務醫師ノ證明書ニ自己ノ署名セルモノヲ所持スル者ハ船内ニ同病患者發生ノ場合ニ傳染病豫防ノ非常手段ヲ受ケサル上ニ於テ利益アル旨今回内務省衛生局長ヨリ通牒アリタルニ付同地渡航ノ船員及同方面ニ渡航スル船舶所有ノ會社又ハ船主ヘ此旨注意ヲ

與ヘラルヘシ

●南阿聯邦渡航願書ニハ上陸地名及出發豫定月日ヲ記載セシムル件

大正十年二月七日
規保調第三號警察部長
警察局長（警察分局長）

南阿聯邦渡航者ノ旅券下付ニ關シ當廳ヨリ外務省通商局長ヘ協議シタルトキハ外務省ヨリ渡航者ノ氏名等ヲ在「ケープタウン」帝國領事ニ通報シ同領事ヨリ豫メ同地移民官ノ承諾ヲ受クル規定ナルニ本邦人中往々「ダーバン」港ニ上陸スル者アリ爲メニ同領事ヨリ「ケープタウン」移民官ニ照會ノ上更ニ同地移民官ヨリ「ダーバン」移民官ニ移牒スル等二重ノ手數ヲ要スル趣ニ付今後同地渡航願書ニハ移民非移民共ニ其上陸地名並出發豫定月日ヲ記載セシムルコトニ取計ハルヘシ

●內地下付ニ係ル旅券携帶者ノ臺灣香港間數次往復ニ付注意方ノ件

大正十年六月二十三日
規保調第二四號警察部長

商業、漁業、其他職業ノ爲特定ノ地ニ數次往復スルヲ得ヘキ旅券ニ非サル一回旅行限ノ香港行移民專用旅券ヲ內地ニ於テ受ケタル者カ臺灣ニ歸來シ內地ニ歸國又ハ歸著ノ事實ナキヲ理由トシ同一旅券ヲ以テ臺灣香港間ヲ數次往復スル者有之由ノ處右ハ外國旅券規則第十二條ニ抵觸スルヲ以テ取締方其筋ヨリ照會アリタルニ付自今該渡航者ニ對シ一旦渡航シタル以上ハ假令臺灣ニ歸著ノ場合ト雖モ內地ニ歸國シタルト同樣旅券ヲ返納スヘキ旨渡

【調査】

航許可通知ノ際指示セラルヘシ

●英領ギルバート島及エリス島渡航手續ニ關スル件

大正十年十二月二十八日
規保調第四四號警察部長
警察局長（警察分局長）

南洋英領ギルバート島及エリス島渡航ニ關シ今回在本邦英國大使ヨリ左記ノ通リ通知アリタル趣ヲ以テ其筋ヨリ通牒アリタルニ付キ該地渡航者ニ對シ周知方取計ハルヘシ

記

一　元敵國人以外ノ外國人ニシテ英領「ギルバート」及「エリス」諸島殖民地ニ渡航セントスル者ハ檢分又ハ圖畫及身分ヲ確認スル書類ヲ携有シ且又英貨五十磅以上ノ所持金アルカ又同殖民地ニ於テ確實ニ職業及生計ノ途ヲ有スルコトヲ証在英國官憲ニ立證スルヲ要ス

●香港ニ一時上陸スル本邦人ニ對シ旅券查證廢止ノ件

大正十一年三月七日
規保調第五號警察部長
警察局長（警察分局長）

大正八年二月十二日付規保調第四號ヲ以テ英領香港ニ渡航シ又ハ同地ヲ通過スル者ハ英國官憲ノ查證ヲ受ケタル旅券ヲ携帶スヘキ旨調示致置キタル處早ニ香港ヲ通過スル本邦人ニシテ停船中見物等ノ目的ヲ以テ上陸スル者ニ對シテハ船泊ヲ變更セサル限リ英國官憲ノ旅券查證ヲ要セサルコトトナリタルニ付同地通過者ニ對シ此旨周知方取計ハルヘシ

【調査】

●獨逸出國者ノ携帶金額制限ニ關スル件

大正十一年五月四日
規保調第一四號警察部長
警察局長（警察分局長）

獨逸國旅行者ニシテ同國出國ノ際所定ノ許可ヲ得スシテ多額ノ金錢ヲ所持スル爲從來屢々國境ニ於テ事故ヲ生シタルコトアルニ鑑ミ將來能フ限リ是等事故ノ發生ヲ防止センカ爲今般同國政府ニ於テ右制限規定ヲ左記ノ通制定セラレタル趣ニ付今後同國渡航者ニ對シテハ旅券交付等ノ場合ニ於テ左記事項ヲ無漏指示セラルヘシ

記

一、出國ノ際許可ヲ要セスシテ各人カ携帶シ得ル金額ハ一箇月以內ニ三千馬克以下又ハ同額以下ニ相當スル外國貨幣ニ限ル

二、前項ノ制限ヲ超過スル金額ヲ携帶出國セントスル場合ハ獨逸國內ニ一定ノ住所ヲ有セス且ツ獨逸國ニ於テ納稅義務ヲ有セサル者ニ在リテハ同國大藏省ニ又旅行者ニシテ獨逸國內ニ住所ヲ有シ若ハ永續的居所ヲ有スル者ニ在リテハ右住所又ハ居所ヲ管轄スル稅務署ニ願出テ許可ヲ受クルヲ要ス

又外國ニ住所若ハ永續的居所ヲ有スル者ニ對シテハ國境稅關長ハ例外トシテ金屬貨幣ニ非サル限リ一萬馬克以下ノ貨幣又ハ同額以下ニ相當スル外國貨幣ノ國外持出ヲ許可スルコトヲ得

三、三千馬克ヲ超ユル貨幣ニシテ旅行者ノ携帶入國シタル者ニ對シテハ右旅行者ハ入國ノ際國境入國官廳ニ申請シ該金額ヲ携帶入國シタル旨ノ證明書ヲ得之ヲ國境出國官廳ニ呈示シ其許可ヲ得テ再ヒ國外ヘ持出スコトヲ得但シ右證明書ハ該貨幣カ同一國貨幣ニテ持出サルルモノニ非サルトキ及入國後四週間ヲ經過シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ此場合ニ於テハ銀行ヲ經テ貨幣ヲ發送スルモノニ非サル限リ右證明書ヲ出シテ同國大藏省ヘ願出國外持出ノ許可ヲ受クルコトヲ得

四、金屬貨幣ノ輸入及輸出ハ獨逸國輸出入監視委員ノ許可ナキ限リ之ヲ禁止ス

通過輸送若ハ旅行者ノ携帶輸入及再輸出ハ(一)稅關封緘ヲ施シ又ハ(二)第三項ノ證明書ニ基キ同項所要ノ條件ノ下ニ於テ之ヲ許可ス

五、露國留貨幣ハ紙幣硬貨共ニ獨逸國銀行ノ許可アルトキニ限リ輸入輸出若ハ通過輸送ヲ爲スコトヲ得

指圖證券小切手及爲替證券ニシテ千九百二十年十二月二十日及千九百二十年十二月二十二日ノ賚金逃竄防止法ニ照シ貨幣ト看做スヘキモノニ對シテハ「前記第一項乃至第三項ノ規定ヲ準用ス」

信用狀及所謂「チルクラールノーテン」(巡回手形)ニシテ權利者ノ署名ナキモノハ賚金逃竄防止法ニ所謂貨幣ト看做スコトナク從テ其ノ券面ニ記載セラルル金額ノ如何ニ拘ラス獨逸ヲ出國スル旅行者ハ何等職務官憲ノ許可無クシテ之ヲ國境外ヘ持ヲ出スコトヲ得

●門司下關兩港出發ノ英國及英領各地行旅券查證ニ關スル件

大正十一年六月十四日
保調第一四號警察部長
警察局長（警察分局長）

過般下關英國領事館引揚ノ爲メ門司及下關港ヨリ出發スル英國並ニ英領各地行旅券ノ查證ハ在長崎英國領事ニ於テ之ヲ行ヒツツアルモ便宜上在下關爪生商會內代辨領事ニ於テ查證願書及旅券ヲ受理シ之ヲ長崎領事館ニ送附シ同館ニ於テ查證ノ上直ニ右代辨領事ニ返送スルコトニ取扱ヒツツアリ然

ルニ之カ書面ノ往復ニ三日以上ヲ要シ尚特別ノ場合ハ多數ノ日子ヲ要スルコトアルニ付右便宜ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ少クトモ十日以前ニ自ラ下關代理領事ノ許ニ出頭シ旅券ト共ニ査證願書ヲ提出スヘキ旨指示セラルヘシ

●獨逸出國者携帶金額制限ニ關スル件

大正十一年七月二十四日
規保調第二三號警察部長
各警察署長（各警察分署長）

本件ニ關シテハ本年五月四日附規保調第一四號ヲ以テ調示致置キタル處右制限規程中獨逸出國ノ際許可ヲ要セシテ各人ノ一箇月以内ニ携帶シ得ル金額ノ限度三千馬克ヲ今後二萬馬克ニ變更セラレタルニ付自今獨逸渡航者ニ對シ此旨指示セラルヘシ

第一號

外國渡航者人員表　自大正　年一月　至大正　年十二月調

渡航地名	從來渡航人員		本年中渡航人員		本年中渡航地ニ於テ出生人員		本年中歸國人員		本年中渡航地ニ於テ死亡人員		年末現在留人員	
男女ノ別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計												

〔編輯者〕

本表ハ毎年末日ニ於ケル現在ヲ調査シ翌年一月末日限リ報告スルモノトス

本表ハ移民取扱人ト否トヲ問ハス總テ外國ニ渡航セシモノヲ計上スルモノトス

從來渡航人員トハ前年末ニ外國ニ在留スル者ヲ計上スルモノトス

〔編輯者〕

●英領香港、馬來半島露領西伯利其他南洋方面渡航婦女ノ取扱方ニ關スル件

大正十一年十月四日
規保調第三八號警察部長
各警察署長（各警察分署長）

首題ノ各地ニ渡航スル婦女ノ取締方ニ關シテハ從來屢々調示シタル處ナルカ近來會社、商店等ノ事務員店員病院ノ看護婦等妙齢婦女ノ單獨又ハ同伴ニテ同地方ヘ渡航出願スル者往々有之此等出願者中ニハ渡航先ニ於ケル風俗ノ事實確認シ難キモノアリテ處理上差支ヲ生スルモノ尠カラサルニ付自今此種ノ渡航出願者ニ對シテハ其願書ニ呼寄又ハ雇傭關係ノ書面ヲ添付セシメ若ハ止ムヲ得サル事情ノ爲之ヲ添付スルコトヲ得サル者ニ對シテハ出願者及關係人等ノ身元並ニ渡航ノ事情等ヲ特ニ詳細調査副申セラルヘシ

外國渡航者所得金調査表（大正　年分）

渡航地名	送金ノ方法										使用區別				備考
	外國郵便爲替行ニ依ルモノ	日本銀行爲替ニ依ルモノ	正金銀行爲替ニ依ルモノ	日本銀行爲替ニ依ルモノ	三井銀行爲替ニ依ルモノ	香港銀行爲替ニ依ルモノ	其他ノ銀行ニ依リ取扱ルモノ	歸國者ノ持歸リ金	歸國者ニ托セシモノ	計	貯金額	財物買入額	負債償還額	雜費額	計
	人員 金額	人員 金額	人員 金額	人員 金額	人員 金額	人員 金額	人員 金額	人員 金額	人員 金額	人員 金額	金額	金額	金額	金額	金額
北米合衆國															
布哇															
比律賓															
加奈陀															
浦鹽斯德															

雇稱渡航者ニシテ渡航期ニ限リナキモノハ適齢満年受檢前ハ許可セサルコト但シ事業雇傭其他止ムヲ得サルモノト認メタル場合ハ特ニ許可スルコト

●在本邦外國領事ト文書往復ニ關スル件

明治四十五年三月二十二日
調令第三號外務大臣

在本邦外國領事ヨリ直接貴官ニ對シ何等照會アリタルトキハ右ノ照會カ單ニ形式上ノ問題又ハ日常往復ノ事項ニシテ何等特殊ノ意味ヲ有セサル事柄ニ關スル場合ニ於テハ貴官ノ裁量ニヨリ其儘應答セラレ差閊無之候モ該照會ニシテ左記ノ事項ニ關スル場合ニ於テハ必ス本大臣ヲ經何ノ上ニテ同答相成可儘ト御心得相成度此段及調令候也

記

一外交ニ關係アル若ハ關係ヲ生スヘキ事項
一本邦ノ關稅及諸稅ニ關スル事項
一本邦ニ於ケル工貨生産愛原料品ニ關スル事項等外國ニ於テ我輸出品ニ對スル課稅率算出ノ材料トナルヘキ事項
一我農要輸出品重要工業製造業其他一般産業同盟ニシテ注意ヲ要スル經濟的事項
一本邦各地就中移民ニ關係多キ地方ノ衛生狀態並ニ移民ノ檢疫消毒等ニ關スル事項
一外國渡航者ニ對スル制限及取締並ニ旅券ニ關スル事項
一外國渡航者及歸國者ノ員數等ニ關スル事項
一其他一般注意ヲ要スヘキ事項ト思考セル件ニ關スル問合セヲ受ケタル場合

（調査者）

●無條約國ヘ渡航許可出願ニ對スル取扱方

明治四十二年九月四日
保發第一二九號

福岡縣知事照會

無條約國ヘ渡航許可ノ出願者アリタル場合ハ參テ御調査ノ趣旨ニ依リ許可セサルコトニ取扱居候處移民外ニ對シテハ斯ル禁止ノ條項モ無之ニ付キ旅券下付スルモ差支ナキモノト認ムルモ聊カ疑義ヲ生シ居リ候條貴官ノ御意見承知願度差掛リタル義有之候條折返シ何分ノ御回答相煩度此段及照會候也

通商局長回答（明治四十二年九月八日發第三八八二號）

本月四日付保發第一二九號ヲ以テ移民外ノ者ニシテ無條約國ニ渡航スル場合ニ之ニ對シ外國旅券ヲ下付スルモ差支ナキヤ否ヤ御照會ノ趣了承有ハ大體ニ於テ下付差支無之候ヘ共本件出願ノ事實詳細承知致度ニ付キ其出願人ノ身分職業並ニ渡航目的ノ確否等御調査ノ上旅券下付願書ト共ニ一應當省ヘ御協議相成度此段申進候也

（參照）

帝國ト條約ヲ締結セル國

清國、英國、佛蘭西、北米合衆國、埃及、ポートセット、暹羅、露國、墨國、墨太利、伊太利、西班牙、葡萄牙、丁抹、瑞典、諾威、和蘭、瑞西、希臘、ロマニア、ブルガリヤ、墨西哥國、伯剌西爾、秘露國、亞爾然丁國、エクアートル、智利國、ラプラード、安南

●在外帝國臣民ノ遺産取扱其他營業婚姻等ニ關スル飜譯證明書出願ニ關スル件

明治四十年五月十三日
福岡縣調令第二十三號

海外在留帝國臣民ノ遺産取扱其他營業婚姻等ニ關シ在本邦人又ハ外國在留者ニ對シ帝國官憲ニ委任狀身分證書免許證書等ノ飜譯證明書ヲ願出ル者ノ願書ニ添付スル書類ノ住所姓名等正確ナル字音ヲ能知モノ有之飜譯上不都合ヲ感スル場合鮮カラサル趣ニ付キ爾今右樣ノ願書受理ノ際ハ其住所氏名ニ假名ヲ附ケシムル樣取計ハルヘシ

（調査者）

●在外者ニ對シ說諭願出ニ關スル取扱方

明治四十一年十月二十一日
福岡縣調令第七十六號

警察者（警察分署）

本邦人ノ海外ニ在ル者ニ對シ其家族又ハ親戚等ヨリ生死或ハ所在不明ノ旨ヲ以テ保護又ハ歸國若ハ送金說諭方ヲ願出ツルニ當リ單ニ願書ノミヲ進達スル向アリ其願書ニ記述セル事項ハ多クノ場合ニ於テ頗ル粗漏杜撰ナル爲メ在外公館ニ於テ取調若クハ說諭ニ困難ヲ生スル場合尠カラス之カ爲メ願人ノ目的ヲ達シ得サルメサルコトアリ遺憾ノ次第ニ付キ爾今右樣ノ願書ヲ受ケタルトキハ所在捜査ノ材料其他參考トナルヘキ事項等詳細取調ノ上進達スヘシ

●制限地以外ノ各地渡航旅券下付出願者ニ對スル取扱方ノ件

大正八年十二月二十四日
規保調第四七號警察部長

警察者（警察分署）

近來海外渡航者ニ對シ一般ニ其取締ヲ嚴ニスルノ餘リ西伯利亞南洋方面等比較的我國ニ近通セル地方ニ渡航スル者ノ中ニハ內地ニ於テ旅券下付出願ノ手續ヲ履行スルノ煩ヲ避クンカ爲メ無旅券ノ儘目的地ニ渡航シ又ハ一旦旅券ヲ要セサル支那方面ヘ渡航シ同地方所在ノ帝國領事館ニ旅券ノ下付ヲ出願スル者尠カラサル趣ニテ是等ノ者ニ對シテハ當該領事館ハ或ハ原籍地ニ照會シ本人ノ身元調査ヲ爲シタル上旅券ヲ下付シ又ハ說諭ヲ加ヘ歸國セシメ居ル由ニ有之斯ノ如キハ本人及領事館ニ於テモ不便煩雜尠カラス又無旅券者ハ場合ニ依リテハ在留國ノ保證ヲ享クルコト能ハサルハ勿論其制裁ヲ受クルコトアリ延テ一般帝國臣民ノ信用ト信用トヲ毀損スル虞有之ニ付今後支那以外ノ諸外國ニ赴ク者ハ必ス本邦內地官憲ヨリ旅券ノ下付ヲ受ケテ出發セシムル樣取計フヘシ而シテ無旅券者ノ多キハ畢竟旅券下付出願者ニ對シ其旅行地ノ如何ヲ問ハス一律ニ取締ヲ嚴重ニシ又ハ調査ヲ遲延スルノ弊ニ原因スル處尠カラサルニ付以後海外渡航旅券下付出願者ハ其ノ地米合衆國、加奈太、布哇、比律賓群島、中米、南米、濠洲及南阿聯邦等所謂制限地ニ赴ク者ト然ラサル者トヲ區別シ制限地以外卽チ西伯利、南洋及印度方面ヘ渡航出願者ニ對シテハ可成煩雜ナル形式的手續ヲ省略シ出願人ニ於テ犯罪者浮浪者職業從事者又ハ生活ノ目途ナキモノ所謂漫然渡航セントスル者ニ非ラサル限リ簡易迅速ニ調査ヲ遂ケ願書進達セラルヘシ

●外國渡航者ノ徵集延期ニ關スル件

大正八年十二月二十七日
規保調第五〇號警察部長

警察者（警察分署）

外國在留者ニシテ從前ノ規定ニ依リ本年徵集猶豫ノ處分ヲ受ケタル者カ一時歸國シタル場合ニ於ケル徵集延期ニ付テハ左記ノ通リ心得フヘシ

記

一、大正八年外國ニ在ルノ故ヲ以テ徵集猶豫ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ其ノ處分後同年十二月一日前ニ歸國シ徵兵事務條例施行細則第百九十八

條ニ規定スル各號ノ事故ニ因リ同日前ニ出發スルコトヲ得ス同日以後渡航シ徴集猶豫ノ手續ヲ爲スモノニ付テハ特ニ同細則第二十一章第四款中一時歸朝者ノ例ニ準シ徴集猶豫ノ取扱ヲ爲ス

二、徴兵事務條例施行細則第百九十八條所謂一ノ汽船ニ乘船スヘク乘船手續ヲ爲シタルモ同船ノ收容不可能ノ爲メ乘船シ得サル爲メ所定ノ期日內(歸國後三十日以內)ニ出發スルコトヲ得サルニ至リタル場合ニハ同條第三號ヲ適用ス

三、外國渡航スル者ニシテ出發前官廳ニ於テ該渡航取締上施行スル疾病ニ關スル身體檢査ノ爲メ不合格ト爲リ所定ノ期間內ニ出發シ能ハサルモノニハ同條第四號ヲ適用ス

●徴集延期中ノ者ノ再渡航ニ關スル件

大正九年六月十一日
規保調第二三號警察部長

警察署　（警察分署）

本件ニ關シ兵庫縣知事ヨリ左記甲號當ノ通照會ニ對シ乙號當ノ通リ通商局長ヨリ回答アリタル趣ヲ以テ取扱方其筋ヨリ通牒アリタルニ付右ニ該當スル者ヨリ渡航許可又ハ旅券下附出願ノ場合ハ乙號當（通商局長回答）ノ趣旨ニヨリ取扱フヘシ

（甲號當）

保發號第二號

外務省通商局長田中都吉殿　　兵庫縣知事　有吉忠一

徴集延期中ノ者再渡航取締ニ關スル件

徴兵事務條例施行細則改正セラレタル結果同則第四款第百九十六條第二號ニ依リ身體檢査期（自四月十六日至七月三十一日）外ニ歸國シタル者ニ限リ

【編同書】

毎年三十日以內（上陸ノ日ヨリ出發ノ日マテ）一回限リ內地ニ滯在スルモノハ徴集延期ノ資格アルコト、相成候處若右身體檢査期內及一時歸國者ノ三十日ヲ經過シテ再渡航ノ爲旅券下付出願ノ場合之カ旅券ノ下付ヲ拒否シ可然哉尙延テハ徴兵適齡者ニシテ之カ忌避ノ無ナキモノニシテ渡航セムトスル場合モ之亦拒否スヘキモノト被認候モ願人ニ於テ旅券ノ下付ヲ受ケタル後ニ於テ徴兵檢査ヲ受ル希望ヲ有スルモノ有之候ヘ共新テハ檢査ノ結果願人ノ渡航ヲ中止セサルヘカラサル者可有之自然旅券ノ不用トナルヘキモノ有之本件取扱方ニ關シ疑義有之候條何分ノ義承知致度此段及照會候也

（乙號當）

通三發第三八八七號

大正九年六月七日

外務省通商局長　田中都吉

兵庫縣知事有吉忠一殿

徴集延期中ノ者等ニ對スル旅券下付取扱方ノ件

本件ニ關シ本年二月一日付保發第二號ヲ以テ御照會ノ趣キ了承元來旅券事務ト徴兵事務トハ全然別種ノ者ナルニ付旅券ハ出願人ノ徴兵關係ノ如何ニ不拘之ヲ下付スルモ差支無之候條左樣御承知相成度候然レトモ從來見角外國旅券ノ下付ヲ受ケタルトキハ之ニヨリ當然徴集延期ノ資格アルモノト誤解スルモノ有之候ニ付今後徴兵事務條例施行細則第百九十六條第一號所揭ノ身體檢査期內ニ於テ歸國シタルモノ同條第二號所揭ノ一時歸國者ニシテ三十日ヲ經過シ更ニ再渡航セントスル者又ハ滿二十歲以上ニシテ現ニ內地ニ於テ徴集延期中ノ者等ニ對シ外國旅券下附ノ際ハ各本人ニ對シ旅券ノ下附ヲ受ケタルノ故ヲ以テ徴集延期ノ資格アルモノト誤解スヘカラス徴兵關係ハ旅券關係トハ別種ノモノナルニ付徴兵關係ニ付テハ當該法規又ハ當該係官ニ付承知スヘキ旨篤ト御示諭相成度尙徴兵檢査ヲ受ケ不合格決定ノ

後出發スヘキ旨申立ツル者ニ對シテハ原則トシテ受檢後旅券ヲ下付スル樣致度尙出發日取等ノ關係上檢査前ニ旅券ヲ下付スルノ必要アル場合ニハ檢査前ニ下付相成差支無之候條右御承知ノ上可然御處理相成度此段申進候也

（終）

【編同書】

●海外渡航者ニ對スル講習實施ニ關スル件

大正九年九月二十一日
規保調第三四號警察部長

警察署　（警察分署）

今般海外渡航者ニ對シ其出發前出發港所轄縣廳ニ於テ渡航地ニ於ケル風俗習慣乃至禮式作法ノ大要ヲ習得セシムル爲乘船地長崎、兵庫、神奈川、三縣ニ對シ政府ヨリ已ニ渡航者講習費ヲモ配付セラレ講習所ヲ開設シ移民階級ニ屬スル者ハ再渡航者及ヒ講習能力ナキ幼者ヲ除クノ外ハ全部講習ヲ受クシムルコトトシ正當ノ理由ナクシテ該講習ヲ受ケサル者ニハ相當ノ制裁ヲ加ユルコトトナリタルニ付右渡航者ニ對シテハ渡航許可通達ノ際一々此旨指示セラルヘシ

●海外渡航者ノ講習期間ニ關スル件

大正九年十月十二日
規保調第三七號警察部長

警察署　（警察分署）

海外旅行者ニ對スル講習實施ニ關シテハ客月二十一日付規保調第三四號ヲ以テ調示致置キタル處之カ講習ヲ受クル爲メ特ニ郷里出發ヲ早ムルノ要ナク米國、加奈陀ヘ渡航スルモノハ身體檢査、渡航準備等ノ爲メ出發港ニ滯在スル期間內適宜一日若ハ其以上餘暇ヲ以テ講習ヲ受クシムルコトトシ又前記以外ノ諸外國ニ渡航スルモノモ苟通乘船三四日前ニハ出發港ニ出向スヘキヲ以テ其間ニ於テ講習ヲ受クヘキ旨指示セラルヘシ

●長崎港乘船海外渡航者ニ對スル講習ノ件

大正九年十月十九日
規保調第四〇號警察部長

所轄署長　（警察分署長）

長崎港出發海外渡航者ニ對シ同廳ニ於テ左記ニ準據シ講習實施スヘキ旨今回長崎縣ヨリ通知アリタルニ付當該渡航者ニ周知方取計ラハルヘシ

記

一、講習ノ場所
　長崎市外浦町海外渡航者檢査所內

二、被講習者
　再渡航者及十二歲未滿ノ者ヲ除ク北米合衆國、英領加奈陀、米領布哇、及比律賓群島行移民ノ全部トス

三、講習ノ日時
　本講習ハ出發前日曜祭日ヲ除キ四日間トシ當日ハ午前九時ヨリ正午迄三時間ヲ前後二回ニ別チ其間二十分ノ休憩時間ヲ設ケ而シテ特ニ必要ト認メ又ハ適當ノ講演者アルトキハ講習當日ノ午後約二時間ヲ限度トスル科外講演ヲ行フ

四、講習科目
　（一）會　話
　（二）風俗習慣
　（三）禮式作法
　（四）簡易ナル日常會話
　（五）地理及制度ノ概要

五、制　裁
　健康檢査ヲ出發前ノ二日間ニ之レヲ行フコトトシ講習ヲ檢査ノ前日

マヲ以テ面目ト定メ正式ノ手続ヲ講習ヲ受ケサリシ者ニハ館長校主ヲ経由シテ文部大臣ニ報告スルコトヲ得

開始期ヲ早メ又ハ延期シタル場合ニ於テハ館長校主ハ其ノ旨ヲ講習ノ開始期ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ得

●神奈川縣海外渡航者講習規程ニ關スル件

（明治大正昭和年月日　神奈川縣令第号）

神奈川縣海外渡航者講習規程ニ關スル件ヲ左記ノ通リ制定シ本年月一日ヨリ實施ノ旨同縣知事ヨリ通知アリタルニ付移民出願ノ初渡航移民ニ對シ渡航許可通知ノ際該講習規程ニ基キ必ス講習ヲ受クベキ旨厳重指示セラルベシ

記

第一條　神奈川縣海外渡航者講習所ヲ設置シ教育場ヲ以テ出願ス

第二條　講習期間ハ二日以上トシ一日ノ講習時間ハ三時間以内トス

第三條　講習課目左ノ如シ

一、外國在留同胞ト心得ノ概要

一、外國ノ風俗慣習ノ概要

一、外國語ノ初歩

一、家事ノ概要

一、生産衛生ノ概要

一、育兒法ノ概要

但シ課目ハ時宜ニ依リ變更スルコトアルベシ

第四條　講習ノ方法ハ口授トス

第五條　講習者ニハ別ニ定メタル教材ノ講習券ヲ交付ス

第六條　講習ニ關スル費用ハ之ヲ徴セス

第七條　本規程ハ十月一日ヨリ之ヲ施行ス

11寸五分

表	講習年月日	主事	印	講習者	氏名
面					

一、本講習ヲ了セサル者ハ渡航ヲ許可セス

一、アノ渡航ヲ許可セサル者ハ渡航ヲ禁止シ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ必要トスル者ハ又ハ渡航ヲ禁ス

●兵庫縣海外渡航者講習所規程ニ關スル件

（明治大正昭和年月日　兵庫縣令第号）

兵庫縣ニ於テハ本年十月十一日海外渡航者講習所規程ヲ別紙ノ通リ制定シ同日ヨリ實施ノ旨同縣ニテ通知アリタルニ付渡航者ニ對シ此旨一々指示セラルベシ

兵庫縣海外渡航者講習所規程

第一條　本所ハ海外渡航者ニ對シ必要ナル知識技能ヲ教育シ以テ目的トス本所ハ時宜ニ依リ海外移住又ハ就業ノ方法ヲ講習ス

第二條　講習期間ハ三日トス

第三條　講習ノ課目左ノ如シ

一、外國ノ風俗慣習ノ概要

一、外國語ノ初歩

一、家事ノ概要

一、生産衛生ノ概要

一、育兒法ノ概要

第四條　講習ノ方法ハ口授トス

第五條　講習者ニハ別ニ定メタル教材ノ講習券ヲ交付ス

第六條　講習ニ關スル費用ハ之ヲ徴セス

第七條　本規程ハ十月一日ヨリ之ヲ施行ス

海外渡航上ノ相談ニ應スルコトアルベシ

第二條　本所ハ兵庫縣海外渡航者講習所ト稱ス

第三條　本所ハ當分ノ内神戸市下山手通三丁目六十五番地二十二ニ置ク

第二章　入所退所

第四條　入所ヲ許スヘキ者ハ海外渡航許可ヲ受クルモノトス

但其他ノ者ト雖入所セシムコトアルベシ

第五條　入所セムトスル者ハ口頭又ハ書面ニテ申出ツベシ退所セムトスル者亦同シ

第三章　講習及訓令

第六條　講習ハ出帆前ニ於テ之ヲ行フ日時ハ所長之ヲ定ム

第七條　講習ハ之ヲ男子部女子部ニ分ツ

講習科目ハ所長之ヲ定ム

第八條　講習科ハ之ヲ教授セス

第九條　本所ニ訓令ヲ附設シ希望者ニ訓令ヲ授ケスコトアルベシ此場合ニハ受講者ヲ教授セス訓令ニ關スル所長之ヲ定ム

第四章　職員

第十條　本所ニ左ノ職員ヲ置キ知事之ヲ任免又ハ嘱託ス

所長一名　主事一名　書記一名　講師若干名

第十一條　所長ハ知事ノ命ヲ承ケテ一切所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス主事ハ知事及所長ノ旨ヲ承ケテ所務ヲ司ル

書記ハ所長及ヒ主事ノ命ヲ承ケテ庶務ヲ司ル

講師ハ知事及所長ノ旨ヲ承ケ所生教育ノ任ニ當ル

所務ニ關シテハ兵庫縣立學校職員規程ヲ準用ス

第十二條　職員ノ所務關係並所生心得ハ必要ニ應シ所長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

兵庫縣海外渡航者講習所内規（大正九年五月十一日制定）

一、規定第四條ニ依リ入所セシムヘキ者ハ當分ノ内左ノ要件ヲ具フル者

イ、ス但其渡航者及十二歳未滿ノ者ハ此ノ限リニアラス

ロ、移民又ハ移民ニ準ジ渡航者

ハ、北米合衆國、加奈陀、布哇又ハ北伯剌西ノ者

二、講習修了者ニハ左様式ノ證書ヲ交付ス

第　號
講習修了證
府縣
何　某
右ハ貴所ヲ定ノ科目ヲ講習シタルコトヲ證ス
大正　年　月　日
兵庫縣海外渡航者講習所長印

三寸

規程第六條ニ依リ講習日時ヲ當分ノ内左ノ通リ定ム

第一、出帆前三日間トス

第二、毎日午後二時ヨリ四時マテトス

講習科目

男子部

一、海外渡航者ノ心得　二、渡航先ノ風俗習慣
三、衛生　四、簡易ナル會話（都合ニヨリ缺クコトヲ得）
女子部
一、海外渡航者ノ心得　二、渡航先ノ風俗習慣
二、衛生　四、西洋家事
五、簡易ナル會話（都合ニヨリ缺クコトヲ得）

●長崎港乘船海外渡航者講習規程變更ニ關スル件

大正九年十二月二十日
規保調第四九號警察部長

警察局長（警察分局長）

長崎港乘船海外渡航者講習ノ件ニ付テハ本年十月十九日付規保調第四〇號ヲ以テ訓示シ置キタル處其ノ左記「中」第二項乃至第五項ヲ左記ノ通リ變更實施ノ旨今回長崎縣ニリ通知アリタルニ付キ長崎港乘船渡航者ニ對シ此旨指示セラルヘシ

記

一、被講習者
本講習ヲ受クヘキ者ハ再渡航者及十二歳未滿ノ者ヲ除ク海外移民ノ全部トス
但シ非移民其他ノ者ト雖モ入所ヲ許スコトアルヘシ
二、講習ノ日時　出帆前二日間トシ一日三時間乃至五時間トス
三、講習科目

（訓令第一号）

第五號ノ次ニ「但シ科目ハ時宜ニ依リ變更スルコトアルヘシ」ヲ追加ス

四、講習券　被講習者ニ左記樣式ノ講習券ヲ交付ス

表

第　號
講習券
府縣
氏名

裏

講習年月日
大正　年　月　日
長崎縣
主任印

●移民ニ對スル內地船車賃割引證ニ關スル件

大正十年一月八日
規保調第一號警察部長

警察局長（警察分局長）

客年十月二十五日鐵道省告示第九十九號ヲ以テ國有鐵道旅客及荷物運送規則並同規則取扱細則ヲ制定セラレ本年一月十一日ニリ實施セラルヽコトヽナリタル處從來外國行移民ニ對スル內地船車賃割引證ハ移民取扱人ニ於テ調製シ其ノ取扱ニ係ル移民ニ限リ交付シタヽアリシカ今回同規則第六十六條、第六十八條、並同規則取扱細則第七十八條、第七十九條ヲ以テ新ニ之カ取扱方ヲ制定セラレ該割引證ハ外國移民ノ分ハ外務省ニ於テ作製ノ上各府縣ヘ配付セラルヽニ付當廳ニ於テ同規則第七十八條第七號ニ該當スル移民ニ對シ渡航許可シタルトキハ其許可通知ト同時ニ規則第七十九條ニ依ル樣式ノ旅客運賃割引證ヲ送付スルヲ以テ右送付ヲ受ケタルトキハ直チニ之ヲ移民ニ交付シ受書ヲ徵シ左記第一號樣式ニ依リ報告シ尙移民カ疾病、死亡其他有效期間滿了等ニ依リ割引證ヲ使用セサルトキハ速カニ之ヲ當廳ニ返納セシメ第二號樣式ニ依リ又紛失毀損等ノ場合ハ直ニ其旨本人ニリ屆出シメ第三號樣式ニリ報告セラルヘシ

追テ割引證面ニ異動ヲ生シ（人員異動線路變更ノ場合）タルトキハ其者ニ於テ訂正交付シ紛失、毀損又ハ有效期間滿了ノトキハ再下付出願ノ手續ヲ爲サシメ其ノ事實ヲ調査報告セラルヘシ

第一號樣式

割引證番號	交付月日	渡航地名	乘船地名	渡航許可ヲ受ケタル者ノ住所	氏名年齡

第二號樣式

割引證番號	交付月日	渡航地名	乘船地名	返納月日	返納事由	渡航許可ヲ受ケタル者ノ住所氏名

第三號樣式

割引證番號	交付月日	渡航地名	乘船地名	紛失、毀損其他ノ事由	官廳ニ交付シタル者ノ住所氏名年齡	渡航許可ヲ受ケタル者ノ住所氏名年齡

備考　紛失等ノ場合ハ其年月日場所等ヲ詳記スヘシ

參考

移住者割引證取扱關係規則拔萃

第五編　交通　第七章　渡航、移住

（訓令第一号）

（一）國有鐵道旅客及荷物運送規則（大正九年十月二十五日鐵道省告示第九十九號）

第六十四條　前條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受クタル者ハ全行程ニ於テ同一列車又ハ汽船ニ乘車船スルコトヲ得サルモノトス

第六十六條　鐵道省指定ノ地ニ移住スル移民旅行ノ場合ニ於テハ一定ノ割引證ヲ收受シ三等旅客運賃ノ五割ヲ低減ス

前項ニ依ル旅客運賃ノ割引ハ移住地ニ至ル順路ニ關リ片道一回限リトス

第六十七條　第六十四條ノ規定ハ前條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受クタル者旅行ノ場合ニ之ニ準用ス

第六十八條　第六十六條ノ割引證ハ鐵道省所定樣式ニリ內務省、外務省、拓殖局ニ於テ之ヲ作製シ、市區、町、村役場又ハ警察署ニリ海外移民ニ在リテハ道、府、縣又ハ警視廳ニリ本人ニ交付スルモノトス

附則

本規則ハ大正十年一月十一日ニリ之ヲ施行ス

（二）國有鐵道旅客及荷物運送取扱細則（大正十年一月十一日ニリ實施）

第七十八條　規則第六十六條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受ケントスル者ハ左ノ如シ

一、北海道移民
二、樺太移民
三、朝鮮移民
四、臺灣移民
五、關東州移民
六、南滿洲移民
七、南米諸國、西印度諸島、大洋洲諸島（布哇及米領「アフム」ヲ除ク）

比律賓群島、臺灣、東印度諸島、英領海峡植民地移民

第七十九條　規則第六十六條ノ移民ニ對スル旅客運賃ノ割引證樣式ハ左ノ如シ

樣式

何々移住者タルコトヲ確認シテ本券ヲ交付ス

交付官署公印長

住所
職氏名
年齢

妻　年齢
父　年齢
母　年齢

何々移住者　割引證

内務省外務省又ハ拓殖局印

三等

何々行

大正　年　月　日

交付官署公印

右何人

第　號（急行料金ヲ要スル急行車船上長ノ車船室ニ乘ル場合ハ割引セス）

何々移住者汽車汽船運賃割引證

自　至

同　右　同　上　同　上　同　上

第　號

官公署　大正　年　月　日交付

同　右　同　上　同　上　同　上

同　右　同　上　同　上　同　上

取扱檢印

鉄路警吏人員異動ニ付書換交付ス

大正　年　月　日何

書換署

携帶心得

一、本證ハ一家族中移住スヘキ者ニ對シ一枚（割引證切取片ノ後分ハ之ヲ切離シ各家ノ分ノミヲ携帶セシム）ヲ交付スルモノトス

但家族多數ニシテ割引證切取片ニ不足ヲ生スルトキハ二枚以上交付スル事アルヘシ

二、本證ハ他人ニ讓渡又ハ貸與スルコトヲ得サルモノトス

三、本證ヲ携帶スルモノハ移住者ノ爲メニ設クラレタル特典ヲ享ケ得ルモノトス

四、本證ハ詐欺又ハ詐稱ノ目的ヲ以テ其他

五、本證記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ所在官公署ニ本證ヲ提出シテ再交付ヲ受クルコトヲ得ルモノトス

六、官公吏ニ於テ移住者取扱上本證ノ一覽ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

七、本證ヲ使用セサルトキハ速カニ交付ヲ受クタル官公署ニ返付スヘキモノトス

八、本證ノ有效期間ハ交付ノ日ヨリ六十日間トス

九、本證使用濟ノ上ハ移民出發港ノ縣廳ニ返付スヘキモノトス

員ニ差出シ割引證ノ切取ヲ受クルモノトス

●移民ニ對スル內地船車賃割引證交付ノ件

大正十年六月八日
規保調第二〇號警察部長

本件ニ關シテハ本年一月八日付規保調第一號ヲ以テ訓示シ置キタル處一旦割引證ノ交付ヲ受ケテ出發シ乘船地ニ於テ身體檢査不合格ノ爲メ渡航スルコトヲ得ス歸郷治療ノ上再ヒ出發スル移民ニ對シテハ其ノ乘船地々方長官ヨリ本人カ前ニ出發ノ際身體檢査不合格ノ爲乘船スルコトヲ得サリシ旨ノ證明書ヲ得テ之ヲ提出スル者ニハ之ト引替再ヒ割引證ヲ交付スルニ付今後割引證交付ノ際此旨懇篤指示シ置カルヘシ

第六編　產業

農業
畜產
森林
狩獵
漁業
無盡　有價證券割賦販賣
度量衡
暴利取締

第六編　産業

第一章　農業

●保證票ヲ添附スヘキ肥料

大正二年六月十二日
福岡縣令第二十五號

肥料營業者ハ左記ノ肥料ニ保證票ヲ添附スヘシ

記

一、塩芥灰
一、塩芥塩肥
一、液肥骸骨肥料

大正十四年四月十六日
福岡縣令第二十六號

肥料營業者ハ左記肥料ニ保證票ヲ添附スヘシ

一、粋灰副生加里肥料

●不良精米取締ニ關スル件

大正八年一月三十一日
規保第三號警察部長

今般縣令第四號ヲ以テ警察規則第一條第二號中「其他ノモノ」ヲ追加セラレタルハ近來販賣ノ用ニ供スル精米ニ石粉ヲ付著セシメ充分ナラサル精米ヲ上白米ニ見セシメ同時ニ精米ノ量ヲ增加セシメ以テ不正ノ利益ヲ得ントスルモノ漸ク多ク甚シキニ至テハ一俵ノ精米ニ石粉一升乃至一升三四合ヲ付著セシメ一俵ノ價額ニ四拾錢内外ノ差ヲ來スモノアリ取締上看過ス可カラサルモノト認メ如上ノ如ク追加セラレタル次第ニテ畢ニ石粉ノミナラス之レニ類似ノモノヲ付著セシムルモノアル場合ニ於テモ同樣取締ヲ爲スノ趣意ニ有之候條此際精米並ニ米穀販賣等ノ當業者ニ對シ此旨ヲ諭示シ能ク之レヲ周知セシメ違反者ナカラシムル事ニ努メ同時ニ尙且違反スルモノニ對シテハ相當處分スル等取締上遺憾ナキヲ期セラルヘシ

警察部

第二章　畜產

●牛馬商取締規則ニ關スル屆出手續其他ノ件

明治四十四年三月二十日
福岡縣令第十五號

明治四十三年十二月農商務省令第二十七號牛馬商取締規則ニ關スル屆屆手續其他ノ件左ノ通定ム

（別記樣式）用紙美濃紙　牛馬賣買交換周旋帳簿

賣買交換又ハ周旋年月日	牛馬別	種類	性	年齢	毛色	代價	賣買交換周旋當事者ノ住所氏名

牛馬商取締規則ニ關スル屆屆手續其他ノ件

第一條　牛馬商取締規則ニ依ル屆屆書類ハ總テ所轄警察官署ニ差出スヘシ

第二條　牛馬商取締規則第六條ニ依リ調製スヘキ帳簿ハ別記樣式ニ依ルヘシ

第三條　牛馬商取締規則第九條ニ依リ返納スヘキ免許鑑札ハ所轄警察官署ニ差出スヘシ

●牛馬商取締規則施行心得

明治四十四年三月十七日
福岡縣訓令第十一號

改正　明治四十四年訓令第四四號、四五年第三六號

警察署（警察分署）

第一條　牛馬商ノ免許ヲ願出ヲル者アルトキハ牛馬商取締規則第二條ノ規定ニ照シ精密ナル調査ヲ遂ク不都合ナキ者ニ限リ別記樣式ノ鑑札原簿ニ番號、營業種目、住所、身分、氏名及年齢ヲ記入シ免許鑑札ヲ下付スヘシ

第二條　牛馬商營業願ヲ拒否スルノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事實ヲ調査シ一件書類ヲ進達スヘシ

第三條　牛馬商取締規則第二條第一號但書ニ依リ營業ノ免許ヲ與ヘントスルトキハ其ノ事實ヲ調査シ具申ノ上指揮ヲ待ツヘシ

第四條　牛馬商取締規則第七條ニ依リ免許鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ願出ツル者アルトキハ事實ヲ調査シ其ノ相違ナキモノニ限リ鑑札原簿ニ記入シ更ニ免許鑑札ヲ下付スヘシ

第五條　牛馬商取締規則第八條ニ依リ免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事實ヲ具シテ報告スヘシ

第六條　左ノ場合ニ於テハ鑑札原簿ニ返納年月日及其ノ事由ヲ記入シ免許鑑札ヲ破毀スヘシ

一　再渡又ハ書換ヲ爲シタルトキ

二　免許ヲ取消サレタルトキ

三　免許ノ效力ヲ失ヒタルトキ

四　廢業シタルトキ

第七條　免許鑑札ハ下付概數ヲ見積リ豫メ請求スヘシ

（別記樣式）用紙美濃紙　牛馬商免許鑑札原簿

鑑札番號	下付年月日	再渡年月日	返納年月日	再渡返納ノ事由	住所	身分	免許人氏名	年齢

●家畜市場法ニ關スル件

大正七年五月十五日
保規訓第四號警察部長

警察署（警察分署）

家畜市場法第七條ニ依レハ屠肉販賣ノ目的ヲ以テ家畜ノ買入レヲ爲スモノハ市場外ニ於テ賣買ヲ禁セラレ居レリ然ルニ屠場法施行規則第三條第二號ニ該當スヘキ切迫屠殺ヲ必要トスル場合ト雖モ尚市場法第七條ニ準ルヘキヤニ付疑義ヲ生シタル態ヲ以テ行政署長ヨリ稟申アリタルニ就テハ爾今別紙內務部長通牒ニ依リ取扱ハルヘシ

官

農第二二二九號

大正元年十二月二十日

各郡市長宛

內務部長

家畜市場ニ關スル件依命通牒

家畜市場法第七條第一項但書ニ依リ許可セラルヘキ場合ヲ左ノ通リ指定候條御諒知相成度尙右事項以外ニ於テ必要ト認メラルヽ場合ハ豫メ當廳ノ指揮ヲ受ケ御處理相成度

記

一、戰役又ハ事變ノ際當該官廳ノ命ニ依リ軍用家畜ノ賣買ヲナス場合

一、軍隊宿營ノ際メ又ハ船舶ニ於テ食ニ供シ肉ノ需用アルトキ之カ受負ヲ爲シ家畜ノ賣買ヲ爲ス場合

一、負傷其他疾病ニ因リ特ニ家畜市場ニ牽出シ難ハサル家畜ノ賣買ヲ爲ス場合

右

●馬疫豫防心得

明治四十二年十二月
福岡縣告諭第一號

第一　本疫ハ主トシテ牧放期節中ニ多發スルモ他ノ期節ニ於テモ往々發病シ又放牧セサル使役馬ニモ發生スルコトアリ

第二　本疫ノ傳播ハ病馬及治癒不全ナル快復馬ノ媒介ニ基クモノニシテ殊ニ軍事移動ノ爲潮大東北地方ヨリ南方ニ蔓延スルノ傾向アリ

第三　本疫ノ豫防ニ關シ馬匹所有者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ實行スルヲ要トス

一、本疫ノ初期ニ十分ノ手當ヲ施ストキハ治癒ノ望ナキニ非サルヲ以テ平素馬匹ノ容態ニ注意シ聊タリトモ異狀ヲ發見セハ直ニ獸醫ノ診察ヲ受クルコト

二、凡テ馬匹ノ健康ヲ增進スルハ豫防上緊要ナルヲ以テ施行地ニ於テハ飼料飲料ニ注意シ成ルヘク滋養物ヲ給シ飲料水ヲ選ムコト本ハ養蚕ノ

後飲用セシムレハ最モ可ナリ

三、病馬ハ勿論快復馬ト雖念劇ニ使役スルハ宜シカラス之カ爲病勢ヲ增進シ又ハ再發ノ虞アルヲ以テ成ルヘク長ク休養セシムルコト

四、本疫流行地ニ於テ買入レタル馬匹ハ獸醫ヲシテ檢査セシメ尙成ルヘク一、二箇月間隔離觀察シ其ノ健全ナルヲ認メタル後ニ非サレハ在來ノ馬匹ト混同シ又ハ同一放牧場ニ放ツサルコト

五、本疫ノ發生セル原野ニハ他ノ健馬ヲ放牧セサルコト

六、共用放牧場ニ於テ本疫發生シタルトキハ病馬ハ直ニ廐舍ニ收容シテ手當ヲ爲シ殘餘ノ放牧馬モ成ルヘク廐舍ニ牽入ルヽヲ可シトス若廐舍ニ牽入ルヽコト能ハサルトキハ放牧ノ僅一、二箇月間殿直ニ觀察シ獸醫ヲシテ時々健康診斷ヲ行ハシムルコト

七、本疫流行地ニ於テハ成ルヘク虻蠅蝨ヲ避クヘキ手段ヲ講スルコト

八、全治ノ見込ナキ重症病馬又ハ快復後體質不良ニシテ到底使役ニ供シ難キモノハ成ルヘク撲殺スルコト

九、馬體、排泄物、廐舍、器具等ハ總テ消毒ヲ行フコト

糞便及敷藁ハ安全ナル場所ニ堆積シ約四尺立方積ニ達スルノ後土ヲ以テ之ヲ覆ヒ二箇月間醱酵セシメタル後肥料ニ供スコト

廐舍等ノ消毒ニハ熱油汁、石灰乳等ノ消毒藥ヲ用フルコト

屍體ハ深ク埋沒スルコト但シ皮膚ハ職メ體積シ父多見「クレシン」等ノ悪臭消毒藥ヲ注キ發酵ヲ防クコト

第四　本疫流行地ノ產馬組合等ニ於テ規約ヲ定メ左ノ事項ヲ實行スルトキハ職防ノ效果一層大ナルヘシ

一、放牧原野殊ニ入會地ハ適當ニ區劃シ亂牧ヲ禁スルコト

二、放牧地ニ於ケル排水ノ便ヲ圖ルコト

三、獸醫ヲシテ隨時放牧馬ノ健康診斷ヲ爲サシムルコト

四、本疫流行地ヨリ他ニ轉出スル馬匹ニハ獸醫ノ健康證明書ヲ添付シ又流行地ヨリ購入スル馬匹ハ必ス獸醫ヲシテ檢査セシムルコト

五、各流行地ニハ隔離病舍ヲ設クルコト但シ隔離病舍ハ成ルヘク人家及放牧地ヨリ遠サカリ且相當ノ設備ヲ爲スコト

病症說明書

傳染性貧血　俗稱ぶらり病

本病ハ馬屬固有ノ傳染病ニシテ放牧地ニ於テ蔓延シ易ク主ニ放牧季節ニ流行スルモ合併ノ馬春冬ノ季節ニモ發生スルコトアリ病性頑固ニシテ治療ニ難ク死亡率ハ百頭中四十乃至七十ニ達ス

病毒ノ本體ハ尙不明ナレトモ病馬及快復馬ノ血液及內臟中ニ存スルコトハ試驗ニ依リテ證明セラレタリ乃チ血液ヲ健馬ニ注射スルカ又ハ之ヲ嚥下セシムルトキハ五六日乃至二十三日平均二週日ノ後ニ發病ス

〔傳染法〕　ハ未タ詳カナラス佛、獨ノ研究者中消化器傳染ニ重キヲ置キ病毒ニ汚染セル廐舍、飼槽、水槽等ノ媒介ニ依リテ傳染スルモノト信シ或ハ昆蟲類ノ媒介ニ因ルト唱フルモノアリ

一部落ヨリ他ノ部落ニ傳播スルハ常ニ病馬ヲ移轉スルニ由ル殊ニ本症ニ罹リテ一時症狀ノ減退セル馬ハ轉賣セラレ易キヲ以テ甚タ危險ナリ

〔症狀〕　本病ノ特徵ハ疲疲寒冒等ノ原因ナクシテ發熱シ心悸、脈搏ニ異狀ヲ來タシ漸次貧血ニ陷リ高度スルモ食慾多クハ減損セス

通常畜主ノ目ニ觸ルヽノ症狀ハ大略左ノ如シ

病馬ハ廐舍內ノ一隅ニ佇立シ頭ヲ垂レテ沈鬱シ毫モ身飾ノ事ニ注意セス使役中ハ倦怠疲勞シテ發汗シ易ク步樣蹣跚タリ放牧地ニ於テハ他ノ馬群ト離レ頭ヲ垂レテ沈鬱スルヲ見ル此際檢溫スレハ概ネ三十九度以上四十一二度ノ高熱ヲ示シ脈數ハ增加シ平素四十搏內外ノモノ五六十乃至七八十ニ增加シ甚シキハ百內外ヲ算ス手ヲ左胸壁ニ當スレハ心悸ノ亢進セルヲ觸知ス或ハ其ノ部ニ於テ心臟ノ鼓動ヲ目視ス又下頸部ニ於テハ屢々頸動脈ノ搏動スルヲ見ル眼、鼻、口ヲ開キ其ノ粘膜ヲ檢スルニ概シテ黃色ヲ帶フ病ノ初期ハ黃疸色若ハ淺赤色ニシテ黃色判然セサルコトアルモ一度貧血ニ陷リタルモノハ顯著ノ黃白色ヲ呈スルヲ特徵トス此色彩ハ殊ニ結膜ニ著シク且結膜ハ眼瞼ト共ニ多少浮腫スルモノ多シ又結膜及鼻粘膜ニハ細小ノ血斑ヲ生シ顏面頸部、胸腹下部四肢等ニ浮腫ヲ見ルコト多シ

更ニ精密ニ診査シ且排泄物ニ注目スルトキハ左ノ症狀ヲ發見スヘシ

頸間部ニ輕微ノ腫脹アルモ腺疫ニ於ケルカ如ク甚シカラス且熱痛ヲ帶ヒス

腰部ノ知覺ハ鈍クシテ尾ニ力ナシ

呼吸ハ增加スルコトアルモ打診及聽診上著シキ異常ナク肺ハ健全ナルヲ常トス

心臟ノ鼓音昇ハ擴張シ心音ニモ屢々異狀ヲ認ム例之貧血性雜音、心音ノ重複濁鬼聲、間歇等ノ如シ

糞ハ褐色ノ小塊ヲナシ青草ノミヲ食スルモノニ在リテハ多シモ然ラス往々下痢スルモノアリ尿量ハ增加スルヲ常トス兩シテ發熱中並ニ重症ノ貧血ニ陷リタル馬ノ尿ハ概ネ多量ノ蛋白ヲ含有ス尿ニ膿汁ヲ加ヘテ黃沸スレハ絮狀ノ沈澱ヲ生ス

畜主ノ注意如何ニ因リテ病馬ノ發見ニ遲速アリ隨テ發見當時ノ容態一樣ナラサルハ論ナシ然レトモ初期ノ症候ハ輕々看過セラレ多クハ既ニ慢性ニ陷リ顯著ノ貧血ヲ呈シ或ハ已ニ疲倒シ斯ル病馬ニ於テハ循環器ノ異狀ヲ主トシ熱候ハ缺如スルコトアリ

心臟ノ異常ハ運動後殊ニ顯著ナリ試ニ病馬ヲ廐舍ヨリ牽出スニ概シテ步行ヲ厭ヒ馳走ニ耐ヘス後體ニ力ナク步樣蹣跚トシテ脚ハ震搖シテ踵跌シ易ク暫時運動セシムレハ速ニ倦怠疲勞シ脈搏ヲ加フルニ非サレハ一步モ前ムコトヲ肯セサルニ至ル運動後左胸壁ヲ望メハ心臟部ノ跳動盛ニシテ聽診上ハ心臟部ノ搏動モ亦旺盛ナリ脈數ハ屢々百以上ニ達シ容易ク元數ニ復セス呼吸モ亦促迫ス此際最明瞭ニ異常ノ心音ヲ聽取シ得ルモノトス

輕症又ハ恢復中ノ馬ヲ驅使スル場合ニ於テモ亦前記ノ症候ヲ認ム版時ヲ登ラシムル時殊ニ甚シ

〔經過〕　病症ニ由リ發病後數日ニシテ斃ルルモノアリ或ハ數箇月ニ彌ルモアリ因テ本病ヲ急性、慢性ノ二症ニ區別ス

急性症　高熱持續シテ顯著ノ循環器障碍ヲ呈シ脈ハ百內外、食慾ハ振ハス粘膜ノ出血、諸部ノ浮腫、水腫ヲ發シ數日ノ後斃ルルヲ常トス

本症ハ概ネ貧血ノ徵候ヲ缺キ結膜、鼻粘膜等ハ却テ充血シ屢々斑點ヲ生ス兩モ尙ホ一種ノ黃色ヲ帶フルハ慢性症ニ同シ或ハ此期ニ於テ早ク既ニ貧血トナリ體重減却シ其ノ四分一乃至三分一ヲ失フモノアリ

慢性症　ニ在リテハ熱ハ一旦發生スルモ一二日若ハ數日ニシテ分利シ元氣食慾ヲ回復シ暫時健康狀態ヲ示スモ其後數日(七日乃至二週日)ヲ隔テテ更ニ再三發症スルモノトス之カ爲メ病馬ハ漸次貧血ニ陷リ痩削シ衰弱ノ極起立ニ耐ヘス褥創心臟麻痺等ノ爲メ斃ル又慢性經過中病勢頓ニ增劇シ急ニ死スルモノアリ又幸ニシテ病勢衰フレハ全治セサルニアラサルモ恢復期遲延シ久シク羸痩スルモノ多シ或ハ五六箇月乃至七八箇月ノ後更ニ發症スルモノアリ三四歲ノ馬ニ於テハ屢々其ノ發育ノ障碍セラルルヲ見ル

初回ノ熱候減退後ハ外觀全タ病前ニ異ナラス粘膜ノ黃色及血斑亦多クハ消散シ疾跡ヲ留メサルニ至ル只鼻粘膜ノ大血斑ハ壞死シテ潰瘍ニ變スルモノ多シ

再三發作ヲ反復スルニ隨ヒ粘膜漸次黃白色ニ變ス

食慾ハ發熱時ヲ除クノ外殆ント平日ニ異ナラス糞尿ノ性狀ハ前ニ述フルカ如シ

脈數ハ常ニ五六十以上ニ居リ心悸亢進數動變調ヲ呼吸數ハ增加ヲ疲勞倦怠發汗ヲ易ク力役、馳走、負重ニ耐ヘス殊ニ後躯ニ力ナシ

浮腫ハ屢々增減消長シ創傷ハ癒合シ難シ

熱候ノ間歇スル數皮及無熱期ノ長短ハ一樣ナラサルモ通常十日乃至十四五日ヲ隔テテ發病シ極熱期一日乃至三日ニシテ二三回ノ發作ヲ呈スルモノ最多ク五回以上ニ及フハ稀ナリ

血液ハ稀薄ニシテ其ノ凝固ハ緩慢不全ナリ之ヲ試驗管ニ受ケテ靜置スルトキハ赤血球ハ速ニ沈澱シテ管底ニ集リ其ノ上ニ多量ノ黃白色軟凝塊ヲ生シ血漿ノ分離不良ナリ赤血球層ノ容積ハ健馬ニ在リテハ血液全量ノ十分ノ四以上ナルヲ常トスレトモ本病馬ニ在リテハ十分ノ二、五以下ニ居ル又健馬ノ血液ハ一立方「ミリメートル」中ニ約六七百萬箇ノ赤血球ヲ算フルモ本病馬ニ在リテハ其ノ數三四百萬若ハ一百萬以下ニ減ス此他白血球、小血板等ニモ多少ノ異狀ヲ見ル

勞働、放牧、不適當ノ飼養管理法ハ本病ノ再發ヲ促シ經過ヲシテ不良ナラシム寄生蟲及合併症モ亦本病ノ經過ニ不良ノ影響ヲ及ホスモノナリ

〔剖檢〕　本病ノ屍體ニ於テハ熱ト貧血トノ結果タル循環器系統血液製造器ノ變狀、臟器實質ノ變性ノ外特種ノ病的變狀ヲ見サルヲ常トス

急性症ノ屍體ハ概シテ敗血症ノ變狀ヲ呈ス血液ハ暗色濃厚ニシテ凝固不全ナリ此他皮下粘膜漿液膜殊ニ心臟ノ內外膜、腎臟、腸粘膜等ノ出血皮下及心嚢水腫心肝腎ノ濁腫急性脾腫、淋巴腺ノ腫脹、充血又ハ出血骨髓出血等ヲ主要ノ變狀トシ腸寄蟲ニハ水腫若ハ大出血ヲ見ルコトアリ慢性症ノ屍體ニ於テハ水腫、出血、實質炎、脾腫、淋巴腺肥大ノ外大貧血ヲ呈シ皮下血管ハ血液ニ乏シク大血管內ニハ少量ノ凝集血球ヲ交ヘタル黃白色ノ血漿又ハ黃白赤色ノ軟凝塊ヲ含有ス

臨場中變狀ノ最著シキハ心臟ニシテ屢々極度ノ脂肪變性ヲ呈シ脾臟及肺門ノ淋巴腺腫肝臟鬱血、脂化及白血性浸潤ノ如キモ亦屢々遭遇スル變狀ナリトス

大貧血ノ外著明ノ解剖的變狀ヲ見サル場合モ亦診シトセス

〔類症〕　本病ト最モ誤診セラレ易キハ血斑病、白血病、流行性感冒「ボルナ」病其ノ他內臟寄生諸症ナリ或ハ老衰使役過度、慢性胃腸病、榮養不良其ノ他症候輕微ノ慢性病ニシテ本病ノ疑ヲ起サシムルモノナキニアラス

血斑病ハ概ネ腺疫ニ繼發シ大腫脹、大出血ヲ呈ス「コロイド」銀ノ注射ニ應シ血液ニ傳染力ナク屍體ニ於テハ淋巴腺ノ腫脹又ハ其ノ周圍組織ノ浸潤ヲ見ル

白血病ニ於テハ血液ニ特異ノ變狀アリ

流行性感冒ハ屢々大流行ヲ來タシ熱ノ間歇ヲ呈セス其ノ屍體ニ於テハ肺臟及呼吸器ノ他部ニ變狀ヲ見ル

他ノ諸症ハ各自ノ症候ニ據リテ容易ニ鑑識スルヲ得

〔診斷〕　本病ノ診斷上最難シトスル所ハ其ノ經過ニ徴候、間歇アリテ症候ノ消退後ハ一見殆ント健康ト異ナル所ナキニ在リ故ニ症候不全ノ場合ニハ一回ノ檢査ニ依リテ輕シク否認ノ斷案ヲ下スヘカラス必ス一定ノ期間經過スルヲ要ス他ノ合併病アルトキハ殊ニ然リ

疲勞倦怠發汗シ易ク榮養不良ニシテ粘膜ノ血色ニ乏シキ減ハ之ニ黃色ヲ帶フルモノ脈數五十以上ノモノ輕微ノ運動ニ因リテ脈搏增加シ心悸亢進シ易キモノ時々沈鬱スルモノ他ニ異狀ナクシテ體溫ノ高キモノ浮腫血斑ヲ呈スルモノ放牧中馬群ニ離ルルモノ步樣跛行シテ尾ニ力ナキモノ等ハ本病ノ疑アルヲ以テ他ノ馬匹ト隔離シ一二箇月間觀察スヘシ但シ觀察中ハ時々運動ヲ課シテ心機變調ノ有無ヲ檢スルヲ要ス

診斷ニ疑アルトキハ試驗管沈澱法ニ依リテ赤血球層ヲ檢シ又ハ屢ノ糞尿糞檢査、死後剖檢等ヲ要ス

特異ノ熱候間歇シ心悸亢進失常シ、粘膜黃白色ヲ呈シテ試驗管ニ受ケタル赤血球層十分ノ二以下ニ居リ他ニ特殊ノ病徵ヲ呈セサルモノ本病ト鑑定シテ可ナリ

●畜牛結核病豫防法施行細則

明治三十六年十月二十三日
福岡縣令第四十九號

改正　大正五年縣令第二〇號、一五年第七五號

第一條　畜牛結核病豫防法ニ關シテハ明治三十四年(四月)法律第三十五號畜牛結核病豫防法及明治三十六年(五月)農商務省令第四號畜牛結核病豫防法施行規則ニ據ルノ外本則ニ據ルヘシ

第二條　畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ施行規則第四條第五條ノ檢査期日及場所ノ指定アリタルトキハ三里以上ノ距離アルモノニ限リ其前日ニ其他ハ指定ノ時刻前ニ檢査場ニ畜牛ヲ牽付シ置クヘシ

第三條　施行規則第七條第一項ノ屆出ヲナサントスル場合ニシテ畜牛ノ疾病ニ罹リタルトキハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ニ係ルトキハ詳細ニ其事由ヲ具シ屆出ツヘシ

第四條　畜牛他廐舍ヲ毀損喪失シタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ速ニ所轄市役所町村役場ニ屆出テ斃死屠殺等ニ依リ其效用消滅シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第五條　施行規則第十二條ノ許可ヲ得ントスルモノハ其事由方法及場所ヲ記シタル書面ニ變更場所ノ圖面ヲ添ヘ檢査員ニ差出スヘシ

第六條　施行規則第二十五條ノ屆ニハ「ツベルクリン」應用ノ年月日時分量所有者又ハ管理者ノ住所氏名頭數成績及陽性反應ヲ呈シタル畜牛ノ處置ヲ記スヘシ

第七條　施行規則第二十九條ニ依リ化製裝置ノ認可ヲ受ケントスルモノハ興治三十六年福岡縣令第四七號化製營業取締規則ニ準據スヘシ但同則ニ依リ認可ヲ受ケタルモノハ更ニ本文ノ手續ヲ要セス

第七條ノ二　施行規則第二條第四條第五條第七條第十一條第二十四條中ノ官廳又ハ公署ハ市役所町村役場トス

第八條　第四條ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

●畜牛結核病豫防法取扱手續

大正五年五月二十五日
福岡縣訓令第十四號

改正　大正一五年訓令第七六號

畜牛結核病檢査員　市役所　町村役場

明治三十六年十月福岡縣訓令第七一號畜牛結核病豫防法取扱手續左ノ通改正ス

畜牛結核病豫防法取扱手續

第一條　施行規則第二條第一項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ檢査期日二十日前ニ第二項第三項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其郡廳第一號樣式ニ依リ報告スヘシ

第二條　施行規則第三條第一項但書ニ依リ檢査ノ必要ヲ認メタルトキハ其事由ヲ詳記シ地域及頭數ヲ具申スヘシ

結核病ニ罹リ若ハ其疑アル畜牛ヲ發見シタルトキ又ハ施行規則第二十五條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ直ニ第一號樣式ニ依リ理由ヲ附記シ報告スヘシ

第三條　施行規則第四條第三項第五條及第七條第二項ニ依リ檢査日時及場所ヲ指定スルトキハ豫メ報告スヘシ

施行規則第二條ニ依リ屆出ヲ受ケタル市役所、町村役場ニ於テ其畜牛ノ檢査場他ノ管轄區域ニ屬スルモノアルトキハ屆出期限後五日以內ニ第一

號樣式ニ依リ其檢査場所在地ノ市役所ニ通知スヘシ

施行規則第二條第二項第三項ノ屆出アリタルトキ亦同シ

他ノ市役所、町村役場管轄區域内ノ畜牛ニ對シ檢査ノ日時及場所ヲ指定セムトスルトキハ其市役所、町村役場ニ通知シ之カ指定ヲ求ムヘシ

第四條　畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ對シ檢査ノ指定ヲ爲ストキハ檢査期日五日前ニ第二號樣式ノ指定書ヲ交附シ領收書ヲ徵スヘシ

第五條　施行規則第六條ノ禁止又ハ制限ヲ必要ト認ムルトキハ其理由ヲ具シ申報スヘシ

第六條　檢査員檢査ヲ終リタルトキハ五日以内ニ施行規則第九號樣式ニ準シ檢査ノ成績及其狀況ヲ報告スヘシ

第七條　他ノ管轄區域内ノ畜牛ニ對シ檢査ヲ行ヒタルトキハ檢査終了後直ニ其成績ヲ管轄市役所、町村役場ニ通知スヘシ

第八條　施行規則第十一條第一項ノ屆出ヲ受ケタルトキ及耳標ノ毀損喪失ヲ發見シ又ハ毀損喪失ノ虞アルトキハ直ニ其旨報告スヘシ

畜牛健康證ノ毀損喪失ノ屆出ヲ受ケ又ハ之カ返納ヲ受ケタルトキハ直ニ報告スヘシ

第九條　施行規則第十七條但書ノ認可ヲ請フ者アルトキハ警察官廳所轄ノ區ヲ認可ヲ與フヘシ

第十條　警察官廳又ハ檢査員ニ於テ施行規則第十九條第二十條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ直ニ報告スヘシ

獸醫タル檢査員ニ於テ前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ處置方ヲ指示スヘシ

施行規則第十二條ノ許可ヲ與ヘタルトキハ直ニ報告スヘシ

第十一條　市役所、町村役場ニ於テ評價人ヲ命スル必要アリト認ムルトキハ施行規則第二十二條ニ定メアルモノヽ内ヨリ選擇シテ其住所又ハ官職氏名ヲ具申スヘシ

第十二條　施行規則第二十五條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其都度報告スヘシ

第十三條　施行規則第三條第三項ノ檢査ヲ請求スル者アルトキハ其事由及種類用途年齡頭數ヲ具シ報告スヘシ

第十四條　施行規則第三十條ノ願出ヲ受ケタルトキハ理由ノ年月日及檢査ノ事由ヲ調査シ當廳ノ指揮ヲ受クヘシ

第十五條　市役所、町村役場ニ於テハ毎年一月末日迄ニ所管内檢査ヲ受クヘキ畜牛ヲ調査シ第三號樣式ニ依リ報告スヘシ

第一號樣式

畜牛調査書

郡市町村

種類	年齡	毛色	用途別	飼養地	所有者管理者住所氏名

備考

本調書ハ一頭毎ニ各欄ノ區別ニ從ヒ記入スヘシ

種類欄ハ内國種雜種外國種及牝牡ノ區別ヲ記入スヘシ例ヘハ外國種牝雜種牡等ト記スルカ如シ用途別欄ニハ種用乳用役用肉用等ノ別ヲ記入スヘシ

第二號樣式

第號

住所　氏名

右所有(管理)畜牛何頭畜牛結核病豫防法ニ依リ檢査ヲ受クヘキ期日及場所左ノ通指定ス

年　月　日

何市長、何郡何町村長　氏名

一期日　月　日午前　時

一場所　何郡何町村大字　何市何町　何番地

又ハ何々牛乳營業場

面

四寸六分

注意

一檢査ヲ受クヘキ畜牛ニシテ三里以上ニ距離アルモノハ表面檢査期日ノ前日ニ其他ハ指定ノ時刻一時間前ニ檢査場ニ牽付クヘシ

二正當ノ事由ナクシテ檢査ヲ受ケサルモノハ畜牛結核病豫防法ニ依リ百圓以下ノ罰金ニ處セラルヘシ

三檢査ニ際シ畜牛牽付及檢査場繫留中ニ要スル飼料等ノ費用ハ所有者又ハ管理者ノ負擔ニシテ檢査ハ二日間ニ亙ルコトアルヲ以テ豫メ用意スヘシ

裏面

第三號樣式

畜牛現在調査書

市町村名

町村名	乳用牛		種牡牛		役用牛	肉用牛	計
	外國種雜種	內國種	內國種雜種	外國種	外國種	外國種	
	頭						

診斷書ヲ添ヘ更ニ屆出ツヘシ

●輕症結核病ニ罹リ又ハ其疑アル畜牛ノ屠肉取締ニ關スル件

明治三十六年十月
衛發第九六八號

輕症結核病ニ罹リ又ハ其疑アル畜牛ノ屠肉取締方ニ關シ別紙寫ノ通リ衛生局長ヨリ通牒有之候條爾來右ニ依リ御取締相成度依命此段及御通牒候也

內務省衛生局長通牒（明治三十六年六月衛甲第三九號）

今般農商務省令第四號ヲ以テ畜牛結核病豫防法施行規則發布相成候處同規則第二十一條第一項ニ依リ指定シタル地域ニハ結核ノ昇進上危害ノ虞アル疾病ニ罹リ若クハ不良屠肉モ可有之ニ付其販賣ノ用ニ供スルト否トヲ問ハス凡テ從來縣令ヲ以テ發布相成居候食用肉又ハ鮑獸等ニ關スル取締規則ニ依リ相當御處理相成度依命此段及通牒候也

●獸醫師法施行細則

昭和二年十一月十日
福岡縣令第九十七號

獸醫師法施行細則左ノ通定ム

獸醫師法施行細則

第一條　獸醫師法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第七條ノ屆出ニハ左ノ各號ヲ具スヘシ但シ本縣內ニ於ケル變更ノ屆出ニハ免許證寫ヲ要セス

一、本籍氏名
二、前住所
三、現住所
四、變更年月日

五、獸醫師免許證寫

第二條　規則第八條ノ開業ノ屆出ニハ診察所治療所又ハ出張所ノ場所開業ノ年月日及出張所ノ診察治療期日並時間ヲ具スヘシ但シ他府縣在住者ニシテ新ニ本縣ニ於テ開業スル場合ハ免許證寫ヲ添付スヘシ

休業若ハ廢業シタルトキハ其ノ年月日ヲ診察治療所又ハ出張所ヲ變更シタルトキハ變更ノ場所及其ノ年月日ヲ屆出ツヘシ

第三條　規則並本細則ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ住所地ノ市役所又ハ町村役場ヲ經由スヘシ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年福岡縣令第一號獸醫規則ハ之ヲ廢止ス

●獸醫師法取扱手續

昭和二年十一月十日
福岡縣訓令第三十八號

獸醫師法取扱手續左ノ通定ム

獸醫師法取扱手續

第一條　市町村長獸醫師法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ獸醫師法第一條第二項又ハ附則第八項規定ノ資格證書ト對照シ正當ト認ムルトキハ申請書末尾ノ餘白ニ資格取得年月日及資格證書檢閱濟ノ旨ヲ附記シ署名捺印ノ上進達スヘシ

規則第三條第二項ノ申請アリタルトキハ新資格證ト對照シ前項ニ依リ取扱フヘシ

第二條　前條ノ申請者ニシテ獸醫師法第二條及第三條各號ノ一ニ該當セサル者ナルトキハ其ノ旨證明ヲ附シ竝當スル者ナルトキハ別紙ニ當該事實ヲ詳記シ實見ヲ附シテ進達スヘシ

第三條　市町村長獸醫師法施行細則第一條ニ依ル縣外ヨリ轉入者ノ屆書ヲ受理シタルトキハ本免許證ト對照シ正當ト認メタルトキハ其ノ旨ヲ附記シ市役所又ハ町村役場ハ左記樣式ノ表帳ヲ備ヘ變更ノ都度之ヲ整理スヘシ

原籍地	縣	郡	市	町	村	大字	香地
現住地	縣	郡	市	町	村	大字	香地
年月日生	年	月	日				
登錄番號	第	號	免許證交付年月日	年	月	日	
登錄年月日	年	月	日				
資格及其ノ取得年月日	昭和	年	月	日	縣	郡	市	町	村	大字	香地
	昭和	年	月	日	縣	郡	市	町	村	大字	香地
	昭和	年	月	日	縣	郡	市	町	村	大字	香地
開業ノ場所及屆出年月日											
業務ノ停止其ノ事由期間及年月日											
免許證再下付其ノ事由及年月日											
登錄抹消事由及年月日											
備考											

●獸醫假免許出願取扱手續

大正十五年七月一日
福岡縣訓令第六十五號

獸醫假免許出願取扱手續左ノ通定ム

獸醫假免許出願取扱手續

第一條　獣醫假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ獣醫缺乏ノ地ニ限リ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歴書ヲ添ヘ當廳ニ具申スヘシ

一、營業區域
一、區域内廣袤
一、同地勢
一、同牛馬頭數
一、營業年限
一、近傍同業者トノ距離

第二條　獣醫假免許期限ヲ經タルモ尚ホ獣醫ニ乏シキ場合ニ於テハ此手續ニヨリ更ニ假免狀ノ下付ヲ具申スルヲ得

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●蹄鐵工規則

昭和二年七月十六日
廳令第七十一號

蹄鐵工規則左ノ通改正ス

蹄鐵工規則

第一條　蹄鐵工開業シタルトキハ遅滯ナク免狀寫ヲ添ヘ左ノ事項ヲ知事ニ屆出ツヘシ

一、住所氏名生年月日
二、開業年月日
三、開業場所
四、出張所ヲ設クタルトキハ其ノ設置年月日位置並出張定日

第二條　蹄鐵工ニシテ前條ノ屆出後其ノ屆出事項ニ異動ヲ生シ又ハ廢業シタルトキハ遅滯ナク屆出ツヘシ

其ノ死亡ノ事實アリタルトキハ戸籍法ニ依ル屆出義務者ニ於テ遅滯ナク知事ニ屆出ツヘシ

第三條　蹄鐵工ハ免狀ヲ有セサル者ヲシテ其ノ業務ヲ代理セシムルコトヲ得ス

第四條　蹄鐵工代理人ヲ置キタルトキハ遅滯ナク其ノ住所氏名生年月日ヲ知事ニ屆出ツヘシ其ノ屆出事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條　蹄鐵工ハ装蹄箒ヲ備ヘ使用ヲ廢シタル日ヨリ二箇年間之ヲ保存スヘシ

装蹄箒ニハ牛馬ノ區別創蹄装蹄ノ區別其ノ年月日及畜主ノ住所氏名料金ヲ記載スヘシ

第六條　前條ノ帳簿ニ對シテハ當該官吏又ハ吏員ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條　蹄鐵工ハ創蹄装蹄ニ關スル料金ヲ依頼者ノ見易キ場所ニ掲クヘシ

第八條　蹄鐵工ノ工場ハ左ノ標準ニ依ルヘシ但シ土地其ノ他ノ狀況ニ依リ衛生上其ノ他危害ヲ生スルノ虞ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一、装蹄場ハ面積四坪以上ニシテ地盤ノ表面ハ石材煉瓦又ハ「コンクリート」ト爲シ其ノ上ニ厚板ヲ張ルヘシ

二、地盤ハ適當ノ排水溝ヲ設ケ糞尿其ノ他ノ汚物ヲ一定ノ溜ニ導キ常ニ消潔ヲ保持スヘシ

三、汚物溜ハ飲用井戸等ヨリ三間以上人家道路ヨリ適當ノ距離ヲ保チ内外ニ粕藥ヲ施シタル瓦又ハ石材煉瓦「コンクリート」等不滲透質ノ材料ヲ以テ造リ適當ノ覆蓋ヲ設クヘシ

第九條　蹄鐵工一定ノ區域ニ依リ蹄鐵工組合ヲ設置セムトスルトキハ規約ヲ定メ知事ニ屆出ツヘシ

第十條　蹄鐵工組合ノ規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一、目的及事業ノ種目
二、名稱區域及事務所位置

三、役員ノ名稱權限及選任並解任ニ關スル事項
四、會議ニ關スル事項
五、加入及脱退ニ關スル事項
六、經費收支ノ方法
七、違約者處分ニ關スル事項
八、規約變更ニ關スル事項
九、解散ニ關スル事項
十、前各號ノ外必要ナル事項

第十一條　蹄鐵工組合ハ左ノ場合ニ於テハ遅滯ナク知事ニ屆出ツヘシ

一、會議ヲ開カムトスルトキ
二、會議ノ決議アリタルトキ
三、役員ノ異動アリタルトキ
四、規約ヲ變更シタルトキ
五、組合ヲ解散セムトスルトキ

第十二條　規約違反ノ組合員ニ對シ處分ヲナシタルトキハ遅滯ナク氏名事實並ニ處分ノ要項ヲ知事ニ屆出ツヘシ

第十三條　蹄鐵工組合ノ規約若ハ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ規約ノ變更決議ノ取消又ハ役員ノ改選若ハ解散ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條　第一條乃至第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年縣令第二號蹄鐵工規則ハ之ヲ廢止ス

本令ノ規定ニ適合セサル現在ノ蹄鐵工場ハ本令施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ本令ノ規定ニ適合セシムヘシ

●蹄鐵工假免許出願手續

大正十五年七月一日
縣問題調令第六十三號

市役所　町村役場

蹄鐵工假免許出願取扱手續左ノ通定ム

蹄鐵工假免許出願取扱手續

第一條　蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ蹄鐵工乏シキ地ニ限リ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歴書ヲ添ヘ當廳ヘ具申スヘシ

一、營業區域
一、區域内廣袤
一、同地勢
一、同馬匹頭數
一、近傍同業者トノ距離

第二條　蹄鐵工假免許期限ヲ經タルモ尚ホ蹄鐵工ニ乏シキ場合ニ於テハ此ノ手續ニヨリ更ニ假免狀ノ下付ヲ具申スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三章　森林

●森林法施行規程

明治四十一年九月六日
福岡縣令第四十五號

改正　明治四四年縣令第四四號、大正一五年縣令第九號

第一條　森林法第十六條ニ據リ保安林ノ編入解除ヲ申請セントスル者ハ森林法施行規則第七條ノ申請書ニ圖面及第一號樣式ノ調書（編入ノ場合ハ編入調書解除ノ場合ハ解除調書）ヲ添付シ之ヲ差出スヘシ

第二條　森林法施行規則第十條ノ屆書ハ左記各號ニ依リ之ヲ調製スヘシ

一、森林所有者ノ變更　第二號樣式
二、地番ノ分合　第三號樣式
三、地形又ハ林相ノ異動　第四號樣式

前項第一號、第二號、ノ屆書ニハ土地ニ關スル登記簿ノ謄本ヲ添付スヘシ

第三條　保安林ハ一箇所（編入調書ノ一筆）毎ニ施業ヲ爲スヘシ

但シ其保安林ノ目的ヲ害セサルトキハ二箇所以上ノ保安林ヲ合併シテ一施業ヲ爲スコトヲ得

第四條　保安林ノ伐採ハ擇伐法ニ依リ點狀群狀若クハ列狀中適宜ノ方法ヲ用フヘシ但保安林ノ目的ヲ害セサル程度ニ於テ林種ノ改良其他必要ナル場合ハ皆伐ヲ爲スコトヲ得

第五條　保安林毎年ノ伐採區域ハ輪伐齡ヲ以テ立木地全面積ヲ除シタル商ノ三倍ヨリ小ナルコトヲ得ス

第六條　保安林毎年ノ伐採面積ハ輪伐齡ヲ以テ立木地全面積ヲ除シタル商ヲ超ユルコトヲ得ス但施業上ノ便宜ニ依リ需條ニアリテハ十箇年以内樣ニアリテハ五ヶ年以内ノ隔年作業ヲ行フコトヲ得

第七條　保安林ノ輪伐齡ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

薪　林	三十年以上
矮　林	十年以上
中　林	上木ハ三十年以上下木ハ十年以上
竹　林	三年以上

第八條　保安林ニ於テ木竹ノ伐採傷害又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採掘又ハ家畜ノ放牧ヲ爲サントスルトキハ擇伐ニアリテハ第五號樣式皆伐ニアリテハ第六號樣式傷害又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若クハ採掘ニアリテハ第七號樣式家畜ノ放牧ニアリテハ第八號樣式ニ依リ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三條ニ依リ二箇所以上ノ保安林ヲ合併シテ一施業ヲ爲サントスルトキハ第九號樣式ニ依リ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　保安林ニ於テ保育ノタメ必要ナル木竹ノ伐採又ハ枯損木竹、危險木竹、若クハ支障木竹ノ伐採ヲ爲サントスルトキハ第五號書式ニ準シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　伐採ヲ禁止セラレタル保安林ニ於テ保育ノタメ必要ナル木竹ノ伐採又ハ枯木竹、損木竹、危險木竹及支障木竹ノ伐採ヲ爲サントスルトキハ第十號樣式ニ依リ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　保安林ニ於テ下草、落葉、其他ノ雜產物ノ採取ヲ爲サントスルトキハ其個所、面積、採掘採取物數量、種類、作業期間等ヲ詳具シ知事ニ屆出ツヘシ

第十二條　森林法第二十五條第一項ノ規定ニ據リ保安林ノ編入ニ關シ木竹ノ伐採ヲ停止スル必要アルトキハ其個所及停止期間ヲ定メ之ヲ告示ス

第十三條　前條停止期間內及森林法第十條第二項ノ場合ニ於テ木竹ノ伐採ヲナサントスルモノハ第五號樣式ニ準シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條　保安林ニ木竹ヲ植栽セントスルトキハ其個所、面積林況、種類、長數、期間ヲ詳具シ三十日前知事ニ屆出ツヘシ

第十五條　保安林ニ於テ開墾ヲ爲サントスルトキハ第十一號樣式ニ依リ知事ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ出願ニ對シテハ其開墾ノタメ森林タルノ事實ヲ失ハサルモノニ限リ之ヲ許可ス

第十六條　森林開墾制限地ヲ開墾セントスルトキハ第十二號樣式ニ依リ森林所在地ノ稅務署土地臺帳ノ照合ヲ求メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ開墾ニシテ土地臺帳一筆內ヲ區分スルモノナルトキハ實地ニ就キ開墾ヲ爲スヘキ部分ト森林トシテ存置スヘキ部分トノ境界ニ認識スルニ足ルヘキ標木ヲ設クヘシ

第十七條　森林法第二十條ノ規定ニ據ル期間內ニ於テ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲナサントスルトキハ本規程第八條第十三條ニ準シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條　森林法第三十三條ノ命令ニ基キタル作業ヲ了リタルトキハ遲滯ナク知事ニ屆出ツヘシ

第十九條　森林法施行規則第二十條及第二十七條ノ事業計劃書及圖面ハ左記各號ニ依リ調製スヘシ

一、搬出スヘキ物件ノ所在地
二、搬出スヘキ物件ノ種類、數量
三、搬出セントスル場所
四、搬出ノ方法
五、其他土地水流ノ使用ニ關スル重要ノ事項
六、目的個所ノ實測圖

前項第六號ノ實測圖ハ一筆毎ニ調製シ地番及縮尺、方位ヲ記シ及ヒ必要ノ說明ヲ付スヘシ

第二十條　森林法第四十七條ニ依リ土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、增築若クハ大修繕ヲナシ又ハ物件ヲ附加增置セントスルトキハ其ノ土地ノ工作物又ハ物件ノ種類、目的、種目、坪數、員數及其設計方法ヲ具シ且ツ必要ニ應シ圖面ヲ添付シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條　森林法第六十一條ニヨリ他人ノ土地ニ立入リ目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採セントスル者ハ申請書ニ目的個所ヲ示シタル關係地區見取圖ヲ添付シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ各號ヲ記載スヘシ

一、目的個所ノ所在地、地番、地目、坪數並ニ其土地所有者、森林所有者ノ住所氏名
二、時期及期間
三、出願ノ事由
四、目標ヲ設置セントスルトキハ其箇數、構造
五、支障木竹ヲ伐採セントスルトキハ其種類及數量

第二十二條　森林法第六十四條ニ依リ森林組合設立ノ許可ヲ受ケントスル者ハ森林法施行規則第三十五條ノ條件ヲ具シ第十三號樣式ニ依リ申請スヘシ

第二十三條　森林ニ害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アルトキ若クハ蔓延シ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ其旨ヲ市町村長ハ直ニ知事ニ報告スヘシ蟲類以外ノ微生動物ノ害ニ付テモ亦同シ

第二十四條　前條ノ報告ニハ左ノ各號ヲ記載スヘシ

一、被害地又ハ被害ノ虞アル土地ノ所在地、地番、地目、坪數

七、關係地區ノ見取圖

二、畜獣物ノ名称方言
三、被害物ノ種類並ニ被害状況
四、駆除豫防ノ方法及效果

第二十五條　本規程第九條第十條ニ違反シタル者ハ三日以下ノ拘留又ハ参圓以下ノ科料ニ處ス

第二十六條　本規程ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ所轄町村役場及市役所ヲ經由スヘシ

第二十七條　市町村其他之ニ準スヘキ公共團體ヨリ提出スル書類ニシテ決議ヲ經ヘキモノハ其決議書ノ謄本ヲ添付スヘシ

附　則

第二十八條　本規程ノ外必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第二十九條　本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十條　明治三十七年六月三日縣令第二十八號森林法施行手續ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

様式略ス

●林野火氣取締規則

大正八年十月十六日
福岡縣令第五十八號

改正　大正一二年縣令第五二號、一五年第七〇號

第一條　森林法第七十八條ニ依リ森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ於テ火入ヲ爲スコトヲ得ルハ左ノ場合ニ限ル

一　森林地拵ノ爲必要アルトキ
二　防火線設置ノ爲必要アルトキ
三　開墾準備ノ爲必要アルトキ
四　害虫駆除豫防ノ爲必要アルトキ
五　畜産ノ事ニ於テ必要ト認メタル箇所ノ野草生産試驗地ニ於テ試驗ノ爲必要アルトキ
六　苗生地整理ノ爲必要アルトキ

第二條　前條ノ場合ニ於テ火入ヲ爲サムトスルトキ又ハ前條以外ノ土地ニシテ森林ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ前條第五號ノ場合ヲ除クノ外所轄市町村長ノ證明書ヲ添付シ十日以前ニ所轄警察官署ニ出願スヘシ

火入ノ箇所
火入地ノ現況
面積
火入ノ目的
火入ノ方法及之ニ配置スル人員
防火ノ設備
火入ノ日時
火入地及其ノ附近ノ略圖

第三條　防火ノ設備ハ火入地ノ周圍ニ幅五間以上ノ芝草ヲ刈取リ可燃物ヲ除去シ又ハ土堰堰溝等ヲ設クヘシ

前項ノ設備ニシテ不充分ト認ムルトキハ警察官吏又ハ林業ニ關係アル官吏ニ於テ相當ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第四條　森林法第七十九條ニ依ル森林所有者又ハ管理者ニ對スル火入ノ通知ハ三日以前ニ之ヲ爲スヘシ

第五條　火入ハ日出前、日沒後、又ハ風勢穏カナラサルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　風勢其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ許可ヲ受ケタル後火入期日ヲ變更セムトスルトキハ所轄警察官署ニ届出テ且接近セル森林所有者又ハ管理者ニ通知スヘシ

第七條　火入ヲ爲ス者ハ火入ノ時ヨリ火氣消滅スルニ至ル迄相當ノ番人ヲ配置シ延燒ノ警戒ヲ爲スヘシ

第八條　林野又ハ之ニ接續スル土地ニ於テ木炭、樟腦及松煙ノ製造其ノ他火氣ヲ取扱フヘキ作業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ作業ノ場所、種類及豫定期間ヲ具シ作業着手ノ前日迄ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第九條　前條ノ作業ニ從事スルモノハ相當防火ノ設備ヲ爲シ工作物ノ附近ニハ作業材料ノ外燃燒シ易キ物件ヲ置クヘカラス

第十條　林野ニ於テ裸火ヲ携帶シ又ハ火氣アル煙附木、煙草ノ吹殼等ヲ棄ツヘカラス

第十一條　林業ニ關係アル官吏ハ火入又ハ火氣ヲ取扱フヘキ作業ニ關シ延燒其ノ他危害ノ虞アリト認ムルトキハ之ヲ中止セシメ又ハ相當ノ處置ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ所轄警察官署ニ之ヲ報告スヘシ

第十二條　第五條第七條乃至第十條ニ違背シ又ハ第十一條第一項ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

明治四十四年十月福岡縣令第四三號林野火入取締規則ハ之ヲ廢止ス

●林野火入許可報告並ニ許可證樣式ニ關スル件

明治四十四年十二月
規甲第一七號

明治四十四年十月福岡縣令第四三號林野火入取締規則ニ據リ交付スヘキ火入許可證ハ別紙樣式ニ依リ取扱フヘシ

火入許可證

火入者住所氏名	
火入期日	
火入箇所	
火入ノ目的	

大正　年　月　日

火入者心得

一　火入者ハ火入ノ際本證ヲ携帶スヘシ
一　火入者ハ其期日ヲ火入地ニ接近スル林野ノ所有者若クハ管理者ニ火入期日五日以前ニ通知スヘシ

何警察署（分署）長
警視（部）　何　某

第

一　火入期日ヲ變更セントスル時ハ所轄警察官署又ハ派出所駐在所派出所ニ屆出ツベシ

一　他ニ延焼ノ虞アル箇所ノ附近ノ防火設備ヲ爲スベシ

一　火入ニ關シ森林官吏警察官吏又ハ林業ニ從事スル吏員ノ指揮アリタルトキハ其指揮ニ從フベシ

一　日出前日關シ風勢不穩ノ虞アルトキハ火入ヲナスヘカラス

一　火入者ハ火入ノ時ヨリ火氣消滅スルニ至ルマテ相當ノ番人ヲ配置シ延焼ノ事故ヲ爲スベシ

號

森林（原野山岳荒蕪地）火入許可願書

火入ヲ爲ス箇所	郡市町村大字、字番地	火入面積	火入地ノ現況	火入ノ目的	火入ノ設備及方法	火入期日及時限	備考
	郡市町村大字、字番地	何町何段何畝歩	樹種全形樹齢本数林相（樹種ノ樹本ノ代ニ採シ時ヲ地林ニ等）ノ本ヲ蔵置ニ伐ル虫害ニ何年	造林地開墾ノ爲又ハ開墾ノ爲等	燃中何間ノ防火線ヲ設ケ凡ソ何間毎ニ番人ヲ付シ及ビ又ハ	何年何月何日午前何時ヨリ何日午後何時迄	火入期日ヲ變更シタルトキハ其事由並ニ特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載ス
火入者住所氏名	郡市町村大字何字番地	見込又ハ實測何町何段何歩			人員ヲ付シ何人火入ハ風下ヨリ風上（傾斜地ニ在リテハ上部ヨリ下部）ニ		
火入地所有者住所氏名	同何字	地目 山林（原野等）					

右及報告候也

何年何月何日

住所

何　某

殿

（編輯者）

（編輯者）

編輯者

編輯者

編輯者

付クヘキ受渡簿ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製シ使用開始前及終了後所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

第五條　狩獵法第九條ノ規定ニ依リ禁獵區ノ設置ヲ出願セムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載スヘシ

一　出願者ノ住所氏名身分職業及生年月日（法人ニ在リテハ住所名稱及代表者ノ住所氏名）

二　禁獵區ノ區域及地目別面積又ハ海面ノ面積

三　禁獵區ノ存續期間

四　禁獵區設定事由

五　禁獵區內ニ於ケル鳥獸棲息ノ狀況

六　鳥獸ノ保護蕃殖ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ方法

前項ノ書面ニハ禁獵區ノ區域ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ

第六條　狩獵法及狩獵法施行規則並本則ニ依リ農林大臣又ハ地方長官ニ對シ爲スヘキ願屆又ハ免狀若ハ許可證ノ返納其ノ他ノ手續ハ所轄警察官署樣式（用紙美濃紙）（第四條ノ二）

表紙

年　月　日

飼鳥受渡簿

紙數　枚

入之部

鳥類ノ種類	員數	譲受其ノ他ノ異動ノ事由	同上年月日	譲受ノ場合ニ於ケル譲渡人ノ住所職業氏名	同上ノ場合ニ於ケル捕獲者トノ別	鳥類ノ種類	員數	譲渡其ノ他ノ異動ノ事由	同上年月日	差引現在員數	備考

出之部

住所

氏名又ハ名稱

〔調査者〕

〔調査者〕

備考　入之部ニ於ケル其ノ他ノ異動事由欄ニハ蕃殖等ヲ記入シ出之部ニ於ケル其ノ他ノ異動ノ事由欄ニハ逸走、又ハ斃死、盜難、放鳥等ヲ記入スルモノトス

第七條　農林大臣ニ提出スヘキ書類ニ付テハ副本（用紙ハ美濃紙）ヲ作製シ之ヲ當廳ニ差出スヘシ

第八條　狩獵法及狩獵法施行規則並本則ニ依ル手續ヲ爲スヘキ者死亡其ノ他ノ事由ニ由リ之ヲ履行スルコト能ハサルトキハ其ノ戶主家族又ハ同居者ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第九條　第二條第四條第四條ノ二又ハ前條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第十條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年十月六日縣令第五十七號狩獵法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第十一條　本則施行ノ際現ニ狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ヲ飼養スル者ハ施行ノ日ヨリ一箇月以內ニ其ノ種類及員數ヲ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

●狩獵取締標準

大正十五年五月二十七日
福岡縣訓令第十一號

警察部長

狩獵取締標準左ノ通之ヲ定ム

狩獵取締標準

一、皇族及外國ノ皇族ハ狩獵法第三條ニ依ル狩獵免許ヲ受クルヲ要セサルコト

二、帝國ニ駐在スル外國大使、公使、領事及之ニ隨伴スル外國官吏ハ一般外國人ト同シク免許稅ヲ納付シテ狩獵免狀ヲ受クヘキモノトシテ取扱フコト

三、御獵場、御料林野、御料牧場、國有林野等ニ於テ有害鳥獸驅除ノ爲メ其ノ所屬公務員ニ下付セラレタル證票ハ狩獵法施行規則第七條ニ依リ地方長官ニ於テ下付シタル鳥獸捕獲許可證ニ準シ其ノ取扱ヲ爲スコト

四、密獵取締ニ關シテハ凡ソ左ノ諸點ニ注意スルコト

(1)、特ニ獵期開始前及雉、鶉燒併禁前ニ於テ周到ノ警戒ヲ爲スコト

(2)、野生鳥獸特ニ保護鳥ニ關シテハ其ノ習性及效益ヲ一般ニ周知セシメ之カ愛護ノ念ヲ喚起セシメ以テ保護蕃殖ノ途ヲ講スルコト

(3)、製製業者、食用野生鳥商、西洋料理屋其ノ他ノ割烹店等ニ付鳥類ノ取引先ニ注意スルコト

(4)、戶口調査ノ際銃器若ハ其ノ他ノ獵具ヲ所持スルヤ否ヤヲ各戶ニ付キ親察シ之ヲ有スル者ニ付テハ其ノ擧動ヲ注意スルコト

(5)、銃砲火藥類ノ販賣ニ付キ注意スルコト

五、狩獵法第八條ノ適用ニ就テハ左ノ各號ニ依ルコト

(1)、戶主カ所得稅ヲ納メ其ノ家族之ヲ納メサル場合ニ於テハ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ戶主ノ納稅額ニ依ルコト

(2)、戶主並家族カ所得稅ヲ納ムル場合ニシテ家族ノ納稅額カ戶主ノ納稅額ヨリ少ナキトキハ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ戶主ノ納稅額ニ依ルヘク家族ノ納稅額カ戶主ノ納稅額ヨリ多キトキハ戶主ノ納ムヘキ免許稅ハ戶主ノ納稅額ニ依リ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ其ノ納稅額ニ依ルコト

六、有害鳥獸驅除ノ出願ニ對シテハ左記二十種ノ鳥獸ノ範圍內ニ於テ個々ノ場合ニ適當ノ種類ノミニ付キ許可シ其ノ以外ノ鳥獸ニ在リテハ特ニ必要ナル場合ノ外許可セサルモノトス國有林ニ於テ驅除スヘキ有害鳥獸ニ付キ亦同シ

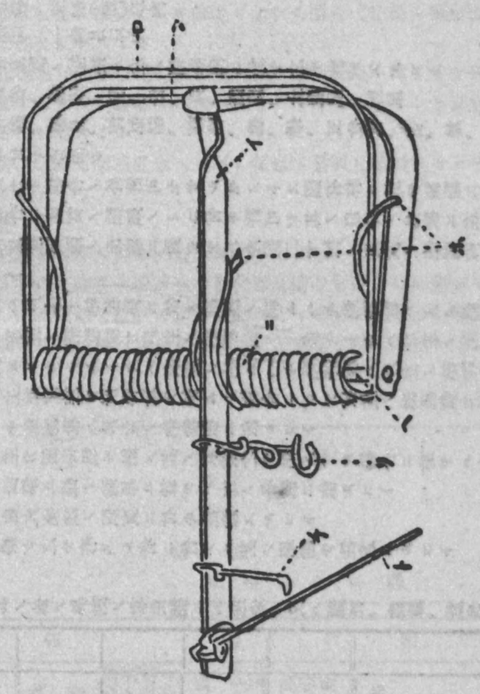
花鶏、樫鳥、河原鶸、輕鴨、鴉、燕、五位鷺、雀、鳩、鵲、鶯、金翅雀、鶺鴒、燕、猪、兎、鼬鼠、土龍鼠、野鼠

七、飼養鳥獸ノ捕獲ハ左ノ制限內ニ於テ之ヲ許可スルコト

(1)、期間　一箇月以內

(2)、員數　五羽(頭)以內

八、左ニ掲クルモノハ狩獵法第十五條ニ依ル危險ナル獸ノ部類ニ屬スルモ



第一圖　鼠ヲ捕ヘタル圖

第六圖　產業　特許第　特許

ノトシタル取扱ヲナスコト

(1)、左記ノ者ノ輸入販賣ニ係ル左記第一圖ノ米國特許第中開キタル鼠ノ直徑一〇六ミリメートル(三寸五分)以上ノ「ヒタルメートル」及同一二二ミリメートル(四寸)以上ノ「ウサンプチュウ」

神奈川縣橫濱市住吉町一丁目三番地

吉川米次郎

岡山縣岡市相生町二丁目三十八番地

阿部孝一

(2)、前號ノ鼠ニ類スル器具ニ付テハ其ノ形狀又ハ其ノ構造ノ如何ニ拘ラス其ノ危險ノ程度ニ於テ前號ノ器具以上ニ該當スルモノニ在リテハ第一ヲ前號ニ準ジ取扱ヲナスコト

九、特許法施行規則第四條第六號ノ特賞、特權、匿ハ左記第二圖ノ如キ物及之ニ類似ノモノトス

第二圖

十、大正十二年十月岡山縣令第五十號特許法取扱手續ハ之ヲ廢止ス

イロハニホ　特許　特許　特許

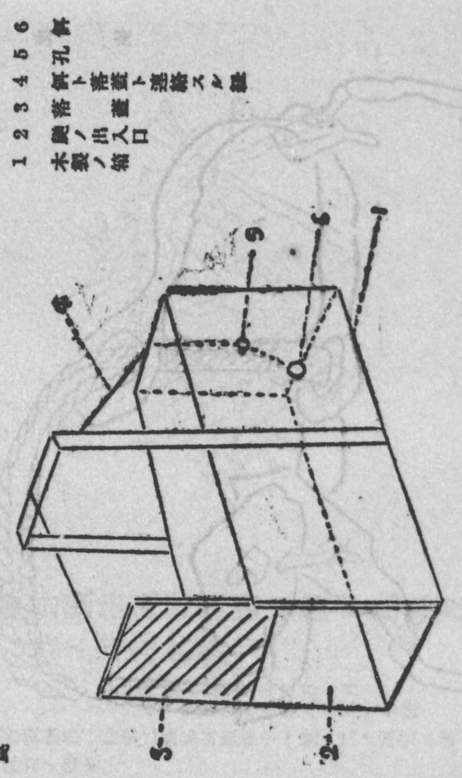
特許可能　不能　特許

能能能能

ヘトチリヌ　特許　特許　特許

特許安全　特許

特許全能

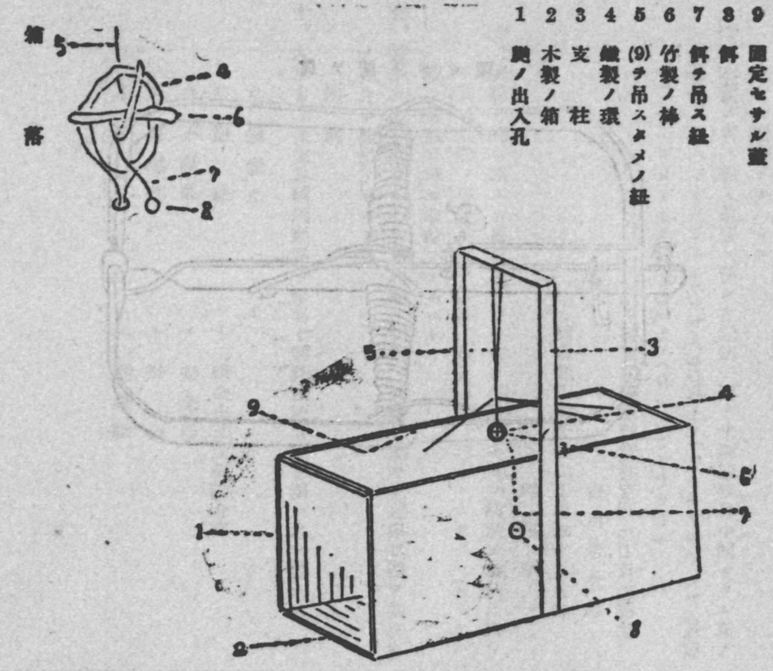


第一圖ルメキ開ヲ鼠

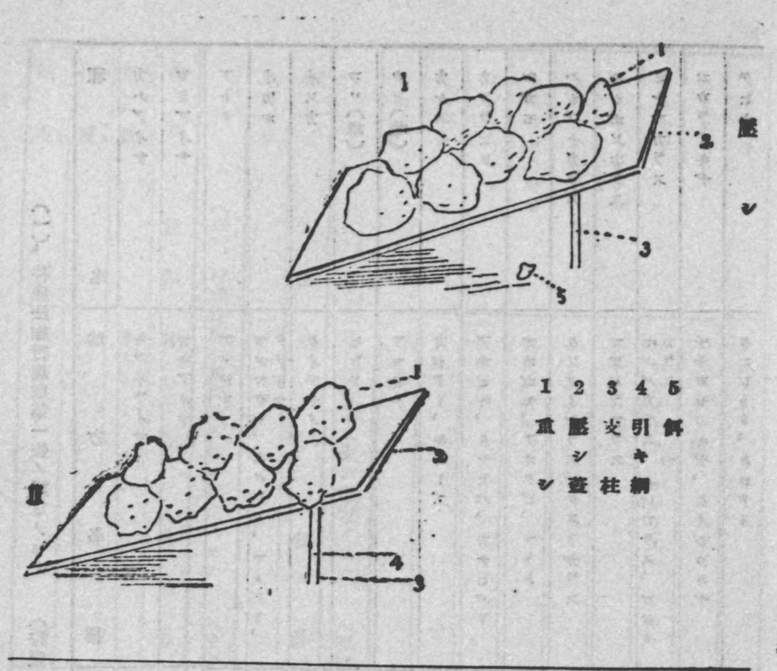
第六圖　產業　特許第　特許

第二圖

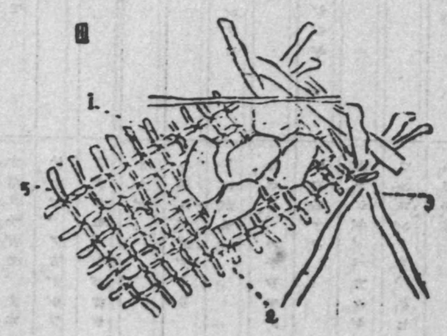
1 2 3 4 5 6
木製箱ノ出入口
箱ノ出入口
箱ト箱ト連絡スル道



第二圖　虎挾



第三圖



●狩獵法施行規則ニ依ル鳥獸及獵具ノ地方名稱

大正十五年五月六日
福岡縣告示第三百五十七號

狩獵法施行規則第一條第二條第四條第十一條ノ二ノ規定ニ依ル鳥獸及獵具ノ地方名稱左ノ如シ

（一）狩獵法施行規則第一條ノ規定ノモノ　（狩獵鳥）

和名	地方名稱	和名	地方名稱
カケアイサ	キンネアイサ	ヨシガモ	ミノガモ、イキイン、ルベチル、イキ
クロアイサ	オキアイサ	コガモ	ヒコヒコガモ、ヒヨンヒヨンカモ
アトリ	アントリ	カルガモ	モトクルカモ、ホロ、クカモ、ナンカ ロカモ
イカル	アズマコジ、イカルチ、アズマ、ヤチキチ	ヘラヒロガモ	ホホクチカモ、ホホンカ
イスカ	クイチカイ	ヒドリガモ	ホホ、トカカラ
クソ（雄）	ヒクソ	トモエガモ	アホホ、ルベチル
クソ（雌）	アヤメクソ	ホホカガモ	ホホカ
カケス	カンドリ、キオー	スズガモ	クロ、カトリ
カケスヒタ	アホヒキ、ホホヒベ、カホヒベ	ヒロクドキンタロ	ドロカモ
ヤカモ	ホホカモ、アホクヒ、ヤトリ	シマアホ	ヒヨズ、クチタモ
ヘラブトカラス	クンクイカラス、カスリカラス	ホホンリクルキ	チクルナ
ヘンボンカラス	ヤンバラカラス	ナマルキ	ホトルキ、ベカルキ、ホホ、ホト
ミヤマカラス	カモンベカラス、インカラス、ロモリ ズ	モマルキ	ヨンヨンドリ、クヒチ
コクマガラス	ヤナクキンキ、ベルクカキチ	ルス	イククリ
カヒチ	モニクトリ、タロドリ	ルロクク	カンチク、カンチヨク、ナトカチヨ ク、ベカカチヨ

（二）狩獵法施行規則第二條ノ規定ノモノ　（有期獵鳥）

和名	地方名稱	和名	地方名稱
ヒクヒナ	クロドリ	コチドリ	クヒソウ
ヒメクヒナ	「クキナ」ノ雛	メダイチドリ	クヒソチドリ
コキサギ	ウシカイドリ、ヨガラス	トウネン	コチドリ、チドリ
ダイシャクシギ	シャクナギ	ソグミ	カチ、ノカソチヨ、ソムギ
ホウロクシギ	シャクナギ	キアシベト	ノベト、ヤマベト
チウシャクシギ	チウシャク	カラスベト	クロベト
バン	クロドリ	ホウシロ	ヒムト、シムト、ヤマスズメ
ヒロドリ	ヒヨ	ムナグロ	ヘダシギ
ヒヌ	マヒヌ		

（三）狩獵法施行規則第四條ノ規定ノモノ　（法定獵具）

和名	地方名稱	和名	地方名稱
カヘサソ	カヌウソ	ムササヒ	ソバチシキ

獵具ノ種類	地方名稱	獵具ノ種類	地方名稱
霞網（カスミ）	カスミ	箱罠（ハコワナ）	イルチヌナ
霧網（ムソウ）	カモアミ	虎罠（トラワナ）、挟罠（ハサミ）	トラヌナ
括罠（ククリワナ）	ササギヌナ		

（四）、狩獵法施行規則第十一條ノ二規定ノモノ

和名	地方名稱	和名	地方名稱
チシドリ	チシ	クロツグミ	クロカツチロ
クワツコウ	ホトトギス、ホトトギスノ雌	アカハラ	カツチロウノ雌
カワセミ	コウセミ、カワセビ	イソヒヨドリ	イソツグミ
フクロウ	コウゾウ、マナコトリ、モマ	コマドリ	ヨシノゴマ
ゴゲラ	キツツキ、キコツギ、クリハカリ	ヨシキリ	ギヨツギヨツセン、ギヨツキヨウシ
ヒバリ	ヒバリ	メボソ	雲ノ雌
セキレイ	シリアメキ、イシアメキ	ミソサザイ	ミソンチロ、ツツドリ、サザイメナシ、メセンジロウ
ヒタキ	ヒンコツ、ホトケノコウタキ、モンツキドリ	レンザヤク	ベンウヤク
トラツグミ	オニツグミ	オナガ	カラサンザヤク
モズ	ムウズ、モウズ	ムクドリ	ムツキドリ、シガ、ムクロリ

●狩獵願屆手續

明治三十四年十月
福岡縣告示第二百二十三號

第一條　狩獵ニ關スル願屆等ノ書類ハ總テ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經由スヘシ

第二條　狩獵ヲ爲サントスル者ハ左ノ雛形ニ準據シ願書ヲ作リ納稅地市町村長ノ稅額證明書（願人非戸主ナレハ戸主ノ分トモ）ヲ添ヘ差出スヘシ

〔福岡書〕

雛形

稅相印紙　稅額

狩獵免狀下付願

一獵具　銃器又ハ何何
一免狀種類等級　甲種又ハ乙種何等免狀
一狩獵法第二十二條又ハ明治二十八年法律第二十號狩獵法第二十一條ニ該當スル處罰ノ有無　若シ處罰ノ事實アレハ何年月日何縣何條違記トシテ何何處分ヲ受ケタル旨ヲ記スヘシ

右御下付相成度此段奉願候也

年　月　日

原籍　何處
現住所　何處
族籍、戸主又ハ非戸主、職業　氏　名㊞
生年月

縣知事宛

第三條　前條ノ稅額證明書ハ所得稅營業稅及地租額ヲ區別記載スルヲ要ス

第四條　狩獵法第十八條又ハ第二十條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ捕獲又ハ採取ヲ要スル理由、種類、數、及期間區域並從事者ヲ願書ニ記載シ差出スヘシ

第五條　明治二十八年本縣告示第八六號ハ廢止ス

●狩獵免狀下附者通知方ノ件

明治三十三年二月
規甲第五號

統計ヲ以テ狩獵スル者ニ對シテハ來ル三十三年度ヨリ縣稅ヲ賦課スルコトニ縣會ニ於テ決議候ニ付テハ本年四月一日以降免狀下附ノ分ハ其郡度免狀等級及受有者ノ住所氏名ヲ記シ本人所轄郡市役所ニ通知スヘシ

●狩獵免狀書損ノ時報告方

明治四十五年六月
規甲第一五號

狩獵免狀下附ノ際免狀用紙ニ書損ヲ生シタルトキハ該用紙ヲ添ヘ其ノ郡度報告スヘシ

●外國人狩獵免狀下附出願ノ場合取扱方

明治三十七年二月
保牧第六六一號

本邦ニ一時滯在スル外國人ニシテ狩獵免狀ノ下附ヲ願出ツルトキ狩獵法第十一條ニ定メタル租稅ヲ納メサルコト明瞭ナル場合ニハ同法施行規則第二條第二項ノ證明書ヲ願書ニ添付セシムルコトヲ要セサル義今般農務局長ヨリ通牒來リ候條御參考マテ此段及御通知候也

●杖銃ハ獵用ニ使用差支ナキ件

明治二十九年三月
警甲第一五號

警保局長ヨリ熊本縣知事ヘ回答

本年六月九日警第七號杖銃取扱方之件御照會ノ趣了承右ハ銃砲取締規則第五條ニ定メタル免許銃類以外ノモノニ付軍用銃同樣ノ取扱ヲ爲スヘキ筋ニ可有之而シテ其使用上ニ於テハ一般獵銃ヨリモ危險少ナキヲ以テ狩獵ニ使用セシムルモ不都合ナカルヘシト存候又拳銃ハ其彈力强カラサルモ「ピストル」ト同樣連發銃タルヲ以テ危險不尠ニ付狩獵ニ使用セシムヘキモノニ無之ト存候經伺ノ上此段及回答候也

●繡眼兒鶯駒鳥山雀等飼養ニ關スル件

明治四十一年十月
保發第二八二號

今般狩獵法施行規則ヲ改正シ繡眼兒鶯山雀等ヲ保護鳥ニ加ヘラレ候處此等諸鳥ハ籠鳥トシテ飼養スル習慣之ヲキチ以テ飼養ヲ目的トシテ其捕獲ヲ願

商ヲル者ニ對シテハ狩獵法第十八條ニ依リ許可相成候旨ニ候條御了知相成度此段及通牒候也

●空氣銃取締ニ關スル件

明治四十五年五月
保收第四五九八號

別紙ノ通農商務省農務局長通牒ノ次第モ有之候條爾後今村式三宅式ノ空氣銃ハ狩獵法第一條ニ依ル銃器トシテ取締相成度

農務局長通牒（明治四十五年五月二十三日農第七〇二五號）

從來空氣銃ニ付テハ狩獵法第一條ニ依ル銃器中ヨリ之ヲ除外スルコトニ當議決定致居候處今回空氣銃ノ製法頗ル巧妙ヲ極メ其ノ威力殆ト装藥銃ト同一程度ノモノアルヲ發見致候ニ付今後左ニ示セル如キ空氣銃ニ對シテハ狩獵法第一條ニ依ル銃器トシテ相當御取締相成樣致度依命右通牒ス

一、今村式空氣銃

今村式空氣銃ハ專賣特許品ニシテ其ノ銃身ハ口徑三十番（約四分三厘）長サ二尺七寸總長三尺八寸五分アリ散彈並實彈發用銃ニシテ福岡縣八女郡羽犬塚驛前北島支店ノ製作販賣ニ係リ其ノ種類及定價左ノ如シ

二連發別誂	金壹百圓
同　特別	金七十五圓
同　上等	金五十五圓
單發　別製	金四十圓
單發ステッキ形	金三十圓

二、三宅式空氣銃

三宅式空氣銃ハ中折ステッキ形ノ散彈及實彈發用銃ニシテ銃身ノ口徑約三分アリ東京市小石川區戸崎町三宅在志ノ製作ニ係リ一挺ノ價金參拾參圓ナリ

●鳥獸以外ノ銃獵取締ニ關スル件

大正四年六月
保發第五六五四號

左記ノ方法又ハ之ト類似ノ方法ニ依ル水産動物ノ銃殺出願ニ對シテハ漁業法第三十六條ヲ適用シ不許可處分ニ付スヘシ

記

長サ十間位ノ麻絲ヲ以テ長サ三尺位ノ小指大ノ木矢ヲ銃ノ銃先部ヘ結著シ之ヲ銃口ニ挿入シ火藥ヲ以テ之ヲ發射シ魚等ヲ捕殺ス

第五章　漁業

●漁業取締規則

明治四十四年九月
福岡縣令第四十號

改正　大正四年縣令第三四號、八年第六二號、九年第五號、一〇年第二四號、第三〇號、一一年第三八號、一四年第四四號、一五年第二一號、第四八號、昭和二年第五八號、第九一號

第一條　左ニ掲クル漁業ヲ爲サントスル者ハ許可ヲ受クヘシ但シ專用漁業權ニ依リテ爲ス場合ハ此ノ限リニ在ラス

- 綿網漁業
- 巾着網漁業
- 揚繰網漁業
- 打瀬網漁業
- 建網漁業
- 圍網漁業
- 流網漁業（げんしき網ヲ含ム）但シ筑前沿海ヲ除ク
- 河流ヲ遮斷スル笠漁業（定置漁業ニ該當セサルモノ）
- 建干網（方言江切網、乗切網ヲ含ム）漁業（定置漁業ニ該當セサルモノ）
- 鵜使漁業

第二條　前條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、漁業ノ名稱
一、漁場ノ位置及區域
一、漁獲物ノ種類
一、漁業ノ時期
一、許可期間

第三條　漁業ニ關スル出願、申請又ハ屆出ノ書類ハ漁業登錄令ニ依ル場合ノ外漁場ヲ管轄スル市役所町村役場ヲ經由スヘシ

漁場ノ管轄カ二町村以上ニ跨ルトキ又ハ不明ナルトキハ住所地ノ市役所町村役場ヲ經由スヘシ但シ本縣内ニ住所ヲ有セサルモノハ直ニ知事ニ差出スヘシ

第四條　漁業ニ關スル出願申請又ハ屆書ヲ農林大臣ニ差出ス場合ハ別ニ其ノ副本一通ヲ知事ニ差出スヘシ

第五條　漁業許可ノ期間ハ拾箇年以内ニ於テ之ヲ定ム

第六條　許可期間滿了後引續キ漁業ヲ爲サントスル者ハ期間滿了ノ日ヨリ三十日前ニ更新ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ヲ爲シタル者ハ許否ノ處分ヲ受クルマテ仍其ノ漁業ヲ爲スコトヲ得但シ市町村長ノ證明書ヲ携帶スヘシ

第七條　漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下付ス

本則ニ依リ許可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帶スヘシ

第八條　鑑札ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ再交又ハ書換ヲ申請スヘシ

漁業ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ屆出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第九條　漁業ノ許可ヲ受ケタル者住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ三十日以内ニ鑑札ノ書換ヲ申請スヘシ

第十條　鑑札ノ書換又ハ再下付申請ノ者ニシテ漁業ヲ爲サントスルトキハ市町村長ノ證明書ヲ携帶スヘシ

第十一條　鑑札ハ相續、讓渡、貸入又ハ貸付スルコトヲ得ス

第十二條　水産動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締其他公益上必要アルトキハ漁業ノ許可ヲ制限シ停止シ又ハ取消スコトアルヘシ

本則又ハ漁業ニ關スル他ノ法令ノ規定ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

第十三條　第二條、第五條、第六條、第八條乃至第十二條及第六條第二項

但第第八條乃至第十一條ニ關スル事項ノ規定ニ漁業法施行規則第五十一條ノ漁業ニ之ヲ準用ス

第十四條　漁業ノ免許ヲ出願スルニ當リ其ノ漁場ニ付テ第十五條ノ定置漁業ノ免許ヲ受ケタル者ノ漁場ニ在リテハ其ノ漁場ニ接シ其ノ周圍二百間以內ニ他ノ免許漁業ヲ出願スル事ヲ得ズ

第十五條　定置漁業及第十四條ノ漁業ニ關シ保護區域ヲ設クルコト左ノ如シ

第一　定置漁業

一、定置網　イ　前面大敷網、大謀網、敷網ノ周圍二百間、其網ノ前面五百間、後面百間、但シ網口ノ場合ハ其網ノ左右各五百間

ロ　前面其他各二百間、大敷網、敷網ノ周圍百間、但シ網口ノ場合ハ其網ノ左右各二百間

二、曳網漁業　漁場ノ周圍六十間

三、刺網漁業　漁場ノ周圍百間

四、出網漁業　漁場ノ周圍六十間

五、差網漁業　漁場ノ周圍六十間

六、釣漁業　漁場百間

第二　第十四條ノ漁業

一、第六種漁業　漁場ノ周圍百間

二、第七種漁業　イ　敷網付　漁場ノ周圍二百間

ロ　其他ノ網付　漁場ノ周圍百間

三、第八種漁業　漁場ノ周圍百間

四、第九種漁業　漁場ノ周圍五十間

第十六條　前條各保護區域內ニ於テハ其ノ漁業中之ト同種ノ漁具ヲ目的トスル他ノ漁業行爲及其ノ漁具ノ清掃ヲ漁場ノ所有者ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ズ

第十七條　第十五條ノ保護區域內外ニ於テ其ノ區域ヲ一百間以上ニ區劃シテ其ノ漁具ヲ設置スル者ハ其ノ漁具ニ之ヲ表示スル標識ヲ設置スルコトヲ得ズ其ノ漁具ニ標識ヲ設置シタル者ハ他ニ同種ノ漁具ヲ設ケントスル者ニ對シ其ノ漁具ニ標識ヲ設置スルコトヲ得ズ其ノ漁具ニ標識ヲ設置シタル者ハ其ノ漁具ノ清掃ヲ漁場ノ所有者ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ズ

第十八條　第十五條ノ保護區域外ノ其ノ區域ニ一百間以上ニ區劃シテ漁具ヲ設置シタル者ハ其ノ漁具ニ標識ヲ設置スルコトヲ得ズ

第十九條　漁場ノ所有者ハ其ノ漁場ニ於テ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ新代ノ位置ニ之ヲ告ゲタル者ニ對シ其ノ漁具ノ清掃ヲ漁場ノ所有者ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ズ

一、鳥類、獸類、爬蟲類ノ捕獲

二、貝類ノ採取

第二十條　漁場ノ所有者ハ其ノ漁場ヲ表示スル標識ヲ設置シタル者ハ其ノ漁具ノ清掃ヲ漁場ノ所有者ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ズ

第二十一條　左ニ掲ゲタル水產動物ハ之ヲ採捕シ所有シ又ハ處置スルコトヲ禁ズ

一、鯉

二、鮒

三、水中ニ產卵ヲ產ンヲ產ス鯉

四、筑後川筋三井郡大善村佐賀縣以外ノ場合

五、有明海ノ海ノ產大善村佐賀縣以上以外ノ場合

六、有明海ノ海ニ於テ漁具ノ產切網（支網又ハ張網ヲ用ヒ產卵ノ）但長サ百間、網丈三尺未滿ノ此限ニアラズ

七、有明海ノ海ニ於テ中島川、鹿島川、神瀨川、今福川、佐賀川流域地方ニ於テ產卵期ノ貝ノ採捕

八、筑後川流域內支川ノ產切網、產手網、江切網、手狩網、鰻モ川、鰻ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

九、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

三十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

三十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

三十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

三十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

三十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

三十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

三十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

三十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

三十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

三十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

四十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

四十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

四十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

四十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

四十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

四十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

四十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

四十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

四十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

四十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

五十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

五十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

五十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

五十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

五十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

五十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

五十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

五十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

五十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

五十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

六十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

六十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

六十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

六十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

六十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

六十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

六十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

六十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

六十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

六十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

七十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

七十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

七十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

七十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

七十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

七十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

七十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

七十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

七十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

七十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

八十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

八十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

八十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

八十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

八十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

八十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

八十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

八十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

八十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

八十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

九十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

九十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

九十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

九十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

九十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

九十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

九十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

九十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

九十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

九十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百二十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百二十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百二十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百二十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百二十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百二十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百二十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百二十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百二十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百二十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百三十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百三十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百三十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百三十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百三十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百三十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百三十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百三十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百三十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百三十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百四十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百四十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百四十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百四十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百四十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百四十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百四十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百四十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百四十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百四十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百五十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百五十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百五十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百五十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百五十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百五十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百五十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百五十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百五十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百五十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百六十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百六十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百六十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百六十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百六十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百六十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百六十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百六十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百六十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百六十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百七十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百七十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百七十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百七十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百七十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百七十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百七十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百七十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百七十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百七十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百八十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百八十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百八十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百八十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百八十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百八十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百八十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百八十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百八十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百八十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百九十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百九十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百九十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百九十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百九十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百九十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百九十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百九十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百九十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

百九十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百二十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百二十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百二十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百二十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百二十四、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百二十五、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百二十六、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百二十七、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百二十八、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百二十九、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百三十、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百三十一、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百三十二、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル鰻ノ產卵期ノ採捕

二百三十三、筑後川、矢部川、星野川、黑淵川流域ノ產切網、產手網、產ル又ハ產ル

ニシンヲ其ノ網又ハ網口ノ巾三尺ヲ超ユルモノ若クハ網長ヲ拾スルモノ

第二十四條　左記漁具ノ使用ハ之ヲ禁止ス

一、網目一寸以下ノ定置網、流切網

二、網目九分以下ノ小鰯刺網、ちうり網、けつり網

三、網目五分以下ノ打瀬網

四、網目四分以下ノ石干見、柴干見

第二十六條　左記ノ場所ヲ禁漁區トシ一切ノ水產動植物ノ採捕ヲ禁止ス

筑後川筋

一、明倉郡朝倉村大字山田蓮華ノ沼山田堰ヨリ若原橋江橋村大字橋田乙倉江橋新志

二、三井郡大刀洗村大字三川字鳥居下ノ魚梁

三、同郡大城村大字長尾字黃坂

四、同郡櫛原村大字各乙吉愛子ヨリ字黃坂別百大字愛子志川字ノ上安愛子ヨリ國道別百大字小橋野瀬野瀬橋志本郡

夏野川筋

一、八女郡夏野村大字本尾字野瀬橋

二、同郡川崎村大字長野及大字山內ニ係ルサヤノ淵

三、同郡夏野村大字黃山コッヤヨリ岩淵

四、同郡夏野村大字西田黃金原內村大字人木原字牛屋ヶ下淵

大谷川筋

一、八女郡大淵村大字大淵砂原淵

二、同郡木屋村大字木屋原淵

三、同郡豊岡村大字豊田及光友村大字田形ニ關ル全區間ヨリ字筑川內畔志

四、同郡大谷村大字北大谷字鶴ノ上鶴ノ畔線ヨリ上流百五十間迄

第二十七條　左記ノ場所ヲ禁漁區トシ一切ノ水產動植物ノ採捕ヲ禁止ス

筑後川筋

一、三井郡大刀洗村大字三川字鳥居鳥居橋（鳥居橋郡鳥居村大字八幡、大人字鳥居橋）ヨリ八幡川眞崎下迄

二、同郡合川村大字合川來出元字ヨリ新川源口迄

九月一日ヨリ十月十五日迄

大谷川筋

一、八女郡三川村大字大原及同郡宅山村字山下並山門郡黃山村大字黃

禁漁區ニ係ル手付網

二、同郡古川村大字北原田字西境ヨリ上流六十間

三、同郡水田村大字長島及山門郡瀧尾町大字本郷境界ヨリ松原堰迄

四、山門郡瀧尾町字長島及山門郡瀧尾町大字本郷三本松堰

五、右九月一日ヨリ十月三十一日迄

新川筋

二、三乙郡瀧西町大字本郷三本松堰ヨリ同郡瀧尾町大字黃瀬手一本松

六、八女郡矢部村大字矢部字鶴ノ上鶴ノ畔線ヨリ下流五十間迄

右四月一日ヨリ七月三十一日迄鶴ノ畔線

七、八女郡黃川村大字田本字內ノ城及鼻宅村大字土橋字巧野巧野井上方十間ヨリ下流巧野巧野ヨリ瀧迄（新井堰同村大字巧野巧野田字河原）

右四月一日ヨリ七月十五日迄

神ノ瀧川筋

一、山門郡三橋村大字鶴島字石林大字双瀧ヨリ下流百間迄（鶴島堰水路ヲモ含ム）

新河川筋

一、筑紫郡新河村大字竹下竹下堰堤上方十間ヨリ下流百八十間迄（水車用水路ヲモ含ム）

右二月一日ヨリ五月三十一日迄

二、同郡全島村大字全島來出元字ヨリ新川源口迄

九月一日ヨリ十月十五日迄

矢部川筋

一、八女郡三川村大字大原及同郡宅山村字山下並山門郡黃山村大字黃

禁漁區ニ係ル手付網

二、同郡古川村大字北原田字西境ヨリ上流六十間

三、同郡水田村大字長島及山門郡瀧尾町大字本郷境界ヨリ松原堰迄

四、山門郡瀧尾町字長島及山門郡瀧尾町大字本郷三本松堰

五、右九月一日ヨリ十月三十一日迄

新川筋

二、三乙郡瀧西町大字本郷三本松堰ヨリ同郡瀧尾町大字黃瀬手一本松

六、八女郡矢部村大字矢部字鶴ノ上鶴ノ畔線ヨリ下流五十間迄

右四月一日ヨリ七月三十一日迄鶴ノ畔線

七、八女郡黃川村大字田本字內ノ城及鼻宅村大字土橋字巧野巧野井上方十間ヨリ下流巧野巧野ヨリ瀧迄（新井堰同村大字巧野巧野田字河原）

右四月一日ヨリ七月十五日迄

神ノ瀧川筋

一、山門郡三橋村大字鶴島字石林大字双瀧ヨリ下流百間迄（鶴島堰水路ヲモ含ム）

新河川筋

一、筑紫郡新河村大字竹下竹下堰堤上方十間ヨリ下流百八十間迄（水車用水路ヲモ含ム）

右二月一日ヨリ五月三十一日迄

黃川筋

一、八女郡黃川村大字黃田字若原黃田水車堰ヨリ上流百二十間迄

新河川筋

一、筑紫郡筑紫村大字小字日笹赤手ヨリ上流三百五十間迄

二、鼻屋市筑紫郡新宮村鳥栖市字若宮市字若宮橋上方赤間法但シ漁具ノ用ニ供スルうなじやニ又ハえむしハ此區ニ走ラズ

新川筋（新河川支流）

一、鼻屋市西中原新宮村分水堰ヨリ上流鼻屋市若宮橋新橋上方赤間法但シ漁具ノ用ニ供スルうなじやニ又ハえむしハ此區ニ走ラズ

石宮川筋

一、鼻屋市若宮村曲淵新宮橋ヨリ上流鼻屋市上北ノ倉前字新代其他橋法但シ漁具ノ用ニ供スルうなじやニ又ハえむしハ此區ニ走ラズ

宝見川筋

一、千鼻郡鼻村大字小田字西赤手二百間下ヨリ鼻郡宝塚村大字橋本乙赤手迄

多々良川筋

一、鼻屋郡大川村大字百原字大橋赤鼻赤手ヨリ上流鼻村大字江北字鼻新鼻橋橋迄

若宮川筋

一、若宮上郡若宮村大字大河內字小人塚及新赤手ヨリ上流百十間迄

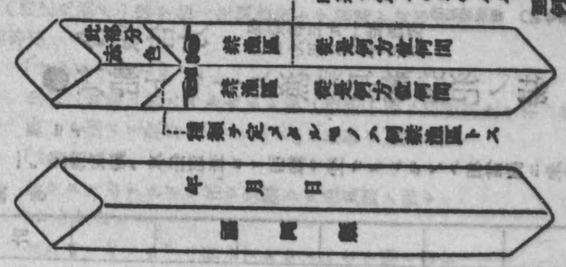
第二十七條　左記ノ場所ヲ禁漁區トシ一切ノ水產動植物ノ採捕ヲ禁止ス

筑後川筋

一、三井郡大刀洗村大字三川字鳥居鳥居橋（鳥居橋郡鳥居村大字八幡、大人字鳥居橋）ヨリ八幡川眞崎下迄

第二十八條　前條筑後川筋第一號第二號及矢部川筋第一號乃至第四號ノ區域內ニ於テハ九月一日ヨリ十二月三十一日迄水中網以下ノ魚類ヲ禁止ス

第二十九條　禁漁區ノ標示ハ左ノ雛形ニ依リ其ノ區域ノ兩岸ニ之ヲ設置ス



第三十條　漁具ハ網河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ捕ラズ漁業ハ新川筋第八五方ノ一以上ノ魚道ヲ開通スベシ

前項ノ外特ニ魚道開通ノ方法ヲ指定スルコトアルベシ

第三十一條　禁漁區又ハ禁止期ノ解除ハ其ノ地方ノ漁業者ノ申請ニ依リ第二十一條乃至第二十七條ノ禁止又ハ制限ニ拘ハラズ水產動植物ノ採捕ヲ許スベシ

前項ノ許可ヲ受クルモノハ其ノ事業ノ目的、漁具、漁獲、採捕ノ方法、時期及場所ヲ明記シ許可ヲ受クベシ

前項ニ依リ許可ヲ受クルモノハ其ノ事業ノ年月日及漁具漁業法ノ種類、數量並ニ年月日ヲ其ノ都度知事ニ屆出クベシ

第三十二條　漁業者ニ非サルモノハ左ニ掲クル漁具又ハ漁法ニ依ル水產動植物ヲ採捕スルコトヲ得ズ

一、徒步竿釣
二、徒步手釣
三、徒步投網
四、徒手魚介藻ノ採取
五、搖網、福濟、笊濟
六、蜘蛛手網(二名四ツ手網)
七、ぼら、掬ひしようけ
八、笠
九、穿器
十、鍛鎗、鍛筒
十一、又手網

第三十三條　第一條第十六條第十八條第二十一條乃至第二十五條及第二十七條ノ規定ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁具及漁獲物ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコトアルヘシ但シ前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收シ能ハサル場合ニ於テハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三十四條　第六條第二項但書、第七條第二項、第八條乃至第十一條、第十九條第一項、第二十條第一項、第二項、第二十八條、第三十一條及第三十二條ノ規定ヲ犯シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第三十五條　本則ハ明治四十四年九月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條　本則ニ依リ許可ヲ要スルニ至リタル漁業ノ漁業者ニシテ本則施行前ヨリ引續キ營業シタル者ハ本則施行後三十日以內ニ許可ヲ出願スルトキハ其ノ許可ニ至ルマテノ間尙從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得

【訓令】

●漁業取締ニ關スル件

大正十一年四月二十五日
規保調第一一號警察部長

沿岸各警察署長

自今漁業違反者ヲ檢事（漁業取締專任又ハ漁業監督吏員ニヨリ引繼タルモノヲ含ム）シタルトキハ左表ニ依リ月報トシテ翌月五日迄ニ報告セラルヘシ

漁業取締成績表（何月分）　何警察署

違反事項	適用條項	檢事件數	同上違反者數	檢事局送致及檢事局名	違反者ノ處置 拘留	科料
計						

備考

一、漁業取締、專任檢事ニヨリ引繼ヲ受ケタルモノハ相當欄ニ朱書スルコト

●汽船トロール漁業取締違犯ノ場合報告方

大正元年八月十三日
保發第三九一號通牒

沿岸警察署【訓令】

農商務省水產局長通牒（大正元年八月五日水第四三八號ノ內）

禁止區域違犯ノトロール汽船々長ハ海員懲戒法ニ依リ懲戒ニ附セラルヘキ者ナルヲ以テ取締ノ必要上將來禁止區域違犯ノ事實明瞭ナル場合ニ於テハ迅速ナル左ノ事項ヲ詳記シ船籍所轄地方海員審判所理事官ニ當ツ申告相成度

右通牒ス

追テ理事官ニ申告相成候節ハ其都度御報告相成度候也

記

一　取調ヲ受ケタルモノ、氏名族籍住所職業及年齡
二　船舶ノ名稱トロール漁船ノ許可番號船籍登簿順數公稱馬力並其所有者ノ氏名族籍及住所
三　船長ノ受有スル海技免狀ノ種類番號並ニ前科ノ有無
四　發航地到達地並ニ事件ヲ惹起シタル場所及年月日時
五　事件顚末及證據書類ノ寫
六　取調ヲ受ケタル者何日其ノ地ヲ去リ何地ニ到ルヘキコト

注意

右ノ調書ニハ取調ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ取調ヲ爲シタル者之ニ署名捺印スル事

●汽船トロール漁業取締ニ關スル件

大正二年九月
規乙第五號

沿岸各警察署

今般汽船トロール漁業取締規則中改正ノ結果主務省ニ於テ取締ノ必要上第十六條第十六條ノ二若クハ第十七條ニ依リ認可又ハ許可ヲ與フル際最寄ノ警察署ヲ指定シ漁業ノ陸揚ヲ爲シ又ハ封印ヲ受クヘキ旨命令スルコト有之ニ付該業者ヨリ右ノ申請アリタル場合ハ左ノ方法ノ一ニ依リ取計ハル可シ

追テ封印解除ノ場合ハ無ト調査ノ上解封シ尙ホ船舶修繕等必要ニ依リ他ノ警察署ニ於テ受ケタル封印ノ解除ヲ願出タル場合ニハ之ヲ解除シ必要ノ事由消滅シタル後更ニ其警察署ニ於テ封印セラルヘシ

一「オツター ボールド」及漁網ノ陸揚
二「オツター ボールド」ヲ「カロース」ニ引付ケタル能通管ノ部分ニ於テ封印スルコト
（例之「リンクポート」ト「カロース」ノ封印ヲ連結シ封印ス）
三　曳網ヲ「ウインチ」ニ捲キ付ケタル能其ノ先端ヲ適宜ニ封印スルコト
（例之曳網ノ一端ヲ他ノ曳網數條トヲ固縛シ封印ス）

參照事項

一「オツター ボールド」
曳網ノ兩端ニ付スヘキ大ナル板（普通一般ニ四枚以上ヲ有シ漁業ヲ終レハ網ヨリ取外シ「カロース」ニ吊掛ク）圖ノ如シ
一「カロース」
オツター ボールドヲ吊シ立掛ケル道具圖ノ如シ
一「リンクポート」
オツター ボールドニ付シアルモノニシテ圖ノ如シ
一「ウインチ」
卷揚機

第六章　無盡、有價證券割賦販賣

●無盡業取扱方

大正十五年七月一日
福岡縣訓令第八十五號
市役所　町村役場

無盡業取扱方左ノ通定ム

無盡業取扱方

第一條　無盡業ノ免許申請書、無盡業ヲ營ム會社ノ合併ノ認可申請書又ハ無盡業法第三十二條若クハ第三十三條ノ規定ニ依ル認許申請書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ具シ遅速スヘシ無盡業者ノ資本金領替業所事業方法書無盡契約々款若クハ會社定款ノ變更ノ認可申請書又ハ會社ニ非サル無盡業者ノ他ノ事業ヲ兼營シ若クハ自己ノ管理スル無盡ニ加入ノ認許申請書ヲ受理シタルトキ亦同シ

第二條　事業方法又ハ無盡契約々款ノ變更事業ノ停止役員ノ改任ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ又ハ免許ヲ取消スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ具シテ上申スヘシ

附則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●講會取締規則

大正六年十一月一日
福岡縣令第四十六號

第一條　本則ニ於テ講會ト稱スルハ無盡業法ノ適用ヲ受ケサル親母子講、仕立講其ノ他之ニ類似ノ方法ニ依リ講員相互間ニ金錢又ハ其ノ他ノ有價物ノ給付ヲ爲スモノヲ謂フ

第二條　講會ヲ組織セムトスルトキハ發起人及世話人連署ヲ以テ講則ヲ添ヘ主タル事務所ヲ在地ノ所轄警察官署ニ願出テ認可ヲ受クヘシ講則ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

主タル事務所ヲ在地以外ニ於テ開會セムトスルモノハ講則及認可書類ヲ添ヘ豫メ開會地ノ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

本縣外ニ主タル事務所ヲ有スル講會ニシテ本縣內ニ於テ開會セムトスルモノハ第一項ニ準シ開會地ノ所轄警察官署ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル講會ニ對シテハ本則ヲ適用セス

一　公務所ノ公務員間、一又ハ同種ノ會社、工場等ノ社員又ハ事務員間、若ハ單ニ親族故舊間ニ於テ組織スルモノ

二　總口數三十口以下ノモノ

三　總口數六十口以下ニシテ一月分ノ醵集金總額百二十圓ヲ超エサルモノ

第四條　講則ニハ左ノ事項ヲ定メ發起人及世話人ニ於テ其ノ住所氏名ヲ記入シ且ツ捺印スヘシ

一　名稱、目的、事務所ノ位置

二　開會定日、場所及講會ノ存續期間

三　總口數並ニ一口ノ掛金高

四　定額費用(花籠ヲ含ム)

五　花籠又ハ配當金等ノ處理ニ關スル事項

六　發起人及世話人ノ責任ニ關スル事項

七　掛金取立ノ方法

八　擔保ニ關スル事項

九　講金及擔保物件保管方法

十　講員ノ死亡其ノ他缺口ノ處理ニ關スル事項

十一　創立ニ關シ費用ヲ要スルトキハ其ノ豫定額並ニ支出方法

十二　發起人ノ所得及世話人等ニ報酬ヲ給スルトキハ其額

十三　入札ノ方法ヲ用フルモノニ在リテハ其ノ最低額

十四　解散ニ關スル事項

十五　毎期會ノ都度計算報告ニ關スル事項

十六　其ノ他必要事項

第五條　講員ノ募集ニ關シ虛僞誇張ノ手段ヲ用ヒ又ハ强ヲ加入ヲ勸誘スヘカラス

第六條　存續期間十年又ハ口數二百四十口ヲ超ユル講會ハ之ヲ組織スルコトヲ得ス

第七條　第一番會ハ加入口數總口數ノ三分ノ二以上ニ達スルニアラサレハ之ヲ開會スルコトヲ得ス

第八條　左記各號ノ場合ニ於テハ發起人又ハ世話人ヨリ十日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

一　講會滿了シタルトキ

二　中途講會ヲ解散シタルトキ

三　世話人ニ異動アリタルトキ

四　發起人、世話人、住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ

前項第一號及第二號ノ場合ハ屆書ニ收支明細書ヲ添付スヘシ

第九條　發起人及世話人ハ連帶ノ責任ヲ以テ附錄第一號乃至第三號樣式ノ帳簿ヲ備ヘ金品ノ收支及現在高ヲ明記シ支出ニ關シテハ一件毎ニ領收ノ證明ヲ受クヘシ

前項ノ書類ハ講會ノ滿了、中途解散又ハ認可ノ取消ニ因ル收支明細書提出後一年間之ヲ保存スヘシ

第十條　警察官吏ハ講會ノ帳簿其ノ他關係書類ノ檢査ヲ爲シ又ハ事務所ニ臨檢スルコトアルヘシ

第十一條　警察官署ハ發起人、世話人ニシテ講會ニ關シ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ認可ヲ取消シ又ハ開會ノ停止、講則ノ變更若ハ世話人ノ改任ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條　前條ニ依リ認可ヲ取消サレタルトキハ發起人、世話人連署ヲ以テ一月內ニ收支明細書ヲ所轄警察官署ニ提出スヘシ

第十三條　第二條、第五條、第六條、第七條ニ違背シタルトキ又ハ故ナク第十條ニ依ル檢査臨檢ヲ拒ミ若ハ第十一條ノ命ニ從ハサルトキハ發起人又ハ世話人ヲ拘留又ハ科料ニ處ス

第十四條　第八條又ハ第九條ニ違背シタルトキハ發起人又ハ世話人ヲ科料ニ處ス

附則

第十五條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　本則施行前ノ組織ニ係リ第三條各號ノ一ニ該當セサル講會ニシテ尙繼續セムトスルモノハ本則施行ノ日ヨリ一月內ニ第四條ノ事項ヲ具シ主タル事務所ヲ在地及開會地ノ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

前項ノ講會ニハ第六條ノ規定ヲ適用セス

第一號樣式　講員名簿

住所	氏名
市郡町村大字香地何某	

收支	口數
何口	

第二號樣式　集金簿

年月日	集金高	摘要
年月日		
累計		

市郡町村　番地　何某

第三號樣式　金品出納明細簿

年月日	受入高	拂込高	摘要

●有價證券割賦販賣業申請屆出手

【書式】

續

大正七年八月二十九日
福岡縣令第四十六號

改正　大正一五年縣令第七七號

第一條　有價證券割賦販賣業ニ關シ提出スル書類ハ總テ營業所ノ所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經由スヘシ但シ本縣内ニ二個以上ノ營業所ヲ有スルトキハ其ノ主タル營業所ノ所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經由スヘシ

第二條　左記各號提出ノ際ハ副本ヲ添附スヘシ

一、免許申請書並其ノ附屬書類
二、會社合併認可申請書並其ノ附屬書類
三、開業延期認可申請書
四、事業方法、販賣契約約款、會社ニ在リテハ定款ノ變更認可申請書並其ノ附屬書類

第三條　有價證券割賦販賣業法第二十四條ノ規定ニ該當スル既設會社ニシテ有價證券割賦販賣業ノ免許ヲ申請セムトスルトキハ所定ノ書類ノ外有價證券割賦販賣業法施行ノ際迄六月以上引續キ有價證券割賦販賣業ヲ營ミタルコトヲ證スル書面ヲ提出スヘシ

第四條　有價證券割賦販賣業ヲ營ム會社ニ於テ資本又ハ出資拂込ノ登記ヲ了シタルトキハ其ノ抄本ヲ添ヘテ知事ニ屆出ツヘシ

取締役、監査役、業務執行社員、支配人ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

●有價證券割賦販賣業取扱方

大正十五年七月一日
福岡縣訓令第八十四號

市役所　町村役場

有價證券割賦販賣業取扱方左ノ通定ム

有價證券割賦販賣業取扱方

第一條　有價證券割賦販賣業者ヨリ提出スル左ノ書類ヲ受理シタルトキハ

【書式】

一、免許申請書
二、會社合併認可申請書
三、資本金額變更認可申請書
四、他業兼營ノ認可申請書
五、有價證券割賦販賣業法施行細則第二十三條但書ノ規定ニ依ル認可申請書

第二條　有價證券割賦販賣業法施行細則第二十四條各號ノ屆書追加ノ際ハ事實ヲ調査シ副申スヘシ

第三條　有價證券割賦販賣業者ニ對シ事業ノ報告ヲ命シ又ハ業務財産ノ狀況ヲ檢査スルノ必要アルトキ若クハ事業方法ノ變更事業ノ停止役員ノ改任ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲シ又ハ免許ヲ取消ス必要アリト認ムルトキハ事由ヲ具シ上申スヘシ

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●債券月賦販賣取締ニ關スル件

大正七年六月六日
規保訓第六號警察部長

各郡長(分)警察署長

債券月賦販賣取締ニ關シ別紙ノ通警保局長ヨリ通牒有之候ニ付其ノ署部内營業者ニシテ割增金附債券ノ月賦販賣ニ關シ別記方法ニ依ルモノアラハ既成契約ハ之ヲ不問ニ附シ新規契約ニ對シテハ本月限リ之ヲ禁止スル樣相當措置セラルヘシ

追テ其結果ハ左記ニ依リ來ル本月二十五日迄報告セラルヘシ

【書式】

實見ヲ具シテ追進スヘシ

一、免許申請書
二、會社合併認可申請書
三、資本金額變更認可申請書
四、他業兼營ノ認可申請書
五、有價證券割賦販賣業法施行細則第二十三條但書ノ規定ニ依ル認可申請書

第二條　有價證券割賦販賣業法施行細則第二十四條各號ノ屆書追加ノ際ハ事實ヲ調査シ副申スヘシ

第三條　有價證券割賦販賣業者ニ對シ事業ノ報告ヲ命シ又ハ業務財産ノ狀況ヲ檢査スルノ必要アルトキ若クハ事業方法ノ變更事業ノ停止役員ノ改任ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲シ又ハ免許ヲ取消ス必要アリト認ムルトキハ事由ヲ具シ上申スヘシ

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●債券月賦販賣取締ニ關スル件

大正七年六月六日
規保訓第六號警察部長

各郡長(分)警察署長

債券月賦販賣取締ニ關シ別紙ノ通警保局長ヨリ通牒有之候ニ付其ノ署部内營業者ニシテ割增金附債券ノ月賦販賣ニ關シ別記方法ニ依ルモノアラハ既成契約ハ之ヲ不問ニ附シ新規契約ニ對シテハ本月限リ之ヲ禁止スル樣相當措置セラルヘシ

追テ其結果ハ左記ニ依リ來ル本月二十五日迄報告セラルヘシ

第六編　産業　第六章　無盡、有價證券割賦販賣

【書式】

一、商號及營業者ノ住所氏名(營業所共)
二、新舊營業ノ方法(規約添付ノコト)
三、現契約口數(概算)
四、其ノ他參考トナルヘキ事項

(了)

内務省警保局長通牒(大正七年六月内務省發警第二九號)

債券月賦販賣取締ノ件ニ關シテハ已ニ屢々通牒置候ヘトモ各地其ノ取締區々ニ亘リ現ニ月賦販賣營業者ニ於テ今尚射倖的方法ヲ提供シ公安及風俗上弊害少カラサルモノ有之候ニ付テハ割增金附債券ノ月賦販賣ニ關シ左記方法ニ依ル營業ハ向後總テ明治四十二年當省令第二十號ニ依リ御取締相成度尤モ本件ハ月賦契約者ニ與フル影響少カラサル義ト思料被致候間已成契約ニ就テハ之ヲ不問ニ附シ左記方法ニ依ル新規ノ契約ニ對シ本月限リ之ヲ禁止スル樣相當御措置相成度

記

一　債券一通ヲ一口トシ割賦拂込ヲナサシメ營業者ニ於テ適當ニ數口ヲ組合セタ債券ヲ購入シ當籤ノ場合割增金ヲ右組合加入者ニ分配スル方法

二　債券一通又ハ數通ニ對シ割賦拂込ヲ爲サシメ賦拂金カ債券價格ニ達セサル以前ニ於テ當籤割增金ヲ得シムル方法

三　割增金附債券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲シ當該債券カ當籤シタル場合割增金ヲ得シムル方法

四　前記ノ外債券價格以下ノ金額ニ對シ當籤割增金ヲ得シムル方法

以上

第七章　度量衡

●度量衡取締規則

大正十年九月二十二日
福岡縣令第二十六號

改正　大正一五年縣令第八二號

第一條　本則ニ於テ營業者ト稱スルハ度量衡器又ハ計量器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂ヒ使用者ト稱スルハ度量衡器又ハ計量器ヲ取引若ハ證明ノ爲使用シ又ハ使用ニ供スル爲所持スル者ヲ謂フ

第二條　市町村長ハ度量衡器又ハ計量器ノ取締執行ヲ補助シ又ハ第二種取締若ハ度量衡ノ計量ノ取締ヲ執行スヘシ

第三條　警察官吏及市町村長ハ取締上必要アリト認ムルトキハ度量衡器、計量器又ハ度量衡ニ依ル商品若ハ容器ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四條　度量衡法施行細則第十八條第二項ニ依ル願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　度量衡器又ハ計量器ノ種類及個數

二　製作又ハ修覆ヲ爲ス場所及期間

三　工場外ニ於テ製作又ハ修覆ヲ要スル事由

第五條　營業者ハ其ノ營業ノ區別ニ從ヒ營業所毎ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ事實發生ノ都度所定ノ事項ヲ記入スヘシ

一　度量衡器(計量器)修覆簿

種類、全長、全重、秤量、重量、番號、個數、修覆ノ要點、依頼ヲ受ケタル月日、依頼者ノ住所氏名

二　秤杆ノ補強修覆簿

秤量、番號、個數、修覆ノ部分、修覆月日及依頼者ノ住所氏名

三　度量衡器(計量器)販賣簿

販賣月日、種類、個數價格、卸賣ノモノニ在リテハ其ノ卸賣先

種類ハ度器ニ在リテハ直尺、曲尺、叉尺、巻尺、鯨尺、鯨尺、量器ニ在リテハ令縣製桝、疎密桝、玻璃製桝、陶磁器桝、圓筒形木製桝、方形桝、斗桝、化學用量器、瓦斯「メートル」水量「メートル」衡器ニ在リテハ天秤及上皿天秤、棹秤及自働秤、上皿秤秤及十分秤、秤秤、分銅、定量錘及定量增錘、計量器ニ在リテハ計量器、浮秤、檢温計、其ノ他ノ温度計、檢尺器、檢位衡、識度分銅、乳脂計ト爲シ尚特殊ノ種類又ハ構造ノ度量衡器又ハ計量器ニアリテハ大正六年農商務省令第七號ニ規定シタル種類ト爲スヘシ

販賣簿ハ卸賣ト小賣トニ分チテ口取ヲ爲シ又ハ別冊ト爲スヘシ但シ卸賣ニ在リテハ卸賣先別ニ口取ヲ爲スコトヲ妨クス

販賣簿ハ各種別毎ニ月計ヲ附スヘシ

第六條　營業者ハ第一號樣式ニ依リ前年四月ヨリ其ノ年三月ニ至ル一箇年分ノ販賣高屆書ヲ作リ營業所毎ニ毎年四月二十日迄ニ之ヲ差出スヘシ

營業所ヲ廢止シ又ハ營業免許ノ消滅シタルトキハ其ノ日迄ニ於ケル前項ノ販賣高屆書ヲ作リ遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

第七條　瓦斯供給事業者ハ第二號樣式ニ依リ前年十二月三十一日現在其ノ使用ニ係ル瓦斯「メートル」ノ數ヲ毎年三月三十一日迄ニ屆出ツヘシ

第八條　度量衡ニ關スル法令又ハ本規則ニ依リ差出ス書面ハ所轄市町村長ヲ經由スヘシ但シ左記ノモノハ此限ニ在ラス

一　身元保證金ニ關スルモノ

二　度量衡法施行令第九條ニ依ル許可願

三　工場外ニ於テ爲ス製作又ハ修覆ノ許可願

四　營業所外ニ於テ爲ス販賣ノ許可願

五　度量衡器ノ檢定請求書

第九條　使用者ニシテ左ノ各號ノ事項ヲ實行シ其ノ成績良好ト認ムルトキハ一定ノ期間度量衡器又ハ計量器ノ第一種取締及市町村長ノ行フ第二種取締ノ施行ヲ省略スルコトアルヘシ

一　檢査員ヲ置キ標準器ニ依リ度量衡器及計量器ノ檢査ヲ行ヒ且一定ノ方法ニ依リ常時其ノ正確ヲ保持スルコト

二　檢査ニ必要ナル器具機械ヲ設備スルコト

前項ニ該當スル者ハ檢査員ノ氏名、器具機械ノ種類及個數並檢査方法ヲ知事ニ屆出スヘシ

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ取引若ハ證明上使用セサル場合ト雖使用者ハ之ヲ取引若ハ證明ヲ爲ス場所ニ置キ又ハ行商ノ際之ヲ携帶スヘカラス

一　度量衡法第八條ノ二ニ該當スルモノ又ハ同條準用ノ規定ニ依ル計量器

二　計量ノ値ニ差異ヲ生スヘキモノノ附著シタル度量衡器

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料又ハ拘留ニ處ス

一　第三條ノ命令ニ從ハサル者

二　第五條、第六條、第七條、第十條ニ違反シタル者

附　則

大正五年七月一日以前製作、輸入、移入シタル瓦斯「メートル」ニ付キテハ大正十一年十二月三十一日迄、又大正九年十二月三十一日以前ニ製作、輸入、移入シタル計量器ニ付テハ大正十四年十二月三十一日迄本則第十條ノ規定ヲ適用セス但シ檢定ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一號樣式其ノ一

自　年　月　日
至　年　月　日

度量衡器販賣高屆

種類＼販賣高	卸賣				小賣				合計
	縣內	縣外	計		縣內品	縣外品	計		
曲尺	個數								
曲尺	價格								
巻尺	個數								
巻尺	價格								
其ノ他	個數								

種類	固定資産		分割		法人株		自由株		上位株		株	
	株数	價額	株数	價額	株数	價額	株数	價額	株数	價額	株数	價額
計												
第一回												
第二回												
第三回												
第四回												
第五回												
第六回												
第七回												
第八回												
第九回												
第十回												
第十一回												
第十二回												

（裏面参照）

種類	株				計		株					
	琉球株		其ノ他				北海道株		化粧用壁紙		五斯ト	水素ト
	株数	價額	株数	價額	株数	價額	株数	價額	株数	價額	株数	價額
計												
第一回												
第二回												
第三回												
第四回												
第五回												
第六回												
第七回												
第八回												
第九回												
第十回												
第十一回												
第十二回												

（裏面参照）

（注意）縣外卸賣ニ在リテハ其ノ重ナル卸賣先ノ道府縣名ヲ備考トシテ記載スヘシ

第一號樣式其ノ二

自　年　月　日
至　年　月　日　計量器販賣高調

種類／售數	卸賣高 縣內	卸賣高 縣外	卸賣高 計	小賣高 縣內品	小賣高 縣外品	小賣高 計	合計
計量器 售數							
計量器 價格							
浮秤 售數							
浮秤 價格							
溫度計 體溫計 售數							
溫度計 體溫計 價格							
溫度計 其他ノ溫度計 售數							
溫度計 其他ノ溫度計 價格							
生絲纖度檢定器 檢尺器 售數							
生絲纖度檢定器 檢尺器 價格							
生絲纖度檢定器 檢位衡 售數							
生絲纖度檢定器 檢位衡 價格							
生絲纖度檢定器 纖度分銅 售數							

（註意）

	售數	價格
乳脂計		
合計		

（註意）

右ノ通ニ候也

年　月　日

知事宛

（注意）縣外ノ卸賣ニ在リテハ種類別ニ其ノ主ナル卸賣先ノ道府縣名ヲ備考トシテ記載スヘシ

第二號樣式

大正何年十二月三十一日現在

瓦斯事業者ノ使用ニ依ル瓦斯「メートル」數調

區分／種數別	何燈用	何燈用	何燈用	何燈用	計
大正　年十二月三十一日現在					
前年同期現在					
增減					

右ノ通ニ候也

年　月　日

營業所

營業者　氏　名印

●度量衡取締規則施行規程

大正六年九月二十二日
農商務省令第四十八號

改正　大正十五年四月八日

第一條　參考品ニ關スル試驗又ハ度量衡ノ計量ノ取締ヲ行フベシ

參考品ヲ定メタル省令ノ外等級ヲ定ムル場合ニ於テハ其ノ取締ヲ行フベシ

市町村長ハ第一項ノ外所轄內第一種取締ノ告示アリタルトキハ之ニ取締ヲ行ヒ且當該使用者物ノ表示ヲ禁ジ又ハ其ノ表示ヲ變更シ又ハ其ノ使用ヲ禁ズベシ

第二條　（削除）

第三條　參考品製造者、參考品販賣者及市町村長ノ所轄內第一種取締施行中ハ其ノ檢查ヲ國吏ノ不時ニ於テ取締ノ實況ニ供シ且ツ檢查等ノ補助ヲ爲スベシ

第四條　參考品ハ前ノ取締ヲ行ヒタルトキハ其ノ外ニ檢查年月日ヲ記入認印スベシ

第五條　市町村長ハ參考品ニ對シテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ其ノ旨ヲ申請スベシ

第一號　參考品

第六編　產業　第七章　度量衡

知事宛

度量衡取締規則施行規程

第二號　參考品製造者及市町村長ハ時々其ノ所轄內ニ於ケル度量衡及計量器ノ檢査ヲ行フベシ

第三號　參考品製造者、參考品販賣者及市町村長ノ所轄內第一種取締施行中ハ其ノ檢査ヲ國吏ノ不時ニ於テ取締ノ實況ニ供シ且ツ檢査等ノ補助ヲ爲スベシ

第四條　參考品ハ前ノ取締ヲ行ヒタルトキハ其ノ外ニ檢査年月日ヲ記入認印スベシ

第五條　市町村長ハ參考品ニ對シテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ其ノ旨ヲ申請スベシ

第一號　參考品

第六編　產業　第七章　度量衡

瓦斯事業者　氏名印

ノ旨ヲ報告スベシ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　破產又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

三　相續開始ノアリタルトキ

四　氏名又ハ名稱ニ變更アリタルトキ

法定代理人ニシテ前項第一號、第二號、第四號ニ該當スル者アルトキハ亦前項ニ同シ

第六條　第一條第一項ノ取締ヲ行ヒタルトキハ其ノ年ノ四月十日迄ニ又同條第二項、第三項ノ取締ヲ行ヒタルトキハ其ノ終了後三十日以內ニ其ノ成績ヲ第一號書式及第二號書式ニ依リ報告スベシ

第七條　市町村ニシテ左ノ各號ノ事項ヲ其ノ行フベキ度量衡及計量器ノ第二種取締成績報告ヲ爲ムルトキハ一定期間其ノ區域內ニ於ケル使用者ノ第一種取締ノ施行ヲ省略スルコトアルベシ

一　專任取締員ヲ置キ取締ヲ行フコト

二　檢查ニ必要ナル器具ヲ設備スルコト

前項ニ該當スル市町村ニ在リテハ取締員ノ第「參考品ノ販賣及販賣」第二種取締ノ成績ヲ記入シ第六條ニ準ジ報告スベシ

第一號書式

取締ヲ行ヒタル市町村名	取締ヲ行ヒタル戶數		檢査ヲ爲シタル物ノ數	同上不正ト認メタル物ノ數			檢査物百中不正物ノ數
				告發	警告	計	
	度量衡器						
	計量器						
	度量衡器						
	計量器						
	度量衡器						
	計量器						
	度量衡器						
	計量器						
計	度量衡器						
	計量器						
不正物數ノ內訳							

違反者		法規		區別	物數		人員	
					度量衡器	計量器	度量衡器	計量器
メナ修ル受置モタナノサナルシモメルヲ使其他定用ハシ	度量衡法	第八條ノ二		告發				
				警告				

第六編　產業　第七章　度量衡

第一號ノ一ノ二ニ規定セル文書ノ提出ヲ要セザル	同上施行細則	項第四十八條第一	貸				
			借				
外物ノ附帯シタルモノ	産業組合法施行規則	第十條	貸				
			借				
何々	何	何	貸				
			借				
計			貸				
			借				

第二號書式

年　月　日

知事　殿

（市町村長）

（市町村長）

事業組合

面品ノ賣買取扱設備報告

何年度

其ノ一　産業組合ノ正味資産ノ表記アル面品ニ對スル分

取扱ヲ行フル面品名	面数	戸数	面主件数	賣買不足ナリシモノ件数		告發シタル記帳件数
				術計シタルモノ	術計セサルモノ	
	表記者					
	表記者					

（書面）

（書面）

計						

其ノ二　産業組合ニ於テ賣買スル面品ニシテ正味資産ノ表記ナキモノニ對スル分

取扱ヲ行フル面品名	面数	戸数	正味ニ計算セサリシ件数	告發シタル記帳件数

備考

（注意）一　取扱品數表ノ一中面主件數及賣買不足ナリシモノノ件數ハ取扱月數一月ニ於ケル面種類ノ面品ニ付キ多數面主シタル場合ハ之ヲ一件トシテ計上スベシ

二　面品ノ賣買不足ニ關シ本年度ニ於テ進捗シタル事項又ハ面工業組合其ノ他團體ニ於テ進捗シタル事項ハ大要ヲ備考トシテ記載スベシ

三　正味資産表記面品ノ事業ニ付大體ノ狀況ヲ備考トシテ附記スベシ

第八章　暴利取締

●暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件

大正六年九月三日
保發第九四五一號警察部長通牒

本月一日農商務省令第二十號及同省訓令第八號ヲ以テ發布セラレタル暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關シテハ不日詳細ヲ示達ス可キ筈ナルモ之カ違反者ノ有無及其手段方法等ハ豫メ細密ナル注意調査ヲ爲シ以テ之カ取締ニ遺憾ナキヲ期セラルヘシ

追テ其署部内ニ於ケル所謂買占賣惜又ハ手洗廻行(ムライマワル)爲ノ業アル者ニ對シテハ其人物性行資產信用ノ程度等此際豫メ調査報告セラルヘシ

大正六年九月十一日
商第五〇二九號内務部長依命通牒
佐(郡)市長宛

今回暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル省令（本年九月一日農商務省令第二十號）發布セラレ候處右ハ本月一日同省訓令第八號ノ趣旨ニ基キ之レカ勵行ヲ期セラルヘキニ付テハ貴部内ニ於ケル該令第一條列記物資ノ賣買集散ニ關スル狀況及左記ノ事項ハ警察署長ニ於テ嚴重ナル監視ヲ爲スコト ニ相成居候モ右第一第二ノ事項ニ付テハ特ニ貴官(郡)ニ於テ之レカ留意ヲ忘ラス調査ノ結果ハ隨時報告セラルヽト偶ニ所轄警察署長ニモ御報知相成候樣要度依命及通牒候也

大正六年九月十三日
保祕第一八一號警察部長通牒

表ニ本月三日付保發第九四五一號ヲ以テ通牒セシ暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件ニ就テハ不日警察部内ニ之カ主任官選任セラルヽ筈ニツキ貴部内ニ於テ苟モ省令制定ノ趣旨ニ違反スルカ如キ行爲アリト認ムルトキハ迅速ニ之ヲ調査シ或告ニ關スル期間ハ條件等ニ付意見ヲ附シ報告相成度尙當時左記事項中第一第二ニ付テハ特ニ郡市長ニ於テモ之レカ狀況ヲ精査シ其結果隨時各位ニ通報スルコトニ取計置候ニ付右御了知ノ上本件取締上遺憾ナキ樣被致度依命及通牒候也

記

一、取締勵行上其準備トシテ省令指定物品中最モ注意警戒ヲ要スル品目ニ付其ノ(一)現品在高(二)平常ノ需要高(三)生產若ハ移入高又ハ取引高(四)主產者又ハ取扱商人ニ關スル調査(資產信用從來ノ取引高)ヲ行フコト

二、前記物品ノ正常市價ヲ調査シ同時ニ其變動ノ狀況並其ノ原因調査ヲ行フコト

三、被減告者アル場合ニハ嚴重ナル監視ヲ行ヒ若シ減告ニ違反シ若クハ條件ニ違反シ又ハ違反セントスルモノアルトキハ速ニ報告スルコト

四、第一條列記以外ノ物品ニ付本令制定ノ趣旨ニ關シ取締ヲ要スルノ事實アリト認ムルトキハ意見ヲ附シ上申スルコト

大正六年九月十七日
保祕第一八五號警察部長通牒

暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關シテハ兼キニ通牒シ置タル次第モ有之處他府縣ノ或地方ニ於テハ之カ調査並ニ觀察ニ從事スル警察官ノ行動往々誤骨ニ流レ爲ニ市場ニ不安ノ念ヲ惹起スル虞アルヤノ聞アリ右調査並ニ觀察ニ當リテハ努メテ苛察ニ亙ラサル樣注意シ省令ニ違背スト認メラル、場合ヲ除ク外各店舗ニ就キ搜査スルカ如キコトナク前通牒中ノ列記事項ニ關シテハ常時不斷注意ヲ拂ヒ隨時報告スルコトヽナシ此際一時ニ調査ヲ行ヒ以テ當業者ニ苦痛ヲ與ヘ却テ市場ノ動搖ヲ來スカ如キコトナキ樣留意スヘシ

●鹽酸加里及鹽化加里買占ニ關スル件

大正六年九月二十一日
保祕第一九四號警察部長通牒

從來米國ニ於テ使用スル鹽酸加里及鹽化加里ハ其大部分ヲ獨逸ヨリ輸入シ居タルニ今回米獨開戰ノ結果右輸入杜絕シ爲ニ米國ニ於ケル製品ノミニテハ其需用ヲ充タス能ハス從ツテ該品ノ價格亦暴騰シタルヲ以テ在紐育「リツカー」會社ニテハ本邦ニ於ケル同品在荷ノ全部ヲ買占ムル計劃ニテ最近人ヲ派遣シツヽアリトノ說アリ果シテ買占等ノ行ハル、事實ナキヤ十分警戒ヲ加ヘ若之ヲ發見シタル時ハ此旨即報スヘシ而シテ本件ハ之ヲ當業者ニ發表スルトキハ爲ニ賣惜又ハ買占ヲ爲シ價格ヲ騰貴セシムル虞モ有之物價調節省令發布ノ主旨ニ背反スルニ至ルヘキニヨリ之カ調査ニ當リテハ細心ノ注意ヲ拂フヘシ

第七編　工場

第七編　工場

●工場法施行ニ關スル細則

大正五年八月三十日
福岡縣令第二十九號

改正　大正六年縣令第五二號、一一年第一號、一五年第一〇五號

工場法施行ニ關スル細則左ノ通定ム

工場法施行ニ關スル細則

第一條　（削除）

第二條　（削除）

第三條　工場主工場管理人選任ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歴書及工場管理ニ關シ工業主ニ代リ一切ノ權限ヲ有シ責任ヲ負フヘキコトヲ證スルニ足ルヘキ契約書其ノ他ノ書類寫ヲ添付スヘシ

第四條　左ニ掲クル者ハ工場管理人タルコトヲ認可セス

一　工場ノ管理ニ付實權ヲ附與セラレサルモノト認ムルトキ

二　未成年者、復權セサル家資分散者及破產者、禁治產者、準禁治產者並認可ヲ取消サレタル日ヨリ二年ヲ經過セサル者

三　禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ三年ヲ經過セサル者

四　本人ノ性行又ハ經歷上工場管理人タルニ適セスト認ムルトキ

第五條　工場管理人ニシテ前條第一號若ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ認可ヲ取消スモノトス

工場管理人ニシテ家資分散、破產、禁治產、若ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ禁錮若ハ懲役ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ認可ハ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テ工業主ハ之ヲ屆出ツヘシ

第五條ノ二　工業主職工ニ貯蓄ヲ爲サシムル爲工場法施行令第二十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　貯蓄ヲ爲サシムル職工ノ範圍

二　貯蓄ノ方法及金額又ハ賃金ヲ標準トスルモノニアリテハ其ノ割合

三　利率

四　拂戻ニ關スル事項

第六條　工業主職工ノ貯蓄金ノ管理ニ關シ認可ヲ受ケムトスルトキハ貯蓄並管理ノ方法ヲ記載シ申請スヘシ

第六條ノ二　前二條ノ許可及認可ノ申請書ハ之ヲ併記スルコトヲ得

第七條　（削除）

第八條　工業主工場法施行規則第二十二條ノ規定ニ依ル工場管理人ノ選任、解任、死亡ノ屆出ニハ其ノ年月日ヲ具申スヘシ但解任ノ場合ハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

同條ノ規定ニ依ル書類ノ滅失又ハ毀損ノ屆出ニハ其ノ事實ヲ詳細ニ具由スヘシ

第九條　工業主ハ職工ノ一日ノ就業時間、休憩時間並其ノ時刻、毎月ノ休日及就業時ノ轉換ヲ遲滯ナク屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニシテ就業規則ノ屆出ヲ爲シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ二　工業主ハ十六歲未滿ノ者又ハ女子ヲ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ノ就業ニ付勤怠簿ヲ調製シ毎日ノ始業及終業ノ時刻並休日缺勤等ヲ明ニスヘシ但シ紡織又ハ分撿ノ爲工場法施行規則第九條ニ依リ休業シタルモノニアリテハ其ノ旨記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ三年間之ヲ保存スヘシ

第六條ノ三　工業主ハ賃金支拂ノ方法及其ノ支拂ノ時期並賃工ノ負擔ニ關スル事項ヲ明瞭ナル方法ニ依リ之ヲ記載シタル書面ヲ賃工ニ交付スルコトヲ要ス

第六條ノ四　工業主ハ賃工ノ賃金支拂明細書ヲ調製シ賃金ノ支拂ヲ明ニスベシ

前項ノ規定ハ家族ノミヲ使用スル事業ニ之ヲ適用セズ

第六條ノ五　第六條ノ二及第六條ノ三ノ規定ニ違反スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第七條　賃工ノ扶助金給付ニ關シテハ工業主ハ毎年一回ノ受ケタル日ヨリ翌月三十日迄ニ厚生大臣ニ報告スベシ

（第六條ノ二關）

大正　年　月　分　賃工扶助月報

氏名	別 男女	賃金支拂	賃業	賃出帳又扶助金拂戻金拂	扶助扶殺休	賃扶助 第三條ノ依リ七行政官廳ノ命ズル事項	第一條ノ依リ厚生大臣ノ命ズル事項	第二條ノ依リ厚生大臣ノ命ズル事項	第三條ノ依リ厚生大臣ノ命ズル事項	扶助扶疾症	扶助	扶助扶切打	扶助ノ負又病傷者ノ者	月月給扶助	月ノ止廢扶助	米	賃支給扶助金ニルテ工ノ助	賃支給扶助金ニルテ米子又は者ノ者
合計																		

記載心得

一　本表ハ毎年用紙ノ一頁ニ美濃紙半折大トス

二　本月分ニ業務上ト否トヲ問ハズ負傷又ハ疾病ニ依リ扶助ヲ受ケタル者及賃業扶助金ノ支拂ニ付之ヲ記載スベシ

前項ノ場合ニ業務上ニ非ザル負傷疾病者ノ扶助ニ關シテハ第六條ノ二第三號ニ準ズベシ

同一工業ニ於テ同一月内ニ二度以上記載スベキ事由生ジタルトキハ各別ニ記載スベシ

四　負傷者及疾病者ハ各別ニ其氏名ヲ記載スベシ負傷ト疾病ト兼ネタル者ハ疾病ニ入ル

五　休業扶助料、障害扶助料、遺族扶助料、葬祭料及打切扶助料ノ各欄ニハ賃業賃金ニ對スル日給及賃金額ヲ記載スベシ（第六ノ三〇日分三五、三〇ノ如ク）

六　傷病者ニハ治癒、死亡、未治、休業ノ別ヲ記載スベシ

七　休業十日以上ニ亘リタル者ニ付テハ扶助料其他事業賃金其他ノ支拂ヲ各人別ニ具體的ニ巻末又ハ別紙ニ記載スベシ

（第六條ノ二關）

監督注意欄

月日	注意事項	地工業主又ハ印工	月日	處置ノ要領	地工業主又ハ印工

本欄ノ用紙ニ頁ノ中央ヲ折大トス

●工場法施行心得

大正五年八月三十一日
內務省令第三十八號

第一條　工場法ノ適用ヲ受クル工場ニシテ其適用ヲ受クル工場ニシテ其適用ヲ受クル工場ニシテ其適用ヲ受クル事由ヲ生ジタルトキハ遅滯ナク左ノ事項ヲ其ノ事由ヲ生ジタル日ヨリ十日以內ニ報告スベシ

一　工場主
二　工場名
三　工場所在地
四　業務ノ種類
五　其ノ許可スル職工ノ員數
六　其ノ事由

第二條　工場法施行ニ關スル許可若ハ認可申請書又ハ工場法第八條第三項及同法施行規則第二十二條規定ニ依ル同意ヲ受クルトキハ死亡ノ場合ヲ除ク外賃見ヲ具シ連署スベシ

第三條　工場主ハ職人ニシテ工場法施行ニ關スル事項ニ關シ工場主ノ代理ナキニ至リタルモノト認メタルトキハ遅滯ナク其ノ事由ヲ報告スベシ

●工場法適用工場ノ取締狀況報告方

昭和二年十月三十七號

大正十一年內務省令第一號ヲ左ノ通改正ス

工場法適用工場ニ於ケル職業病ヲ左記樣式ニ準ヒ毎年內務省ノ上第一號及第二號樣式ノ其ノ年十月三十日迄ニ第三號乃至第五號樣式ニ依リ毎年一月三十一日迄ニ報告スベシ

第一號樣式		職業病及原動機調	昭和　年十月一日現在	警察署	

〔裏面參照〕

〔裏面〕

工場名	主ナル製品目	一ヶ年生產高		
		種類	數量	價格

職工數

區分 ＼ 男女別 / 年齡別	男					女					合計
	十四歲未滿	十四歲以上十五歲未滿	十五歲以上十六歲未滿	十六歲以上	計	十四歲未滿	十四歲以上十五歲未滿	十五歲以上十六歲未滿	十六歲以上	計	
通勤											
寄宿											

改正工場法附則ニ依リ晝夜交替作業ニ從事スル職工數

十五歲未滿ノ男子	女子	計

原動機

蒸汽機關		蒸汽タービン		石油機關		瓦斯機關		水車						電動機				其ノ他	
								タービン水車		ペルトン水車		其ノ他		自家發電		他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノ			
箇數	馬力數	箇數	馬力數	箇數	馬力數	箇數	馬力數	箇數	馬力數	箇數	馬力數	箇數	馬力數	箇數	馬力數	箇數	馬力數	箇數	馬力數

備考　用紙ハ半紙半折形タルコト

第三號樣式

警察署

工場法ノ適用スル事業所名簿　昭和　年十月一日現在

工場名	事業ノ種類	常時使用スル職工ノ數	男職工	女職工	計
			人	人	人
計					

備考

一、工業主ニ於テ適當ナル名簿ヲ調製シ本表ニ準ジ必要事項ヲ記載シ警察官ニ提出スベシ

一、用紙ハ美濃形タルコト

第三號樣式（甲）

警察署

工場法規違反調　昭和　年　至自十一月

業務別（中分類）	法規違反件名	家宅捜索件數	令狀捜索件數
計			

（裏面參照）

（裏面參照）

備考

一、違反件名ハ文書（工場監督官ノ復命書等ヨリ文書ヲ以テ工場主ニ指示セルモノヲモ含ム）又ハ出頭ヲ命シ違反ヲ質ク又ハ記載スルコト

一、用紙ハ美濃形タルコト

第三號樣式（乙）

警察署

工場法規違反調　昭和　年　至自十一月

工場名	法規違反件名	罰金
		圓

備考

一、違反件名ハ記スルコト

一、用紙ハ美濃形タルコト

第四號樣式

警察署

職工職告解雇及解雇手當支給件數調　昭和　年　至自十一月

業務別（中分類）	作業服備品證明書交付		職告解			解雇件數			解雇手當支給件數		
	男工	女工	男工			女工			男工		女工
			十職告期四日間	同四日以上十日以	同十日以上二十日以	十職告期四日間	同四日以上十日以	同十日以上二十日以	十貨四金日分	以十四日分上	以二十日分上
計											

備考
一、解雇手當支給件數ハ工場法施行令第二十七條ノ二ニ依リ支給セルモノニ付區分記載スルコト
一、用紙ハ美濃形タルコト

第五號樣式

職工懲戒解雇調　昭和　年　自一月　至十二月

工場名	懲戒解雇事由	職工數 男	職工數 女	警察署

備考
一、職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ解雇セラレタル者ニシテ解雇ノ豫告又ハ解雇手當ノ支給ヲ爲ササルモノヲ記載スルコト
一、用紙ハ美濃形タルコト

●工場法第八條第四項及第十五條ノ運用ニ關スル件

大正五年九月八日
衛收第一五九六〇號警察部長通牒

工場法第八條第四項及第十五條ノ運用ニ關シテハ左ノ通了知相成度

記

一、工場法第八條第四項ノ季節ニ依リ繁忙ナル業務ニ付テハ目下主務省ニ於テ左ノ通認定セラレ居候條依テ若シ右以外ノ業務ニシテ時間延長認可ヲ申請スル者アルトキハ特ニ其ノ事由ヲ調査スヘキコト

一　生絲製造業
二　製茶業
三　果物ノ罐詰ニ關スル業務

二、左記各號ニ該當スルモノハ之ヲ業務上ノ疾病トシテ取扱フコト

一　砒素、砒素化合物、水銀、水銀化合物、鉛、鉛化合物、チアン水素酸、チアン化合物、其ノ他毒性又ハ劇性料品ヲ取扱フ業務ニ於ケル其ノ中毒諸症及業務ノ過程ニ於テ發生シタル毒性又ハ劇性物質ニ因ル中毒諸症

二　業務上使用スル鉱酸、苛性アルカリー、「クロール」、「ブルオール」、「フルオール」化合物、クローム化合物、「テール」其ノ他腐蝕性又ハ刺戟性料品ニ因ル腐蝕又ハ潰瘍

三　生絲工ノ手指蜂窩織炎、研磨工ノ水疹及業務上使用スル「テール」、「セメント」、チアン化合物等ニ因ル皮膚濕疹

四　業務ニ因ル筋ノ强直、痙攣、斷裂、腱鞘炎、關節炎、脱腸

五　高熱物體ノ取扱、刺戟性瓦斯又ハ異物ニ因ル結膜炎、其ノ他ノ眼病

六　霍複、獸毛、革皮其ノ他古物ヲ取扱フ業務ニ因ル丹毒、炭疽、「ペスト」、痘瘡

七　前各號列記以外ノ疾病ニシテ業務上ノ疾病ト認メラルルモノ

●警察及衛生行政ト工場監督行政トノ聯絡ニ關スル件

大正五年九月二十二日
商第一一九三二號　商工局長
警保局長
衛生局長　通牒

警察及衛生ノ行政ハ工場監督ノ行政ト最モ密接ナル關係アルヲ以テ警察官吏若ハ吏員及衛生官吏又ハ吏員ハ工場監督官吏トノ間ニ於テ職務上常ニ聯絡ヲ保チ相互ノ間ニ於テ必要ノ共助ヲ爲スヘキ義ニ付依命左記事項及通牒候也

一、警察官吏、衛生官吏、及吏員ヲシテ工場法規ニ通曉セシムル樣注意スルコト

二、工場法ノ適用ヲ受クヘキ工場ノ存否、幼少年工若ハ女工ノ使用就業、休日、休憩ニ關スル工場法ノ規定カ遵守セラルヽヤ否ヤニ關シテハ各警察署長又ハ分署長ニ於テ管内諸工場ニ對シ常ニ注意ヲ怠ラス若シ違反者ヲ生スル虞アルトキハ遲滯ナク之ヲ本廳ニ報告シ其指揮ヲ俟テ必要ノ處置ヲ爲スコト

三、前記以外ノ事項ト雖モ其違反者ヲ生スル虞アルトキハ前項ニ準シ之ヲ報告スルコト

四、工場法規ニ關スル認可、許可等ノ申請書類ニシテ警察署又ハ分署ヲ經由スヘキ旨ヲ定メタル場合ニ於テ副申ノ爲工業主ト交渉スルノ必要ヲ生スルコトアルモ專門ノ智識ヲ要スル事項ニ渉ルトキハ成ルヘク之ヲ避クルコト

五、警察署長又ハ分署長ハ工場法ノ施行ニ關シ特ニ委任セラレタル事項ヲ處理スル場合ニ於テモ專門ノ智識ヲ要スル事項ニ渉ルトキハ本廳ノ指揮ヲ請フコト

六、前項ノ外警察官吏衛生官吏及吏員ハ工場法規ノ施行ニ關シ不斷ノ注意ヲ爲スヘキハ勿論ノ義ナルモ專門ノ智識ヲ要スル事項ニ付テハ當該工場監督官吏ニ之ヲ移スヲ以テ本則トスルコト尤モ輕微ナル事件ハ之ト協議ノ上適宜處理スルコトヲ妨ケサルコト

七、前數項ニ揭クルモノノ外警察官吏、衛生官吏及吏員ト工場監督官吏トハ執務上不斷ノ聯絡ヲ保ツコトニ留意シ職務ノ遂行上相互間ニ於テ必要ナル助力ヲ爲スヘキコト

八、警察官吏、衛生官吏及吏員ハ其ノ本務ニ依ル場合ノ外單ニ工場法規ノ施行ニ關スル監督ノ爲メニハ可成作業現場ニ臨檢ヲ爲ササルコト

九、警察官吏又ハ衛生官吏ニシテ工場監督官吏ヲ兼ヌルモノハ工場法第十四條ノ證票ヲ携帶シ必要アル場合ニ限リ之ヲ示スコト

●職工ト人夫トノ區別

大正五年十一月二十八日
衛收第二六六二八號警察部長通牒

工場法施行上職工ト人夫トノ區別ニ關シ後記ノ通省議決定相成候旨農商務省ヨリ來牒ニ付右通諜候也

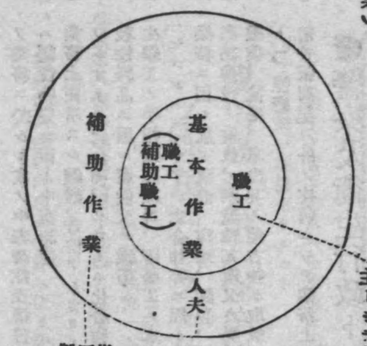
職工ト人夫トノ區別

一、職工ト人夫トノ別ハ其ノ操ル所ノ業務ヲ以テ標準トス卽チ主トシテ作業場內ニ在リテ當該工場ノ目的トスル作業ノ本體タル業務ニ付勞役ニ從事スル者及其ノ業務ヲ助成スル爲勞役ニ從事スル者ヲ職工トシ主トシテ作業場外ニ在リテ間接ノ補助作業ニ從事スル者ヲ人夫トス

二、前段ニ依リ難キトキハ工業主若ハ被傭者ノ意志ヲ參酌シテ之ヲ分別ス

尙ホ工場ノ業務ニ從事スル者ニシテ其ノ操業カ性質上職工ノ業務タル以上ハ雇傭關係カ直接工業主ト職工トノ間ニ存スルト或ハ職工供給請負者、事業請負者等ノ介在スル場合ヲ問ハス一切其ノ工業主ノ使用スル職工トシテ取扱フ

（參考）



●工場取締規則

大正六年七月十三日
內務省令第三十四號

改正　大正七年勅令第五〇號、八年第一二號、第四七號、九年第四九號、一二年第二九號、一三年第一〇號

第一條　本則ニ於テ工場ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

紡織工場、原動機ヲ使用スル製靴、製絲、絹絲、機物工場
金屬精錬、製鐵、製銅所
鑄物工場、原動機ヲ使用スル鐵工場
原動機ヲ使用スル製釘所、金屬線索製造所
船舶（小形和船ヲ除ク）製造又ハ修繕所
電氣機械器具製造又ハ修繕工場
鍛冶工場、鑄工場
鉛又ハ鉛化合物ヲ原料トスル製造工場
硝子、セメント、石灰、コークス製造所
煉瓦、陶磁器、瓦、土管、坩堝製造所、鐵鍋鑄付所
油脂ノ採取（菜種油、椿油及溶劑ヲ用ヰタル木蠟ノ採取ヲ除ク）又ハ精製（菜種油、椿油、木蠟及石油ノ精製ヲ除ク）所
石炭タール、木タール、石油蒸溜產物又ハ其ノ殘渣ヲ原料トスル製造所
染料（日本藍ヲ除ク）、塗料、顏料製造所、獸骨蒸煮所
アルコール、エーテル、二硫化炭素、コロヂオン其ノ他ノ引火シ易キ物ノ製造又ハ精製所鑄化石灰、炭化石灰、セルロイド、其ノ他ノ發火シ易キ物ノ製造、加工又ハ精製、亞素酸曹達、過酸化曹達、硝酸加里（硝石）、硝酸曹達（智利硝石）、硝化綿、其ノ他ノ爆發シ易キ物（火藥及壓縮瓦斯ヲ除ク）ノ製造
又ハ精製所、鉋寸製造所
毒劇物、毒劇藥ノ製造又ハ精製所

石鹼製造所
製紙所（手漉ヲ除ク）
砂糖精製所原動機（日本形水車ヲ除ク）ヲ使用スル精穀、製粉工場
麥酒製造所
製革、毛皮精製工場
原動機（日本形水車ヲ除ク）ヲ使用スル礦石類、硝子、煉瓦、陶磁器屑等ノ粉碎所
原動機ヲ使用スル製材所
汽機、汽罐ヲ使用スル工場
其ノ他著シク粉塵ヲ飛散シ有臭、有害ノ瓦斯若ハ廢液ヲ發生シ又ハ甚シク騷音、震動ヲ生スル虞アル工場
汽壓十封度以上ヲ使用スル蒸釜、煮沸釜ハ汽罐ニ準ス

第二條　工場ヲ設置セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ鍛冶工場、瓦、石灰、土管、コークス（堆積燃燒ニ依リ製造スル殼ニ限ル）製造所、原動機（汽機ヲ除ク）ヲ使用スル精穀、製粉所及二十馬力未滿ノ原動機（汽機ヲ除ク）ヲ使用スル精穀、製粉所ニ付テハ所轄警察官署ニ其ノ他ニ付テハ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ第六號、第八號乃至第十號及第二項ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一、住所、氏名、生年月日、法人ニ在リテハ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名
二　設置地ノ地名、番號
三　工場名
四　四隣二町以內ノ略圖
五　工場敷地略圖
六　工場建造物ノ坪數、構造仕樣書、非常口、火爐、竈、煙突、汽機、汽罐其ノ他主要設備ノ位置及互ノ距離ヲ示シタル平面圖
七　原動機（汽機ヲ除ク）ノ種類、臺數、馬力數、主ナル機械ノ名稱、個數
八　製品ノ名稱、原料、作業方法
九　除害ノ必要アルモノハ其ノ方法
十　工事落成期日
十一　汽機、汽罐ヲ使用スルモノニアリテハ前項各號ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　汽罐ノ種類、個數並圖面
二　汽罐ノ繼鬚、煙管及火局ノ長サ、徑並水管及火管ノ長サ徑、個數
三　罐板ノ種類、厚サ
四　支柱、鋲ノ種類、寸法及距離
五　水壓試驗ノ成績及其ノ試驗年月日
六　常用汽壓
七　罐格ノ面積
八　安全瓣ノ種類、格數及寸法
九　汽罐ノ履歷及製作所名、製作年月日
十　燃料ノ種類及其ノ消費高
十一　汽罐ノ種類、個數及實馬力
十二　汽筒ノ徑、衝程ノ長サ及汽機ノ回轉數

第三條　工場ハ其ノ建造物ヨリ周圍他人ノ住家等ニ對シ相應ノ距離ヲ有シ公害ナシト認ムルモノニアラサレハ許可セサルヘシ但シ規模狹小若ハ構造完全ニシテ公害ナシト認ムルモノハ其ノ距離ヲ有セサルモ特ニ許可スルコトアルヘシ

第四條　工事中ハ當廳又ハ所轄警察官署ノ指示ニ從ヒ檢査ヲ受クヘシ

第五條　工場ノ設備完成シ事業ヲ開始セムトスルトキハ許可ヲ受ケタル官廳ニ届出其ノ使用ノ認可ヲ受クヘシ

汽機、汽罐ニ付テハ檢査證ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス但シ假使用ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限リニ在ラス

所轄警察官署ハ假使用ノ認可ヲ爲スコトアルヘシ

第五條ノ二　汽機、汽罐檢査證ハ汽機、汽罐ノ附近見易キ場所ニ掲クヘシ

汽機、汽罐ハ檢査證表示ノ期間後又ハ常用汽壓ヲ超過シ使用スルコトヲ得ス

汽機、汽罐ニ異狀ヲ生ジタルトキハ其ノ使用ヲ中止シ直ニ其ノ原因及狀況ヲ詳記シ縣廳ニ届出ツヘシ

第五條ノ三　汽罐ニハ完全ナル汽壓計、硝子水準器、檢水栓及鎖鑰ノ設ケアル安全弁ヲ備付クヘシ

前項ノ器具ニ異狀ヲ生ジタルトキハ汽罐ノ使用ヲ中止スヘシ

安全弁ヲ封鎖シタルトキハ之ヲ開封スルコトヲ得ス但シ故障アリト認メタルトキハ所轄警察官署ニ届出開封スルコトヲ得

前項ノ場合ハ其ノ事由ヲ詳記シ更ニ縣廳ニ其封鎖ヲ請フヘシ

第五條ノ四　汽機、汽罐ノ檢査ハ定期、臨時ノ二種トス

定期檢査ハ使用期間滿了ノ際之ヲ行ヒ其ノ期日ハ豫メ之ヲ通知ス

臨時檢査ハ必要ト認ムルトキ之ヲ行フ

第六條　工場カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用停止ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　工場ノ使用權ヲ承繼シタル者ハ左ノ事項ヲ具シ七日以内ニ許可ヲ受ケタル官廳ニ届出ツヘシ

一　住所、氏名、生年月日、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ住所、氏名

二　工場名、前權利者ノ住所、氏名

前項ノ承繼者ハ工場設置者ト看做ス

第八條　左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ許可ヲ受ケタル官廳ニ届出ツヘシ但シ第四號ノ場合ハ戸籍法上ノ届出義務者又ハ清算人之ヲ爲スヘシ

一　燒失、崩壞等ノ事故ヲ生シタルトキ

二　第二條第一號乃至第五號、第七號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ

三　三月以上休場セムトスルトキ若ハ廢場シタルトキ又ハ其ノ使用權ヲ喪失シタルトキ

四　設置者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキ法人ニ在リテハ解散シタルトキ

五　汽機、汽罐檢査證面ノ記載事項ニ異動ヲ生シ又ハ檢査證ヲ紛失、毀損シタルトキ

六　汽機汽罐ノ使用ヲ廢止シタルトキ此ノ場合ハ檢査證ヲ返納スヘシ

第九條　主務官吏ニ於テ工場ヲ檢査セムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

主務官吏檢査ノ場合ハ相當ノ準備ヲ爲シ且工場設置者又ハ其ノ代理人立會フヘシ汽罐檢査上必要ト認ムル場合ハ設備ノ一部若ハ全部ノ除去ヲ命シ、水壓試驗又ハ罐板穿孔檢査ヲ行フコトアルヘシ此ノ場合ニ於ケル損失又ハ費用ハ總テ營業主ノ負擔トス

汽機、汽罐定期檢査ノ通知ヲ受ケタルトキハ汽罐ノ貯水ヲ排出シ人孔、泥孔ノ蓋及螺格、火橋ヲ取外シ罐體ヲ冷却セシメ罐筒ノ蓋ヲ取拂ヒ煙筒其ノ他檢査ニ必要ナル部分ヲ掃除シ受檢ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一　幣成期日ヲ經過シ仍幣成セサルトキ

二　六月以上休場シタルトキ

第十一條　準禁治産者、妻ノ爲ス願屆書ニハ保佐人又ハ夫ノ連署ヲ要ス但シ民法第十七條ノ場合ハ此ノ限リニ在ラス

第十二條　本則ノ規定ニ依リ當廳ニ提出スル願屆書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十三條　第二條、第五條第一項、第二項、第五條ノ二、第五條ノ三、第七條、第八條又ハ第九條第二項第九條、第四項ノ規定ニ違背シ若ハ第四條又ハ第九條第一項、第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ若ハ第六條ノ規定ニ依ル處分ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十四條　工場設置者又ハ第十五條ニ依リ工場設置者ニ代ル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ノ行爲ニ付テハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルヽコトヲ得ス

第十五條　工場法第十八條ニ依ル工場管理人ハ本則ノ適用ニ付テハ工場設置者ニ代ハルモノトス

工場設置者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員、其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

附　則

第十六條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　第一條ニ該當スル工場ニシテ本則施行以前ノ設置ニ係ルモノハ本則ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項工場ノ設置者ハ大正六年十二月三十一日迄ニ第二條第一號乃至第九號ノ事項ヲ具シ届出ツヘシ但シ鍛冶工場、瓦、土管製造所ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ届出ニ付テハ第二條本文ノ規定ヲ準用ス

第十八條　明治十八年布達第十四號危害品製造所設置規則及明治三十一年縣令第九號火業取締規則ハ之ヲ廢止ス

第十九條　第十七條第二項ノ規定ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則（大正八年縣令第四十七號）

本則ハ大正八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則ノ規定ニ依リ新ニ取締ヲ受クル工場ニシテ本則施行以前ノ設置ニ係ルモノハ本則ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ設置者ハ大正八年十一月三十日迄ニ第二條第一號乃至第九號ノ事項ヲ具シ届出ツヘシ

附　則（大正九年縣令第四十九號）

本則ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行以前ノ設置ニ係ル蒸釜、煮沸釜ハ本則ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ豫メ縣廳ノ通知スル期日ニ定期檢査ヲ受ケ檢査證ヲ受クルニ非サレハ其ノ期日後ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ設置者ハ大正十年一月三十一日迄ニ第二條第二項第一號乃至第九號ノ事項ヲ具シ届出ツヘシ

前二項ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

●工場取締規則施行心得

大正六年七月十三日
福岡縣訓令第三十號

改正　大正八年訓令第四七號

第一條　規則第二條ニ依ル願書ヲ受クルルトキハ同條各號ノ事項ヲ具備スル十否ヤヲ調査シ仍警部、警部補又ハ巡査部長若差支アルトキハ巡査ヲシテ現場ニ臨檢セシメ左ノ事項ヲ調査シタル復命書ヲ徴シ公害ノ有無其ノ他必要ナル事項ヲ調査シ許否ノ手續ヲ爲シ若ハ當廳ニ差出スヘキモノニ付テハ意見ヲ具シ復命書ト共ニ三日以内ニ願書ヲ進達スヘシ

一　敷地並四圍ノ狀況及公害ノ有無

二　四圍二町以内ニ規則第三條ニ掲クルモノ、有無（火薬庫、火薬假貯藏所ニ在リテハ四町以内）並其ノ距離

三　新建造物ヲ轉用セムトスルモノニ在リテハ危險ノ有無

四　近傍居住者、地主等ニ於テ故障ノ有無

五　其ノ他當廳ニ於テ參考トナルヘキ事項

第二條　規則第五條ニ依ル使用認可ノ屆出ヲ受クルルトキハ警部、警部補又ハ巡査部長若差支アルトキハ巡査ヲシテ現場ニ臨檢セシメ規則第二條第一項第五號乃至第九號ノ事項ハ許可セラレタルモノト相違ナキヤ否ヤヲ實査セシメタル後相當處理シ當廳ニ願出ノモノニ付テハ三日以内ニ意見ヲ具シ進達スヘシ

汽機、汽罐ニ付テハ据付工事落成ノ實否ヲ調査セシメタル後三日以内ニ進達スヘシ

●當廳ニ願出ノモノニシテ至急ヲ要スルモノト認ムルトキハ假使用ノ認可ヲ爲シ其ノ旨直ニ報告スヘシ但シ汽機、汽罐ニ付テハ技術員ノ檢査終了後ニ非サレハ假使用ノ認可ヲ爲スコトヲ得ス

第二條ノ二　汽機、汽罐檢査ノ際ハ警部、警部補又ハ巡査部長若差支アルトキハ巡査ヲ立會セシムヘシ

第三條　工場カ危害ヲ生シ又ハ衛生風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキ其ノ他取締上特ニ參考トナルヘキ事項ハ臨時其ノ狀況ヲ報告スヘシ

第四條　規則第七條、第八條ニ依リ當廳ニ提出スル屆書ヲ受クルルトキハ遲滯ナク調査シ進達スヘシ

第五條　工場設置ニ付當廳ノ許可ヲ受クルル者カ規則第十條各號ノ一ニ該當スルモノト認ムルトキハ意見ヲ具シ遲滯ナク報告スヘシ

第六條　警察署長又ハ警察分署長ハ警部、警部補又ハ巡査部長若差支アルトキハ巡査ヲシテ三月内ニ少回以上工場ニ臨檢セシムヘシ

第七條　警察署又ハ警察分署ハ樣式第一號ノ定ムル工場臺帳ヲ備付クヘシ

樣式第一號（用紙美濃形）

工場名	所在地
工業主	年　歲　月　日許可
發動機ノ種類	使用認可年月日

〔編輯者〕

職工	職工總數	男	女	敷地建物	敷地坪數	建物坪數
原動機及主ナル機械	蒸汽機關	瓦斯機關	石油機關	電動機	水車（タービン、ペルトン）	蒸汽タービン
	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力
	臺數	臺數	臺數	臺數	臺數	臺數
作業方法及害除方法						
摘要						

〔編輯者〕

●工場附屬寄宿舍規則施行細則

昭和二年六月十八日
福岡縣令第六十六號

工場附屬寄宿舍規則施行細則左ノ通定ム

工場附屬寄宿舍規則施行細則

第一條　工場附屬寄宿舍規則第二條但書ニ依ル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、事由
二、作業ノ種類
三、作業場ト寢室トノ關係ヲ示シタル圖面
四、除害豫防又ハ避難設備ノ狀況
五、男女別收容人員

第二條　工業主ハ寄宿舍ノ出入口、非常口及通路ニハ點燈ヲナスヘシ

第三條　工場附屬寄宿舍規則第五條但書ニ依ル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、事由
二、室ノ平面圖
三、室ノ斷面圖

前項第二號ノ平面圖ニハ室ノ廣サ及窓ノ幅ト其ノ高サヲ第三號ノ斷面圖ニハ床面ヨリ天井マテノ高サ天井ヨリ小屋組下又ハ二階梁下端マテノ高サノ寸法ヲ記入スヘシ

第四條　工場附屬寄宿舍規則第六條但書ニ依ル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、事由

二、室ノ平面圖
三、小屋組及小屋伏圖
四、屋根裏ノ材料及張方

前項第二號ノ平面圖ニハ各室ノ用途及廣サヲ第三號ノ小屋組圖ニハ各部ノ寸法及床面ヨリ小屋組下マテノ高サヲ小屋伏圖ニハ小屋組ノ間隔寸法ヲ記入スヘシ

第五條　工場附屬寄宿舍規則第九條但書ニ依ル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

一、事由及期間
二、寢室ノ面積及收容男女別人員

第六條　工場附屬寄宿舍規則第十條但書ニ依ル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、事由
二、寢室及隣接建築物ノ平面圖
三、男女別收容人員

前項第二號ノ平面圖ニハ寢室ノ廣サ窓ノ位置及其ノ幅、高サノ寸法ヲ明示シ寢室ト隣接建築物トノ距離及其ノ高サヲ記入スヘシ

第七條　工場附屬寄宿舍規則第十一條但書ニ依ル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

一、事由
二、組數
三、各組ノ使用時間及男女別收容人員

第八條　工場附屬寄宿舍規則第十四條ニ依ル消毒後ノ食器ハ防塵、防塵ノ爲適當ノ設備ヲナスヘシ

第九條　工場附屬寄宿舍規則第十六條ニ依ル健康診斷ノ結果ハ第一號樣式ニ依リ施行後十日以內ニ屆出ツヘシ

第十條　工場附屬寄宿舍規則施行ニ關シ當廳ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

附則

本則ハ昭和二年內務省令第二十六號工場附屬寄宿舍規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式（甲）

健康診斷結果表　昭和　年　月　日　工場名

	男					女				
	職工總數	檢査員數	身長	胸圍	體重	職工總數	檢査員數	身長	胸圍	體重
滿十二歲以上										
滿十三歲以上										
滿十四歲以上										
滿十五歲以上										
滿十六歲以上										
滿十七歲以上										
滿十八歲以上										
滿十九歲以上										
二十歲以上										

〔裏面參照〕

備考

一、身長、胸圍、體重ハメートル法ニ依リ平均數ヲ記載ノコト

（乙）

病名	男	女	計	備考

備考

健康診斷ノ結果病者ヲ發見シタルトキ之ヲ記載スルコト
現ニ治療ヲ受クツヽアル患者ハ各病別ニ其ノ數ヲ備考欄ニ記載スルコト

●工場附屬寄宿舍規則施行手續

昭和二年六月十八日
福岡縣訓令第二十五號

工場附屬寄宿舍規則施行手續左ノ通定ム

工場附屬寄宿舍規則施行手續

第一條　工場附屬寄宿舍規則施行細則第三條、第四條、第六條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左記事項ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ

一、構造種別（木造、鐵骨コンクリート、鐵筋コンクリートノ類）
二、建築年月
三、改造ノ要否

第七編　工場

四、參考事項

第二條　工場附屬寄宿舍規則第二十一條同施行細則第一條、第五條、第七條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ

第三條　寄宿舍內ニ於ケル便所、洗面裝置不適當又ハ不十分ト認メタルトキハ意見ヲ附シ報告スヘシ

工中他府縣人ニ關スル報告樣式

一八

大正十二年一月九日
規工調第一號警察部長

警察書（警察分署）

大正十一年縣訓令第一號附表第一號ノ職工中他府縣人ヲ左記樣式ニ依リ毎年二月十五日迄ニ報告セラルヘシ

樣式

●報告事項記載例附表第一號ノ職

工場名	工業種類	職工總數	府		縣	別	計
			北海道	何府	何縣		
		男					
		女					
		男					
		女					
		男					
		女					
		男					
		女					
		男					
		女					
		男					
		女					

備考　工業ノ種類ハ中分類ニ依ル業務ヲ記載スルコト

〔警察書〕

第八編 勞働

●勞働爭議調停法ニ依ル費用辨償ニ關スル件

大正十五年十二月十六日
福岡縣令第百三十八號

勞働爭議調停法ニ依ル費用辨償ニ關スル件左ノ通定ム

勞働爭議調停法ニ依ル費用辨償ニ關スル件

第一條　委員及勞働爭議調停法第十三條ニ規定スルモノノ旅費、日當及止宿料ハ本令ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　旅費、日當及止宿料ハ別表ノ定額ニ依リ之ヲ支給ス

第三條　旅費ハ鐵道賃、船賃及車馬賃トス

第四條　陸路旅行ヲ爲スニ當リ軌道ニ依ルコトヲ得ル場合ニ於テハ其ノ區間ニ限リ軌道賃ノ實費額ヲ支給ス鐵道旅行ヲ爲シ得ル區間ニ付軌道ニ依リタルトキ亦同シ

第五條　會議ノ爲招集セラレ又ハ說明ノ爲出席ヲ求メラレタル場合ニ於ケル旅費ハ當事者ノ選定シタル委員、當事者又ハ其ノ代表者若ハ利害關係人ニ付テハ爭議ノ發生シタル作業所、當事者ノ選定ニ係ル委員ニ於テ選定シタル委員又ハ參考人ニ付テハ其ノ住居ガ會議地又ハ會議地ヲ距ル三里以內ニ在ルトキハ之ヲ支給セス

第六條　日當ハ止宿シタル場合タルト否トヲ問ハス日數ニ應シテ其ノ全額ヲ支給ス

第七條　止宿料ハ公務ノ都合ニ依リ止宿ノ必要アリ且ツ現ニ止宿シタル場合ニ限リ之ヲ支給ス

第八條　調停委員會ノ會期勞働爭議調停法第九條第二項ノ規定ニ依リ延長サレタルトキハ委員ノ受クルコトヲ得ル日當及止宿料ハ其ノ延長日數ニ付定額ノ二割ヲ減ス

第九條　本令ニ規定スルモノヲ除ク外旅費、日當及止宿料ノ支給ニ關シテハ內國旅費規則ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

區分	鐵道及船賃	車馬賃一里ニ付	日當一日ニ付	止宿料一夜ニ付
委員	二等	九十錢	四圓	五圓
勞働爭議調停法第十三條ニ規定スルモノ	二等	七十五錢	二圓	三圓

備考　鐵道賃及船賃ハ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スル場合ニハ上級ノ運賃トシ其ノ等級ヲ設ケサル場合ニハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃トス

第九編 司法

刑事
司法警察官職務
押送 引致
留置 視察
監獄 出獄
執行猶豫 執行停止
指紋 寫眞

第九編　司法

第一章　刑事

●司法事務取扱規程

大正十一年四月二十日
内訓第四號

警保局　警保第　〔警保分号〕

大正五年三月内訓第壹號刑事事務取扱規程左ノ通改ム

司法事務取扱規程

第一章　通則

第一條　犯罪ノ捜査ハ合理的ニシテ且ツ経驗ヲ基礎トシ常ニ協力一致殺傷ノ寛集犯人ノ検挙ニ努メ苟モ機密ヲ漏洩スルカ如キコトナク全局ノ成績ヲ挙クルコトニ留意スヘシ

第二條　警察官署ニ司法主任ヲ置ク

司法主任ハ司法事務ニ付署長ノ命ヲ受ケ事務ノ統一ヲ期スルト俱ニ犯罪捜査ニ付刑事巡査ヲ指揮監督シ常ニ能率ノ増進ヲ圖ルコトニ留意スヘシ

第三條　刑事巡査ハ所轄内ノ刑事要視察人ノ視察ヲ厳密ニシ常ニ其動静ヲ明カニシ置クハ勿論所轄内ノ地理人情風俗習慣ヲ周知シ浮浪者挙動不審者ノ出入ニ付テモ充分ナル視察ヲ遂ケ捜査ノ資料ヲ得ルコトニ努ムヘシ

第二章　捜査

第四條　警察官署長ハ所轄内ノ犯罪事件ニ付自ラ捜査ニ従事シ若ハ捜査ノ基礎方針ヲ示シ部下ヲ指揮官励シ犯罪検挙ノ目的ヲ達成スヘシ

第五條　重要犯罪事件ノ捜査ニ付警察部長ハ必要アリト認ムルトキハ刑事課員又ハ隣接警察官署ノ刑事巡査ヲ派遣シ其他警察官署ノ捜査ヲ應援セシメ若ハ直接捜査ニ従事セシムルコトヲ得

前項以外ノ犯罪ニ付テモ亦同シ

第六條　警察官署長ハ所轄内ニ重要犯罪事件発生シ所属署員ヲ以テ捜査力不充分ナリト思料スル場合ハ警察部長ニ應援ヲ申請スルコトヲ得

但シ特ニ緊急ヲ要スル場合ハ直接隣接警察官署長ニ應援ヲ要求スルコトヲ得

此場合ニハ事後直ニ警察部長ニ此ノ旨報告スヘシ

第七條　前條但書ニ依リ應援要求ヲ受ケタル警察官署長ハ直ニ其署刑事巡査ヲ急派シ其旨警察部長ニ報告スヘシ

第八條　警察官署長ハ重要犯罪事件発生後犯人不明若ハ就捕ニ至ラサル場合ハ迅速ニ關係警察官署ニ捜査手配方電話其他ノ方法ニ依リ照會スヘシ

第九條　前條手配ヲ受ケタル警察官署長ハ直ニ手配捜査ニ着手スルト俱ニ手配ノ概況ヲ警察部長ニ電話報告スヘシ

他府縣ヨリ手配照會ヲ受ケタル警察官署長ハ直ニ手配捜査ニ着手スルト俱ニ

第十條　警察官署長ハ職ヲ其所轄内ノ警戒地點捜査個所及區域ニ付計畫ヲ樹テ警察部長ニ報告スヘシ

其變更シタルトキ亦同シ

第十一條　警察官署長ハ重要犯罪事件ノ発生ニ際シ警察部長ヨリ緊急警戒

ノ命ヲ受ケタルトキハ前條ニ則リ迅速警戒ニ從事スヘシ

第十二條　警察官署長ハ重要犯罪事件ノ發生ニ際シ檢證ヲ要スル場合ハ司法警察官又ハ判檢事ノ檢證ヲ終ル迄堅ク現場ヲ保存シ何人ト雖モ濫リニ出入ヲ禁スルト俱ニ證據物件ニ觸レシム可ラス

但負傷者又ハ中毒者ノ應急手當ヲ必要トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　前條ノ現場保存ニ付テハ警察官署長ハ適切ナル規程ヲ設ケ一般部下ニ嚴守セシムルト俱ニ民衆ニ對シテモ又犯罪現場保存ノ必要ナル所以ヲ周知セシムルノ方法ヲ講スヘシ

第三章　報告

第十四條　警察官署長ハ所轄内ニ發生シタル犯罪事件ニシテ左ニ揭クルモノハ重要犯罪事件トシテ第一號樣式ニ依リ警察部長ニ電話卽報スヘシ

一、重要犯罪ト認ムヘキモノ

(一) 外國人ノ犯罪　但シ國本ニ關スルモノヲ除ク
(二) 朝鮮人ノ犯罪　但シ國本ニ關スルモノヲ除ク
(三) 公務執行ヲ妨害スル罪
(四) 放火ノ罪
(五) 通貨僞造ノ罪
(六) 有價證券僞造ノ罪
(七) 殺人ノ罪
(八) 傷害ノ罪　（疾病休業三週間以上）
(九) 遺棄ノ罪
(十) 强姦致死傷ノ罪
(十一) 略取誘拐ノ罪
(十二) 强盜ノ罪及被害價格五百圓以上ノ竊盜ノ罪
(十三) 被害價格千圓以上ノ詐欺、橫領及賍物ニ關スル罪
(十四) 官公署及社寺費物ノ被害ニ關スル犯罪
(十五) 交通機關ニ關スル犯罪
(十六) 銃砲火藥類ニ關スル罪
(十七) 其他特ニ重要ト認ムル罪

二、職業的旅行的犯人ノ行爲ヲ認メラルル犯罪（被害價格ノ程度ニ拘ラス强竊盜詐欺橫領及賍物ニ關スル罪）

三、手段巧漸ニシテ巧妙ナル犯罪及樣態者續出スル虞アル罪

第十五條　前條ノ犯罪ニシテ發覺後犯人不明若ハ逃捕ニ至ラサルトキハ電話報告後五日内ニ更ニ第二號樣式ニ依リ書面ヲ以テ手配方報告スヘシ但犯罪發覺ト同時ニ又ハ五日内ニ犯人ヲ逃捕シタルトキハ第三號樣式ニ依リ檢舉報告スヘシ

第一項手配報告後犯人逃捕ニ至リタルトキ亦同シ

第十六條　重要犯罪事件ハ前二條ニ依リ報告スルノ外概ネ左ノ例ニ依リ第四號樣式ニ依リ書面ヲ以テ經過報告スヘシ

但シ檢舉報告濟ノモノハ此ノ限リニアラス

報告例

第一回ハ卽報後十日目
第二回ハ卽報後二十日目
第三回ハ卽報後三十日目（繼續捜査簿ニ登載）
其後一ヶ年間ハ三ヶ月目ニ一回一ヶ年後ハ公訴時效迄隨時

第十七條　警察部刑事課ニ於テハ第十四條ニ依リ重要犯罪事件ノ報告ヲ受ケタルトキハ附錄第五號樣式ニ依ル重要犯罪事件簿ニ登載シ經過報告アリタル都度之ヲ記載スヘシ

他ノ道府縣ヨリ照會ヲ受ケタル事件ニシテ本縣内ニ捜査ノ關係ヲ有スルモノ亦同シ

第十八條　警察官署長ハ重要犯罪事件發生後第三回報告迄犯人ヲ檢舉スル能ハサルトキハ附錄第四號樣式ニ依リ重要犯罪事件簿ニ登載繼續捜査ニ附スヘシ

繼續捜査ニ附シタル犯罪事件ニシテ證據物件ノ存在スルモノハ之カ保管ヲ嚴重ニスヘシ

第十九條　警察官署長ハ重要犯罪事件以外ノ犯罪ニシテ犯人不明若ハ逮捕ニ至ラサルトキハ關係警察署ニ手配後尙ホ各府縣ニ照會ノ必要アルモノハ警察部長ニ報告スヘシ但照會ノ範圍ヲ備考欄ニ附記スヘシ

縣内ニ於テ被害者頻出ノ虞アル犯罪ニシテ注意方各警察官署ヘ通牒ノ必要アルモノ亦同シ

本條ノ報告ニハ犯人ノ人相特徵ハ勿論犯罪手段方法特技並ニ特徵アル被害金品等詳細記載シ置クヘシ

第二十條　警察官署長ハ毎月取扱ヒタル犯罪事件ヲ第六號樣式ニ依リ翌月十日迄報告スヘシ

第四章　處分

第二十一條　刑事巡査ハ其署ニ於ケル捜査上必要ナル指紋寫眞刑事參考品前科者名簿其ノ他ノ文書ヲ整理スヘシ

第二十二條　刑事巡査ハ職務上ノ携帶品トシテ貸與セラレタル物品ノ保存ハ勿論指紋寫眞機等所屬署ニ配給セラレタル物品ハ保管スヘシ

第二十三條　警察官署ニ於ケル臨檢捜査報ハ第七號樣式ニ依ルヘシ

第二十四條　捜査事務ノ敏活周到ヲ圖リ各署間ノ氣脈ヲ通スル爲左記區分ニ依リ毎年一回以上刑事事務協議會ヲ開催スルコトアルヘシ

但シ方面會ハ區分ニ依ラスシテ開催スルコトアルヘシ

總會（縣下全部）

方面會　第一方面　福岡、糟崎、二日市、西新町、前原ノ五警察署
第二方面　東郷、折尾、直方、飯塚、大隈、戸畑、若松、八幡、門司、小倉、行橋、後藤寺、添田、久屋ノ各署
第三方面　甘木、松崎、吉井、久留米、城島、若津、柳河、濱高、福島、黑木、大牟田ノ各署

方面會議ハ開催地ノ警察官署長ヲ以テ司會者トス

第二十五條　前條方面會議ニ於テ協定シタル事項ハ司會者ヨリ警察部長ニ報告スヘシ

附則

第二十六條　本規定ハ大正十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條　大正十年九月保訓第二七號重要異例犯罪事件報告ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

第二號樣式（用紙甲號）

考慮	犯罪	犯罪	銃砲	六 凶器	五 原因	四 犯罪所轄	三 犯罪年月日時	二 犯罪年月日時	一 罪名	年月日
							大正 年 月 日 午後 時 分	大正 年 月 日 午後 時 分		大正 年 月 日

犯罪ニ關スル法令ヲ示ス	犯罪ニ關スル法令ヲ示ス	犯罪ニ關スル法令ヲ示ス	犯罪ニ關スル法令ヲ示ス	犯罪ニ關スル法令ヲ示ス	犯罪ニ關スル法令ヲ示ス

十一 犯罪ノ事實	十二 犯人ノ氏名	十三 犯人ノ年齢	十四 犯人ノ住所	十五 犯人ノ職業	十六 犯人ノ本籍

十七 犯人ノ氏名所在	十八 犯人ノ氏名所在	十九 犯人ノ氏名所在	二十 犯人ノ氏名所在	二十一 犯人ノ氏名所在	二十二 犯人ノ氏名所在

二十三 犯人ノ氏名所在	二十四 犯人ノ氏名所在	二十五 犯人ノ氏名所在	二十六 犯人ノ氏名所在	二十七 犯人ノ氏名所在	二十八 犯人ノ氏名所在

二十九 犯人ノ氏名所在	三十 犯人ノ氏名所在	三十一 犯人ノ氏名所在	三十二 犯人ノ氏名所在	三十三 犯人ノ氏名所在	三十四 犯人ノ氏名所在

三十五 犯人ノ氏名所在	三十六 犯人ノ氏名所在	三十七 犯人ノ氏名所在	三十八 犯人ノ氏名所在	三十九 犯人ノ氏名所在	四十 犯人ノ氏名所在

四十一 犯人ノ氏名所在	四十二 犯人ノ氏名所在	四十三 犯人ノ氏名所在	四十四 犯人ノ氏名所在	四十五 犯人ノ氏名所在	四十六 犯人ノ氏名所在

四十七 犯人ノ氏名所在	四十八 犯人ノ氏名所在	四十九 犯人ノ氏名所在	五十 犯人ノ氏名所在	五十一 犯人ノ氏名所在	五十二 犯人ノ氏名所在

五十三 犯人ノ氏名所在	五十四 犯人ノ氏名所在	五十五 犯人ノ氏名所在	五十六 犯人ノ氏名所在	五十七 犯人ノ氏名所在	五十八 犯人ノ氏名所在

五十九 犯人ノ氏名所在	六十 犯人ノ氏名所在	六十一 犯人ノ氏名所在	六十二 犯人ノ氏名所在	六十三 犯人ノ氏名所在	六十四 犯人ノ氏名所在

六十五 犯人ノ氏名所在	六十六 犯人ノ氏名所在	六十七 犯人ノ氏名所在	六十八 犯人ノ氏名所在	六十九 犯人ノ氏名所在	七十 犯人ノ氏名所在

七十一 犯人ノ氏名所在	七十二 犯人ノ氏名所在	七十三 犯人ノ氏名所在	七十四 犯人ノ氏名所在	七十五 犯人ノ氏名所在	七十六 犯人ノ氏名所在

七十七 犯人ノ氏名所在	七十八 犯人ノ氏名所在	七十九 犯人ノ氏名所在	八十 犯人ノ氏名所在	八十一 犯人ノ氏名所在	八十二 犯人ノ氏名所在

八十三 犯人ノ氏名所在	八十四 犯人ノ氏名所在	八十五 犯人ノ氏名所在	八十六 犯人ノ氏名所在	八十七 犯人ノ氏名所在	八十八 犯人ノ氏名所在

八十九 犯人ノ氏名所在	九十 犯人ノ氏名所在	九十一 犯人ノ氏名所在	九十二 犯人ノ氏名所在	九十三 犯人ノ氏名所在	九十四 犯人ノ氏名所在

九十五 犯人ノ氏名所在	九十六 犯人ノ氏名所在	九十七 犯人ノ氏名所在	九十八 犯人ノ氏名所在	九十九 犯人ノ氏名所在	百 犯人ノ氏名所在

百一 犯人ノ氏名所在	百二 犯人ノ氏名所在	百三 犯人ノ氏名所在	百四 犯人ノ氏名所在	百五 犯人ノ氏名所在	百六 犯人ノ氏名所在

百七 犯人ノ氏名所在	百八 犯人ノ氏名所在	百九 犯人ノ氏名所在	百十 犯人ノ氏名所在	百十一 犯人ノ氏名所在	百十二 犯人ノ氏名所在

百十三 犯人ノ氏名所在	百十四 犯人ノ氏名所在	百十五 犯人ノ氏名所在	百十六 犯人ノ氏名所在	百十七 犯人ノ氏名所在	百十八 犯人ノ氏名所在

百十九 犯人ノ氏名所在	百二十 犯人ノ氏名所在	百二十一 犯人ノ氏名所在	百二十二 犯人ノ氏名所在	百二十三 犯人ノ氏名所在	百二十四 犯人ノ氏名所在

百二十五 犯人ノ氏名所在	百二十六 犯人ノ氏名所在	百二十七 犯人ノ氏名所在	百二十八 犯人ノ氏名所在	百二十九 犯人ノ氏名所在	百三十 犯人ノ氏名所在

百三十一 犯人ノ氏名所在	百三十二 犯人ノ氏名所在	百三十三 犯人ノ氏名所在	百三十四 犯人ノ氏名所在	百三十五 犯人ノ氏名所在	百三十六 犯人ノ氏名所在

百三十七 犯人ノ氏名所在	百三十八 犯人ノ氏名所在	百三十九 犯人ノ氏名所在	百四十 犯人ノ氏名所在	百四十一 犯人ノ氏名所在	百四十二 犯人ノ氏名所在

百四十三 犯人ノ氏名所在	百四十四 犯人ノ氏名所在	百四十五 犯人ノ氏名所在	百四十六 犯人ノ氏名所在	百四十七 犯人ノ氏名所在	百四十八 犯人ノ氏名所在

百四十九 犯人ノ氏名所在	百五十 犯人ノ氏名所在	百五十一 犯人ノ氏名所在	百五十二 犯人ノ氏名所在	百五十三 犯人ノ氏名所在	百五十四 犯人ノ氏名所在

百五十五 犯人ノ氏名所在	百五十六 犯人ノ氏名所在	百五十七 犯人ノ氏名所在	百五十八 犯人ノ氏名所在	百五十九 犯人ノ氏名所在	百六十 犯人ノ氏名所在

百六十一 犯人ノ氏名所在	百六十二 犯人ノ氏名所在	百六十三 犯人ノ氏名所在	百六十四 犯人ノ氏名所在	百六十五 犯人ノ氏名所在	百六十六 犯人ノ氏名所在

百六十七 犯人ノ氏名所在	百六十八 犯人ノ氏名所在	百六十九 犯人ノ氏名所在	百七十 犯人ノ氏名所在	百七十一 犯人ノ氏名所在	百七十二 犯人ノ氏名所在

百七十三 犯人ノ氏名所在	百七十四 犯人ノ氏名所在	百七十五 犯人ノ氏名所在	百七十六 犯人ノ氏名所在	百七十七 犯人ノ氏名所在	百七十八 犯人ノ氏名所在

百七十九 犯人ノ氏名所在	百八十 犯人ノ氏名所在	百八十一 犯人ノ氏名所在	百八十二 犯人ノ氏名所在	百八十三 犯人ノ氏名所在	百八十四 犯人ノ氏名所在

百八十五 犯人ノ氏名所在	百八十六 犯人ノ氏名所在	百八十七 犯人ノ氏名所在	百八十八 犯人ノ氏名所在	百八十九 犯人ノ氏名所在	百九十 犯人ノ氏名所在

百九十一 犯人ノ氏名所在	百九十二 犯人ノ氏名所在	百九十三 犯人ノ氏名所在	百九十四 犯人ノ氏名所在	百九十五 犯人ノ氏名所在	百九十六 犯人ノ氏名所在

百九十七 犯人ノ氏名所在	百九十八 犯人ノ氏名所在	百九十九 犯人ノ氏名所在	二百 犯人ノ氏名所在	二百一 犯人ノ氏名所在	二百二 犯人ノ氏名所在

二百三 犯人ノ氏名所在	二百四 犯人ノ氏名所在	二百五 犯人ノ氏名所在	二百六 犯人ノ氏名所在	二百七 犯人ノ氏名所在	二百八 犯人ノ氏名所在

二百九 犯人ノ氏名所在	二百十 犯人ノ氏名所在	二百十一 犯人ノ氏名所在	二百十二 犯人ノ氏名所在	二百十三 犯人ノ氏名所在	二百十四 犯人ノ氏名所在

二百十五 犯人ノ氏名所在	二百十六 犯人ノ氏名所在	二百十七 犯人ノ氏名所在	二百十八 犯人ノ氏名所在	二百十九 犯人ノ氏名所在	二百二十 犯人ノ氏名所在

二百二十一 犯人ノ氏名所在	二百二十二 犯人ノ氏名所在	二百二十三 犯人ノ氏名所在	二百二十四 犯人ノ氏名所在	二百二十五 犯人ノ氏名所在	二百二十六 犯人ノ氏名所在

二百二十七 犯人ノ氏名所在	二百二十八 犯人ノ氏名所在	二百二十九 犯人ノ氏名所在	二百三十 犯人ノ氏名所在	二百三十一 犯人ノ氏名所在	二百三十二 犯人ノ氏名所在

二百三十三 犯人ノ氏名所在	二百三十四 犯人ノ氏名所在	二百三十五 犯人ノ氏名所在	二百三十六 犯人ノ氏名所在	二百三十七 犯人ノ氏名所在	二百三十八 犯人ノ氏名所在

二百三十九 犯人ノ氏名所在	二百四十 犯人ノ氏名所在	二百四十一 犯人ノ氏名所在	二百四十二 犯人ノ氏名所在	二百四十三 犯人ノ氏名所在	二百四十四 犯人ノ氏名所在

二百四十五 犯人ノ氏名所在	二百四十六 犯人ノ氏名所在	二百四十七 犯人ノ氏名所在	二百四十八 犯人ノ氏名所在	二百四十九 犯人ノ氏名所在	二百五十 犯人ノ氏名所在

二百五十一 犯人ノ氏名所在	二百五十二 犯人ノ氏名所在	二百五十三 犯人ノ氏名所在	二百五十四 犯人ノ氏名所在	二百五十五 犯人ノ氏名所在	二百五十六 犯人ノ氏名所在

二百五十七 犯人ノ氏名所在	二百五十八 犯人ノ氏名所在	二百五十九 犯人ノ氏名所在	二百六十 犯人ノ氏名所在	二百六十一 犯人ノ氏名所在	二百六十二 犯人ノ氏名所在

二百六十三 犯人ノ氏名所在	二百六十四 犯人ノ氏名所在	二百六十五 犯人ノ氏名所在	二百六十六 犯人ノ氏名所在	二百六十七 犯人ノ氏名所在	二百六十八 犯人ノ氏名所在

二百六十九 犯人ノ氏名所在	二百七十 犯人ノ氏名所在	二百七十一 犯人ノ氏名所在	二百七十二 犯人ノ氏名所在	二百七十三 犯人ノ氏名所在	二百七十四 犯人ノ氏名所在

二百七十五 犯人ノ氏名所在	二百七十六 犯人ノ氏名所在	二百七十七 犯人ノ氏名所在	二百七十八 犯人ノ氏名所在	二百七十九 犯人ノ氏名所在	二百八十 犯人ノ氏名所在

二百八十一 犯人ノ氏名所在	二百八十二 犯人ノ氏名所在	二百八十三 犯人ノ氏名所在	二百八十四 犯人ノ氏名所在	二百八十五 犯人ノ氏名所在	二百八十六 犯人ノ氏名所在

二百八十七 犯人ノ氏名所在	二百八十八 犯人ノ氏名所在	二百八十九 犯人ノ氏名所在	二百九十 犯人ノ氏名所在	二百九十一 犯人ノ氏名所在	二百九十二 犯人ノ氏名所在

二百九十三 犯人ノ氏名所在	二百九十四 犯人ノ氏名所在	二百九十五 犯人ノ氏名所在	二百九十六 犯人ノ氏名所在	二百九十七 犯人ノ氏名所在	二百九十八 犯人ノ氏名所在

二百九十九 犯人ノ氏名所在	三百 犯人ノ氏名所在	三百一 犯人ノ氏名所在	三百二 犯人ノ氏名所在	三百三 犯人ノ氏名所在	三百四 犯人ノ氏名所在

三百五 犯人ノ氏名所在	三百六 犯人ノ氏名所在	三百七 犯人ノ氏名所在	三百八 犯人ノ氏名所在	三百九 犯人ノ氏名所在	三百十 犯人ノ氏名所在

三百十一 犯人ノ氏名所在	三百十二 犯人ノ氏名所在	三百十三 犯人ノ氏名所在	三百十四 犯人ノ氏名所在	三百十五 犯人ノ氏名所在	三百十六 犯人ノ氏名所在

三百十七 犯人ノ氏名所在	三百十八 犯人ノ氏名所在	三百十九 犯人ノ氏名所在	三百二十 犯人ノ氏名所在	三百二十一 犯人ノ氏名所在	三百二十二 犯人ノ氏名所在

三百二十三 犯人ノ氏名所在	三百二十四 犯人ノ氏名所在	三百二十五 犯人ノ氏名所在	三百二十六 犯人ノ氏名所在	三百二十七 犯人ノ氏名所在	三百二十八 犯人ノ氏名所在

三百二十九 犯人ノ氏名所在	三百三十 犯人ノ氏名所在	三百三十一 犯人ノ氏名所在	三百三十二 犯人ノ氏名所在	三百三十三 犯人ノ氏名所在	三百三十四 犯人ノ氏名所在

三百三十五 犯人ノ氏名所在	三百三十六 犯人ノ氏名所在	三百三十七 犯人ノ氏名所在	三百三十八 犯人ノ氏名所在	三百三十九 犯人ノ氏名所在	三百四十 犯人ノ氏名所在

三百四十一 犯人ノ氏名所在	三百四十二 犯人ノ氏名所在	三百四十三 犯人ノ氏名所在	三百四十四 犯人ノ氏名所在	三百四十五 犯人ノ氏名所在	三百四十六 犯人ノ氏名所在

三百四十七 犯人ノ氏名所在	三百四十八 犯人ノ氏名所在	三百四十九 犯人ノ氏名所在	三百五十 犯人ノ氏名所在	三百五十一 犯人ノ氏名所在	三百五十二 犯人ノ氏名所在

三百五十三 犯人ノ氏名所在	三百五十四 犯人ノ氏名所在	三百五十五 犯人ノ氏名所在	三百五十六 犯人ノ氏名所在	三百五十七 犯人ノ氏名所在	三百五十八 犯人ノ氏名所在

三百五十九 犯人ノ氏名所在	三百六十 犯人ノ氏名所在	三百六十一 犯人ノ氏名所在	三百六十二 犯人ノ氏名所在	三百六十三 犯人ノ氏名所在	三百六十四 犯人ノ氏名所在

三百六十五 犯人ノ氏名所在	三百六十六 犯人ノ氏名所在	三百六十七 犯人ノ氏名所在	三百六十八 犯人ノ氏名所在	三百六十九 犯人ノ氏名所在	三百七十 犯人ノ氏名所在

三百七十一 犯人ノ氏名所在	三百七十二 犯人ノ氏名所在	三百七十三 犯人ノ氏名所在	三百七十四 犯人ノ氏名所在	三百七十五 犯人ノ氏名所在	三百七十六 犯人ノ氏名所在

三百七十七 犯人ノ氏名所在	三百七十八 犯人ノ氏名所在	三百七十九 犯人ノ氏名所在	三百八十 犯人ノ氏名所在	三百八十一 犯人ノ氏名所在	三百八十二 犯人ノ氏名所在

三百八十三 犯人ノ氏名所在	三百八十四 犯人ノ氏名所在	三百八十五 犯人ノ氏名所在	三百八十六 犯人ノ氏名所在	三百八十七 犯人ノ氏名所在	三百八十八 犯人ノ氏名所在

三百八十九 犯人ノ氏名所在	三百九十 犯人ノ氏名所在	三百九十一 犯人ノ氏名所在	三百九十二 犯人ノ氏名所在	三百九十三 犯人ノ氏名所在	三百九十四 犯人ノ氏名所在

三百九十五 犯人ノ氏名所在	三百九十六 犯人ノ氏名所在	三百九十七 犯人ノ氏名所在	三百九十八 犯人ノ氏名所在	三百九十九 犯人ノ氏名所在	四百 犯人ノ氏名所在

四百一 犯人ノ氏名所在	四百二 犯人ノ氏名所在	四百三 犯人ノ氏名所在	四百四 犯人ノ氏名所在	四百五 犯人ノ氏名所在	四百六 犯人ノ氏名所在

四百七 犯人ノ氏名所在	四百八 犯人ノ氏名所在	四百九 犯人ノ氏名所在	四百十 犯人ノ氏名所在	四百十一 犯人ノ氏名所在	四百十二 犯人ノ氏名所在

四百十三 犯人ノ氏名所在	四百十四 犯人ノ氏名所在	四百十五 犯人ノ氏名所在	四百十六 犯人ノ氏名所在	四百十七 犯人ノ氏名所在	四百十八 犯人ノ氏名所在

四百十九 犯人ノ氏名所在	四百二十 犯人ノ氏名所在	四百二十一 犯人ノ氏名所在	四百二十二 犯人ノ氏名所在	四百二十三 犯人ノ氏名所在	四百二十四 犯人ノ氏名所在

四百二十五 犯人ノ氏名所在	四百二十六 犯人ノ氏名所在	四百二十七 犯人ノ氏名所在	四百二十八 犯人ノ氏名所在	四百二十九 犯人ノ氏名所在	四百三十 犯人ノ氏名所在

四百三十一 犯人ノ氏名所在	四百三十二 犯人ノ氏名所在	四百三十三 犯人ノ氏名所在	四百三十四 犯人ノ氏名所在	四百三十五 犯人ノ氏名所在	四百三十六 犯人ノ氏名所在

四百三十七 犯人ノ氏名所在	四百三十八 犯人ノ氏名所在	四百三十九 犯人ノ氏名所在	四百四十 犯人ノ氏名所在	四百四十一 犯人ノ氏名所在	四百四十二 犯人ノ氏名所在

四百四十三 犯人ノ氏名所在	四百四十四 犯人ノ氏名所在	四百四十五 犯人ノ氏名所在	四百四十六 犯人ノ氏名所在	四百四十七 犯人ノ氏名所在	四百四十八 犯人ノ氏名所在

四百四十九 犯人ノ氏名所在	四百五十 犯人ノ氏名所在	四百五十一 犯人ノ氏名所在	四百五十二 犯人ノ氏名所在	四百五十三 犯人ノ氏名所在	四百五十四 犯人ノ氏名所在

四百五十五 犯人ノ氏名所在	四百五十六 犯人ノ氏名所在	四百五十七 犯人ノ氏名所在	四百五十八 犯人ノ氏名所在	四百五十九 犯人ノ氏名所在	四百六十 犯人ノ氏名所在

四百六十一 犯人ノ氏名所在	四百六十二 犯人ノ氏名所在	四百六十三 犯人ノ氏名所在	四百六十四 犯人ノ氏名所在	四百六十五 犯人ノ氏名所在	四百六十六 犯人ノ氏名所在

四百六十七 犯人ノ氏名所在	四百六十八 犯人ノ氏名所在	四百六十九 犯人ノ氏名所在	四百七十 犯人ノ氏名所在	四百七十一 犯人ノ氏名所在	四百七十二 犯人ノ氏名所在

四百七十三 犯人ノ氏名所在	四百七十四 犯人ノ氏名所在	四百七十五 犯人ノ氏名所在	四百七十六 犯人ノ氏名所在	四百七十七 犯人ノ氏名所在	四百七十八 犯人ノ氏名所在

四百七十九 犯人ノ氏名所在	四百八十 犯人ノ氏名所在	四百八十一 犯人ノ氏名所在	四百八十二 犯人ノ氏名所在	四百八十三 犯人ノ氏名所在	四百八十四 犯人ノ氏名所在

四百八十五 犯人ノ氏名所在	四百八十六 犯人ノ氏名所在	四百八十七 犯人ノ氏名所在	四百八十八 犯人ノ氏名所在	四百八十九 犯人ノ氏名所在	四百九十 犯人ノ氏名所在

四百九十一 犯人ノ氏名所在	四百九十二 犯人ノ氏名所在	四百九十三 犯人ノ氏名所在	四百九十四 犯人ノ氏名所在	四百九十五 犯人ノ氏名所在	四百九十六 犯人ノ氏名所在

四百九十七 犯人ノ氏名所在	四百九十八 犯人ノ氏名所在	四百九十九 犯人ノ氏名所在	五百 犯人ノ氏名所在	五百一 犯人ノ氏名所在	五百二 犯人ノ氏名所在

五百三 犯人ノ氏名所在	五百四 犯人ノ氏名所在	五百五 犯人ノ氏名所在	五百六 犯人ノ氏名所在	五百七 犯人ノ氏名所在	五百八 犯人ノ氏名所在

五百九 犯人ノ氏名所在	五百十 犯人ノ氏名所在	五百十一 犯人ノ氏名所在	五百十二 犯人ノ氏名所在	五百十三 犯人ノ氏名所在	五百十四 犯人ノ氏名所在

五百十五 犯人ノ氏名所在	五百十六 犯人ノ氏名所在	五百十七 犯人ノ氏名所在	五百十八 犯人ノ氏名所在	五百十九 犯人ノ氏名所在	五百二十 犯人ノ氏名所在

五百二十一 犯人ノ氏名所在	五百二十二 犯人ノ氏名所在	五百二十三 犯人ノ氏名所在	五百二十四 犯人ノ氏名所在	五百二十五 犯人ノ氏名所在	五百二十六 犯人ノ氏名所在

五百二十七 犯人ノ氏名所在	五百二十八 犯人ノ氏名所在	五百二十九 犯人ノ氏名所在	五百三十 犯人ノ氏名所在	五百三十一 犯人ノ氏名所在	五百三十二 犯人ノ氏名所在

五百三十三 犯人ノ氏名所在	五百三十四 犯人ノ氏名所在	五百三十五 犯人ノ氏名所在	五百三十六 犯人ノ氏名所在	五百三十七 犯人ノ氏名所在	五百三十八 犯人ノ氏名所在

五百三十九 犯人ノ氏名所在	五百四十 犯人ノ氏名所在	五百四十一 犯人ノ氏名所在	五百四十二 犯人ノ氏名所在	五百四十三 犯人ノ氏名所在	五百四十四 犯人ノ氏名所在

五百四十五 犯人ノ氏名所在	五百四十六 犯人ノ氏名所在	五百四十七 犯人ノ氏名所在	五百四十八 犯人ノ氏名所在	五百四十九 犯人ノ氏名所在	五百五十 犯人ノ氏名所在

五百五十一 犯人ノ氏名所在	五百五十二 犯人ノ氏名所在	五百五十三 犯人ノ氏名所在	五百五十四 犯人ノ氏名所在	五百五十五 犯人ノ氏名所在	五百五十六 犯人ノ氏名所在

五百五十七 犯人ノ氏名所在	五百五十八 犯人ノ氏名所在	五百五十九 犯人ノ氏名所在	五百六十 犯人ノ氏名所在	五百六十一 犯人ノ氏名所在	五百六十二 犯人ノ氏名所在

五百六十三 犯人ノ氏名所在	五百六十四 犯人ノ氏名所在	五百六十五 犯人ノ氏名所在	五百六十六 犯人ノ氏名所在	五百六十七 犯人ノ氏名所在	五百六十八 犯人ノ氏名所在

五百六十九 犯人ノ氏名所在	五百七十 犯人ノ氏名所在	五百七十一 犯人ノ氏名所在	五百七十二 犯人ノ氏名所在	五百七十三 犯人ノ氏名所在	五百七十四 犯人ノ氏名所在

五百七十五 犯人ノ氏名所在	五百七十六 犯人ノ氏名所在	五百七十七 犯人ノ氏名所在	五百七十八 犯人ノ氏名所在	五百七十九 犯人ノ氏名所在	五百八十 犯人ノ氏名所在

五百八十一 犯人ノ氏名所在	五百八十二 犯人ノ氏名所在	五百八十三 犯人ノ氏名所在	五百八十四 犯人ノ氏名所在	五百八十五 犯人ノ氏名所在	五百八十六 犯人ノ氏名所在

五百八十七 犯人ノ氏名所在	五百八十八 犯人ノ氏名所在	五百八十九 犯人ノ氏名所在	五百九十 犯人ノ氏名所在	五百九十一 犯人ノ氏名所在	五百九十二 犯人ノ氏名所在

五百九十三 犯人ノ氏名所在	五百九十四 犯人ノ氏名所在	五百九十五 犯人ノ氏名所在	五百九十六 犯人ノ氏名所在	五百九十七 犯人ノ氏名所在	五百九十八 犯人ノ氏名所在

五百九十九 犯人ノ氏名所在	六百 犯人ノ氏名所在	六百一 犯人ノ氏名所在	六百二 犯人ノ氏名所在	六百三 犯人ノ氏名所在	六百四 犯人ノ氏名所在

六百五 犯人ノ氏名所在	六百六 犯人ノ氏名所在	六百七 犯人ノ氏名所在	六百八 犯人ノ氏名所在	六百九 犯人ノ氏名所在	六百十 犯人ノ氏名所在

六百十一 犯人ノ氏名所在	六百十二 犯人ノ氏名所在	六百十三 犯人ノ氏名所在	六百十四 犯人ノ氏名所在	六百十五 犯人ノ氏名所在	六百十六 犯人ノ氏名所在

六百十七 犯人ノ氏名所在	六百十八 犯人ノ氏名所在	六百十九 犯人ノ氏名所在	六百二十 犯人ノ氏名所在	六百二十一 犯人ノ氏名所在	六百二十二 犯人ノ氏名所在

六百二十三 犯人ノ氏名所在	六百二十四 犯人ノ氏名所在	六百二十五 犯人ノ氏名所在	六百二十六 犯人ノ氏名所在	六百二十七 犯人ノ氏名所在	六百二十八 犯人ノ氏名所在

六百二十九 犯人ノ氏名所在	六百三十 犯人ノ氏名所在	六百三十一 犯人ノ氏名所在	六百三十二 犯人ノ氏名所在	六百三十三 犯人ノ氏名所在	六百三十四 犯人ノ氏名所在

六百三十五 犯人ノ氏名所在	六百三十六 犯人ノ氏名所在	六百三十七 犯人ノ氏名所在	六百三十八 犯人ノ氏名所在	六百三十九 犯人ノ氏名所在	六百四十 犯人ノ氏名所在

六百四十一 犯人ノ氏名所在	六百四十二 犯人ノ氏名所在	六百四十三 犯人ノ氏名所在	六百四十四 犯人ノ氏名所在	六百四十五 犯人ノ氏名所在	六百四十六 犯人ノ氏名所在

六百四十七 犯人ノ氏名所在	六百四十八 犯人ノ氏名所在	六百四十九 犯人ノ氏名所在	六百五十 犯人ノ氏名所在	六百五十一 犯人ノ氏名所在	六百五十二 犯人ノ氏名所在

六百五十三 犯人ノ氏名所在	六百五十四 犯人ノ氏名所在	六百五十五 犯人ノ氏名所在	六百五十六 犯人ノ氏名所在	六百五十七 犯人ノ氏名所在	六百五十八 犯人ノ氏名所在

六百五十九 犯人ノ氏名所在	六百六十 犯人ノ氏名所在	六百六十一 犯人ノ氏名所在	六百六十二 犯人ノ氏名所在	六百六十三 犯人ノ氏名所在	六百六十四 犯人ノ氏名所在

六百六十五 犯人ノ氏名所在	六百六十六 犯人ノ氏名所在	六百六十七 犯人ノ氏名所在	六百六十八 犯人ノ氏名所在	六百六十九 犯人ノ氏名所在	六百七十 犯人ノ氏名所在

六百七十一 犯人ノ氏名所在	六百七十二 犯人ノ氏名所在	六百七十三 犯人ノ氏名所在	六百七十四 犯人ノ氏名所在	六百七十五 犯人ノ氏名所在	六百七十六 犯人ノ氏名所在

六百七十七 犯人ノ氏名所在	六百七十八 犯人ノ氏名所在	六百七十九 犯人ノ氏名所在	六百八十 犯人ノ氏名所在	六百八十一 犯人ノ氏名所在	六百八十二 犯人ノ氏名所在

| 六百八十三 犯人ノ氏名所在 | 六百八十四 犯人ノ氏名所在 | 六百八十五 犯人ノ氏名所在 | 六百八十六 犯人ノ氏名所

第三號樣式（用紙横長）

重要事件續報報告

| | | |

| 年月日 | 犯罪ノ種類 | | |

署〔(分)〕警察				検挙成績																												備考
較比ノ比較				當年中			検挙成績及罪時效							犯罪發覺事由別												取扱處分ノ結果			
前年同期ト				被害件數	檢事局ニ送致シタル他署ニ於テ檢挙セラレタル犯罪件數	檢挙件數	前月末檢挙未結件數	當月檢挙犯罪件數	當月檢挙犯罪件數	前月檢挙犯罪件數	他署ニ於テ檢挙セラレタル犯罪件數	當月罪時效中	檢挙ニ未ダ檢挙ニ至ラザル犯罪件數	刑事檢挙		刑事以外檢挙		兩者共同檢挙		人民逮捕		告訴(發)		自首服		合計		裁判所送致ノ件數	微罪寛假	放免訴訟	
縣內事件數	縣外事件數	計												件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員					

備考事項

一、何罪何年何月何署ニ於テ檢挙セラレタル犯罪件數中本年分何件(內何罪何年何月何署ニ於テ檢挙セラレタル犯罪何年何月迄ノ犯罪檢挙數中本年分何件)

二、何罪他署ニ於テ檢挙セラレタル犯罪何年何月迄ノ犯罪檢挙數中本年分何件

三、放免訴訟シタル刑事無責任者ノ犯罪何年何月迄ノ犯罪檢挙數中本年分何件

四、訴訟シタル刑事無責任者ノ犯罪何年何月迄ノ犯罪檢挙數中本年分何件

第六號樣式(甲號)

犯罪發生並ニ檢舉成績表

大正　年　月分　　署〔(分)〕廳

罪名	被害件數	檢舉件數 縣內事件	檢舉件數 縣外事件	檢舉件數 計	前年同期ト比較 被害件數	前年同期ト比較 縣內事件	前年同期ト比較 縣外事件	前年同期ト比較 計
第一章　皇室ニ對スル罪								
第二章　內亂ニ關スル罪								
第三章　外患ニ關スル罪								
第四章　國交ニ關スル罪								
第五章　公務執行妨害罪								
第六章　逃走罪								
第七章　犯罪藏匿、證據湮滅罪								
第八章　脫獄罪								
第九章　(1)放火罪								
第九章　(2)失火罪								
第九章　(3)其他								
第十章　溢水水利ニ關スル罪								
第十一章　往來ヲ妨害スル罪								

當年中檢舉成績及罹時效 被件累害數計	他署檢舉月報件數	檢件累舉數計	前月未檢舉末舉計	當月檢舉犯罪未中	當月檢舉犯罪中罪數	前月檢舉犯罪迄罪數	他署ニ檢舉ヲ送ラレシ數	當月罹時效中數	翌月ニ繰リ檢舉ヘ未越數	犯罪發覺 刑事檢舉 件數	刑事檢舉 人員	刑事以外檢舉 件數	刑事以外檢舉 人員	兩者共同檢舉 件數	兩者共同檢舉 人員	人民逮捕 件數	人民逮捕 人員

件數ヲハ檢索件數欄ニハ計上セスト雖ニ檢索件數欄ニ參考ノ爲メ其書ハ比較欄ハ離年度件ヲ其儘記入スヘシ　(二)　離年トノ比較欄ハ離年度件ヲ其儘記入スヘシ　(三)　犯罪發覺者由別欄合計件數ハ檢索欄ノ計件數ニ一致スルモノト心得ヘシ

件數)−(當月中檢索件數+前月迄ノ犯罪檢索件數+他署ニ於テ檢索セラレタル數+當月繰越件數)ト知ルヘシ　(五)　海關料料ハ海關ヲ上陸ニ來舞料ヲ下陸ニ關書スヘシ

ヲ以テ記載スヘシ

賣淫者ノ犯罪年月分何罪何件何人
引渡ヲ受ケタル數中本年年分何件(內訳月分何人
數中本年分何件(內訳月分何件)

| | | |